

本會より三月九日附用書  
并々へ奉送致すこととせしむ

### 朝鮮砂防事業促進ニ関スル建議案ニ就キ報告

全國山林會聯合會(大日本山林會、帝國森林會ヲ中心トシ各府縣朝  
鮮、台灣山林會ヲ以テ組織ス)ニ於テ朝鮮砂防事業促進ニ関シ  
過ル二月六日別紙建議案ヲ可決シ同聯合會顧問代  
議士ノ韓旋ニ依リ目下衆議院ニ對シ建議案上提手續  
中、貴族院ニ對シ諸願手續中ニ有之候条御諒承ヲ  
蒙リ度下此上諸事御高援ニ接シ度仰上候右豫メ  
口頭御報告申上置候モ茲ニ書面取揃ヘ得貴意候

敬具

昭和二年三月八日



朝鮮山林會

會長 有賀光豊

中央朝鮮協會御中

朝鮮ニ於ケル砂防事業促進ニ關スル建議案

朝鮮ニ於ケル砂防事業ハ治水ノ根柢ニシテ産業開発ノ基礎タリ而モ從來之ニ施設極メテ不徹底ナルカ爲メ累年洪水頻シ多數ノ生命ト巨額ノ財産ヲ損シ其慘害實ニ測ルベカラサルモノアリ之カ爲メ害ニ産業ノ開發ヲ阻礙スルノミナラス延テハ民衆ノ生活ヲ脅威スルコト甚シトセズ是レ實ニ朝鮮統治上忽諸ニ附スベカラザル重大問題ト謂ハサル可ラス政府ハ此際全韓ニ亘ル治水計劃ヲ確立シ主要河川ニ關係アル荒蕪林野ハ今後必拾箇年以内ニ砂防事業ヲ遂行セラレンコトヲ望ム







アリ。今、シテ治水政策ヲ確立シテ之ヲ促進方法ヲ講ズル  
ニアラザレバ朝鮮産業ノ根本ニ影響スルハ勿論三億五千  
餘萬圓ノ経費ヲ投スル産米増殖計劃ノ如キモ徒ラ。砂上  
博闘ヲ染ケノ結果ニ終ルノ懸念ナキ能ハズ。現時總督府ノ  
施設ヲ見ルニ三百餘萬町歩ノ荒廢地魚立木地中主要河川  
ノ流域ニ於テ砂防設備ヲ要スル荒廢地約四十七萬町歩ヲ  
算レ就中十一萬町歩ハ崩壊其極ニ達シ一日ニ急傾ニ付ス  
可ラザレ。拘ラス年々砂防工事ヲ施行シツ、アルモ、僅  
ニ九千町歩ニ充タス。斯ノ如クシテ朝鮮ノ治水治水ヲ完成  
スルハ實ニ百年河清ヲ待ツノ識ナレトセズ故ニ政府ハ速

ニ全鮮ニ亘テ荒廢山野ノ治水計劃ヲ確立スルト共ニ少クとも  
主要河川ニ關係アル流域ニ屬スル部分ニ對シテハ武松箇  
年以内ニ砂防事業ヲ遂行スルハ當局ノ急務ナリト信バ  
是レ本案ヲ提出スル所以ナリ。



參考資料

朝鮮總督府計畫砂防事業

荒廢林野復旧ノ根本計畫樹立ノ爲大正八年度以降三十一年  
 間本府ニ臨時職員ヲ遣テ全縣ニ亙リ實地調査ヲ行ヒタル  
 結果砂防事業ヲ必要トスル林野ハ總計十一萬七千九百三  
 十六町歩ニ達シタルモ之ヲ復旧ニハ多額ノ經費ヲ要スル  
 ヲ以テ財政ノ關係上差當リ其ノ約半數三萬七千町歩ニ對  
 シ大正十一年度以降三十一年計畫ヲ樹テ砂防事業ヲ施行  
 スルコト、シ之ヲ植栽ハ道地方費ヨリ補助金ヲ交付シ林  
 野ノ所有者ヲシテ實行セシムルコト、ナルモ砂防事業ハ  
 其ノ性質上國費ヲ以テ施行スルヲ適當ト認メ前述ノ如ク  
 三十一年間ニ國費約五千百餘圓ヲ支出スルノ計畫ハ樹  
 テタリ而シテ右ノ内當初十一年間ニ一萬五千三百十六町  
 歩ヲ施業スルコト、シ之ニ要スル經費八十三百九十圓、大







テ當分の間ハ特ニ最小限ノ増額ニ止ム夫ノ如ク定メタリ

年次	事業施行面積	年度割支出額
第一 <small>(大正十四年度)</small>	四〇〇	四〇〇
第二	六五〇	六〇〇
第三	七七五	七〇〇
第四	八八〇	八〇〇
第五	一〇〇〇	九〇〇
第六	一一〇五	一〇〇〇
第七	一二三〇	一二〇〇
第八	一五五〇	一四〇〇
第九	一七七〇	一六〇〇
第十	一九九〇	一八〇〇
第十一	二二一〇	二〇〇〇

第十二	二五六〇	二二〇〇
第十三	二八八〇	二六〇〇
第十四	三四七五	三一〇〇
自第十五 至第十九	年六七一五	年三三五
第三十年	三七〇〇	三三一
三十ヶ年計	八二〇〇〇	七三九六

然ルニ本年ハ縣内各地ニ於テ未曾有ノ大水害ヲ惹起シ其ノ慘害測ルヘカラサルモノアリ將來國上ヲ保護シ民衆ヲシテ此ノ慘害ヨリ免レシメムカ爲ニハ治水事業ノ完成ニ俟ツノ外ナキヲ以テ治水ノ根本タル砂防事業ノ急施ヲ要スルコト愈々切ナルモノアリ依テ財政ノ許ス限リ事業ノ急施ヲ圖ルコト、シ左ノ通年度割支出額ヲ改メ當初十ヶ年間ニ償費二千萬圓ヲ以テ二萬二千町歩ノ事業ヲ完了セ



ハトス

年次	事業施行面積	年度別支出額
第一年 (大正十五年度)	八八五	八〇四
第二年	一三三五	一二〇
第三年	一六七〇	一五〇
第四年	二二三〇	二〇〇
第五年	二二三〇	二〇〇
第六年	二七七〇	二五〇
第七年	二二二〇	二〇〇
第八年	二二〇〇	二七〇
第九年	二四〇〇	二二六
第十年	八六六〇	七三五六

右計画ヲ既定繼續費ト比較スルハ左ノ如シ

年次	既定繼續費 年度別支出額	本計 年度別支出額	比較増減
第一年 (大正十五年度)	六〇四	八〇四	二〇〇増
第二年 (大正十六年度)	七〇	一二〇	五〇増
第三年 (大正十七年度)	八〇	一五〇	七〇増
第四年 (大正十八年度)	九〇	二〇〇	一一〇増
第五年 (大正十九年度)	一〇〇	二〇〇	一〇〇増
第六年 (大正二十年度)	一二〇	二五〇	一三〇増
第七年 (大正二十一年度)	一四〇	二五〇	一一〇増
第八年 (大正二十二年)	一六〇	二五〇	九〇増
計	八三〇	一五八〇	七〇〇増



府縣砂防工事費額(平均一町步當)

府縣名	施行年度	一町步當	二町步當	三町步當	備考
防木	大正十三年	二、六六一	四、七四二	二、四一四	右行八農林省所管荒廢地復旧事業費ニシテ左行内務省所管砂防指定工事費ナリ
園山	十三年	一、三六五	一、八六七	一、一六八	二、本調査ハ大正十三年中府縣林務主任宛照会調査セルモノナリ
石川	十三年	二、九四三	七、二二四	一、〇一六	
群馬	十二年	二、六九六	一、四九九	四、一九五	
靜岡	十二年	一、三〇一	五、七九五	一、三七一	
和歌山	十二年	六、〇六一	一、三六五	四、九五六	
三重	十二年	二、六二五	一、六三五	四、二五八	
富山	十一年	三、八六七	五、〇〇一	三、九一八	
岐阜	十二年	三、九一五	四、九七九	一、〇三三	
兵庫	十二年	四、八一八	一、二六四	六、〇七二	
福井	十二年	一、八六八	六、九五五	八、七〇三	



府縣名	施行年度	一所歩當工事費	計	備考
廣島	大正十二年	九〇・九	二五	
徳島	十三年	一七・七	二九・五	
鳥取	十二年	一七・九	四・一	
宮城	十一年	五・六	二・一	
山梨	十二年	一・四	一・八	
長野	十三年	二・三	九・七	
福岡	十二年	一・一	七・七	
東京	十二年	一・八	三・〇	
愛知	十一年	九・四	一・二	
大分	十二年	二・六	五・二	
大阪	十二年	一・一	一・三	

朝鮮各道ニ於ル砂防工事費額（平均一所歩當）

道名	施行年度	一所歩當工事費	計	備考
京畿	大正十四年	三・九	二・七	
忠北	全	四・三	八・九	
忠南	全	四・三	七・六	
全北	全	四・五	九・一	
全南	全	二・八	六・七	
慶北	全	四・四	五・五	
慶南	全	五・七	四・四	
黃海	全	四・三	六・一	
平南	全	二・五	六・七	
咸南	全	五・九	六・一	
總平均		四・二	五・一	



附記

内地ニ於ケル砂防工事ハ其地區ヨリ農林省ト内務省トニ系統ニ區別セラル。施工ノ方法モ多ク趣ニ異ナルモ朝鮮ニ於テハ凡テ山林部ニ於テ管理セリ。而シテ一町步當工事費ハ内地ノ工事費ニ比シ著シク少額ナルカ之ノ勞銀低廉ナルコト及堰堤工事ノ如キ多ク費ヲ要スルモノヲ可及的省略シ山腹工事ニ主カテ注キ林野ノ復旧ニ依テ土砂ヲ防止スヘキ方針トシテ施行シツツアルニ因ル

昭和三年四月二十四日

中央朝鮮協會

陸谷會長閣下

中島 司

拜啓 崔麟氏ノ帰鮮ニ因スル訪文新少シヲノ  
譯文入手候ニ付昨年考出ニ供尊覽候

毎々領有

引新下迄済区中

四月廿五 奉

中島司啓



中島 大雅

中島 大雅

中島 大雅

中島 大雅

中島 大雅

中島 大雅

中島 大雅

中島 大雅

中島 大雅

中島 大雅

No.



# 多數人士歡迎裡

## 崔麟氏再昨歸國

약 일 개년 간 세계를 시찰하고  
재작 일 밤에 무사히 귀국하여

世界廿一個國周遊

崔麟氏(崔麟)가 약 일 개년 간 세계를 시찰하고 재작 일 밤에 무사히 귀국하여 세계 21개국을 순회한 뒤 국내에 돌아왔다. 그는 이번 여행에서 많은 것을 배웠다고 하며, 특히 미국의 발전과 민주주의에 깊은 인상을 받았다. 그는 이번 여행의 목적은 세계 각국의 정치, 경제, 문화 등을 살펴보고, 우리나라에 적용할 수 있는 것을 찾아보는 것이었다고 밝혔다. 그는 이번 여행에서 가장 인상 깊었던 것은 미국의 교육제도와 의료제도로, 특히 미국의 교육제도는 학생들의 창의력을 키우는 데 중점을 두고 있다는 것을 높이 평가했다. 그는 이번 여행에서 얻은 교훈을 바탕으로 우리나라의 발전에 기여할 것이라고 밝혔다.



崔麟氏(崔麟)가 약 일 개년 간 세계를 시찰하고 재작 일 밤에 무사히 귀국하여 세계 21개국을 순회한 뒤 국내에 돌아왔다. 그는 이번 여행에서 많은 것을 배웠다고 하며, 특히 미국의 발전과 민주주의에 깊은 인상을 받았다. 그는 이번 여행의 목적은 세계 각국의 정치, 경제, 문화 등을 살펴보고, 우리나라에 적용할 수 있는 것을 찾아보는 것이었다고 밝혔다. 그는 이번 여행에서 가장 인상 깊었던 것은 미국의 교육제도와 의료제도로, 특히 미국의 교육제도는 학생들의 창의력을 키우는 데 중점을 두고 있다는 것을 높이 평가했다. 그는 이번 여행에서 얻은 교훈을 바탕으로 우리나라의 발전에 기여할 것이라고 밝혔다.

崔麟氏(崔麟)가 약 일 개년 간 세계를 시찰하고 재작 일 밤에 무사히 귀국하여 세계 21개국을 순회한 뒤 국내에 돌아왔다. 그는 이번 여행에서 많은 것을 배웠다고 하며, 특히 미국의 발전과 민주주의에 깊은 인상을 받았다. 그는 이번 여행의 목적은 세계 각국의 정치, 경제, 문화 등을 살펴보고, 우리나라에 적용할 수 있는 것을 찾아보는 것이었다고 밝혔다. 그는 이번 여행에서 가장 인상 깊었던 것은 미국의 교육제도와 의료제도로, 특히 미국의 교육제도는 학생들의 창의력을 키우는 데 중점을 두고 있다는 것을 높이 평가했다. 그는 이번 여행에서 얻은 교훈을 바탕으로 우리나라의 발전에 기여할 것이라고 밝혔다.

崔麟氏(崔麟)가 약 일 개년 간 세계를 시찰하고 재작 일 밤에 무사히 귀국하여 세계 21개국을 순회한 뒤 국내에 돌아왔다. 그는 이번 여행에서 많은 것을 배웠다고 하며, 특히 미국의 발전과 민주주의에 깊은 인상을 받았다. 그는 이번 여행의 목적은 세계 각국의 정치, 경제, 문화 등을 살펴보고, 우리나라에 적용할 수 있는 것을 찾아보는 것이었다고 밝혔다. 그는 이번 여행에서 가장 인상 깊었던 것은 미국의 교육제도와 의료제도로, 특히 미국의 교육제도는 학생들의 창의력을 키우는 데 중점을 두고 있다는 것을 높이 평가했다. 그는 이번 여행에서 얻은 교훈을 바탕으로 우리나라의 발전에 기여할 것이라고 밝혔다.



京城驛頭斗萬歲聲

[illegible][illegible]

(親和口答) 別紙 重口 報乙 大同十 是



多數人士の歡迎裡に

崔麟氏一昨夜歸國

約一ヶ月間世界を視察し

一昨夜東京市に歸國

世界廿一個國を周遊

昨年六月、日本横濱を出帆し世界漫遊の旅に赴いた崔麟氏は米國を始め歐羅巴の二十一個國を視察し、廿一日午後八時四十五分列車で東京市に歸り、驛には多數の天道教徒を始め各方面の人士が三、四百名、出迎へたが氏は長陣の談話もなく、疲勞の色を見せず、出迎へた人士に一々挨拶を返し、齋洞の本邸に向う



張家口

明倫彙編

長。尚ほ氏臣の如く、勸海客等は、氏が京師、馭駟に視られ、  
るや一齊に萬歳を高唱して、その歸國を祝賀して。

氏は記者に對し旅中書の感想を談す。私は何より先づ  
自今大朝鮮人であること幸福に感ずる。朝鮮は四季  
を通り氣候并に風土がよく調和されゐる。吾れに、斯う  
風土に生じし我等は、世界何れの國に行つても、風土に適  
せざる吾等の苦痛を感ずる。如きこと無く、且つ吾等  
の國の人情風習に逆ふことのない吾れに、利を計る好  
處を感ずるのみ、我等朝鮮人であることは得られない幸福  
と思ひやる。

各國に對する所感は、歐羅巴の大勢を二つの思潮に流れてゐる。一は國權主義といふ國權黨の主義で、一は社會主義、もう四各國の主權を握つてゐるは、本多くは權國







この世は、大層高きところ、草薺三つが  
隙を食ふてゐる、自分のところ、  
修を特になつて、これは彼等のまじり感の強ひこと、  
佐と強ひつゝ、自分の思案である。これを極端に例へて  
つゝは、隙席にゐる人の洋服や煙草の火を、  
も思案拂ひ、  
閑しな静かな思案を、  
新倉の秩序の、  
夢の、  
今度の静けさ、  
また私は、  
殊に西洋を、  
おもしろい、

この世は、大層高きところ、草薺三つが  
隙を食ふてゐる、自分のところ、  
修を特になつて、これは彼等のまじり感の強ひこと、  
佐と強ひつゝ、自分の思案である。これを極端に例へて  
つゝは、隙席にゐる人の洋服や煙草の火を、  
も思案拂ひ、  
閑しな静かな思案を、  
新倉の秩序の、  
夢の、  
今度の静けさ、  
また私は、  
殊に西洋を、  
おもしろい、



四月十六日附、中外日報社説（原文直譯）  
 おお、（本件は）總督府で即時差押された、附せられたる  
 ものにつま、一般には公開せざる様希望（する）  
 と思ひ、通後東京支局・朴尚僖  
 彼等は、何故に強大  
 なる國民となつてか  
 世界漫遊から歸つて省解民は、その歡迎會の席上に  
 おゝ、今回の漫遊中、最も深く感銘し、希釈した一  
 片の感銘を録つておゝ、それと別に、この新しき觀察とは  
 くらげにけられ、併にわれ等は希釈そのものに對し、純一  
 考反省し、けられ、ならぬもの、と考へ、これを以て、この機会  
 に於て一言を為さんとす。のこある。

一、彼等は設計の通り進歩し、はるる年を要し  
 即ち彼等は、大まには國家生活より、小まには一個人の私生活に















の群衆を獲つたわれ等として、この單純な印象傳  
 用あらうと及者になりければならぬことを痛感する。

――をほり――

譯者曰く、斯る言語まいも押收されし程、  
 經過能記に留つておる。

その結果として昨年一ヶ月の朝鮮及新用押收件  
 数は實に百四十件（和文・英文・能記合計は三百六十六件）  
 而しこれを距離と規則は旧韓國支配八年のものより、  
 此は大部著つてゐる筈である。

（譯者曰く、斯る言語まいも押收されし程、  
 經過能記に留つておる。）  
 その結果として昨年一ヶ月の朝鮮及新用押收件  
 数は實に百四十件（和文・英文・能記合計は三百六十六件）  
 而しこれを距離と規則は旧韓國支配八年のものより、  
 此は大部著つてゐる筈である。



昭和二年度内地在留朝鮮人數  
 一戸ヲ構ヘ居住スルモノ  
 一七、八五二戸  
 男三九、〇四二人  
 女一九、九五五人  
 計五八、九五九人  
 一戸ヲ構ヘサルモノ  
 男六、二六三人  
 女一、二三七人  
 計七、五〇〇人  
 其ノ他  
 男三、四〇九人  
 女四、三六九人  
 計七、七七八人

昭和二年度内地在留朝鮮人數

一戸ヲ構ヘ居住スルモノ  
 一七、八五二戸

男三九、〇四二人  
 女一九、九五五人  
 計五八、九五九人

一戸ヲ構ヘサルモノ  
 男六、二六三人  
 女一、二三七人  
 計七、五〇〇人

其ノ他

男三、四〇九人  
 女四、三六九人  
 計七、七七八人



合計 男一三九、七一四人  
女三九、九六一人  
計一七九、六七五人

之レヲ職業別ニ分類スレハ左ノ如シ

職業別

官公吏	二七
軍人	三
通譯	一五
醫師、薬剤師	一五
新聞記者	一五
僧侶、牧師	一七

事務員	一三六
學生	五〇一五
商業	三、二二三
農業	一、八一二
雇人	六、九九三
水上就業者	二、〇〇〇
職工	三、四、五〇五
鑛坑吏	一、〇、〇、〇
各種人吏	六、二、〇九
交通運輸業方面	一九







[illegible]



女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---



山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山崎 太郎	山
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	---



職別	人数	男	女	合計
事務員	18	18	0	18
学生	9	9	0	9
職員	87	87	0	87
農業者	65	65	0	65
商人	75	75	0	75
小工	29	29	0	29
職工	218	218	0	218
機械士	43	43	0	43
その他	96	96	0	96
就労者	1	1	0	1
就労者	237	237	0	237
無職	34	34	0	34
在職者	271	271	0	271
計	271	271	0	271



參政權附與に關する請願書

請願の要旨

衆議院議員選舉法別表中に京城府、釜山府、大邱府、平壤府を  
加へ議員數は内地の人口比例に準じて之を定め選舉人被選舉人の  
資格及選舉の方法等は特に朝鮮の事情を參照して適切な法規を定  
められんことを望む。  
二 貴族院令の定むる範圍を擴張して朝鮮貴族にも内地華族と同一  
に貴族院議員たることを得るの特權を認められんことを望む。  
三 朝鮮在住者よりも國家に功勞あり又は學識ある者を拔擢して貴  
族院議員勅選の途を開かれんことを望む。

理由

日韓併合の結果に依りて日本帝國の臣民となりたる朝鮮人同胞は  
「其民衆を愛撫すること一視同仁朕が臣民として秋毫も差異あるこ  
となし」と宣はせし御聖旨に感激し相俱に帝國憲法の保障に均霑し  
政治上の機會均等に浴する日遠からざるを期待せり其後數次に亘り  
朝鮮人有志に依りて提出せられたる參政權附與の請願は一旦議會の  
採擇する所となりて在朝鮮民衆の心は前途の希望に輝き頼手互に相慶  
するを見たり誰か意はん爾來數年を経過したる今日依然として其目  
的を達成するに至らず當年熱血の志士が血を以て認めたる悲痛の請  
願も眼前高閣に束ねられ更に一瞥を與へられざる運命に在らんとは  
嗚々齊々として帝國臣民にてありながら朝鮮に在る朝鮮人及び内地  
人は何故に故に内地同胞と伍して憲政下の良民たる能はざる乎、素  
より我朝鮮の文化は内地の文化に及ばず知識の平均點に於て遙か  
に遜色ある現在の事實を否定し能はずするも共に帝國の臣民たる  
以上其現實の生活に即して政治上發言權を獲得せんとするもの洵に  
己むを得ざる要望に屬す且つ其人に就て批判すれば内地人必ず  
しも殊達能の士のみにあらず朝鮮人にも高材逸足あり賢愚相交は  
り貧富難處すること内地朝鮮地を連ねて其相異する所を以て計り  
も内地人よりも是れに參政權を以てし朝鮮に在る者には強ゆるに  
絕對服従を以てし故に兩者の待遇を區別しながら人類の平等を  
高調しつゝある帝國の眞意を解する能はざる也、世人動もすれば内  
鮮文化の優劣を指摘するも畢竟五十歩百歩の問題に過ぎず在朝鮮人  
の文化低ければ其低き現狀に相應したる程度の參政權を認むれば足る  
全然之を認めざるが如きは民を愚にするの甚しきもの也、試に之を  
内地の實例に徴するに初期の帝國議會が開かれたる前後に於ては内  
地人の文化も尙未だ幼稚の域を脱する能はざりしが故に當時は選舉  
人の資格を限定したる制限選舉法を用ひ北海道の如きは地域を限り  
て選舉法を施行したり其後文化の向上するに伴ふて徐々に其範圍を  
擴張し漸く最近に至りて普通選舉法を採用するの機運に到りて唯  
それ普通選舉法を行はざんとする現代内地人必ずしも文化人のみと言ひ  
難し恐らく其中の幾割かは選舉權の意義すらも解せざる低級の分子  
もあらん而かも國家が此等の人人に對つても平等に選舉權を附與す  
るに至りたる所以のものは如何に低級無產の人々を雖も均しく國家  
を構成する一要素なればなり何事ぞ吾等在朝鮮民衆のみは併合既に十  
有六年を経たる今日と雖も依然總督政治の下に唯だ依らしむべし  
民として之に其存在を認めらるゝのみ政治上の發言權に就ては最  
少限度の要望すらも充たされざる也、斯の如き明白なる差別的待遇  
を以て新附の民に臨み而して能く併合根本の趣旨を徹底し得たりと  
爲す乎。

併合の前後に方り朝鮮の有識者は不充分ながら東洋に於ける自國の  
立場を承認することを得たると同時に累代批政の餘を承けて極度に  
疲勞せる民衆の力に頼りて永く獨立國家を支持することの徒勞に過  
ざることを自覺せざりしにあらず而かも十六年前晴天の霹靂として世  
界に勃然と現れたる日韓併合の舉に直面して終始冷靜の態度を失は  
ざることは何人も難しとしたり、兎にも角にも四千年の歴史を  
有し傳統の文化を相續し來りし二千萬同胞が新たに異朝の統制に服  
することは如何に弱少民族の誕生に於て當然踐まざるを得ざる道程  
なりとすらも誰か祖國に對する憧憬と執着なき者あらんや加ふるに  
前途未知の運命に對して不安と疑懼の念に襲はれたる當時の民心を  
冷靜に復へらせ其進退を誤らしめず大義に順應して今日あるを得せ  
しめたる所以のものは畏れ多くも直後に賜はりし詔書に拜して初め  
て併合の他意なきを覺り一視同仁新附の民を待ち給はんとしたる聖  
旨に感激し陛下の赤子たることに依りて李朝時代よりは幸福にして之  
意義ある國民的生活を意識することを得せしめ給ひしが故にして之  
れ微りせば當年併合の歴史も或は流血を以て染められたるやも知れ  
ず安ん無邊の御仁心に對する深き感激と信頼あるが爲に朝鮮民族の  
多數は今日と雖も決して一部の不逞運動者に共鳴する者にあらず然  
ども過去十六年間に著しく進歩せる朝鮮民心を引導せず却て失望落  
膽せしむる時さらでも帝國の誠意を惡解し絶へず流言蜚語を放ちて

人心を惑亂し併合の解體を圖りつゝある彼等不逞輩の乘する處とな  
らば朝鮮民族たるもの果して最後まで能く毅然として忍びなきを得  
る乎、妖言耳を聳し人心之が爲に動搖するあらば統治上の禍端は  
發するなきを保せず憂心に堪へざる也。

内鮮兩民族は結局一大民族として統一されざるべからず所謂同化政  
策なるもの洵に是れ朝鮮統治の要諦にして參政權問題の解決は全く  
之が前提たるべき也聞くが如くんば昨今内地有識者間には朝鮮を以  
て愛蘭土に比し英愛間の葛藤を聯想して此問題の解決を躊躇する者  
もある由なれど此人々の配慮は全く杞憂に過ぎず由來内鮮兩民族は  
同源同種の因縁を有し思想習慣等の相共通したるもの尠からず之を  
待つに障壁を設けず與ふるに參政の權利を得む若し朝鮮選出の代議士に  
と接觸を進め且つ思想の安全辨たるを得む若し朝鮮選出の代議士に  
して飽までも異心を蓄へ忠誠を拒み強ひて國是に反抗するが如き態  
度に出づるに於ては敢て彈壓の道なきに苦まず結局與へざるべから  
ざるものならば成べく早く與ふるの賢なるに若かず與ふるが如く與  
へざるが如く何時までも曖昧模糊の態度を以て朝鮮に在る者を五里霧  
中に彷徨せしむるが如きは帝國の襟度にあらずと信ず唯それ物に順  
序あり緩急あり徒らに理想に奔り輕卒に斷行して後日意外の結果に  
懷まざるゝ如き實例もなきにあらずが故に吾等と雖も今遽に内地  
の選舉法を全部朝鮮に施行せよとは要求せず先づ以て其文化の程  
度と經濟的實力を調査し之を内地に比較して餘りて一定の代議士  
を選出することを得せしめ此等特定區域内に住居せる市民の政治的  
能力を實地に試み其成績を見たる後徐ろに其區域を擴張し漸次之を  
一般に及ぼすを以て最も無難にして最も機宜を得たる方策なりと信  
ず本請願特に京城府以下朝鮮の四大都市を指定して我選舉法別表中  
に追加せんことを要望する所以のものは此等四大都市が其人口に  
於て其文化に於て其實力に於て優に前記の條件に該當するに足る資  
格あること現在周知の事實なれば也。

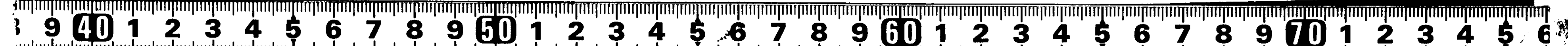
更に我朝鮮に於ては併合の當時天皇陛下特別の恩召に依り名族功  
臣を以て榮耀を授け貴族に列せ給へり其恩賜に堪へざるもの  
十餘名あり其功勞も其勤勞も其熱心も其忠誠も其愛國の心も其  
點に立てるも終始政治の圈外に居り時務に關して一言是非の意見を  
むを得ざるは彼等と雖も心私かに悶々たる情なきを得ざるべし幸に  
貴族院令に於て定めたる範圍を擴張して内地華族と同等の政治的特  
權を我朝鮮貴族にも與へ朝鮮を代表して貴族院の議席に着き其所信  
を披瀝するの機會を得せしめば彼等も愈々聖恩の厚きに感激し奉る  
と共に之に依りて内鮮相互の諒解を進め施政に貢獻する所蓋し大な  
るものあらん、次に朝鮮に於ける民間布衣の士にして學識あり徳望  
あり嘗て俸祿の給なくして身を公益に役し或は産業の開發に努力  
し或は内鮮の融和に盡瘁し其功績の著すべからざる者あり蓋し是  
今後此等の人人を奏薦して勅選議員たるの恩典に與らしめば當に  
其人一人の榮耀たるのみならず在朝鮮同胞の感激に過ぐるものあら  
ざる也。

之を要するに日韓の併合は飽までも人道主義、平和主義に立脚した  
る内地の延長たるべからず、之に依りて東洋永遠の平和を確保  
し兩民族共存共榮の理想に邁進する處なくんば併合の目的は竟に併  
合の目的に化せん頃朝鮮人言論界の傾向を窺ふに筆舌を揃へて壓  
迫を叫び搾取を訴へ立言願ふ不穩の調を帶ぶ斯の如きは素より多く  
論者の誤解に出で必ずしも根柢あるものにあらず然ども併合以來在  
鮮二千萬民衆に與へられたる待遇は豫期したるほどのものにてはあ  
らざりし故に當初より同一臣民たるの期待を以て今日に至りし彼等  
民衆をして鬱鬱とせしめたり失望せしめたり自暴自棄に至りし者  
あるの恐れなきにあらず吾人は朝鮮思想界の傾向を見て我同化政策  
の前途に深憂なからんと欲するも得べからざる也、或は曰く今日の  
朝鮮人に臨むには善政を以てすれば足るべしに政治に容喙せしむれ  
ば却つて其弊に堪へざらんと言ふ所一面の理なきにあらず雖も同  
政者必ずしも萬能にあらず獨り自から用ひて善政なりと信じたる處  
のもの案外善政ならざるものあり歴代の總督勵精治を圖り力を傾け  
て鮮人の爲に善政を施かんとするも其結果が往々豫期に反するもの  
は總督の賢明を以て尙ほ朝鮮特殊の事情と民族の心理に透徹せざる  
所あれば也眞に朝鮮民族をして其善政を感服せしめんとするならば  
朝鮮人に參政權を附與して相互の理解と協調を進め政治上の共同責  
任を自覺せしむるに若かず也、朝鮮既に帝國の一部となりたる以  
上は一部の運命は全體に影響せざるを得ず本國家は一つの有機體  
なるが故に末梢的利害も中樞神經に傳はりて全身に感應すること明  
なり單に内地に於ける人口問題、食料問題、農村問題等に於て内鮮  
共通の利害を痛感するのみならず國政全般に亘りて吾々在鮮民たる  
もの決して無關心たる能はざる也、此見地に於て在鮮二千萬民衆は  
隨で茲に參政權を要求す此要求は毫も偽らざる告白たると同時に要  
路の諸公が必ずや肯定さるべき理由ありと確信す。

右謹で請願に及び候也

昭和二年二月二十九日印刷  
昭和二年二月一日發行  
發行所 大 垣 丈 夫  
東京本町四丁目一三番地  
印刷所 谷 岡 貞 七

發行所 甲子俱樂部





朝鮮人内地渡航歸還年別調

年次	渡航	歸還	差引殘留	累計	渡航	歸還	差引
大正六年	一四、〇二二	三、九二七	一〇、〇九五	一〇、〇八五	一、一六七	三、二二	八四〇
同 七年	一七、九一〇	九、三〇五	八、六〇五	一八、六九〇	一、四九三	七、七五	七一七
同 八年	二〇、九六八	一、七三九	八、二二九	二六、九一九	一、七四六	一、〇六一	一、八八六
同 九年	二七、四九七	二〇、九四七	六、九五〇	三三、四八九	二、三九一	一、七四五	五四六
同 十年	三八、一一八	二五、五三六	一二、五八二	四六、〇五一	三、一七六	二、一三八	一、〇四八
同 十一年	七〇、四六二	四六、三二六	二四、一三六	七〇、一八七	五、八七一	三、八六〇	二、〇一一
同 十二年	九七、三九五	八九、七四五	七、六五〇	七七、八三七	八、一六六	七、四七八	六三八
同 十三年	一二三、三二五	七五、四三〇	四六、七八五	一二四、六二二	一〇、一八四	六、二八五	三、八九九
同 十四年	一三三、三三二	一、二四七	一八、八〇二	一四三、四二四	一〇、九三九	九、三七三	一、五六七
同 十五年	九一、〇九二	八、三〇九	七、三八三	一五〇、八〇七	七、五九一	六、九七六	六、一五
昭和二年	一三八、〇一六	九、九九一	四四、〇二五	一九四、八三二	一一、五〇一	七、八三三	三、六六九



昭和二年中朝鮮人内地渡航歸還

月次	學生	勞働者	其他	計	學生	勞働者	其他	計	學生	勞働者	其他	計
一月	四三三	七、八三	三、五九	一、二七二	一、七七一	八、六六	六、四八五	一、五、七三	二、六二	一、五、七三	二、六二	一、五、七三
二月	一、六六	一、五九三	六、九二	一、四、一、二	一、四、一、二	一、四、一、二	一、四、一、二	一、四、一、二	一、四、一、二	一、四、一、二	一、四、一、二	一、四、一、二
三月	六、三三	一、五、七五	六、四四	一、五、五二	六、九〇	四、八三	一、四、九三	一、五、五二	六、九〇	四、八三	一、四、九三	一、五、五二
四月	六、二七	九、六、七	六、一九	一、五、四九	三、一、二	四、一、八〇	一、五、五七	一、五、四九	三、一、二	四、一、八〇	一、五、五七	一、五、四九
五月	四、九八	九、〇九八	六、三三	一、五、四九	六、四、四、九八	一、三、五五	一、五、五二	六、四、四、九八	一、三、五五	一、五、五二	六、四、四、九八	一、三、五五
六月	三、〇三	七、〇、六	一、八、三	九、〇九	三、一、九	五、四、三	一、二、一九	四、八、四、二	一、三、五五	六、四、四、九八	一、三、五五	六、四、四、九八
七月	一、五八	七、三、五	六、〇三	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
八月	四、五五	一、〇、〇、八	一、〇、〇、八	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
九月	一、三、九	七、五、九	一、〇、〇、八	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
十月	三、三八	五、四、八	一、〇、〇、八	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
十一月	三、〇、五	六、〇、〇、〇	一、〇、〇、八	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
十二月	一、六、六	一、〇、〇、〇	一、〇、〇、八	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
計	六、〇、〇、八	一、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、八	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二

昭和二年道別朝鮮人内地渡航歸還調

道別	學生	勞働者	其他	計	學生	勞働者	其他	計
京畿道	八〇一	三、四、〇、三	二、〇、〇、四	六、三、〇、八	七、〇、五	六、一、七、五	一、三、三、三	一、三、三、三
忠清北道	一、二、五	六、八、七、九	七、七、七	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
忠清南道	三、五、二	五、四、八、六	一、三、五、七	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
全羅北道	三、三、九	四、三、三、八	一、六、二、九	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
全羅南道	四、七、七	一、五、五、四、一	四、三、五、三	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
慶尚北道	五、九、〇	二、四、一、五、一	六、五、六、六	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
慶尚南道	七、三、六	四、四、九、三、二	一、一、七、三、七	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
黃海道	一、七、九	一、〇、三、三、二	三、六、二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
平安南道	五、三、九	一、七、九、九	七、三、〇	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
平安北道	二、八、四	六、三、二	二、三、五	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
江原道	一、〇、四	一、二、四、九	三、一、二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
咸鏡南道	四、三、四	六、三、四	三、〇、八	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
咸鏡北道	七、八	二、九、八	一、〇、四	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二
計	六、〇、〇、八	一、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、八	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二	一、五、五二



昭和二年朝鮮人内地渡航歸還府縣別調

府縣名	學生	勞働者	其他	計	學生	勞働者	其他	計
東京	4,733	4,516	4,446	13,695	5,120	5,063	4,651	14,834
京都	4,515	4,091	4,776	13,382	3,411	3,353	3,881	10,645
神奈川	4,840	3,811	4,999	13,650	4,405	4,735	5,735	14,875
兵庫	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
長崎	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
愛知	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
岐阜	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
長野	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
山梨	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
静岡	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
廣島	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
山口	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
大分	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
福岡	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
熊本	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
鹿兒島	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
那霸	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
朝鮮	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
海外	1,019	789	1,999	4,807	1,414	1,741	1,964	5,119
計	40,018	39,018	40,018	119,054	40,018	39,018	40,018	119,054

昭和二年内地在留朝鮮人戸数人員表

府縣名	戸数	男子	女子	計	男子	女子	計
東京	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
京都	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
神奈川	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
兵庫	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
長崎	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
愛知	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
岐阜	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
長野	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
山梨	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
静岡	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
廣島	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
山口	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
大分	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
福岡	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
熊本	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
鹿兒島	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
那霸	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
朝鮮	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
海外	1,019	1,019	1,019	3,057	1,019	1,019	3,057
計	40,018	40,018	40,018	120,054	40,018	40,018	120,054



昭和二年内地在留朝鮮人戸數人員表

[illegible]



昭和二年 内地在留朝鮮人職業別表

職業	北海道	東北	関東	中部	近畿	四国	九州	山口	徳島	香川	高知	大分	佐賀	熊本	鹿児島	那覇	朝鮮	南洋	合計
農林	1,234	2,345	3,456	4,567	5,678	6,789	7,890	8,901	9,012	1,013	2,124	3,235	4,346	5,457	6,568	7,679	8,780	9,891	10,902
漁業	123	234	345	456	567	678	789	890	901	1,012	2,123	3,234	4,345	5,456	6,567	7,678	8,789	9,890	10,901
工業	1,567	2,678	3,789	4,890	5,901	6,012	7,123	8,234	9,345	1,046	2,157	3,268	4,379	5,480	6,591	7,602	8,713	9,824	10,935
商業	2,345	3,456	4,567	5,678	6,789	7,890	8,901	9,012	1,013	2,124	3,235	4,346	5,457	6,568	7,679	8,780	9,891	10,902	11,013
運輸	3,456	4,567	5,678	6,789	7,890	8,901	9,012	1,013	2,124	3,235	4,346	5,457	6,568	7,679	8,780	9,891	10,902	11,013	12,124
教育	4,567	5,678	6,789	7,890	8,901	9,012	1,013	2,124	3,235	4,346	5,457	6,568	7,679	8,780	9,891	10,902	11,013	12,124	13,235
医療	5,678	6,789	7,890	8,901	9,012	1,013	2,124	3,235	4,346	5,457	6,568	7,679	8,780	9,891	10,902	11,013	12,124	13,235	14,346
法律	6,789	7,890	8,901	9,012	1,013	2,124	3,235	4,346	5,457	6,568	7,679	8,780	9,891	10,902	11,013	12,124	13,235	14,346	15,457
文学	7,890	8,901	9,012	1,013	2,124	3,235	4,346	5,457	6,568	7,679	8,780	9,891	10,902	11,013	12,124	13,235	14,346	15,457	16,568
音楽	8,901	9,012	1,013	2,124	3,235	4,346	5,457	6,568	7,679	8,780	9,891	10,902	11,013	12,124	13,235	14,346	15,457	16,568	17,679
美術	9,012	1,013	2,124	3,235	4,346	5,457	6,568	7,679	8,780	9,891	10,902	11,013	12,124	13,235	14,346	15,457	16,568	17,679	18,780
その他	10,123	11,234	12,345	13,456	14,567	15,678	16,789	17,890	18,901	19,012	20,123	21,234	22,345	23,456	24,567	25,678	26,789	27,890	28,901
合計	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000







年別	總數	男	女	生	勞	者
大正十一年末	四、六三二	四、二八一	三、五〇〇	一、八三三	一、八三三	一、八三三
同十二年未	四、四七〇	三、九一七	三、二〇〇	一、六八七	一、六八七	一、六八七
同十三年未	八、三八五	八、八六五	五、二〇〇	九、九〇〇	九、九〇〇	九、九〇〇
同十四年末	一〇、八八八	一〇、〇二二	八、〇六〇	一、四八二	一、四八二	一、四八二
昭和元年未	一、二、三三一	一、一、八九一	一、三、四〇〇	一、〇、八三三	一、〇、八三三	一、〇、八三三
昭和二年七月末	一、五、一三五	一、五、〇〇九	一、七、二四〇	一、九、九二二	一、九、九二二	一、九、九二二

自大正十一年末在東京朝鮮人増減比較調  
至昭和二年七月末

### ◎在留朝鮮人年次別調附記

朝鮮總督府に於ては大正八年独立騒亂より直後制定されたる旅行証明制度は、大正十一年十二月廢止され渡航者増減したるも関東震災に際し一時停止せる者四萬を越え其の後再び之を廢止するに及び同年六七八月頃渡航者二月約一萬八千人帰還者約五、四〇〇人差引一月間増加すること一萬三千人なり。昭和元年十二月不現在と昭和二年六月末現在と比較すれば約二萬一千五百人増加を示す。

大正十三年五月一日現在 (男) 七、八一七 (女) 一、三、八五五 (計) 八、一、六七二  
昭和二年七月末日現在 (男) 一、五、〇〇九 (女) 一、七、二四〇 (計) 一、六、七四九

### ◎在留朝鮮人の分佈

最も多數なるは大坂府下にして三萬余を占め福岡、山口、東京、廣島、京都、神奈川、愛知之に次ぐ。十三年五月調に依れば無職業者は在留朝鮮人の十二%にして之以外の多數は労働者の白むるところである。配偶者は九千五百人約十%に過ぎない然し近年は無職業者は漸次激増の傾向が見える。

最近東京地方管内朝鮮人職業別島嶼

在留朝鮮人職業を見るに多數を占むるものは  
礦坑夫 二、七九九 夫連運輸労働者 二、三七八 各種人夫 二、二、四九七  
信託人 二、一〇〇 學 生 二、六九三 職 工 二、三二六

等若しく全然無就労働者四、〇〇〇人如きものと見て二十%位増加せるものが實政に近いと云はれてゐる。

昭和二年 在東京朝鮮人戸数及人口調 (警視廳調査)



住 別	戸 数	男 人	女 員	計
持居住者	一五二九	四一四	女三四三	五五四七
持居者 （持居者九十九日以下）		五八四	二五二	五八九七
持居者 （持居者九十九日以上）		一八四	一九二	三九七
計	一五二九	一三四七	一七二四	一五、一三一

八月末現在數一四、五三四名にして九月末に於て六〇、七〇〇名に増加せる。

昭和二年九月中在東京朝鮮人移動調査(警視廳調査)

入京之部				退京之部			
程別	男	女	計	程別	男	女	計
朝鮮より新入京者	五四五	七六	六一一	朝鮮者	一	一	二
朝鮮より再入京者	四一七	五九	四七六	他府県へ移る者	一	一	二
他府県より入京者	三八五	四九	四三二	所在不明者	一	一	二
其の他	一	一	四七五	其の他	一	一	二
合計			一、三、二〇九	合計			一、〇、三、一一

差引增加

今八八名

類別		男	女	計	備考
職業紹介	四一六	二七	四四三	自強会、用委会、保護	
行路病保護			一九		
醫療斡旋	二六一	三二	二九四		
旅費歸國			二		
家出保護	七	五	二		
迷子			二		
救身保護			八九		
御養食券給付					

昭和二年九月末在昭朝鮮人職業別調（警視廳內鮮係調）

計	計	計	計
二五、五五八	二、〇九九	二七、八三六	二、一八六
一三、四〇六	一、七二四	一五、一三一	
八、五五八	八、〇	八、六三六	
一、八二三	大、一	一、八八四	
一、九九二	一、九四		
生	女	計	
職			
工			
日傭勞師者及 行商職人			
主佐職業者其化			
類			
別			
男			
女			



大正十三年  
五月一日現在 東京府在住朝鮮人職業別人口調査 (警視廳調査)

職業	人員	職業	人員	職業	人員
農業及農林業	一	土木建築業	六五七	宗教関係者	二
土木採取業	三九	製紙印刷製本	一八	醫務関係者	三
窯業	二一三	窯業煉炭製備業	二	教育関係者	三
金席工業	九七	瓦葺屋瓦工機械職工	一〇	其他の自由業者	九
機械器具製造	六三	其他工業	五	法務に關する業者	一
化學工業	三九	物品販賣業	一〇五	記者著述者	二
織造工業	四七	金融及保険業	六	其他の自業者	一七四
紙工業	四	物品貸貸及陳列業	二	家事使用人	一三一
皮革骨・羽毛品加工工業	八	旅館飲食店浴場業	八	収入に依る者	一
木竹類製造	二〇	通信業	八	無職業者	一五四
食料嗜好品販賣	八	運輸業	一〇二	計	四一五四
被服身置製造	八九	官公吏雇傭人	二二	既働者ある者	三八八

内地在留朝鮮人数地域別大要

大正十一年末は内地在留朝鮮人数六萬五千人に達したが同十二年末即ち関東震災直後續々と帰還し此の數約四萬と云はれてゐる。然し十三年末に於て急激に増加を示し約十二萬人を數ふるようになった。即ち

大正十一年末	五九、七三二
同 十二年末	八四、四一五
同 十三年末	一一八、一九二
昭和二年六月末	一六五、二八六
東京地方職業紹介事務所管内	三九、二八〇
警視廳管内	一五、一三一

即ち警視廳管内主として東京府市に於ける在留朝鮮人は内地在留人員の約十分に相當する。内地に於て朝鮮人の多數を占むる地域は

大阪	三八、五〇〇	東京	一五、〇〇〇	福岡	一四、五〇〇
愛知	一八、九〇〇	兵庫	一〇、五〇〇		

〔附記〕

一ヶ月間に入京者と退京者とを比較すると入京實に千九百人の多しと云ふ



少からざる増加を示してゐる。この異動は主として二点の誘因を為すものと思惟する。

1. 内地朝鮮人の約十%は独身者である。

2. 無職業者は十二%に達し、その外は多数は尤も異動性のある労働者である。

朝鮮人に見る短所と長所

(短所) 言語不通、財金思想無き、怠惰、猜疑心深し、永續堅忍性なし、不潔倚頼心強し、徳義心無し。

(長所) 衣食住に無頓着なること(大食は定評あり)、負荷力著しく強し。

朝鮮人の特長たる「負荷力の強さ」を、砂利採取人、木材積取、仲仕人等には稍適當なるものであらう。

◎朝鮮賃銀を見るに

砂利採取 一月一円八十文  
木材積取 一月三十文—二月五十文  
土工 一月二十文—二月六十文  
飲食店雑役 一月一円—二月三元

### 職業紹介所に現はれたる失業朝鮮人の概況(昭和三年十月)

各職業紹介所に於ては朝鮮人の求職の途を閑居し紹介斡旋の上に基しく、廣く一般には認められざる努力を拂ひつゝあり。

而して官憲に於て朝鮮人雇傭主を特に注意し監視等嚴密なる為め雇主は之を隠蔽し又は採用を躊躇する者多からず(三) 鮮人を紹介するも保証人自身對受人無きこと(三) 過去に経歴素行を調査するに困難なり等々理由にて紹介所としては取扱に苦心し勞務の供給關係の上に多少の支障を來たしてゐる。

而職業紹介所に取扱はれたる鮮人の職業は鮮人の素質特性に關係より

鑛坑吏、交通運輸就勞者、各種人夫、各種雇人、苦學生、職工

等最も多き部類である。左に各紹介所に現はれたる朝鮮人求職者に付て其の概況を摘録すべし。

職業紹介所名	期間	求職者数	就職者数	備考
東京 千駄ヶ谷職業紹介所	昭和三年 自月九月	大	三	彼等、給料、多額と金不相應、職を望み、為り紹介 教養不足、不潔等あり
大崎町職業紹介所	昭和三年九月	八九三		大崎町在留町在留朝鮮人男女五二名、各年六〇名







ノ全ノ男學生ハ前年ニ比シ約一割三分ヲ、男女中等學校ハ一割一七分ヲ、各  
種學校ハ約七分ヲ減少シタリ。又學校ノ學科類別ニ於テ前年比較上増加ノ  
表々著シキハ理科、工科、農林科、文科、商科等ニシテ、減少ノ較々著シキハ法科、師  
範科、普通科、豫備科等トス。

學生ノ出身道別ハ全南ノ五百五十人ヲ最高トシテ慶南之ニ次グ。増加ノ最々著シキハ全  
南ニシテ、慶南ハ却テ若干ノ減少ヲ示セリ。此ニ道ニ次ガテハ平南、京畿、咸南、慶北ノ諸  
道何レモ四百名内外ヲ出入シ、平北、全北又之ニ次ギ、黃海、咸北、忠南、江原、忠北ノ各  
道ハ更ニ少シ。而シテ此等各道ハ何レモ前年ニ比シテ多少ノ減少ヲ示シ、只平北、江原、  
ミ僅テ若干増加シタリ。

### 一、在内地朝鮮學生累年比較表

年次	在學府縣數	東	京	地	方	員
大正元年十二月	三府二十縣	四四四	九一	五三五		
同 七年十二月	一府三十三縣	六四二	一二七	七六九		
同 九年十二月	一府三十三縣	六〇九	一四〇	六二三		
同 十年十二月	一府三十三縣	六〇三	一九六	六二五		
同 十一年十二月	一府三十三縣	六九三	二二九	六二二		
昭和元年十二月	一府三十三縣	五〇八	八五九	六四四		
同 二年十二月	一府三十三縣	六八八	九六三	六八一		

○備考  
大正年迄ハ大差ナ  
ク同九年ヨリ年々増  
加シ、アリシガ同十二  
年九月大震災ノ爲メ  
殊ニ増減アリ、四年  
君賜稱ニ近シキ後  
益々増加シ殊ニ慶南  
後ハ地方在學者激  
増セリ。

### 二、學生出身道別表（昭和二年末現在）

出身道	男	女	計	男	女	計	合計	前年不合計
慶南道	三六〇	一八	三七八	一三五	九	一四四	五二二	五三四
慶北道	二九七	八	三〇五	八一	一〇	九一	三九六	四〇五
全羅南道	三一八	一	三三〇	二一〇	一〇	二二〇	五五〇	五〇四
全羅北道	一六五	二	一六七	三八	二	四〇	二〇七	二一〇
忠清南道	一一一	二	一一三	四〇	二	四二	一五九	一五六
忠清北道	六七		六七	二六	一	二七	九四	一〇七
京畿道	二五二	三八	二九〇	九八	一四	一一二	四〇二	四二五
江原道	七八	三	八一	二〇	二	二二	一〇三	九〇
黃海道	一二五	七	一三二	二五	二	二七	一五九	一八四
平安南道	二八三	三三	三一五	九一	六	九七	四一三	四九〇
平安北道	二二六	七	二三三	六八	七	七五	三〇八	二九九
咸鏡南道	三四三	九	三五二	四三	二	四五	三九七	四〇八
咸鏡北道	一三三	二	一三五	二〇	一	二一	一六六	一七三
計	二六五七	一四一	二八八八	八九五	六八	九六三	三八六一	三九四五



三、學生在學府縣別表（昭和三年末現在）

府縣名	在學人數	前年末
北海道	二二二	二二二
東北	二二二	二二二
東京	二二二	二二二
大阪	二二二	二二二
神奈川	二二二	二二二
兵庫	二二二	二二二
長崎	二二二	二二二
新潟	二二二	二二二
群馬	二二二	二二二
千葉	二二二	二二二
茨城	二二二	二二二
栃木	二二二	二二二
群馬	二二二	二二二
愛知	二二二	二二二
靜岡	二二二	二二二
滋賀	二二二	二二二
長野	二二二	二二二
宮城	二二二	二二二
福島	二二二	二二二
合計	二二二	二二二

四、在學四子校種別表（昭和三年末現在）

學校種別	校數	男	女	合計
大學	一	一	一	二
大學預科	一	一	一	二
高等官校	一	一	一	二
專門學校	一	一	一	二
實業專門學校	一	一	一	二
師範學校	一	一	一	二
中（高）女學校	一	一	一	二
實業學校	一	一	一	二
各種學校	一	一	一	二
合計	一	一	一	二



其在學學科類別表（昭和三年末現在）

學科	東京	地方	合計	前年
學科	男 三八一	女 六七	合計 四四八	六〇七
法科	一九九	一四	二一三	二〇五
經濟科	二九三	一七九	四七四	四四七
商科	二二〇	一一三	三三九	三二〇
文科	四四	六二	一〇六	六一
理科	四五一	九六	五四七	五一四
農林科	七七	七一	一四八	一〇
水産科	八	五	一三	一〇
醫藥科	九	一六	二五	一四九
師範科	八七	二一	一〇八	二四三
音樂科	三六	二	三八	三三
美術科	三七	二	三九	三六
普通科	二二〇	二三八	四四八	五三九
佛教科	二八五	三九	三二四	六七〇
計	二七五七	八九五	三六五一	三九四五

昭和三年五月二十一日

朝鮮總督府 內務局

中央朝鮮協會 會長 殿

内地ニ於ケル朝鮮人ニ關スル資料送付ノ件

四月十四日附ヲ以テ御依頼ニ係ル首標ノ件別紙ニ依リ御了知相成度  
追テ内地在住朝鮮人兒童ノ就學狀況及在内地朝鮮學生最近ノ狀況ハ  
左記ニ就キ御調査相成度

記

東京市外淀橋町角筈九四

朝鮮教育會獎學部



東京市役所圖書部

三 臨 二 豫 半 聯 關 查 休 如 宴

匪々内賊并井陣難人兒童ノ獲學非此外亦内賊陣難學生最長ノ非此ハ  
 四月十四日惱々以テ陸路難ニ對ハ首對ノ井陣難ニ對リ臨丁候陣難迎

内此二列、ハ即聽人二關、ハ資採送付、ハ

中央博覽會

脾胃經內諸同姓

五月二十一日

(第一表)

昭和二年中内、鮮、外人内地來往調査

日  
內  
地  
行  
釜  
山  
上  
陸  
差  
引

別  
內地人  
鮮人  
人  
計  
內地人  
鮮人  
人  
計  
內地人  
鮮人  
人  
計

[illegible]

一四三九〇 一五七〇 一五五 一五二 一六四 一四一 一四七 一四〇 一三六 一三三 一三〇 一二七 一二四 一二一 一二〇 一一七 一一四 一一一 一〇八 一〇五 一〇二 九九 九六 九三 九〇 八七 八四 八一 七八 七五 七二 六九 六六 六三 六〇 五七 五四 五一 四八 四五 四二 三九 三六 三三 三〇 二七 二四 二一 一八 一五 一二 九 六 三 〇

[illegible]

二四〇。由五三  
三六、二二三  
二九、七八八  
五、八四九  
二四六、五九四  
三六、一七八  
五、八八九  
六、五四三  
一、三三

九二五	二九七	三四〇	九五	三八四	六八三	一八四	二八三	一四三	一〇九	四九	一
-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	---

九  
三  
八  
〇  
二  
四  
五  
一  
七  
二  
六  
九  
〇  
五  
八  
八  
四  
一  
三  
七  
一  
五  
三  
三  
三  
八  
三  
〇  
一  
八  
四  
二  
一  
六  
三  
三  
三

二月  
 二九四七一〇、五三六  
 九二一七二三三、六四六  
 二九、六四三六、一九八  
 二五五三三  
 二七、四三八  
 六、二〇四  
 三三三  
 三三七  
 一、一五三

八月  
三九、六一、五九九、二五、二九三、六八〇、二九  
二七、四三三、七八三〇、一五一、二八三、五方、  
三十一、

九月  
一、四七二。九三九  
一、五三一。九三七

	一九六一三	六三五五	九一二三	二二三九	二二三九	△
--	-------	------	------	------	------	---

十月  
元三七二  
八一  
一七五  
三六  
一一  
至七四八  
三八  
八三三  
三一

以下添付物



東京市役所訓典卷之四

三 張 二 娘 半 睡 隨 查 牀 如 宴

飯之内此并并神頼人兒童ノ豫學非所又并内此神頼學主最長ノ非所ハ  
 四月十四日樹ノ以テ陸分疎ニ對ス首對ノ并眼疎ニ對シ暗丁眼併如奥

内此二列、ハ即職人二關ス、ハ資持後付ノ書

中央郵政總會封

脚 趾 骨 內 藏 同 姓

陽曆三平五二二日

(第一表)

昭和二年中内、鮮、外人内地來往調査

日	内地人	鲜人	人	計	内地人	鲜人	人	計	差
一月	一、四、五	九、七、五	二、四、二	六、六、二	三、五、二	二、二、七	二、一、五	七、三、三	六、〇、六
二月	一、四、三	九、〇、一	三、六、七	五、五、二	三、八、四	二、四、一	四、七、九	五、八、九	一、〇、三
三月	三、七、三	九、一、五	五、四、一	三、八、三	三、九、八	二、三、三	五、七、九	七、〇、一	一、九、七
四月	三、八、九	九、一、四	九、二、四	四、七、三	三、七、二	三、三、三	七、八、八	五、八、四	二、四、六
五月	三、七、四	二、七、九	二、九、九	二、九、七	三、四、〇	九、五、二	八、八、四	六、八、三	一、八、四
六月	一、四、九	五、二、九	九、〇、九	九、五、八	二、四、五	一、七、一	六、九、七	四、八、七	二、七、一
七月	二、九、四	七、一、〇	五、三、五	九、五、一	二、三、六	四、四、六	一、九、四	三、七、一	二、七、八
八月	三、九、〇	六、一、五	九、七、九	三、五、三	三、八、〇	二、九、二	二、七、四	三、八、三	一、五、一
九月	一、七、四	四、一、一	〇、九、九	九、九、九	九、三、七	一、九、一	三、七、三	九、一、三	二、一、七
十月	一、七、三	二、一、一	〇、一、一	三、八、五	一、七、三	二、一、一	〇、一、一	三、八、五	一、七、三



備考

差引欄

EP  
八

山上陸超過

ヲ示ス

内地行計

三八三

金山上陸

三  
五  
三  
一  
四  
七

差

内地行超過

三十一

(第二表)

昭和二年中朝鮮人内地渡航帰還船種別調

考

月	内地渡航	釜山上陸	差
月別	連絡船 其他船 計	連絡船 其他船 計	連絡船 其他船 計
一月	八、六八六 一、〇八九 九、七七五	一、四〇八 八、四四一 一、一、二七二	一、七二二 二、二五五 一、四九七
二月	二、八三五 一、八三五 一、三、六八〇	五、〇九九 七、九七 五、八九六	六、七三六 一、〇三八 七、七七四
三月	三、七五七 六、八八四 一、五、五四一	五、九〇九 一、一〇九 七、〇一八	六、八四八 一、六七五 八、五二三
四月	一、五二一 一、九八一 一、六、四九二	五、二二〇 六、一九 五、八四九	五、二八一 一、三三二 六、六四三
五月	一、四九六 一、三〇三 一、一、七九九	六、三〇三 五、二八 六、八三一	四、一九三 七、七五 四、九六八
六月	八、〇六一 一、〇二九 九、〇九〇	四、五一二 三、五二 四、八七四	三、五四九 六、六七 四、二一六
七月	九、四五二 一、〇八三 一、〇、五三五	六、二六八 九、三〇 七、一九八	三、一八四 一、五三 三、三三七
八月	二、四五六 一、一四一 一、三、五九七	六、五三三 一、二九七 七、八三〇	五、九三三 一、五九 五、七六七
九月	一、三三五 七、一三 一、一、〇六五	六、一〇二 二、五二 七、三五四	三、二五〇 一、四九一 三、七一一
十月	七、三八〇 七、八四 八、一、六四	七、三八七 一、四五一 八、八三八	七、〇六六 一、六七四 八、七四〇



十一月	六四九三	一、二一八	八、六二一	八、五二一	一、二五三	九、八七四	一、〇一八	二、四九五	一、二六三
十二月	一、三二七	六、四〇〇	一、三六七	一、〇五九	八、六五	一、一五七	一、八八五	六、三三五	六、五二〇
計	一、三二一 六、五〇六	一、六、三六〇	一、三三八、〇	一、六、八三五	四、四三六	九、三、九一	一、三八、一〇二	九、九三三	四、四、〇二五
月平均	一、〇一三八	一、三六三	一、一、五〇一	一、六、九六三	八、七〇	七、八三三	三、一七五	四、九四	五、六、六九

備考 羣引樹中△印八釜山上陸超過ヲ示ス

其他船	連絡船	船率比
分二割一	分八割八	行地内
分一割一	分九割八	陸上山麓

(第五卷)

昭和二年中朝鮮人内地渡航帰還職業別調査

月	内地	渡航	釜山	上陸	差
別	學生 勞働者 其他	計	學生 勞働者 其他	計	學生 勞働者 其他
一月	四三三 六八三 二二九 九七五	一七一 八八六 三〇八 二二	一七一 八八六 三〇八 二二	二六二 一五三 三二六	一四九
二月	一六六 一五九 六九一 一	一四一 九〇一 一三三 三	一四一 九〇一 一三三 三	一一五 六八一 一六六 八	六六
三月	一三三 一四七 三三三 一	六九〇 八八五 一〇九 三	六九〇 八八五 一〇九 三	六六 六六 六九 五	八五三
四月	六二七 九六四 二一九 一	三一二 一八〇 一五五 七	三一二 一八〇 一五五 七	三一五 五八八 八三四 三	八三四
五月	四九八 九〇八 二二〇 三	二〇四 四八二 一三三 五	二〇四 四八二 一三三 五	一〇六 四一一 九五八	四九八
六月	二〇二 六〇五 一八三 三	三一九 三四三 一八九	三一九 三四三 一八九	一一七 三三九 七〇四	三三九
七月	一五八 五三六 三〇二 二	一六 一四四 四九〇 一三三	一六 一四四 四九〇 一三三	七一九 九九六 六五五 五	二六八
八月	四六五 一〇二八 五一〇 四	二九一 五七七 一六六 二	二九一 五七七 一六六 二	一七四 四五一 一三五 五	一三五
九月	一八九 七五九 六三四 〇	一一九 五五一 一六二 四	一一九 五五一 一六二 四	二〇八 五一一 六七一 一	三七一
十月	三三八 六五九 六三三 〇	三三六 六五九 六三三 〇	三三六 六五九 六三三 〇	九七四 二九八 六六 六	六六



土月	十一日	計	月平均
二〇五	一四四	五〇八	四一六
六〇八	九〇一	一〇〇〇	六五三
二二五	一六二	三〇〇	五八四
八八二	一三三	一三八	二四〇
三〇四	五八	五〇三	四一八
六二九	八六五	八八一	五七五
六三三	一九二	二〇〇	一七五
九八五	一五七	九三	六八三
九八	一五	一四	一
一五九	五二	一四	一
一五九	六八	一四	一
二七	六九	四七	八七
一三	二五	〇五	五五

備考

差引欄中△印ハ釜山上陸超過ヲ示ス

(第四表)

昭和二年中朝鮮人内地渡航帰還道別調

道	内地渡航				釜山上陸			
	別學生	労働者	其他	計	學生	労働者	其他	計
京畿	八〇一	一、四〇三	二、一〇四	六、三〇八	七〇五	一、一七五	一、三三三	四、二一三
忠北	一二五	一、八七九	七七七	三、七八一	一四一	一、五三三	三、七六	六、〇五〇
忠南	三五二	一、四八六	一、三三七	六、一九五	二〇二	一、四三三	六、五二	三、二八八
全北	三二九	一、三九八	一、六三九	五、三五六	三三二	一、九四三	七、六五	四、〇四四
全南	四七六	一、五五一	一、四三三	二、〇三七	四五二	一、五八七	三、九二一	一、六、九六〇
慶北	五九〇	一、五一	一、五五五	三、三〇七	六七一	一、四八六	四、三三二	一、九、八六五
慶南	七三六	一、九三二	一、七三七	五、四〇五	八一	一、七四二	七、一九九	三、五、七五三
釜山	一七九	一、〇三二	三、六二	一、五七三	一八二	一、七八八	二、一一	一、八、一八
平南	五二九	一、七九九	七三〇	六、〇五八	五〇三	一、四四三	四、五三	六、四、九
平北	二八四	一、三三二	二、三三五	一、一五八	三、五九九	五五七	二、〇三	一、一、二九



江原	一〇、〇〇九	三一、二	一、六六五	一、二六	八〇八	二二一	一、一五五
威南	四二〇	計三四	三〇八	一、三六六	五〇〇	六四五	二、三三七
威北	七八	二九八	一〇四	四八〇	一、六一	三三一	一、二六八
計	五、〇〇八	一〇、〇〇九	三一、二	一、六六五	五、〇〇三	八七一	二、〇〇九

(第五卷)

昭和二年中朝鮮人内地渡航帰還府別誌

府				内地				航				朝鮮				歸還			
別	學生	勞働者	其他	計	學生	勞働者	其他	計	學生	勞働者	其他	計	學生	勞働者	其他	計			
東京	三〇七五	四三一六	三二四六	九、六三五	三一五〇	三、〇六三	一、六五一	七、八六四	東京	四三五	五、〇九一	一、七七六	七、三〇二	三四一	三、三五一	九、八一	四、六七九		
京都	四三五	五、〇九一	一、七七六	七、三〇二	三四一	三、三五一	九、八一	四、六七九	京都	一五	六六九	一九九	八八三	一四	八一六	一九六	一、〇二六		
大阪	三八四	三、八〇一	七、九九九	四、一八四	二二二	一九、四〇五	五、七三五	二五、三三七	大阪	一〇九	七、八二七	六四一八	一〇、三五四	一三六	五、四一八	一、七四七	六、三三一		
神奈川	一五	六六九	一九九	八八三	一四	八一六	一九六	一、〇二六	神奈川	一〇	三、六八五	七八八	四、四八三	一一	三、二九四	五二三	三、八二八		
兵庫	一〇九	七、八二七	六四一八	一〇、三五四	一三六	五、四一八	一、七四七	六、三三一	兵庫	一〇	三、六八五	七八八	四、四八三	一一	三、二九四	五二三	三、八二八		
長崎	一〇	三、六八五	七八八	四、四八三	一一	三、二九四	五二三	三、八二八	長崎	六六	四、二五五	一、四七四	五、七九五	四八	三、八二五	一、〇一八	四、八九一		
愛知	六六	四、二五五	一、四七四	五、七九五	四八	三、八二五	一、〇一八	四、八九一	愛知	七	一、七三三	二八〇	六、〇一九	一三	一、一九九	二三一	一、四四三		
静岡	七	一、七三三	二八〇	六、〇一九	一三	一、一九九	二三一	一、四四三	静岡	一	一、三二六	二三五	一、四五二	二	一、六九一	一一一	八一四		
岐阜	一	一、三二六	二三五	一、四五二	二	一、六九一	一一一	八一四	岐阜	一〇	七九五	一五〇	九九五	一二	一、六一七	一〇八	七三七		
長野	一〇	七九五	一五〇	九九五	一二	一、六一七	一〇八	七三七	長野	一〇	七九五	一五〇	九九五	一二	一、六一七	一〇八	七三七		



(第2表)

朝鮮人内地渡航帰還年別調

年別	渡航	帰還	未刊残留	累計計	渡航	帰還	平均
大正六年	一四、〇一一	三、九二七	一、〇〇八	一、〇〇八	一、一六六	三三七	八四〇
全七年	一七、九一〇	九、三〇五	八、五〇五	一八、五九〇	一、四九二	四四七	六二六
全八年	二〇、九三八	一三、七三九	八、二二九	二二、九一九	一、五四七	一、〇六一	一、八八八
全九年	二七、四九七	二〇、九四七	六、五五〇	三三、四四九	二、三九一	一、四七五	五五〇
全十年	三六、一一八	二五、五三六	一、五八二	四三、〇五一	三、一七六	二、一三八	一、〇四八
全十一年	七〇、四三二	四六、三三六	二、四一三	五〇、一八七	六、八七一	三、八六〇	二、〇一一
全十二年	九六、三九五	八九、五四五	六、五五〇	七六、八三六	八、一一六	七、四七八	二、五三八
全十三年	一二三、一一五	七五、四三〇	四六、七八五	一二四、六二二	一〇、一八四	六、三八五	三、八八九
全十四年	一三三、二七三	一一三、四七一	一八、八七五	一四三、四二四	一〇、九三九	九、三三七	一、五五九
全十五年	九六、〇九二	八三、七〇九	六、三八三	一五〇、八〇六	六、五九一	六、九七六	六、一〇五
昭和二年	一三八、〇一五	九三、九九一	四四、〇二五	一九四、八三一	一、一五〇	六、八三三	三、五九七

計	海外	樺太	台湾	其他	大分	福岡	山口	廣島	岡山
五、〇〇八	三九			二一五	三	二五一	二五四	一〇九	二七
一、〇六三	九七	五三	一九	六七八	二二四	九、七二七	一、五四四	四、九三三	六、二二六
三、〇五四	一一四	五〇	四七	六二二	三一九	三、三〇一	四、八五一	一、三三三	七三〇
一、三八〇	二五〇	一一三		九、二二〇	一、五五五	一、三二七	二〇、五九九	六、四四七	三、三八四
五、〇〇八	三九			五二〇	二	一六一	二一九	九二	三〇
一、〇六三	九七	五三	一九	六七八	二二四	九、七二七	一、五四四	四、九三三	六、二二六
三、〇五四	一一四	五〇	四七	六二二	三一九	三、三〇一	四、八五一	一、三三三	七三〇
一、三八〇	二五〇	一一三		九、二二〇	一、五五五	一、三二七	二〇、五九九	六、四四七	三、三八四
五、〇〇八	三九			五二〇	二	一六一	二一九	九二	三〇
一、〇六三	九七	五三	一九	六七八	二二四	九、七二七	一、五四四	四、九三三	六、二二六
三、〇五四	一一四	五〇	四七	六二二	三一九	三、三〇一	四、八五一	一、三三三	七三〇
一、三八〇	二五〇	一一三		九、二二〇	一、五五五	一、三二七	二〇、五九九	六、四四七	三、三八四
九、三九九	一八六	一三七	五八	六、八八八	一、〇五四	九、三三七	一、三四三	三、八九四	二、〇四七



昭和三年自一月朝鮮人内地渡航歸還調

月別	内地渡航者数	朝鮮歸還者数	差引残留
一月	一一、七一九	一三、一八八	一、四六九
二月	二九、〇五八	五、九四五	二三、一一三
三月	二四、一五二	八、〇二七	一六、一二五
四月	一五、四八〇	七、六六七	七、八一三
計	八〇、四〇九	三四、八二七	四五、五八二

朱書の歸還超過ヲ示ス



内地在留朝鮮人戸数及人員調 昭和五年六月末現在

支庁	支庁名	戸数		人口		其内		他		計		昭和五年六月末現在	増減
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
大府縣	大府縣	六三八	九四七	五一一	一四四八	三二四七	八三三	三三三〇	二七二	三五五	二二〇七	六三九	五九七
北海道	北海道	一四七三	二六八五	一三三八	四九〇三	五八七五	二七〇	六四四五	三八四四	一三八	三九八二	三、四〇四	一、五〇〇
東京	東京	五九六	二〇二	五八〇	二五九	四、三〇八	七二七	五、〇三五	一六八	二、四四四	八二九五	一、四六五	九七六
京都	京都	六四三	六四三	三六二〇	一〇、七四	五、七八二	四、〇五一	九、八三三	七、四六〇	一、二二五	八、六八五	九、八九六	一、二一八
大阪	大阪	六四三	六四三	三六二〇	一〇、七四	五、七八二	四、〇五一	九、八三三	七、四六〇	一、二二五	八、六八五	九、八九六	一、二一八
神奈川	神奈川	六四三	六四三	三六二〇	一〇、七四	五、七八二	四、〇五一	九、八三三	七、四六〇	一、二二五	八、六八五	九、八九六	一、二一八
兵庫	兵庫	六四三	六四三	三六二〇	一〇、七四	五、七八二	四、〇五一	九、八三三	七、四六〇	一、二二五	八、六八五	九、八九六	一、二一八
新潟	新潟	六四三	六四三	三六二〇	一〇、七四	五、七八二	四、〇五一	九、八三三	七、四六〇	一、二二五	八、六八五	九、八九六	一、二一八
長崎	長崎	六四三	六四三	三六二〇	一〇、七四	五、七八二	四、〇五一	九、八三三	七、四六〇	一、二二五	八、六八五	九、八九六	一、二一八
福岡	福岡	六四三	六四三	三六二〇	一〇、七四	五、七八二	四、〇五一	九、八三三	七、四六〇	一、二二五	八、六八五	九、八九六	一、二一八
熊本	熊本	六四三	六四三	三六二〇	一〇、七四	五、七八二	四、〇五一	九、八三三	七、四六〇	一、二二五	八、六八五	九、八九六	一、二一八
大分	大分	六四三	六四三	三六二〇	一〇、七四	五、七八二	四、〇五一	九、八三三	七、四六〇	一、二二五	八、六八五	九、八九六	一、二一八
宮崎	宮崎	六四三	六四三	三六二〇	一〇、七四	五、七八二	四、〇五一	九、八三三	七、四六〇	一、二二五	八、六八五	九、八九六	一、二一八
鹿児島	鹿児島	六四三	六四三	三六二〇	一〇、七四	五、七八二	四、〇五一	九、八三三	七、四六〇	一、二二五	八、六八五	九、八九六	一、二一八
沖縄	沖縄	六四三	六四三	三六二〇	一〇、七四	五、七八二	四、〇五一	九、八三三	七、四六〇	一、二二五	八、六八五	九、八九六	一、二一八
朝鮮	朝鮮	六四三	六四三	三六二〇	一〇、七四	五、七八二	四、〇五一	九、八三三	七、四六〇	一、二二五	八、六八五	九、八九六	一、二一八
内地	内地	六四三	六四三	三六二〇	一〇、七四	五、七八二	四、〇五一	九、八三三	七、四六〇	一、二二五	八、六八五	九、八九六	一、二一八



合計	九三三四	三五四七	八三三四	五三三三	六三三三	七三三三	八三三三	九三三三	一〇三三	一一三三	一二三三	一三三三	一四三三	一五三三	一六三三	一七三三	一八三三	一九三三	二〇三三	二一三三	二二三三	二四三三	二五三三	二六三三	二七三三	二八三三	二九三三	三〇三三	三一三三	三二三三	三四三三	三五三三	三六三三	三七三三	三八三三	三九三三	四〇三三	四一三三	四二三三	四四三三	四五三三	四六三三	四七三三	四八三三	四九三三	五〇三三	五一三三	五二三三	五四三三	五五三三	五六三三	五七三三	五八三三	五九三三	六〇三三	六一三三	六二三三	六四三三	六五三三	六六三三	六七三三	六八三三	六九三三	七〇三三	七一三三	七二三三	七四三三	七五三三	七六三三	七七三三	七八三三	七九三三	八〇三三	八一三三	八二三三	八四三三	八五三三	八六三三	八七三三	八八三三	八九三三	九〇三三	九一三三	九二三三	九四三三	九五三三	九六三三	九七三三	九八三三	九九三三	一〇〇三三
合計	九三三四	三五四七	八三三四	五三三三	六三三三	七三三三	八三三三	九三三三	一〇三三	一一三三	一二三三	一三三三	一四三三	一五三三	一六三三	一七三三	一八三三	一九三三	二〇三三	二一三三	二二三三	二四三三	二五三三	二六三三	二七三三	二八三三	二九三三	三〇三三	三一三三	三二三三	三四三三	三五三三	三六三三	三七三三	三八三三	三九三三	四〇三三	四一三三	四二三三	四四三三	四五三三	四六三三	四七三三	四八三三	四九三三	五〇三三	五一三三	五二三三	五四三三	五五三三	五六三三	五七三三	五八三三	五九三三	六〇三三	六一三三	六二三三	六四三三	六五三三	六六三三	六七三三	六八三三	六九三三	七〇三三	七一三三	七二三三	七四三三	七五三三	七六三三	七七三三	七八三三	七九三三	八〇三三	八一三三	八二三三	八四三三	八五三三	八六三三	八七三三	八八三三	八九三三	九〇三三	九一三三	九二三三	九四三三	九五三三	九六三三	九七三三	九八三三	九九三三	一〇〇三三

[illegible]



在內地朝鮮學生狀況調查

3-78

[illegible]



朝鮮教育會獎學部

一 在內地朝鮮學生累年比較表

在學地別人員		合計人員		在學府縣	
京東		大正			
859	方地	三,九四五	昭和元年十二月	一道三府三十七縣	
229		三,二二三	十一年十二月	一道三府十九縣	
196		二,三三五	十年十二月	一道三府十八縣	
140		一,三〇〇	九年十二月	一道三府十五縣	
127		七六九	七年十二月	一道三府二十一縣	
91		五五五	元年十二月	三府二十縣	

(備考) 大正八年迄ハ大差ナク、同九年ヨリ年々増加シツ、アリシモ、同十二年九月大震災ノ爲メ殆ド皆歸鮮シ、同十四年春略々舊ニ近ヅキ、其後益々増加シツ、アリ、殊ニ震災後ハ地方在學者激增セリ、

二 年内新來屆出者表 (昭和元年)

出身道別表

[illegible]



[illegible][illegible]



東京高等工業學校	二六	豐山中學校	一〇	東京國民貿易語學校	三
東京高等船舶學校	一	荏原中學校	三	東京實業學校	一
大倉高等商業學校	二	錦城中學校	六	中央商業學校	一
小西寫眞專門學校	一	海城中學校	二	法政大學商業學校	七
水產講習所	三	成城中學校	五	高輪商業學校	一
東京高等師範學校	三七	立教中學校	二	巢鴨商業學校	五
第一臨時教員養成所	二	高輪中學校	一	東亞商業學校	七
府立第一中學校	一	郁文館中學校	三	東洋商業學校	二〇
府立第二中學校	三	國士館中學校	六	東京保善商業學校	二
府立第五中學校	一	慶應義塾普通部	一	立正商業學校	五
府立第六中學校	二	青山學院中學部	三	東京商業學校	一
第二東京市立中學校	一	明治學院中學部	一	專修商業學校	一
日本中學校	三	獨逸學協會中學校	一	大倉高等商業學校	二
順天中學校	一二	世田ヶ谷中學校	三	東京主計學校	八
名教中學校	四八	立正中學校	六	東京市立第四實業學校	一〇
正則中學校	四	府立園藝學校	一三	東京市四谷商業實務學校	一
聖學院中學校	一	府立中野農業學校	二	東京市立牛込商業實務學校	三
赤坂中學校	三	府立府中農業學校	一	東京市立本所商工學校	一
大成中學校	一九	府立織染學校	一	東京市立三光商工學校	一
日本大學中學校	三	府立瀧野川商工學校	一	東京市立麻布商工實務學校	五
京北中學校	一	麻布獸醫畜產學校	一七	臨川實業補習學校	一
攻玉社中學校	九	日本獸醫學校	一二	澁谷實業補習學校	一
本郷中學校	一	東京獸醫學校	九	東京高等造園學校	二
目白中學校	八	東京保養工業學校	二	日本大學高等工學校	三

[illegible]



東京高等主計學校  
日本體育會體操學校  
無線電信講習所  
早稻田工手學校  
工手學校  
東京工業專修學校  
電機學校  
法政大學工學校  
中央工學校  
東京工科學校  
政工社工學校  
岩倉鐵道學校  
東京鐵道學校  
日本鐵道學校  
東京商工學校  
日本大學商工學校  
府立工業補習學校  
日本美術學校  
川端實業學校  
東洋音樂學校  
日本音樂協會音樂學校  
東京高等音樂學院  
泰光會音樂學校  
東京三中夜學校

二	東京七中夜學校	六	獨逸語學會	三
四	上野二夜間中學校	六	第一外國語學校	三
五	成城中學校	六	三時英語學校	三
七	明治中學校	六	普及英語學校	二
四	湯島中學校	四	三田英語學校	二
六	大成中學校	一	目白英語學校	三
二	順天中學校	一	正則英語學校	三
一	早稻田中學校	一	正則英語學校	三
八	早稻田中學校	一	開成英語學校	六
四	日本三育學院中學	一	早稻田高等英語學校	一
三	城西學院中學	一	大正高等英語學校	一
四	日本商業學校	二	大日本國民中學高等英語學校	一
二	關東商業學校	二	研究數學館	一
一	早稻田商業學校	一	開進數學學校	一
二	國士館商業學校	一	國民英語學會	一
九	專修商業學校	二	日本女子大學校	一
四	早稻田實業學校	三	東京女子大學校	一
四	大原簿記學校	二	帝國女子專門學校	一
四	明治簿記學校	一	女子英語學校	一
六	村田簿記學校	一	實踐女子學校	一
	獨逸語專修學校		共立女子專修學校	一

東京女子專門學校  
帝國女子專門學校  
東京女子齒科專門學校  
東京女子齒科專門學校  
東京女子高等師範學校  
女子專門學校  
府立第三高等女學校  
精華高等女學校  
神田高等女學校  
大妻高等女學校  
三田高等女學校  
成女高等女學校  
千代田高等女學校  
岩佐高等女學校  
堀越高等女學校  
牛込高等女學校  
小石川高等女學校  
日ノ出高等女學校  
京華高等女學校  
富士見高等女學校  
向島高等女學校  
錦秋高等女學校  
國華高等女學校  
續育高等女學校

七	東京女子專門學校	一	太谷大學	一
五	東京女子專門學校	一	立命館大學	一
三	日本女子商業學校	一	同谷大學	一
五	大妻技藝學校	一	龍谷大學	一
三	女子美術學校	一	第三高等學校	一
一	女子音樂學校	一	立命館大學	一
九	日本體育體操學校女子部	一	大谷大學	一
三	和洋裁縫女學校	一	龍谷大學	一
二	日本女子高等學院	一	西山專門學校	一
二	帝都教育會附屬教員保姆傳習所	一	京都藥學專門學校	一
一	△北海道	一	京都高等商業學校	一
一	北海道帝國大學	一	府立福知山中學校	一
一	北海道帝國大學	一	大谷中學校	一
一	北海道帝國大學	一	東山中學校	一
一	府立函館中學校	一	花園中學校	一
一	△京都府	一	立命館中學校	一
二	京都帝國大學	一	紫雲中學校	一
一	經濟學部	一	東寺中學校	一
二	文學部	一	同社中學校	一
四	農學部	一	兩洋中學校	一
一	理學部	一	聖峯中學校	一
二	工學部	一	府立京都農林學校	一
一	法學部	一	伏見商業學校	一
五	同志社大學	一		一



市立第二商業學校	市立第一工業學校	市立商工專修學校	京都工學校	關西高等設備校	京都女子高等專門學校	同志社女學校專門部	同志社女學校	平安高等女學校	平安女學院	關西大學法學部	關西大學豫科	大阪高等學校	大阪外國語學校	關西大學專門部	日本大學專門學校	大阪高等工業學校	大阪市立高等商業學校	府立高津中學校	府立天王寺中學校	浪速中學校	桃山中學校	日新商業學校	
二	一	六	四	五	二	五	二	一	二	一	四	三	二	二	三	四	二	四	一	七	四	三	
大阪實業商業學校	明星商業學校	興國商業學校	京阪商業學校	大阪貿易學校	市立實業學校	大阪神學院	市立西區商業專修學校	市立上福島商工專修學校	關西工學專修學校	關西商工學校	明正專修簿記學校	府立今宮職工學校	梅花女子專門學校	樟蔭高等女學校	宣眞高等女學校	女子神學校	ランパス女學院	ウイルミナ女學校	△神奈川縣	縣立橫須賀中學校	鎌倉中學校	本牧中學校	橫濱英語學校
八	一	二	二	三	四	二	二	二	二	二	二	一	二	一	一	三	二	一	二	六	一	一	
橫濱共立女子神學校	△兵庫縣	姫路高等學校	關西學院文學部	關西學院神學部	神戸高等商業學校	縣立御影師範學校	同第一神戸中學校	同第三神戸中學校	同姫路中學校	同蠶業學校	同工業學校	同神戸商業學校	市立第一神港商業學校	同姫路商業學校	中外商業學校	神戸神學校	市立兵庫商工實習學校	同湊川商工實習學校	龜山高等女學校	神戸女子神學校	神戸女學院	神戸高等女學部	順榮幼稚園保護講習所
五	三	二	二	四	二	一	一	一	一	二	一	三	三	一	一	五	一	三	二	二	四	二	四

學部	學科	學校名稱	縣別	學部	學科	學校名稱	縣別
第一	第二高等學校	愛知醫科大學	愛知縣	第一	醫學部	愛知醫科大學	愛知縣
第二	東北學院專門部	愛知醫科大學	愛知縣	第二	醫學部	愛知醫科大學	愛知縣
第三	縣立師範學校	第八高等學校	愛知縣	第三	醫學部	第八高等學校	愛知縣
第四	縣立師範學校	縣立安城農林學校	愛知縣	第四	醫學部	縣立安城農林學校	愛知縣
第五	縣立師範學校	豐橋市立商業學校	愛知縣	第五	醫學部	豐橋市立商業學校	愛知縣
第六	縣立師範學校	東海商業學校	愛知縣	第六	醫學部	東海商業學校	愛知縣
第七	縣立師範學校	市立前津商業實修學校	愛知縣	第七	醫學部	市立前津商業實修學校	愛知縣
第八	縣立師範學校	名古屋工科學校	愛知縣	第八	醫學部	名古屋工科學校	愛知縣
第九	縣立師範學校	中京法律學校	愛知縣	第九	醫學部	中京法律學校	愛知縣
第十	縣立師範學校	金城女學校	愛知縣	第十	醫學部	金城女學校	愛知縣
第十一	縣立師範學校	靜岡高等學校	靜岡縣	第十一	醫學部	靜岡高等學校	靜岡縣
第十二	縣立師範學校	濱松高等工業學校	靜岡縣	第十二	醫學部	濱松高等工業學校	靜岡縣
第十三	縣立師範學校	第十一臨時教員養成所	靜岡縣	第十三	醫學部	第十一臨時教員養成所	靜岡縣
第十四	縣立師範學校	縣立燒津水產學校	靜岡縣	第十四	醫學部	縣立燒津水產學校	靜岡縣
第十五	縣立師範學校	滋賀縣	滋賀縣	第十五	醫學部	滋賀縣	滋賀縣
第十六	縣立師範學校	彦根高等商業學校	滋賀縣	第十六	醫學部	彦根高等商業學校	滋賀縣
第十七	縣立師範學校	長野縣	長野縣	第十七	醫學部	長野縣	長野縣
第十八	縣立師範學校	上田蠶絲專門學校	長野縣	第十八	醫學部	上田蠶絲專門學校	長野縣
第十九	縣立師範學校	縣立長野中學校	長野縣	第十九	醫學部	縣立長野中學校	長野縣
第二十	縣立師範學校	宮城縣	宮城縣	第二十	醫學部	宮城縣	宮城縣
第二十一	縣立師範學校	東北帝國大學法文學部	宮城縣	第二十一	醫學部	東北帝國大學法文學部	宮城縣



[illegible]

有漢教員養成所	二	周東中學校	一	九州齒科醫學專門學校	一
岡山工藝學校	一	曹洞宗第四中學校	二	縣立小倉師範學校	一
△廣島縣		縣立下松工業學校	一	同福岡中學校	一
廣島高等學校	七	梅光女學院	一	同若松中學校	一
廣島高等工業學校	二	△和歌山縣	一	同田川中學校	一
廣島高等師範學校	二	高野山中學	二	豐國中學校	二
第二臨時教員養成所	一八	縣立工業學校	一	市立福岡商業學校	一
縣立廣島第二中學校	一	△島島縣	一	小倉商業學校	一
已斐中學校	七	縣立師範學校	一	縣立門司高等女學校	一
廣陵中學校	九	△香川縣	二	鎮西高等女學校	一
山陽中學校	三	高松高等商業學校	二	△大分縣	一
興文中學校	五	△愛媛縣	一	大分高等商業學校	一
日影館中學校	六	松山高等學校	一六	△佐賀縣	一
修道中學校	二	縣立師範學校	三	佐賀高等學校	一
大正中學校	一	北豫中學校	二	縣立佐賀中學校	一
縣立西條農學校	四	縣立松山商業學校	一	龍谷中學校	六
三原教員養成所	一	△高知縣	一	△熊本縣	一
廣島女學校	六	高知高等學校	六	第五高等學校	三
廣島女學校專門部	一	縣立高知城東中學校	一	熊本高等工業學校	三
△山口縣		△福岡縣	一	縣立熊本中學濟々養	三
山口高等學校	二一	九州帝國大學	一	同菊池蠶業學校	三
山口高等商業學校	一四	法文學部	一	同阿蘇農業學校	三
縣立長府中學校	五	工學部	二	同阿蘇農業學校	三
山口中學校	六	農學部	三	同阿蘇農業學校	三
		醫學部	一	同阿蘇農業學校	三







朝鮮總督府內務局長  
中央朝鮮協會會長殿

五月二十一日附內地之於ハル朝  
鮮人ニ関スル資料送附ノ件  
添付物

仙那島快況  
記







朝鮮人學齡兒童調 (大正十五年六月末調)

種別	市別		郡別	大邱市北區		全北北區	全東區	全西區	全港區	全壽區	全南區	全浪速區	全慶川區
	男	女		男	女								
滿六歲以上	十四	十四	男	七〇	七〇	一〇五	九〇	四	九	二七	一〇	八	九
同上中統	學セル者	學セル者	男女計	二二三	二二三	二〇九	一八二	一	五	一三	一三	一三	一五
未就學者	有	有	男	四二	四二	六四	四〇	一	二	一五	八	五	七
			女	四	四	七	二	一	四	二	一	一	一
滿六歲未	有	有	男女計	四六	四六	七一	五一	一	九	一九	一〇	六	八
			男女男女	二八	二八	四四	三九	四	二	九	一	一	一
滿六歲未	有	有	計	四七	四七	八三	五一	四	二	二	三	五	九
			男女	二八	二八	三九	三二	一	八	六	一	一	一
滿六歲未	有	有	男女計	二二	二二	二五	二七	一	五	七	七	四	八
			男女	一一	一一	一四	一四	一	一	一	一	一	一
滿六歲未	有	有	計	一一	一一	一八	一五	一	一	一	一	一	一
			男女	五	五	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一
滿六歲未	有	有	男女計	一一	一一	一八	一五	一	一	一	一	一	一
			男女	五	五	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一







在留朝鮮人統學児童調 (大正十五年五月末現在)

區別	朝鮮人在學児童数	統學児童数
大坂市北區	四	四五
北花區	一〇	八六
東區	七	四五
西區	五	七
港區	一四	七四
全港區	四	一五
南區	三	一〇
浪速區	一四	九三
西淀川區	九	三五
東淀川區	一〇	六三
東成區	一五	一五七



全	住吉区	五	一四	
全	西成区	八	五〇	
大阪府堺市	七	二三		
左	岸和田市	一	一一	
全	三島郡	一	一	
全	豊能郡	一	一	
全	北河内郡	一	一	
全	中河内郡	二	四	
全	泉北郡	二	七	
全	泉南郡	二	二一	
計	一二五	七七四		

(谷岡 納)

在留朝鮮人就學児童調査夜學部 (大正五年五月末調査)			
市別	學 校 名	朝鮮人 在學数	
大阪市東区	北大江尋常小学校	五	
全	南大江全	二	
全	西区	一	
全	港区	五	
全	右田全	二	
全	朝鮮校和會館町夜學校	三二	
全	泉屋第二學部夜學部	六八	
全	日本橋小学校夜學部	一一	
左	北区	一五二	
左	浪速区	四	
左	櫻川全	一四五	

一四 年 月 日 書 手







奉天金融組合發起文

奉天ハ滿洲ノ中心地点ナリ、東三省ノ政治ト經濟  
ノ凡ユル重要ナル機關ハ此地ニアリ。中國人ノ商業ハ高  
度ノ發展ヲ示シ各國人ノ商工業ハ其ノ範圍ガ廣ク  
其ノ經營ノ殷盛ニシテ東三省ノ最大都市ヲ形成セ  
リ。此間ニ居留スル我々朝鮮人多ク數ハ農業ニ從  
事シ商業ニ留意スルモノ尠ナカリシガ漸次朝  
トノ交易ノ頻繁トナリ各農村ノ需要スル物品  
カ増加セラレ随テ各種商業ハ激増セラレタリ。然レ  
商工業家ノ數カ漸次増加シタバカリデ其ノ經營ノ







昭和參年六月



發起人

鄧鳳祿

崔士霖

金炳泰

崔吉燠

洪深文

高兩贊

全覽集

鄭

尹嘉祿

徐廷璣

李枝

羅景錫

奉天會館總名國詩見上

少壯

下區城

奉天省城南埠地西塔大街  
奉天市街及附近一带

一  
同  
的

組合員ニ對シ經濟上之必要ナル資金ヲ提供  
付ケルヲ組合員ノ為ニ預金ヲ取扱フ。

二、金額

金貳拾圓也

一、岩灣總額

貳萬五千也

一、拂山方法、

拂込金、此二十ヶ月、毎月金、此内、或、拂込、

一、主元起个代名

郭鳳祚  
崔士霖  
金炳泰  
崔吉良

陳淳之 高丙贊 金贊英

尹嘉炳、徐廷敬、李

徐璜 題景端







一、金四十八百兩也

一、金四十八百兩也

一、金四十八百兩也

一、金四十八百兩也

內訖 一、金四十八百兩也

一、金四十八百兩也

一、金四十八百兩也

一、金四十八百兩也

差引金七十四百兩也

利益金廣分案

一、金七十四百兩也

內訖 一、金七十四百兩也

一、金七十四百兩也

借入金、利息、年八分上、

事務費、帳目、利息、年八分上、

支拂利息、銀行、利息、年八分上、

總收入

一、金四十八百兩也

再引金、利息、年八分上、

銀行、利息、年八分上、

先施子、利息、年八分上、

法定積立金

株主配券、利息、年八分上、

一、金四十八百兩也

一、金四十八百兩也

一、金四十八百兩也

一、金四十八百兩也

役員手當

一、金四十八百兩也

特別積立金

一、金四十八百兩也



奉天金融組合定款

第一章 總則

第一條 本組合奉天金融組合組織法

第二條 本組合組織員金融之發展其經濟之發達之圖為其重要

事務之中心目的也

第三條 組合員之財產其經濟之發達之必要其資金之貸付也

第四條 組合員之財產其經濟之發達之必要其資金之貸付也

第五條 組合員之財產其經濟之發達之必要其資金之貸付也

第六條 組合員之財產其經濟之發達之必要其資金之貸付也

第七條 組合員之財產其經濟之發達之必要其資金之貸付也

第八條 本組合之營業區域奉天省一市一縣

第九條 本組合之組織奉天省一市一縣



本組合、全員、本組合区域内住居する朝鮮人に限ル。

### 第二章 出資者種々

第六條 本組合の出資金額、百金に決ス。

第七條 出資、第一回、出資金額の二割、即ち二十金に付ス。

第八條 第二回以上、出資金額の二割、即ち二十金に付ス。但し、出資金額の二割、即ち二十金に付ス。

二二定ム。

第九條 組合員の出資、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

第十條 組合員の出資、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

但し、三十日以内に、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

又、組合員の出資、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

前項、失権、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

第十一條 組合員の出資、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

但し、三十日以内に、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

又、組合員の出資、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

前項、失権、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

但し、三十日以内に、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

第十二條 組合員の出資、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

但し、三十日以内に、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

第十三條 組合員の出資、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

但し、三十日以内に、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

第十四條 組合員の出資、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

但し、三十日以内に、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

第十五條 組合員の出資、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。

但し、三十日以内に、抽当、及び、その、利息、は、第一回、出資金額、即ち二十金に付ス。



第三章

機關

第十四條 本組合の理事、監事、評議員、其の職務

第十五條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第三節 組合の組織

理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第十六條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第十七條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第十八條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第十九條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第二十條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第二十一條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第二十二條

補選の選挙、其の任期、其の職務

第二十三條

第二十四條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第二十五條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第二十六條

第二十七條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第二十八條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第二十九條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第三十條

第三十一條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第三十二條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務

第三十三條 理事、監事、評議員の任期、其の選挙、其の職務



第二十四條 評議員會、必要ニ應、會長ニテ招集ス、

評議員會ハ評議員、半數以上出席スルニ於テ之ヲ開クヲ得ス、

其事ハ過半數ヲ以テ決シ、可否同數ナルハ議長ニテ決ス、

評議會ニ於テ決議スル事項ハ決議録ニ記載シ、出席員之記名ヲ

印スヘシ、

第二十五條 定期總會ハ毎年三月ニテ招集ス、

臨時總會ハ會長ニ於テ必要ナルト認メタルハ又臨時會員十人以上

要求アリタルハ之ヲ招集ス、

第二十六條 總會ハ招集ホリクハ十日以前ニ於テ會次、目的、事項ヲ明示シ、

書面ヲ以テ各會員ニ通知スルヲ要ス、

第二十七條 本總會ハ每期決議事項切實ニ期スルニ依リ、臨時總會ハ臨時會員、新

加入員ハ出席員ニ對シテ投票權ハ有ス、

第二十八條 總會ハ決議ハ總會三分一以上出席スルハ決議權ノ過半數ヲ以テ

ヲ為ス、

本總會ハ解散及合併ハ決議ハ總會過半數以上出席スルハ決議權

ノ過半數ヲ以テ之ヲ為ス、

第二十九條 本總會ハ一口金ニテ一ツノ決議權ヲ有シ、十人以上ヲ代表シテ決議權

ヲ行フヲ得ス、

第三十條 議長ハ總會ハ決議録ヲ作シ、會次、期末及出席者ノ員數ヲ記載

シ、是之ニ出席者ノ署名付スルヲ要ス、

決議録ハ議長及議長ノ指定スル總會員二名以上ニ署名捺

印スルヲ要ス、

第四十章 業務執行

第三十一條 本總會ハ業年三月三十一日ニ於テ翌年二月末日ニ終ル、



第三十條 但合長ハ毎年度末ニ於テ評議員意見ヲ徴シ翌年度ニ於テ決算  
金運轉其ノ他ノ業務上ノ計劃ヲ定ム

第三十一條 但合ノ諸般業務執行細則ハ時時ニ依リ評議員會ニ於テ決  
定シ之ヲ施行ス

### 第五章 新餘金及積損補填

第三十二條 但合長ハ毎年度末ニ諸般業務執行細則ニ依リ決算スルハ

前項決議ヲ終リタル月ハ財産目録表貸借対照表及  
其ノ他ノ新餘金處分案ヲ作成スルハ

第三十三條 毎年度末ニ於テ貸付金利息、及割引料、手数料、其  
諸益ヨリ得ル利益其ノ他諸費用及積損ヲ引去リテ、残額ヲ以  
テ新餘金トス

第三十四條 積損ノ補填ハ先ツ特別準備金ヲ以テ、次ニ新換補填準備金ヲ

以テス

### 第六章 加入及脱退

第三十五條 但合ニ加入セシムルハ、直ニ但合金第一回分又ハ第二回以後ノ  
押込ヲナスハ

第三十六條 但合ヨリ脱退セムルモノハ、二月以前ニテ、理由ヲ但合長ニ提  
出シ、通過ヲ得ル場合ハ、清算年度末ノ決算ニヨリ、一旦ニ付スルソ  
ノ額、八割ヲ其ノ年度末ニ支拂フモノトス

第三十七條 但合ハ解散場合ハ、但合債務ヲ完済シ、新餘、財産ナル月  
ハ押込金額額ニおおよそ金額迄ハ押込金額額ニ應ジ、其ノ他ハ  
押込金額、年累計算額ニ應ジ、之ヲ分配ス

### 附則

第三十八條 本會定款ノ変更セムルハ、評議員會決議ヲ得、監事



總領事一室可分設於此

大日本拓殖協會  
協會ノ事業

本協會、國家經濟ノ振興ト人仁問題解決ヲ網  
領上朝鮮、台灣、樺太、北海道、南洋、等々植民  
地及滿洲、蒙古、西比利亞、南米等ノ事情以宣傳、企  
業其他、調査、移民民ノ取扱ヲ爲ス等ノ事

組織ト機關

本協會、朝鮮總督府、台灣總督府、樺太廳、關  
東廳、南洋廳、北海道廳、滿鐵、海外興業株  
式會社等聯合シ組織スル、機關トシテ本部ヲ東京ニ  
支部ヲ大阪、名古屋、廣島、下関、熊本、仙台、金沢







一、個所ノ選定

才四條 本協會設立ニ參ル個所ノ釐金ニ依リテ經常費ハ參ル個所ノ負担ス

才五條 經常費事務所費其他一般の至費ハ各參ル個所ノ移テ等々負担ス而シテ參ル個所派員ノ俸給及参ル個所ノ宣傳用ハインフレット、映画機、演劇費、調査費、出張旅費等ハ各該參ル個所ノ負担ス

才六條 本協會ハ各參ル個所ノ代表理事會ニテ推薦シタル各參會員贊助會員ヲ組織ス

才七條 參ル個所ト密接ナル關係ハ交通業者、實業會社

才八條 本協會ハ各參會員ノ寄附ヲ爲サズルモ、  
才三章 事業

才八條 本協會ノ事務ニ關スル事業ハ如シ  
一、各參ル個所ノ房及土地ノ事情紹介、調査、質問、應答、決助等、  
二、インフレット配付

三、移民取扱ノ系統、移居斡旋、

才五章 機關及權限

才九條 本協會ニハ役員ヲ置ク

一、各參會員一名 (各該所長)

二、協會長 一名



五、理事七名（內事務理事）

四、部長四名

五、幹事一名

六、支那主任若干名

第十三條 本協會ノ會計年度ハ四月一日ヨリ三月三十一日まで

協會長ハ毎年一回通常總會ヲ招集ス

通常總會ハ該ノ事務ハ左ノ如ク

一、事業成績及會計報告

前項ノ外協會長ハ必要ニ應ジテ臨時總會

ヲ招集スルコトヲ得

第十四條 總會ニ於テ各會員ハ各一個ノ議決權ヲ有スルモ

ノル

第十五條 理事ハ各一個ノ所ヨリ各一名ヲ出スルコト

理事ヲ以テ組織スル理事會ハ協會長ヲ以テ

議長トシ其ノ職務權限左ノ如ク

一、重要ナル事業計畫ヲ議定スルコト

二、予算及決算ヲ議定スルコト

三、其他特ニ重要ナル會務ヲ議定スルコト

第十六條 協會長ハ理事會ニ於テ之ヲ選任ス

第十七條 協會長ハ本會一切ノ事務ヲ總理ス

協會長ハ理事會ノ權限ニ屬スル事項ニテ

急施ヲ要スルト認ムル時ハ之ヲ專決施シ得

ル



但し前項ノ場合ニ於テハ理事會ノ承認ヲ受ケルヲ必要ス

才十五條 常務理事ハ之レヲ理事會中ヨリ互選シ常務執行ノ協會長ヲ補佐シ協會長事故アル時ハ其事務ヲ代理ス

才十六條 協會長及理事ノ任期ハ二年トス

才十七條 部長及幹事ハ協會長之レヲ任用ス

才十八條 本協會ノ役員ハ部長、幹事、支那主任ヲ除キ其他ハ總務部長及庶務部長トス

但し會務ノ爲メ要シタル実費又ハ旅費報酬ヲ給スルヲ得

才十九條 本協會ニ左ノ機關ヲ置ク

一、本部 (統轄機關)

二、支那 (實施機關)

本支那ニ於ケル職制ハ如シ

一、本部

協會長—理事  
企劃部長  
宣傳部長  
調查部長  
庶務部長  
—幹事

二、支那

支那主任—支那員

才廿條 幹事ハ協會長ノ指揮ヲ受テ實施機關



事務處理人

事務を處理ス

南洋洲録道林三會和

最近東京驛に於ける

乘降朝解人の概況

昨今ハ農繁期にナリたるを以て朝鮮人の内地渡行  
 者の数は幾分緩和されたるものの如く、東京驛に於ける  
 朝鮮人乗降者も大期農閑期程難省せざるやうである。  
 而して之が状況に關し今統計的根據に基き、指摘するところ  
 困難であるが、裏に東京驛に朝鮮人案内所を設置してよ  
 り約二ヶ月間に亘り取扱たる数は一日平均約百人を算す  
 る次第にして、茲に其の概略を掲げ本年春季に於ける變  
 動を示す。



一 乗降人員数	
乗車人員	約 二十人
降車人員	約 四十人
二 旅行案内を乞ふ人員数	
乗車人員	約 八人
降車人員	約 二十人
三 全体的患恤を要する人員数	
乗車人員	約 一人
降車人員	約 五人
四 職業上の問題で案内を乞ふ人員数	
約	五人
五 朝鮮及内地より書面にて問合せ人員数	
約	二%

右、数字に現れたるものは全然内地語を解せず又寄邊多く知人もなう孤獨的、者ヲサにして、知人ヲ出迎を要けたる者

内地の事情に通じたる者、数は算入してあり、左に此の五項目に亘り實際取扱上処理したる事情を簡単に述ぶべし。

(一)の單純なる乗降者、(二)の旅行案内を乞ふ者に就ては大した問題もなく行先、経路等を悉く説明せり

(三)の全体的患恤を要する者は最も困難とする事にして、朝鮮人案内掛設置前に於ては結局仕方なう場合には驛員又は一般人の同情に依りて一時的方便講じらうし、更に朝鮮人案内掛設置後は、當該掛員の言葉通ずるを幸に彼等は掛員に對し身代を陳述して救助を乞ふ者非常



に多く、若し一々その哀訴に應ずるならば一而朝鮮人の  
性情をして益々怠惰に導くのみならず掛負に斯の如き  
乞ひに應ずる物質的餘裕なきものである。勿論一人前  
働を得る者には如何なる窮状を訴へるも決して恵撫  
の行為をなすものにあらずとも、單に老人、婦女子、年少者、  
病者等には其の事情に應じ電車賃、汽車賃の一部、  
通信料、食費等を施與せしめたる者がある。何等寄るべき所も  
なく漫然上京したる者にして出来得る限りの便利は計  
りつゝあるもその徹底を期する事は到底不可能である。

或は一部相愛會に交渉して斡旋の勞を執る等掛負  
として記す丈けつ事は盡してある。今後は市内所在職業  
紹介所と連絡を保ち相協力するの必要を感ずるもの  
である。

其の書面を以て問ふて来る者は全く人事上の問題にして  
今日迄の取扱に於ては略備足なる回答を與へてある。  
大略以上のやうである。

東京郵船協会内掛

林 八 用 記



東京驛乗降朝鮮人概況

昨迄も農繁期に入り朝鮮内地に於ても自給的理  
論から母地と内地渡行を緩和せしむる為より  
冬期農閑期に於ける渡行者数より減少  
あり今一圖に統計的に概況を述べられまふが東  
京驛に朝鮮人客の掛を施設しより約二個月前  
に亘り平均1日の数字を示し春季の形作る  
概況を述べんとす。

一乗降人員数  
乗客 40千人  
降客 40千人  
乗客の父兄 1千人  
降客の父兄 1千人



东子路 铁道 管内

昭和二年中朝鮮米輸移量使用地方

[illegible]



东 京 驿 铁 道 等 内 科

3-82



佐賀縣	一、八四〇	一、六二五	一、三三七
佐賀	一、四九六	一、五一七	一、二五四
其他	二四八	二四八	一、二三
長崎縣	四、七六六	五、五三三	三、七九九
長崎	一、三三八	一一四	五、一四七
壹岐	三、八四四	六八	二、四七七
對馬	三、三五二	三七一	二、九六八
其他	一、一二	六、二六	六、一四
熊本縣	五、二八三	八、五二	二、三六七
熊本	五、四五	八、七四	一、二四九
三角	二、六四八	三、九三	八
其他	二、〇九〇	四、五九	一、〇七〇
大分縣	七、二三一	五二	三、四五六

大分	別府	其他	宮崎縣	大渡	其他	鹿兒島縣	鹿兒島	其他	香川縣	高松	其他	愛媛縣
一七一	二	三九一	一九六	一	一九六	一六三六	一六三六	一	一三九四	七、八七三	四五二一	八八一〇
五二	五四五	六六三四	一〇八	一〇八	一〇八	四一八五	四一八五	一三三	三二八六	六〇〇	二五八六	一四〇五八
	四〇	一二	一八七	一八四	一八七	一五八〇	一五八〇	一五八〇	二六六	八〇	一八六	九二
	二〇					八	八	八	一五八四	八五五三	七、二九三	二、二九六
二二三	六二七	七、〇三七	二、一九一	一、三〇二	八八九	七、四〇九	七、四〇九	七、四〇九	一、五八四	八五五三	七、二九三	二、二九六
一、三三三	七九五	一四三八	二四九五	一、四四〇	六五五	八三二〇	八三二〇	八三二〇	一、六九三	八九三二	四、七六一	一、九四五〇



三津溪	今治	宇和島	其他	高知縣	高知	其他	德島縣	德島	其他	山口縣	下関	徳山
一、四〇〇	八、〇〇〇	六、九二二	七、一八	三、八〇九	二、六六八	一、一三三	二、一八〇	一、九四八	三、三三三	三、九四三	三、六六四	四、八
一、〇〇	七、九五〇	五、九八八	一、〇	九、八五五	五、〇三三	四、八三三	二、四三三	二、三三〇	二、四〇〇	一、四〇七、六	二、六八六	二、六二〇
										二、九		
八、四			八	四、二	四、二	四、四	四、四	四、四		一、一〇、一	九、六	
										三、七、八	三、七	
一、八八四	八、七五〇	一、六三九	七、三六	四、八四六	三、二六三	一、六三三	四、六五四	四、三三八	四、三	八、一七九	一、六四八、五	三、〇三八
	四、七三八	一、二四〇	六、七二	四、三九六	四、九一〇	一、八八七	四、九一〇	一、九七八	一、九七八	一、四〇四、八	一、三八一、五	三、三三一

柳井津	其他	廣島縣	己斐	福山	宇又	尾道	廣島	横川	吳	吉浦	其他	岡山縣
四、八五	一、六六五	五、八一九	四、三三三	五、八	一、三八四九	一、〇六三	二、六四五	八、七四五	七、七八	三、二一〇	五、二一九	三、八五九
一、一七	一、〇、二〇〇	四、五、二七二	二、五三〇	一、四、四六八	六、二一〇	一、二、四三三	五、〇九六	五、八三三	五、一四三	一、八、四七七	三、三三八	一、八、三五六
	二、九	一										
四、〇	一、九三	一、五二九	六、〇	九、六	六、〇	二、八九	八、五〇	六	七、〇	九、八	五、九一	
		一、六、〇				四、一三	三、九七				七	六
一、六四二	一、三、三八	四、九六、二二二	六、九五三	一、五、〇九二	一、九、八九三	一、三、七四八	六、三八三	一、四、五八二	五、二二二	一、九、七七七	八、一七三	五、八、一三
四、六一	六、六一〇	四、三、七八四	四、九七五	一、〇、三六二	五、七、一五五	九、三、三九	八、四九二	一、七、四八八	五、九、二五	一、八、五、六五	一、八、六、六	三、二、一〇〇







島根縣	鳥取縣	工重縣	宇治山田	四日市	其地	愛知縣	名古屋	豐橋	岡崎	瀨戶	其他	靜岡縣
一八五二	八八八	一七九二	一七九四	一六四八	一六〇〇	一八二九	一七三六	二二九	四四四	一〇二二	一四〇六	一八二八
一八二	一四二	二二八二	一三二九	一四〇二	一五〇一	四〇四二	三三九九	二六四	一	八四四	一三六〇	五五二
九	二二七	一七七〇	一四九	一四九	一	一六六	一五五二	一五三	四六	一	九三六	三五四五
二	一七	四九	一三五五	一六六六	一八六三	二四二六	一三〇八	三三九九	五四〇	一八五八	五八〇三	二八七六
二七五五	二二〇	三〇五五	八六六	一八八七	三五五	一八九五	一五九七	三三三	一三五八	一三八	五〇八	二四八七

靜岡	清水	其他	山梨縣	甲府	大月	其他	神奈川縣	横浜	横須賀	川崎	其他	東京府
一八二八	一五五三	五〇一八	一三三五	一三三七	九八	一三三七	一三三七	一三三七	一三三七	一三三七	一三三七	一三三七
五五二	五五二	一〇二八	五五二	五五二	一〇二八	一〇二八	一〇二八	一〇二八	一〇二八	一〇二八	一〇二八	一〇二八
一六五二	一六五二	一六五二	一六五二	一六五二	一六五二	一六五二	一六五二	一六五二	一六五二	一六五二	一六五二	一六五二
一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八
一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八	一八二八



東京	八王子	大崎	其ノ他	埼玉縣	茨城縣	千葉縣	滋賀縣	濃大津	其ノ他	岐阜縣	岐阜	多治
五九五六六	四〇七	一九三	一三三二	一六四		一九七	二四六三	一八五七	六〇六	一五九一	九六九	
三三六〇		四	七三九	一〇四五	六六	四	一四九三	八八二	六二二	五八六	一〇三三	三九五一
										二六	二六	
九三												
一〇四五												
六八八〇	四七	一九七	二〇六一	一六九	六六	二〇一	三九六六	六七九	一三二七	七四三三	二〇七	
五九七六六	八〇	一〇六九	一〇四三	一三七二	三	三九五	七五八	六五一	一七九七	一三三八	二四一九	

其ノ他	長野縣	松本	岡谷	辰野	小諸	飯田	伊那町	上諏訪	其ノ他	群馬縣	栃水縣	福井縣
六三二	二七九六一	一三三三五	一六六六	四九二	一七三二	三〇五九	一七三二	四五四	六二二	一九六	五三	二六七九
八三三	一〇五、六四一	一五五四	九、一三三	九、三九七	一九三	四五、六四	三三、七二	六九二	三六、七八七	一九八		二九八二
一七三						一六八	五					五二八
												一四七
一四五五	一三三、七五	一四八、九	一〇、八八八	九、八八九	一九二四	四八、八四一	三四九	一、一四六	四三、八八九	三九四	一九三	三、三八六
五、四〇	八六三九	六、四	二、八四	二、二〇	二、八五	三三、五六〇	七、四七	一、七二八	二、三五五	四七八		二九四



敦賀	二五五	六九二	四六三	一四五	三〇一五	一五五〇
其他	一九三		六六	二	三六一	八二
石川縣	二七四	二五四			三〇〇	九六七
富山縣	二二五	九一三		一六一	三〇九	一七四
新潟縣	三〇〇	一			三〇一	六七
福島縣		四〇			四一	一七
宮城縣	九八				九八	六七
秋田縣	二八				二八	
山形縣	九八				九八	
青森縣						七九八三
北海道	四二五	二五二四一			二五二八	二九三六
函館	二八	五一七二			五三九八	四五一五〇
小樽	三三八	一三八三			一六一五	

樺太	四八	五五三三	大四五〇	四一七五四	一三三〇
二 輸 出	一〇一六	二一九七	四〇〇	一三三九	八〇五〇
支那	七九〇	七〇〇三	四〇〇	八〇〇三	二八八〇
關東州	二二六	八六三	四〇〇	一四九五	八六三
南滿洲		三五四		三五四	三八一四
山東省		三九七		三七	五二三
直隸省		二		二	
露領亞細亞					



(一) 京城重要物價平均指數表

(昭和三年四月分)

生 産 品	指 数		
	本 月 中	前 月 中	前 年 本 月 中
生 産 品	二二九〇六	二二九二四	二二〇〇〇
輸 移 入 品	一八六七二	一八五九三	一八三四三
總 平 均	二二四六三	二二五八〇	二一八九三
備考			
一 本表ノ指數ハ明治四十三年七月ノ相場ヲ一〇〇トシテ算出シタルモノナリ			
二 平均指數最高記録大正九年三月中一 三六九四五			

(二) 京城重要物價表

(昭和三年四月分)

生 産 品	指 数		
	本 月 中	前 月 中	前 年 本 月 中
生 産 品	二二九〇六	二二九二四	二二〇〇〇
輸 移 入 品	一八六七二	一八五九三	一八三四三
總 平 均	二二四六三	二二五八〇	二一八九三
備考			
一 本表ノ指數ハ明治四十三年七月ノ相場ヲ一〇〇トシテ算出シタルモノナリ			
二 平均指數最高記録大正九年三月中一 三六九四五			















品名	単位	本月	前月	前年	平均
器具類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
菓子類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
飲料類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
肉類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
魚類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
野菜類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
果物類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
雑穀類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
豆類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
油類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
調味料類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
衛生用品類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
日用品類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
衣類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
靴類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
文房具類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
玩具類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
書籍類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
文具類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
楽器類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
美術用品類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
体育用品類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
旅行用品類	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
その他	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四

(一) 京城重要物價平均指數表 (昭和三年五月分)

品名	単位	本月	前月	前年	平均
生產品	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
輸入品	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四
總平均	内輸入	二二〇	二二四	二二四	二二四

備考 一 本表ノ指數ハ明治四十三年七月ノ相場ヲ百トシテ算出シタルモノナリ  
 二 平均指數最高記録大正九年三月中一三六九四三

(二) 京城重要物價表 (昭和三年五月分)

品名	単位	本月	前月	前年	平均
支米	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
精米	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
大豆	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
小麦	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
大麦	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
粟	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
高粱	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
玉米	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
花生	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
芝麻	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
油菜	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
棉花	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
羊毛	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
皮革	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
木材	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
煤炭	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
焦炭	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
石油	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
天然气	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
电力	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
电话	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
电报	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
铁路	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
航空	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
海运	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
陆运	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四
其他	一石	二二〇	二二四	二二四	二二四







[illegible]

(一) 京城勞銀平均指數表

(昭和三年五月分)

平均指數	二二三八四	二二五七二	二二五三三	前月中ヲ百ト シ本月中高低	1087.8	前年本月中ヲ百ト シ本月中高低	1001.8
	本月中	前月中	前年本月中				

備考一 本表ノ指數ハ明治四十三年七月ノ實銀ヲ一〇〇トシテ算出シタルモノナリ  
二 平均指數最高記錄大正八年十二月中一、二六七六

(二) 京城勞銀表

(昭和三年五月分)

[illegible]

備考一 本表ノ指數ハ明治四十三年七月ノ實銀ヲ一〇〇トシテ算出シタルモノナリ

(二) 京城勞銀表

(昭和三年五月分)

[illegible]



[illegible]

(二) 京 越 榮 驗 素

(明隆三平正民公)

二平代館煉最高温度大五八半十二月中一二六六六  
一本表ノ計煉八四四四十三半十月ノ實驗マ二〇イニテ算出シタルモノナリ

平改能燈	三三八四	二二五二	二二五三	10月5日	10月1日
本月中	順月中	順半本月中	本月中高過 順月中又百イ	本月中高過 順半本月中又百イ	

ペンキ職	内地人	三七〇	三〇八	二九二	三〇〇	疊	刺	内地人	五〇	二六二	二五五	二六二
トタン職	内地人	三八〇	二五五	二五五	二四七	車	夫	内地人	二〇〇	一八二	一三八	一三八
ブリキ職	内地人	三八〇	二六二	二五五	二五五	モクト人	夫	朝鮮人	二〇〇	二一五	二一五	二一五
鍛冶職	内地人	三八〇	二五五	二〇〇	二一五	人	夫	内地人	二〇〇	二二〇	二〇〇	二二〇
井戸職	朝鮮人	二五〇	二五五	二八〇	二八〇	支那人	夫	朝鮮人	九〇	一六四	一五五	一六〇
活版職	内地人	二五〇	二七一	二七一	二七一	平均指数			三三八	一三八	一三八	一三八
菓子製造	内地人	一八五	二〇六	二〇六	二〇六							
表具師	内地人	二六〇	二四八	二四一	二四八							
朝鮮人	朝鮮人	二二〇	二四四	二四四	二四四							



器具類	内輸入	二二〇〇	二二四八	二二四八	二二四八	二二四八	平	二二四八	二二四八	二二四八
菓子類	内輸入	一八〇〇	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	人	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇
茶類	内輸入	二二〇〇	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	夫	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇
糖類	内輸入	二二〇〇	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	夫	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇
穀類	内輸入	二二〇〇	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	夫	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇
油類	内輸入	二二〇〇	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	夫	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇
肉類	内輸入	二二〇〇	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	夫	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇
魚類	内輸入	二二〇〇	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	夫	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇
其他	内輸入	二二〇〇	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	夫	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇
合計	内輸入	二二〇〇	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	夫	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇

○木材飢饉來ニ就テ

附林業投資ノ有望多利

林學士 齋藤音作

其一 世界の木材生産力ノ激減

二十年前ニ於ケル地球上ノ森林面積ハ陸地全面積ノ約五割デアッタガ今ハ約半分ニ割二分五厘ニ激減シタ若シ今後モ同ジ速力ヲ減少スルトセバ二十年ノ後ニハ地上ノ一木ナギニ至ル筈デアル然ルニ現存ノ森林ヲ概觀スレバ凡ソ左ノ通デアルカラ一層悲觀セネバナラヌ

第一 北半球針葉樹林。全森林面積ノ約三割五分ヲ占メテ居ル。建築其他各般ノ用材及製紙原料等ニ供用セラル、モハテ吾人ノ生活上最重要ナル森林デアル、主トシテ北半球ノ北部ニ残存シ伐木、山火及虫害等ノ爲メ盛シニ消費セラレ年次其蓄積ヲ激減シツ、アル

第二 北半球(熱帶ヲ除ク)闊葉樹林。全森林面積ノ約一割五分ヲ占メ、主トシテ用材ノ一部及薪炭等ニ供用セラレテ居ル、是レ亦伐木及山火等ニヨリテ年々其蓄積ヲ著減シツ、アル

第三 熱帶及南半球ノ森林。全森林面積ノ約五割ヲ占メテ居ルガ其大部分ハ利用困難ナ硬木ヲ普通建築材ヤ製紙原料等ニ適スルモノガ少イ



即チ第三ニ属スル森林ハ将来ノ木材供給上大ナル價值アルモノデナク又第一及第二ニ属スル森林ト雖極地ニ近イ所、交通運輸ノ至難ナル所等ハ殆ド利用ノ價值ナキハ勿論、其他ト雖國土保安上等ニ必要ナル區域、森林公園、天然物保存林及之ニ準ズル森林等トシテ漸次伐木ノ自由ヲ束縛セラル、面積が増加スル形勢デアルカラ今後經濟的ニ且自由ニ木材ヲ生産シ得ベキ森林面積ハ現存森林ノ約半數位ニ過ギザルベク思ハレル、果シテ然リトセバ既往二十年間ニ於テハ陸地全面積ノ二割二分五厘ヲ減縮シタルカラ今後モ同一速力ヲ以テ進ムトセバ地球上ノ可利用森林ハ十年内外ヲ以テ皆無トナルベキ苦ト謂ハネバナラヌ、尤モ今後ハ年次造林保護ニ努メ且伐採及利用ノ節約等モ一層注意スルヤウニ思ハレル故十年ヤ十五年ニシテ皆無トナルコトハ杞憂ナルベキモ、可利用森林面積ノ年次激減スルコトニ就テハ何等疑フノ餘地無イト考ヘル

次ニ全世界ニ於ケル現今ノ木材全消費量ト其全生長量トヲ比較シテ見ルト、全消費量ハ約五十五億石ノ巨額ニ上ルモ全生長量ハ約三十八億石ニ過ギナイト概算サレテ居ルカラ世界ノ森林蓄積ハ年々約十七億石(内地府縣森林全蓄積ハ四十億石)宛減少スルモノト思ハネバナラヌ、

次ニ地球上ニ於ケル森林ノ消長ヲ他方面カラ考察スルニ人口増加及文化ノ進ムニ從ヒ森林ノ重要ナル部分ハ急速度ヲ以テ農業地又ハ工業地等トシテ開墾セラル、ハ勿論、又保安林、森林公園、天然物保存林等トシテ伐木ノ禁止制限ヲ受ケル面積モ激増スル傾向デアルカラ将来ニ於ケル可利用森林面積ハ此等原因ノ爲ニモ漸次減縮スルコト明デアル

以上ノ事實カラ考察シタダケモ将来ニ於ケル木材供給上大ナル脅威ヲ見エザルヲ得ナイニ更ニ他方面ニモ一大悲觀材料ガアル、夫レハ世界ノ木材消費量ガ年ト共ニ著増スルコトデアル、即チ第一ハ人口増加ニ伴フテ増加スルコトデアル、第二ハ文化ノ進ムニ伴ヒ一人當平均木材消費量ヲ増スコトデアル、第三ハ人口増加ニ伴フテ増ニ就テハ説明ノ要ヲ認メナイガ第二一人當消費量ノ増ニ就テハ簡單ニ説明シタイ、的確ナル調査ノ結果ニヨリバ英國ノ人口ハ最近二十年間ニ二割ヲ増シタガ木材ノ消費量ハ其ニ倍即チ四割ヲ増シテ居ル、又北米合衆國ニ於テモ一千八百八十年以來ノ木材消費増加率ハ同年間ニ於ケル人口増加率ノ約二倍ニ達シテ居ル、又最近専門學者ノ調査ニヨリ世界中ノ一人當平均木材消費量ハ年々約百分ニツ、増加スルト云ハレテ居ル、即チ世界ノ木材消費量ハ人口増加ニ伴フテ増加スル上ニ更ニ一人當消費量ヲ増スバデアルカラ其増加率ノ大ナルコトハ推察ニ餘アル、斯ク考察シ



東ルトキニ木材飢饉来ヲ叫ブ聲ノ次第ニ高ツリタルハ當然ト謂ハネバナラヌ

固ヨリ多クノ國ニ於テハ一面山火ノ豫消防及造林ノ増加改善等ニ由リテ森林蓄積ノ減少防止ニ努  
メ他面防腐木材耐火木材又ハ代用材料ノ普及等ニ由リテ木材消費量ノ節減ニ努力スルコトと思  
ハレガ此等努力ノ結果ハ案外微弱ナモノデアツテ之ヲ消費増加率ノ莫大ナルニ比スレバ及バザルコト違イ  
ト思ハネバナラヌ

世界的木材貿易ノ大家アングス、ハミルトン氏曰ク「木材飢饉ノ襲来スル時期ハ世人ノ想像スル如ク悠  
々タルモノニアラズ、吾人ハ其期間ヲ二十五年乃至三十年ニ限定シテ憚カラヌモノデアル北米ノ木材供給ハ大約  
五十年ヲ出デズシテ消滅スベク加奈陀モ夫レヨリ長ク供給スルコトハ困難ナルベク、又バルチック沿海ノ大  
供給地モ利用シ易キ森林ハ大部分滅盡シ今ヤ内陸ニ向ツテ伐リ進ミツ、アルモ、是レスラ三十年ヲ出デズシ  
テ供給ヲ絶ツデアロウ」云々、之ハ夢物語デナイ、的確ナル資料ニ基ヅイテ達觀シタ大警告デアツテ現  
ニ内外ノ學者多ク之ヲ承認シテ居ル

### 其二 東洋ノ木材飢饉来

日本各府縣ニ於ケル林產物需給關係ヲ考察スルニ多年ノ過伐ト木材消費量ノ激増トニ伴ヒ十

年前迄ハ東洋唯一ノ木材輸出國トシテ誇ツテ居タ我邦モ近來ハ大量ノ木材入超國トナツタ現ニ帝國  
森林會ノ調査ニヨリテモ内地府縣ニ於ケル林產物不足額ハ一十年約六千万石ノ巨額デアルコトヲ表明サ  
レタ(平均需要量ハ立木材積一億九千万石ナルニ平均生長量ハ一億三千万石ニ過ギヌ)加フルニ造林事  
業ハ意ノ如ク進マザル上ニ消費量ハ年約二割宛増加スル趨勢デアルカラ將來ニ於ケル不足額ハ益々激増  
スルコト明デアル

次ニ多年巨額ノ木材供給ヲ以テ誇ツテ居タ北海道モ今ヤ其資源漸ク枯渴シ道内供給ノ前途ヲサ  
ヘ懸念サレル狀況ニ進ミツ、アル、故ニ北海道ノ將來ハ内地ノ木材不足ヲ補フ上ニ大ナル頼トナラヌコト  
勿論デアル

臺灣ニハ阿里山檜材其他特殊材ノ輸移出力アルモ其額少量ニシテ到底輸移入材ヲ償フニ足ラナ  
イ即チ臺灣ハ差引反ツテ入超地タルヲ免カレヌ

朝鮮ニハ鴨綠圖滿兩江流域ノ大森林アルモ其蓄積ハ豫想セル程ニ大ナラズ其他ノ成熟山林ハ多クハ  
各河川ノ水源ニ位シ概シテ木材ノ供給力ニ乏シイカラ現在及近キ將來ニ於テハ林產物ヲ輸移出スル力微



故ニ日本領域内ニ於テ大量ノ木材ヲ輸移出スルカヲ持ツモノハ獨リ樺太アルニミデアルガ之トテ當分ノ明ニ限  
リ年次微カトナルコトハ左記事由ニヨリテ明デアル

(イ) 樺太ノ森林蓄積ハ從來十數億石ト概算サレテ居タガ、其後調査ノ進捗ニ從ヒ約六億石ニ過ギ  
ナイコトハナツタ

(ロ) 以前ノ過大蓄積ヲ基礎トシ大々的ニ製紙パルプ事業ヲ許可シタ爲其所要原料材ハ巨額ニ上リ  
蓄積著減ノ今日ニ於テハ年生産額ノ大部分ヲ之ニ當テネバラヌコトハナツタ

(ハ) 既往數年間一千餘万石宛ノ移出ヲ爲シ得タハ主トシテ松毛虫ノ被害木ヲ急速處分シタ爲デア  
タ、然ルニ右被害木ノ處分ハ大体終了シタルヲ以テ今後ハ著ルシク出材量ヲ減ゼネバナルマイ

(ニ) パルプ原料ニ適セザルカラツハ其總蓄積約三千万石ト称セラル、仮ニ其内利用可能ノ立木ヲ二千万  
石、整理期ヲ四十年、造林歩止ヲ五分ストキハ一ヶ年平均ノ生産量ハ僅ニ二十五万石ニ過ギナイコトニ  
ナル、特ニ將來ハ島内ニ於テモ枕木、土工建築用材等トシテ相當需用アルコト必然ナルヲ以テ將來  
ニ於ケルカラツ材ノ移出量ハ少額ニ過ギナイコト明カデアル

以上ノ如ク考察スルトキハ日本ニ於ケル將來ノ木材不足ハ年ト共ニ激増スルコト必然、デアルガ其大不足ハ

何處カラ之ヲ補給スルカト云フニ滿洲、西比利亞及北米ノ三地ヲ舉ゲル外ナイ、次ニ三地ノ補給力ニ付  
考察シテ見ヤウ

(一) 滿洲ノ木材輸入力。利用可能ノ森林蓄積ハ約半億石乃至五十五億石ト見ラレテ居ル、仮ニ之ヲ五十億  
石ト見做シ百年輪伐トスレバ年伐立木材積ハ五千万石トナリ造林歩止ヲ五分ストレバ二十五万石ノ生  
産トナル、而シテ之ハ横暴ナル火災及虫害ヲ見ナイ計算デアル故實際ハ之ヨリモ著減スルニ相違ナ  
イ(現在ノ木材供給力ハ鴨綠江材二百五十万石乃至三百万石、吉林材五十万石乃至八十万石、北滿材  
五十万石計三百五十万石乃至四百五十万石ニ過ギナイ)然ルニ滿洲ノ産材ハ第一滿洲内ノ需要ニ充當セ  
ネバラヌ、滿洲内ノ需要ハ現在ニ於テモ相當巨額ニ上ルガ將來ハ人口増加、パルプ工業(滿洲ニ於ケル  
パルプ原料ハ鴨綠江方面一千七百餘万石、吉林方面五千百餘万石、北滿方面七百餘万石、三姓  
方面六千三百餘万石計約一億四千万石ニ上ルヲ以テ將來ハパルプ工業勃興スベク思ハル)其他ノ  
新需要モ漸増スベキニ付其需要量ノ激増スベキハ勿論デアル、第三滿洲材ハ將來滿洲以外ノ  
支那ノ大需要ニ向ツテ供給セネバラヌ、支那ハ現在ニ於テモ木材ノ大入超國デアルガ今後文化ノ  
進ムニ從ヒ更ニ大ナル入超國トナルコト明デアル(最近三年間ノ木材輸入平均額ハ一千四百七十一



万海關面デアル)而シテ現今ノ大供給者タル北米ハ後文記述ノ如ク其供給力ヲ激減スベキコト明カナルヲ以テ滿洲餘材ノ殆ド全部ハ之ヲ自國ニ供給セオバルマイ、故ニ滿洲ノ森林ハ將來日本ノ木材不足ヲ補フ上ニ大ナル期待ヲ持テ得サルコト明カデアル

(二) 西比利亞材ノ輸入力。西比利亞ノ森林資源ハ頗ル莫大ナルモ其木材ヲ經濟的ニ日本ニ輸入シ得ル範圍ハ極東方面主トシテ沿海州ニ限ルト云ツテ大過ナカロウ、而シテ其木材年生産額ハ最大一千万石ヲ出ルコト難イト思ハレル、仮ニ其内ノ六割ヲ日本ニ輸入スルトシテモ其年額ハ六百万石ニ過ギナイ、即チ今日我國不足材ノ十分之一ニ過ギナイデアル、尤モ日本ノ材價が著ルシク暴騰スルニ至ル漸次其輸入額ヲ増大スル彈力ハアルが如何ニ増大スレバトテ我邦不足材ノ三分一ヲ充タスコトハ困難デアロウ、去スレバ不足材ノ三分二以上ハ何處カラ之ヲ供給スルデアロウカ、

(三) 北米ノ木材輸入力。現今日本ノ木材界ハ木材ノ輸入ニヨツテ助ケラレテ居ルト云ツテ過言デナイ、即チ近來ノ木材年輸入額ハ無慮一千万石ヲ超エル大量デアツテ恰モ内地用材總需要額ノ約二割ヲ占メテ居ル然ラバ木材輸入ノ將來ハ如何ト云フニ余輩ノ考察スル處ニヨレバ今日ノ如キ盛況ヲ持續スルハ精々十年間位デ近キ將來ニ於テ次第ニ其額ヲ減ジ十五、六年後トモナレバ主

トシテ少額ノ長木材ヲ輸入スル位ニ留マルコト、思ハル、豫想ノ基礎左ノ通

(一) 北米中最先ニ大伐木ヲヤツタハ北東部森林デアルが今日既ニ總蓄積ノ八割八分ヲ伐採シ残ルハ僅ニ一割二分ニ過ギナイ、而モ既往ノ伐採地ハ概シテ林相佳良運搬便利ナ森林デアツテ殘餘森林ノ大部分ハ比較的劣等ナモデアル、即チ此地方ニハ現ニ一億餘万英町ノ伐採跡地ト三千餘万英町ノ荒廢地トヲ出現シ、自家供給上ニモ大不足ヲ告ゲ、英領加奈陀ノ輸入ヲ得テ僅ニ之ニシカラサルヲ得テ居ル

(四) 北東部森林ニ次グ大伐採ヲヤツタハ中部森林デアルが之レ亦既ニ全蓄積ノ九割ヲ伐採シ盡シ、火災等ノ爲ニ荒廢ニ歸セルモノ約五百万英町、利用ノ價值少キ後生樹林ヲ以テ被ハル、面積約九千万英町ニ上リ又二億八千万英町ト見積ラレテ居ル國有森林モ其九割五分ハ既ニ伐採シ盡シ殘ルハ僅ニ五分ニ過ギナイト云フ慘狀ヲ呈シテ居ル、

(五) 北東部森林ヲ荒殘シ次グ中部森林ヲ荒シタ米人ハ間モナク南部ノ松林地帯ニ伐リ進ミダナデアル此地方ニ於テハ今ヨリ十年前頃迄ハ非常ニ熱心デ伐採シタモノデアルが近來ハ年次其量ヲ著減シツ、アル、即チ全蓄積ノ七割四分ハ既ニ伐リ盡シ現存蓄積ハ僅ニ二割六分ニ過ギナイ現狀デアル、就中國有森林ハ二億五千万英町ト見積ラレテ居ルが今日既ニ其八割八分ヲ伐採シ盡シ殘レルハ僅ニ一割二分



ニ過ギナイ慘狀デアル故ニ南部松林地帯ノ木材生産モ今日既ニ其先が見ヘテ居ル

(二)南部松林地帯ヲ残リ少ナニ伐リ荒シタ米人ハ今度ハ太平洋沿岸森林ニ向ヒ大々的ノ伐採ヲ開始シテ伐木ハ今尚全盛デアルが既ニ全蓄積ノ五割七分ヲ伐リ残ルハ四割三分ニ過ギナイ、日本ニ輸入スル木材ト云フハ主トシテ太平洋沿岸産デアル、今や伐木ハ全盛ヲ極メ百四十ヶ所ノ製材所デ盛ニ大製材ヲヤツテ居ル、山火亦依然トシテ猛威ヲ逞フシ年次其蓄積ヲ激減シツ、アルヲ以テ便利地ニ於ケル蓄積ハ無限トコロノ話デナク前途ハ既ニ見ヘテ居ル、昨年度米シテ詳細ニ調査シタ農林省技師渡邊林學士モ「太平洋沿岸ノ森林ハ目下ドシドシ減少シテ居ル、伐採スルヨリモ山火ヲ燃ヘル面積ノ方が多イト云ハレテ居ル」云々ト言明シテ居ル

(三)太平洋沿岸森林ト前後シテ伐木ヲ開始シタハ ロッキーマン脈附近ノ高地森林デアルが今日既ニ固有森林六千五百万英町ノ内残ルハ三十八百万英町(五割八分)ニ過ギズ、現ニ五百万英町ノ荒廢地ト一千万英町ノ矮小灌木林又ハ後生樹林ヲ出現シテ居ル狀況デアル、伐木ハ目下全盛ヲ極メ年々巨額ノ生産ヲナシツ、アルノミナラズ山火ノ猛烈ナルコト亦太平洋沿岸森林ニ異ナラヌ、故ニ最後ノ森林地帯モ既ニ其前途が見ヘテ来タ

(ハ)大正十三年十一月ワシントン府ニ於テ開カレタル林産物利用中央委員會ニ於テ大統領クリリッヂ氏ノ警言或演説中ニ左ノ言ガアツタ

「米國ノ森林資源ハ今や將ニ枯渴セントシテ居ル、米國今日ノ森林面積ハ大陸發見當時ノ六分ニ過ギナイ、而シテ其大部分ハ位置ニ於テ材質ニ於テ劣等ナモハデアル、米國ニ於テ年々減少スル森林蓄積ハ約二十億九千万石ナルニ、年々ノ生長量ハ其三分一ニモ足ラヌ六億万石デアル、又今日伐採スル森林ノ四分三ハ既ニ容易ニ接近シ難イ避遠ノ地デアル」云々

(ト)多年世界的木材貿易ニ從事シ且廣ク世界ノ木材生産地ヲ跋涉調査シタル加州バーケレー市ノアシカスハミルトン氏曰ク「合衆國ノ木材供給ハ大約三十年ヲ出ズシテ消滅スベシ」云々

(チ)最近米國東北林業試験場長ドクトル、サミエール、デー、ガーナー氏曰ク「米國ノ森林面積ハ二億二千二百万英町、其蓄積ハ七百八十億、一ヶ年ノ總生長量ハ約六億石ニ過ギサルニ一ヶ年ノ伐採量ハ約二十億石ニ上ツテ居ル、故ニ米國ノ森林ハ總生長量ニ比シ年々約二十億石ノ過伐ヲシテ居ル、此分ニテ進ノバ今日三、四十年後ニハ全土無森林ノ狀態トナルベシ」云々

(リ)米國ノ林業ニ就テ造詣ノ深イ帝室林野局、岡本技師曰ク「米國ノ伐木曲線ハ何ノ地方モ急激ニ升



而シテ急激ニ下ツテ居ル。今日全盛ヲ極メテ居ル太平洋沿岸森林ヤロッキー山附近ノ高地森林モヤガテ急下ノ時が来ルニ相違ナイ。即チ大低下ヲスル時ハ二十年ヲ出デヌデアロシ云々

(2) 米國ノ森林が前記ノ如キ危殆ニ類シテ居ルニモ拘ハズ何故早ク伐採ヲ制限シナイカト云フニ、森林ノ大部分ハ大會社ノ所有ニ歸シ、彼等ハ既ニ大資本ヲ投ジテ大架沙米ニ伐木スル設備ヲ爲シ、俄ニ之ヲ縮メ得ナイ事情ニアルカラデアル。例ヘバ太平洋沿岸ノ森林四億七千万英町ノ内三億七千万英町ハ私有林デアル。即チ私有林が七割九分以上ヲ占メテ居ルカラ政府當局ト雖制限ヲ加ヘ得ズニ居ルノデアル

(3) 然ラバ米國ノ造林事業ハドウカト云フニ一九二三年迄ノ人工造林面積ハ百四十四万八千餘英町ニ達シテ居ルが其七割五分ハ農業者が防風ヲ主目的トシテ植付ケタルモノデアルカラ、將來ノ林産供給上カラ見レバ殆んど云フニ足ラナイデアル。要スルニ米國ノ人工造林ハ勞賃高クシテ經濟上引合ハナイデアルカラ材積ノ著シク昂騰スル迄ハ積極的ノ造林ハ望ミ得ナイデアロウ

以上ノ如ク考察スルトキハ之ヲ日本ニ就テ考フルモ又東洋全体ニ就テ考フルモ將來木材ノ供給上ニ大不足ヲ來スコトハ何等疑フベキ餘地ガナイ。既ニ大不足ヲ來ス以上勢ヒ材價ノ昂騰ヲ見ルベキハ必然デアル。尤モ材價ニシテ昂騰ヲ見レバ之レヲ不引合ナリシ奧地ノ林木中比較的良好ノ部分ハ伐採利用サルベキモ

不足ハ一再ニ留マラス迫リ來ルニ相違ナイ。即チ補ツテモ補ツテモ又不足ヲ生ズルコト必然ナルヲ以テ材價ハ昂騰ニ次グニ昂騰ヲ以テシテ僅ニ需給ノ調節ヲ保ツニ相違ナカロウ。從ツテ木材ノ飢饉ハ十五年ヤ二十年ヲ來ルモノト考ヘナイガ、將來ニ於ケル材價昂騰ノ如何ニ急激ナルカハ推察ニ餘アルト信ズル。既ニ材價ニシテ昂騰シ行ク以上森林價格モ之ヲ伴フテ昂騰スベキハ當然ノ歸結ト謂ハネバナラヌ

之ヲ要スルニ内地府縣ノ森林蓄積ハ四十億石ニ過ギサルニ最近五十年間ノ平均需要量ハ約二億石(立木材積)ニ上ツテ居ルカラ内地ガ自給自足スルモノトセバ近イ内ニ木無國トナラネバナラヌ。故ニ年不足額ノ六千万石ハ何ントカシテ之ヲ他ヨリ補給セネバナラヌ(加フルニ此不足額ハ年次递增スル)然ルニ臺灣ト朝鮮ト北海道トハ大ナル補給ノ餘力ヲ持タズ、樺太モ亦大ニタ餘力ガナク滿洲、西比利亞亦前記ノ通り、北米材ノ餘力モ亦前記ノ如クデアルトスレバ全ク心細イ次第デアル。尤モ加奈陀ニハ相當ノ餘力アルモ、之ハ將來英米兩國其他ノ歐洲各國ト合衆國及南米ニ出スガデモ不足ヲ感ズルニ相違ナイ。斯ク世界ニ考察スルトキニ亞弗利加印度方面、支那及滿洲地方ニ於ケル將來ノ木材大需要ニ對シテハ何處カラ之ヲ供給スルデアロウカ、世界の木材價格ノ大昂騰ハ決シテ遠イコトデナイト考ヘル十五年後、二十年後ニハ必ズ暴騰スルコト疑ヒナイ。若シ夫レ三十年後五十年後トモナラバ更ニ幾何級のニ昂騰



スルコト必然デヤロウ、故ニ余輩ハ最安全ニシテ最多利ナル投資ハ林業投資デアルト確信スルモノ  
デアル。

朝鮮教育制度新改正並に内鮮人  
共學說に對する朝鮮人有志の意見

京城 朝鮮思想通信社



贈

呈

秘

京城大漢門前

朝鮮思想通信社



## 凡例

一本書ハ今朝鮮總督府ニ於テ發表シタル教育制度改正案  
並ニ朝鮮中等學生共學說ニ関シ朝鮮人側有志ノ忌憚ナキ批評  
或ハ之ニ関スル希望ヲ取纏メ、爲政當局ノ參考ニ資スル爲編  
纂シタルモノナリ。

昭和三年五月一日

編者識



# 目次

學校教育と家庭教育が合致せぬ朝鮮青年より文弱の弊を去れ  
 共學反對の三理由  
 運用宜しきを得ば共學も亦可也  
 軍事教練の軍事は戦争を联想せざる  
 普校四年制は半身不隨の人を造る  
 共學は差支ない。布哇でも行てさる  
 日鮮人の共學は實施不可能あらう  
 今田の改正には賛成する  
 當然改正されるものか改正されるだけ  
 一人の學者を出さう百千人の文盲を治せ

天道教宗法師	崔	1
普成専門校長	朴勝	4
私立中東校長	崔奎	5
朝鮮全支副會長	許憲	8
セフランス医専長	オー、アール、エビソン	12
延禧專門校長	具滋玉	16
基督教青年會總務	エッチ、デイ、アベンセラ	18
培材高普校長	李仁	20
辯護士	尹致昊	23
基督教青年會會長	洪命憲	27
新幹會總務	金美理	28
權花女學校長		



共學は日鮮融和を自ら破壊するもの	天道教宗理師	李鍾	29
日本人は六年、朝鮮人は四年	朝鮮日報社長	韓基	31
共學恐るるに足らず	中外日報社長	閔泰	33
日本人の優越感と朝鮮人の奮慨心	東亞日報社長	宋鎮	35
今回の改正案は何れも喜ばしき計劃	セラニウ書寫室	吳兢	40
ケテ具々といへば義理あやまし	啓明根業部	崔南	45
朝鮮民衆を救ふ二大名案	同民會	沈友	48
同化政策の一段として教意を表す		曹東	49

教育制度改正に対する朝鮮人有志の意見

學校教育と家庭教育が合致せぬ

新總督が教育改善に着目したは甚だ賢明

天道教宗法師 崔 麟

私は朝鮮教育方針の全体に就いて不満と不足とを感じてゐる者である。朝鮮教育令を見れば國語を常用する者の教育機関は小学校、中学校及高等女學校とし之を常用しかる者の教育機関は普通通學校、高等普通學校及女子高等普通學校とに區分して居るが、先づ初等程度教育方針の運用



用より見て其が故である。といふのは凡そ小学校教育なるものはこの基礎となるべき家庭教育と学校教育とが互に表となり裏となって始めて完全なる教育となるのである。然るに制の上の法に於いては國語を常用せざる即ち朝鮮語を常用する普通学校の校長が殆んど日本人である爲、その校長の口より『お前達には日本臣民として忠良なれ』と教へるに反し彼等が學堂が家庭に帰れば、その親は『それは先生のお話が間違つてゐる。お前は決して日本人ではなく朝鮮人である。先生のお話を信じてはいかぬ』といつて先生の教へたことを全然破壊して仕舞ふ

のである。——その結果はどうなる？——兒童の頭には幼い時から民族的競争心が培養される。のみならずその兒童の頭は非常に混亂して完全なる教育を受けることが出来なくなるのである。

聞く所に依れば總督府では中等校より内鮮生徒の共学を實行する計畫であるさうだ。成程日鮮融和といふ美辭たる趣意の下に教育より差別を撤廃して所謂内地延長主義に依る同治を試みんとするには緊切なる一の政略かも知れない。併しこれは朝鮮人の家庭が日本化即ち日本に同化しない以上決して不可能のことであらう。殊に貴重なる國民教育を或政略の爲に犠牲にする



ことは純然な對である。依然として教育は教育として獨立不可混  
びなくてはならない。而してこの不可能のことを強行するその一面に  
起る弊害は實に大なるものがあるのである。

軍事教練實施計畫に就いては私は杜撰である。といふのは  
人間は殊に我々朝鮮人は今少し規律ある生活が欲しいから  
である。尚ほ餘り朝鮮人は文弱に陥つてゐるから今少し武強  
にし訓練する必要がある。唯其運用を善用すれば必ずし  
も悪いものとは思へない。

其他總督府に於いて實施せんとする朝鮮教育機關の擴充

の如きは當を得たものと思はれる。即ち成規の教育を狭く厚く  
く施すより簡易の教育を廣く薄く普遍的に施す方が目  
下の朝鮮に於いて適切なる應急策と謂はねばならぬ。私は  
洋行から歸つて今尚目下で詳しいことはよく知らないが、  
新總督が施政の第一歩を朝鮮教育制度の改善に着目し  
たことは甚だ賢明な進り方のように思はれる。尚聞けば總督  
府では朝鮮小中夜に農業、低賃を融通する制度を設けよう  
であるが是れ又至極結構なものである。併し私は往年地方金  
融組合設立當時の事が想される。といふのは當時金融



組合設立の際に於ける當局の聲明は農村住民に産業資金を融通して大に産業並に經濟の向上促進を期すると稱したが、今日に至って金融組合は果して如何なる役割を演じつゝあるだらうか。産業經濟の促進向上はさて置き實は金融組合の儲金の爲に破産者を誘致する傾向が少くないではないか。總てはその運用の善悪にあるのである。故に教育問題といはず金融問題といはず只單に如何に善美なる施設、計畫、方針を樹て且之を實行するにしても結局その運用にして巨款を得る場合に於いて

はソは徒らに民衆を利と爲るのみならず却つて害毒を<sup>四</sup>與ふこととなるのであるから將來運用を誤らざるやうにするだけの研究を充分に遂げて直ぐならば過失を再演せざることになるであらう。

### 朝鮮青年より文弱の辭を去れ

共學問題は其の真意の所在を知らぬ

普成専門学校長 朴勝彬

世間では朝鮮教育の改正方針が計畫されるといつて騒いびを



るやうであるが、私は之を刑段改正とも新方針でも何でも  
ないやうに思ふ。一言で言へば時勢に應ずる教育機関の  
擴充に過ぎないものである。併しこの就学難の甚だしい時  
に當り應急の対策を以て之が幾分でも緩和せられるに成  
規に依らざる教育機関を増設して呉れることは誠に適切  
なる方法と考へる。

其學問に就いてはその問題が至つて重大性を帯びてと  
るから輕々に判断することを許さない。私は先づ總督府  
の朝鮮統治の真意が那邊に存するや解するだけの智

五

識を持つてみない。それをよく確めた上でなければ之を批判  
することが出来ない。即ち其學の本趣が果して何處にあるか  
を知らないからである。軍事教練を朝鮮人生徒にも原則  
として實施するといふことは別に不可なきやう思はれる。それ  
は朝鮮人は文弱に侵されて結局露伍した民族であるから  
この文弱の弱さを駆逐する上に於いて一助となるだろうと信ず  
る。現状の如き情氣満ちたる朝鮮青年を以ては何にも彼  
にも出来る筈がない。故に私は學生に對して機會ある毎に  
モ一少し武勇なれと勵まして居る。單に話を以てはあ



若い者か他より侮蔑蔑視を受けても之に反抗する氣力や  
へ持つ若い者は駄目だといふたゝいのです。それ位の勇氣のな  
い者に何事も出来る筈がないからである。

### 共學反對の三理由

私立中東學校校長 崔奎東

今回總督府が發表した所謂新教育方針なるものは  
現在の如き入學難を緩和する上に適切なる應急策と思  
はれる。元來國民教育は成規に依りて國民全体に普及せ

六

ることが理想ではあるが朝鮮の現状特に財政的立場より見  
て少数の成規の教育機関を以て我慢するより成規のもの  
でも多く作つて多數の者に普通知識を與ふることが何より  
も緊要のことである。この意味に於て普通学校の修業年限  
を六年と理想として、今後出来るものは當分四年制に暫定  
するは敢て不可なしと信ずる。尚ほ其他書堂若は講習  
會の如きものも簡易國民學校制にして兎角教育を授ける  
ことは救急施設として機宜を得たるものと考へられる。殊に実  
業教育を第一層擴充せんとする計畫の如きはパシに反映する



朝鮮の民衆に何よりも當を得たる措置と思ふ。

其学制に就ては私はその制度の可否を論ずるより若し之を實施した暁には幾多の弊害雖出して到底之を継続することが出来なくなるだらうと確信してゐる。その弊害なるものは果してどんなものがあるかといへば

- (一) 先づ朝鮮人生徒には標準が低減されることである。之は教育用語と執い國語を以て統一し採用することになるからである。
- (二) 朝鮮生徒の抗爭心を誘發して往々學事上の不祥事を頻發することとを憂ふのである。之は中学校收容の生徒の年齢

が彼の専門以上の學校とは違つて血氣正に盛んならんとし思慮分別の力足らざる成年以前の者が多む爲である。七

- (三) 朝鮮人本位を難る、結果入學難と就職難を今より一層甚だしくすることがある。之は財政負弱なる朝鮮に於て今後當分間は中學校の普及希望の如く往かざることは今より豫想することか出来る。故に同じ學齡所有者に在りても執公多敷を占むる朝鮮人生徒の入學率は其の數に比例するときは少く少くたることを免れまいであらう。

依りて私は以上の三個の理由即ちその弊害ありて得る所なき



為之は実施不可を主張すると共に假へ實施しても永く繼續  
することが出来ぬことを断じたのである。

軍事教練實施問題は往年より懸案らしく朝鮮人の天賦  
の勢を矯正して今少し強させる必要あり、又は規律ある教養を  
授けるは必要であるかも知れないが、之が為軍國思想が鼓吹され  
且軍實の半に教育が支配される虞が甚大である。依て之は十二  
分に考慮を要するものと思つて居る。青年訓練所規程の朝鮮  
實施に就ては之を考究の必要があるものと思料する。といふの  
は青年の規律ある訓練そのものは前に不可なきも、之が為め日

本に於けるが如く國粹主義が随伴しては困るからである。然し之は  
あるに運用の問題であるからその缺點は之を輸入せざる様當  
局は留意して欲しいものである。

運用宜しきを俾は共學も亦可也

新幹會系城支會副會長 許 憲

教育の受けられないものは初等教育でも均しく授けろといふことは  
著標不足の爲め學識に達してをりながら就學し得ない畸形的  
現状と現はせざる朝鮮の現状に於ては誰とて反対しないであら



う。随つて今回總督府の初等教育機關均等案に對しては幾  
ら惡意を以て解釋せんとする者かあつても攻撃するの餘地がな  
いであらう。然し然りとて善美を盡したものと云へまい。先づ第  
一に著者増設と共に「四年制を常例とす」とあることに少からず  
不満を感ずる。飢へる者には一匙の食でも助けになる如く學問に飢  
へてゐる我々の身には例へば四年制にと云ふ善く教養するといふ点に  
就いては勿論好い計畫であり、ない方よりはあつた方が増しであるが  
生命を維持するに足る一匙一瓩の食で足る譯はない。故に例へば  
校でも増すといふことには惡意はないが四年制を常例とすとい

ふ点方には聊かその惡意を疑はざるを得ぬ

今日は知識の競争時代で知識ある者は勝ち知識ない者は  
負け知識ある民族は強き知識なき民族は衰へる。日本の今  
あるは全く政策に劣らぬ文化の向上に依るものである。然るに現在  
朝鮮人の民族的教養は如何なり世界にその類のない程貧弱  
である。朝鮮人が世界人類の一分子であり朝鮮民族が世界民  
族の一員たる以上朝鮮人も生存競争に参加せねばならぬ。存  
続競争せざるを得ない。世界の人類と生存競争をするには競  
争するだけの力量を有せねばならぬ。この力量なるものは即



ち世界に伍するだけの文化向上を圖らねばならぬといふことに歸着する。だから実力を養ふ上に於て初等教育の四年制常例といふことは世界の大勢上から見て、将又人類の生存競争上から見て大いに存許せねばならぬ。之を一言にして蔽へば六年制を常例とすると共に一面一校制を實施せよと注文したい。しかし之は當局者に於いても事情があるからであらう。又第二第三計劃があるさうだから餘々と事情の許す範囲内に於てこの精神に則る教育方針を樹てられむことを望む。この擴張案に伴れ余の當局者に聞きたいとは朝鮮人教育を如何なる精神の下に施

しつゝあるかといふことである。詳言すれば神聖なる教育を本位として施しつゝあるのか、又は朝鮮人を使役者たらしむべく勞務本位の教育を施しつゝあるかといふことである。

朝鮮民族に於いて最も問題の多いのは日鮮人間の問題である。この問題は何れも朝鮮民族に於いては重大問題である。而して之は朝鮮人の文化が日本人程進んでゐないから起るのである。朝鮮人は弱く日本人は強いからである。そして日本人の頭に劣るに優越感が宿つてゐるからである。これだけの等差が必然たる以上兩民族の間は決して圓滿を期することは出来ぬ。若し朝鮮人にし



て實力があり、教育があり、文化が向上し日本人と生存競争が  
出来、進んで欧米人とも生存競争が出来るときは其  
時こそ朝鮮人は苦存苦強まること出来る、今までの總中の問題  
も自然氷釋するだらうと思ふ。若しこの原則を没却して日本  
人は依然強者の地位に立ち朝鮮人を依然弱者の地位にとらしめ  
低級の學問を授け、只使役者とするに便する教育に止めるならば  
日本人の所謂融和なるものの期し難きは勿論兩民族間の衝  
突は永久に絶えなひであらう。故に淺ましい政策的精神を棄  
て、真正なる精神の下に朝鮮人教育に當らむことを望む。

十一

次に共学制に就いては余は未だその論議するだけの材料を持て  
ないが併し當局者の運用方針如何に依るだらうと思ふ。その運用  
用さへ宜しきを得ば共学も亦可なりであり若しその運用を  
誤まらば乃て弊害の俾ふことは勿論、朝鮮人に對しては尤も  
き問題になるだらうと思ふ。といふのはこの共学制に依り朝鮮人  
學生の入学率が共学制実施以前より少く中等學校卒業生の  
緩和は極めて重きこれが爲めなつて朝鮮人中等學生が逐はれる  
かゆきことあらば所謂共学制なるものも大に存続せねばならぬ。  
故にこれは當局者の運用方針の如何を見、然る後その利害



を計算して是非を論ずべきであると思ふ。

朝鮮人中等生に軍事教練を施すことは大に賛成である。その利用方面の如何は別問題として朝鮮青年も軍事學を習つて置いて悪いことはないからである。否大に必要である。軍事教練なるものは決して軍國主義や帝國主義等の侵略主義を意味するものではない。軍國化しないにしても軍事上の知識だけは覺へて置く必要が確にある。米國の如き國に於てすら中等校に全部軍事教練を施してゐる。世界中唯朝鮮青年だけが之を知らないのである。之を知らうとしても知る機會が恵まれて

十二

みなかつたのである。覺へて置くには利用する時があるであらう。個人的に見ても民族的に見ても確に必要である。故に余は大に賛成する次第である。

要するに我々の進むべき道は唯實力養成である。實力なくしては生存競争に於けることも出来ず、民族的に自立を圖ることも出来ない。この實力あればこそ總ての運動が出来るのである。然るに當局に於て普通教育を擴張したいに民族的教養に着眼しなことは余の主張する一端と合致するのであるから全國の改正に對し概ね賛成する次第である。



# 軍事教練の軍事云々は戦争を聯想させる

家庭を異にする教員の教育は果して完全か

世富匠専及近藤専門校長 オールエビンソン

今般總督府に於て教育方針を改訂し朝鮮人の文化を促進せんと試みつゝあるのは甚だ喜ばしいことである。先づ普通教育の制度を改訂して従来六年制の原則に四年制の例外を設けんとすることは、一見退化したる方法なるかに考へる人が居るかもしれないが、當局の本旨は決して左様なものではなからう

と思ふ。といふのは現状の如く不就学児童が年々激増して之が殆末に困る此の際、不規則の教育機関でも追々増設してより多くの者に普通教育を授くることは應急施設として適當なる方法と謂はねばならぬ。即ち五百万人に六年教育を授くるより、一千万人に四年教育を授くる方が其數に於て國民教育の程度を向上せしむることになるのである。故に私は斯る應急的対策を以ていもヨリ多くの者に國民としての普通教育を普及させることは非常に意義あることと思ふ。

次に普通学校卒業者と入学程度とする實業教育機関



を擴充すること由、それだけ教育期間が長くなり、尙その量が  
多くなって國民の教育程度向上するのみならず、産業教育に依る  
生活安定を得ることになるであらうから是非適切なる施策の如  
うに信ずる。又書堂教育を改善して普通教育をなほくることの  
出来ない者等を救済するといふことも大いに精意を要する次第  
である。往年總督府に於いて朝鮮人の書堂を廢止する計画  
があるといふことを聞いた私は當時大に反対したことがある。それは  
千字文へ知らないものも多く作る結果になるからである。日々の生  
活に困つてゐる多くの朝鮮人に今直に費用の餘計掛る普通学

十四

校へ子弟を通はす如きは一般に見て難いことである。故にその制度  
や教育の方針は不完全といつてもそれなへなくなすことは餘り残酷  
である。書堂教育をなほくる間に家庭の環境が良くなれば書堂  
より普通学校へ移る者が多くなるであらう。

次に總督府が計畫するといふ日鮮人の共学問題は教育問題と  
政治問題とが并行する重大なる問題である。私は政治問題に就  
てはその可否を論じ難くないが少くとも教育が政治問題の一部を  
爲す以上之を全然知らぬものと云ひ難い。故に私は教育者であ  
る立場より教育問題を中心として一言して見たい。先づ私は共学問



題を批判するに先づて第一に問ふたいことは、共済会の教育用語は、日本語専用であるか、又は朝鮮語混用であるか。若し日本語専用であるならば、現在高等普通学校に在学する生徒が、朝鮮語を以て教はるか如く便利であらうか。教育用語が被教育者の能力を支配することは大なるものである。(記者曰、中等学校に於ける用語は、國語に定まるもの、初等学校等に於いては難解の語句等を教師が朝鮮語を以て詳細に説明し與へることあるが故に斯く難いものなるべし)而して教育は被教育者をしてよりよくその能力を發揮せしむること、何れも大事であるからである。この用語の問題に就て附

随して考へねばならぬ問題である。

十五

第二に知りたいことは、以上に依り教育に付する機会を朝鮮人に與へるとするならば、共済會施設後、その當該中学校の教育は朝鮮人を主とするか、日本人を主とするか、若しその資格者の有無又は多少に依りて日本人を主とするせば、假へ純然たる家庭教育に依りて中学教育が左右せられないにしても、家庭の環境を思ふに、教育の教育が果して完全なる結果を得るであらうか。之は人間はその家庭を離れることが出来ぬからである。以上は、あるに共済制のものか、朝鮮人の爲にすることであるか、又は日本人の爲にすることであるかの



根本問題に係るものである。併し私は教育者である故政治的問題に就ては彼れ是れ論議する自由は無いが唯教育的見地より見るも其學は以上述べたる如き疑問が續出するのである。

次に軍事教練問題に就ても單純なる教育問題に止まらないうに思はれる。といふのは生徒の體育を奨励し、規律ある教養を授くるには軍事教練に依ることも必要の方法があると考えへる。單に體育問題とか規律問題にあるとせば、何故に軍事といふ変な名称を附するのや。その名称より見ても之は明かに軍國——戦争を联想せしむることになる。同じ教員の内一人の口からは平和なれと説

十六

其他の一人の口からは國防を十分にはねばならぬ。萬一の場合には戦いをも辞せずといつてをては大いに矛盾して来ることになる。若し名称の示す如く軍事即ち戦争を豫想しての教練であるならば我等は反対である。併しその運用に誤りなく唯體育の奨励の意味なら朝鮮人も大いに体を鍊り強健にする必要上、日本人学生と同様の教練を受ける正か否かであらう。

普通四年制は半身不随の人を作る

中央基督教青年會總務 具滋王

共済制の實施に就いては私は何事も教育用語を朝鮮語に



リ日本語に轉換することからその眼目である。夫れは日本語が學  
課として價值がないとか又は不充實なものだとのことでは無い。所  
謂乳飲<sup>乳</sup>の言葉集を讀むと他の言葉集を以て學課總てを教はつて  
行くには二重三重の負擔と勞力とあることの結果は生徒の能  
力に低減することになる。(記者曰、其氏の用語を朝鮮語より日  
本語に轉換することから云々且ビソン氏に於ける記者の註と同  
様なり) 斯は或る日鮮人が其學してゐる學校の職負より聞いた話  
があるが、朝鮮人生徒の能率は日本人生徒に比して一概に優つてゐるか  
唯言葉が日本語である關係上非常なる苦心と勞力とを要するが如しと

十七

いふことも、全く左様である。彼の專門以上の學校の實際を見ても  
入學當時即ち入學試験には朝鮮人の成績がよくないが一旦入學  
後學年成績は日本人より又ト優つてゐるのである。現在に於て  
も言葉集そのものが原因となつて專門學校の入學高下を低下し  
つゝある次第中學校進も其學にする時は中學校の入學難む亦  
従つて層一層甚だしくなることは明白なる事實である。其他に於  
ても種々の弊害ありて利益なきは明かなことであるが、先づ以て  
朝鮮人に不利なるは教育用語に依る損失が大である。

軍事教練實施問題も亦政府である。今日世界に於ける



基督教國家の何れも軍備と戦争の歴史を持つてゐるが元  
来戦争を豫想する軍備は基督教義に反するものである。  
文弱を駆逐するとか規律ある教養を授けろとかいつて之を歡  
迎する人も居るが如く見ゆるが我等は軍備と戦争を反対する  
當然の結果として軍国思想を鼓吹し易き軍事教練も勿  
論反対する。

普通学校の修業年限は六年を理想とし今後設けようも  
のは四年を常例とするといふことは我等は反対する。といふのは若  
し六年を常例として四年を暫定的とするなら兎に角、四

十八

年を常例とすれば四年を修業した者は如何にせようといふこと  
か。強いて二面一様にして六年制の学校を設置して四年修了者  
を收容すればいかに知らず、四年修了者がそれ以上就学の途に絶  
へるなんか實に不合理の極である。故に我等は當局が教育に着  
目することは良いが如斯半身不随的の施設には反対である。次に  
日本に在る青年訓練所の規程を朝鮮に施行する計畫を報  
じてゐるが、私等はその規程をよく知らない故に批判する限りにな  
いが、彼の日本の如く之が爲め國粹主義が横行して時々愛国者を  
振ふかめきとか附随して入つて来はしまいかと憂慮してゐる。



共学は差支ない。布哇でも行つてゐる。

市中にも朝鮮人生徒が大分居る。

培材高等普通学校教 工、デ、イ、ア、ベンセウ

総督府が不軌学児童を幾分取りともより多く軌学せしめ  
且又は活の爲にする教育も擴充せしめるとは適切な措置  
策と思ふ。故急策を爲さねば種々不自然、不理想的のことも多  
うであらうが、之は當止むを得ざるものと考へて置く。

日韓中等校生徒と共学制によつてといふ話があるが、之は政治的に重

十九

大なる意義を有してゐる。私の如き純然たる教育者の立場に居る  
者は之が可否を批判する自由はないが政治的意味を離れ  
純なる教育的方面より見れば日韓人を共学せしむ別に支障は  
ないからうと思つて居る。彼のハワイの如きは小規模教育より共学制  
を取つてゐる程である。今日でも市中の如き学校には朝鮮人生徒  
が混在して居るやうである。尚ほ何時か本校にも一人の日本人生徒  
の入學志願があつて入學を許可しても何ういふ難か道に登校は  
しなかつたやうな事もある。然し總算のまは單純なる教育的  
方面より見ても共学そのものは政治的に重大なる意義を有する



出来ぬものである。話の筋は申上げるが私が西友門外は慶應に  
て居つて頃丁度その前に朝鮮人の小供と日本人の小供とが  
毎日来て睦むく遊んでゐる。それが如何にも同民族の小供の如う  
に親和の氣分が漂つてゐる。是非を見ればお前達ほ外では仲  
よく遊んでゐるが家に帰つて遊ぶ時はその睦むくが大半失はれる  
だらうと獨りて考へたことがあつた。果してなることではあるが此の天真の  
爛漫な小供等のことが全面の真理を有つてゐるのではないかと思ふ。  
これは餘談であるが近年朝鮮人は多く東京に留学するがその

二十

人事が歸つて来ると時は大昔朝鮮語は忘れて来たかのやうな変  
な聲を出す者も偶々見る。何にか爲朝鮮固有の言語そのもの  
のさへ之を棄て、来る必要があるであらうか？

次に軍事教練実施に就ては私は年来反対である。よく世間で  
は体育と武藝と教練とを培ふ爲に必要だと稱する人があるが、軍事  
教練の如き百害ありて一利なき方法に依らねども他の方法で  
幾らでも体育と規律とを培養することから出来ると確信してゐ  
る。之がけは別に政治的意味の伴はないことであるからハッキリ  
と反対を聲明して置く。



朝鮮人の苦學は實施不可能であらう

辯護士 木子

仁

朝鮮に於ける中等教育機関を中學校に統一し、進んでは朝鮮生徒の苦學制を實施する計畫がある。新聞紙は報道してゐるが、私の所見では中等教育機関の名称を中學校に統一することは之易々たるべしと考へるが、併し朝鮮生徒の苦學は到底實現不可能のこと、確信してゐる。世間では苦學を實施すれば種々の弊害が生ずるから反對するといつてゐる。即ち苦學を

三十一

實施する曉には教育用語が日本語を專用することにあり、朝鮮生徒の負擔が重くなつてその結果結果が低減されるとか、又は朝鮮人の中等校入學難が一層甚かしくなるとかといつて反對してゐるが、之を以ては苦學制そのものを反對する理由とはならない。この理由は全く格葉に過ぎないものである。若しこの理由の如きを以て實施不可能と唱ふるならばその制度の實施後に起る所の運用の問題に歸着すべきである。即ち運用に入直しを得ばその弊害は除けらるべしやも知れないが、私としては先づいふ他に重大なる障礙があつて絶対に實施不



可能の根本原因があると思ふ。といふのは先が朝鮮人の家庭と日本人の家庭とが異なる當然の結果として朝鮮人の家庭教育と其後の朝鮮人生徒に対する学校教育とは全然相背馳することがある。言ふまでもなく学校教育は家庭教育を基礎として師長たるべきものである以上、家庭教育を同様にする時は学校教育が家庭に入りて破壊される結果になることは理の當然である。次に生活の様式が日本人相異なる當然の結果として相異なる生活を営む者の教育が立派に行はれて行く筈がな

いのかならずなつて害毒を贈ることになる。之は教育が人間の

二二

生活様式の如何に支配される當然の帰結であるからである。其次には環境の相異なる環境が人間の全的を支配する以上、教育の升がその支配より離脱することが出来ないことは勿論である。然らば日本人と朝鮮人とは第一に於いて家庭が異なり、第二に於いて生活が異なり、第三に於いて環境が異なるにも拘らずの家庭、その生活、その環境と密接不可分不可離の関係にある教育を相異なる家庭、相異なる生活、相異なる環境を以て居る者と共にせやうといふことは恰も水田作と畑作とを同一の場所に於いて同一の方法を以て植付けやうといふことと変わらない。



現代の教育が獨逸教にレコードを吹込るが如き一種の吹込教育なるを脱せよ今日に於いては國民教育を無視し若くは學校教育を無視し無意味も甚しいことである。教育者の立場に居る者から見ればその吹込が完全に被教育者の頭に打込まれるものと皮相的信念を持つてゐるかも知れないがその實十分の一若くは百分の一が入るに過ぎないものである。現在朝鮮人の教育が半開の隨であるとするならば、其後進に於ける朝鮮人の教育は愈々全身の隨となるであらう。

軍事訓練問題に就いては朝鮮人の文弱の弊を矯めて今少

二十三

し武強ならしめ、又不規律なる生活様式を規律化せしむる上に於いて一冊となるかも知れないが、之が為軍國主義が鼓吹され軍容の跋扈を見るが如き弊害が伴つて来ることを憂ふ者である。然し是は一利一害のあることで刑に政治的の意義はないものばかりその運用に万道満ちるを期すればさしたる大害はないものと思料する。

其他總督府に於ける普通教育及實業教育並に簡易教育に關する擴充計畫の如きは應急の施設として機宜を得るものと思ふ。目下の朝鮮人には緊急應急の仕事が



甚か多いが所よりむいの一番に着手すべきことは文盲者の  
の数を少くすることである。物の見える眼鏡を持つて居る者で  
さへ治さずして往々ないといつて驚かして居る今日、見える眼を  
持たないで何うして生きて行かれよう。

### 今回の改正安示には賛成である

強弱両民族が一教室内で融和する筈がない

朝鮮基督教青年聯合會長 尹致日天

總督府が教育機關の擴充を計畫することは甚だ喜ばしいこと

二十四

である。而して規下の學校の数を多くして不就學兒童を多少  
なりと緩和することは概算に通じて施設である。唯我々の懸念  
することは農民の經濟力がよくその費用を負担し得るかの問題  
である。子弟を學校に通はすのは今日の朝鮮農民に在りても何  
人も欲するであらうが先かその國の衣食に充ちる現状なれば果  
してこの應分以上の教育費を負担しつゝ學校に通はすことが出来る  
であらうか。併し今回の計畫はその足らざる所を國庫や文庫に仰ぐ  
積りでないから、どうなれば誠に結構である。

又實業教育と労働擴張すると雖も、之は普通教育の



擴張よりより良きことである。今日朝鮮では都府を問はず各  
な家計を弄いて普通学校は修了させ、それ以上の学校は入ら  
ざる実力なく、遂に施設不足の現状であつてその父兄達はその  
果に就いて痛く心配して居るのであるから、是等普通学校卒業  
者を入學程度とする実業学校を各地に設け、更に實際生活上に  
用ひ得る教育を授くることは甚だ必要のことである。

尚ほ總督府では從來問題となつて居る書庫を、今後改善して  
存續することに決して居るものである。勿論その制度や教育方法に  
對りては過渡期的不合理的ものがあるとするものゝ朝鮮の現状に

二十五

於ては万止むを得ることである。國家の經濟が普通教育を促  
けしめることへ出来ぬものには強いて書庫教育でも受けしめ  
ねばならぬ。而して尤も各々その姓名なりでも書庫を得る位にはせね  
ばならぬ。

其學問に就ては世論相當沸騰するやうであるが當局者とし  
ては所謂日鮮融和といふ大なる政策がある以上、斯様な計畫を  
國論見おのほ當然のことであらう。併し其學の結果は決してその本来  
の目的を達し得ざるのみならず、寧ろ今日まで教育でも益々上げ  
たものがあるにしても、今日の計畫はそれまでも根柢から破壊す



ることに存する者へ。此種民族と弱き民族と相接觸する所には一は優越感を持つに及ば他は之を憤慨する心性を持つに及ぶのは人間の天性自然である。この天性は人を以ては何れともいふことが出来ぬ。勿論政策や政略を以ては不可然のことである。されどこれは宗教の力をも以ても駄目である。神祕が人間の天性を激発せざる限り到底出来得ぬことであらう。假へば其學に依つて朝鮮の生徒が同じ場所でも勉強するに及ばぬ必らず強き立場より弱き民族たる者の自尊心が朝鮮人生活を経済するに至る。假へば経済せざるにしても傲慢なる態度を持つに至ることは明かである。之を

二十六

見る弱き民族の立場にある朝鮮人はその自尊心に拘はれて之を憤慨する。その結果は衝突を起して相互の不利益を招くに至るのである。感情の融和は甚く希き互に磨擦することになるであらう。併し是等優越感と憤慨心は相互意識的に発生するもので決して為す為に起るものではない。即ち人間の天性に基づくものである。故に日韓民族の間の文物が同等に進んで彼等強者の威が取除かれるまでは其學は実施不可然であることを確信する。世間では其學問題に就て或は教育用語を日本人に專用されるから生徒の能率が低減するとか又は入學難が一層劇しくなるとかといふ理由で反對し



て居るが、現在に於いても公立高等に於いては教育用語は強いて日本  
語を以て常用し居る状態であるから、若し學識と雖も別にそれ以上の  
苦痛を招くことはなからうと思つて居る。尚ほ入學難の問題の如きは  
要するに運用上の問題に帰着する。併し私の見解は若し學識に反対  
するといふよりも寧ろ之は全然不可能のことであると主張する次第である。  
軍事教練問題に就ては可否相半して居る如うであるが、私の見  
解では軍事教練なる名称に拘泥して之を直に戦争を豫想す  
る教練とは思はない。寧ろ軍人同様の体育と組隊を教練され  
る一の身体的科程の如うに考へて居る。故に朝鮮人の如き文弱の弊を

田系種々として居る民族、虚弱なる身体、所有者たる民族、不親和の  
内に沈溺して居る民族には、必ずしく武強をすべき途を講じ、強健  
なる体格を導へ規律ある教育を授くることは大に必要なることと思ふ。  
依つて之が實踐には精進を要するものである。

當然改正されるものが改正されただけ

新幹會總務幹事 洪 命 士 意

私は所謂新教育令に就ては賛成したくもなく反対したくもない。  
斯る施設は為政者として當然爲さねばならぬ施設であり、或は是



以上極限をわねたことであるからである。しかしその計畫なるものには異存もないにしても我々朝鮮人の貧弱な経済状態から見て將來その経済的の発展を如何に思ひ得るだらうかといふことは仲々の重大問題である。教書もよいことであるが食はす飲まぬには学ぶことも習ふことも出来ぬ相談である。今國中等學校に於いて日鮮人を共に學せしむるやうであるが之に就いて朝鮮人中には賛成する人もある様であるが私は絶対反対である。畢竟に反対なるの所ならぬ事實上有り得べからざることを思ふ。それは万が一利もないからである。當局者も此位のことは思つてゐるに違ひないが何かの必要から斯様な

三八

無理な政策を執つたとするものであらう。私はこれは近來頻々として起る同盟休學を防止する為の一の政策ではあるまいかと疑念してゐるが、それは目先のことの片考へて將來如何なる問題が起るかといふ所まで考へてゐないからであり、之を之を施行せしか當局者は遠くからして必ず之を後悔するの時機が到来するであらう。小供の喧嘩がよく大人の喧嘩になるが如く中等學生の日鮮人間には始終衝突が絶へないであらう。之は決して私の臆測でもなく何んでもない必ず事實としてその現はるゝこと、信ずる。そして本意の實施と共に直接我々に影響するものは朝鮮人生徒の入学率の減少であつて之は蘇て説明



するまで、もない。専門校の入学状況が既に之を明に重載書してあるのではないか。

軍事教練施行説が傳へられざるが、私はこの問題について彼れ是れ意見も述べたくない。彼等が強いと施さんとすれば仕方ないことであるから受けても我々に害になることはない。故に之にも反対せず概観成もしないのである。

一人の學者を出すより百千人の文盲を治せ

私立權花女学校長 金美理士(女史)

教育制度が改正され朝鮮人学童の爲め種々便宜が與へらるゝといふ

三十九

これは何れも喜ばしい消息であつて四年制は據て置き、三年制でも構はないから成るべく學齡兒童全部に均等の機會を與へられたいものである。一人の學者を出すよりも百人千人の文盲を造くした方がどれだけ今日の朝鮮の爲めになるであらう。

日本人と朝鮮人中学生の共学説もあるやうですが、これは実施されたいとして別段恐るゝに足らないであらう。といふのは朝鮮人自身が常々しつかりした精神を有つてゐるならば朝鮮人共学でも好いし、韓支人の共学でも善きありあつた。今日の日本は何事によらず欧米文明の東洋を模倣してゐるが、日本及日本人は此として欧米化してはをりませぬ。



これは日本人は何時如何なる時でも日本人としての魂を尊厳として有つてゐるからです。それだから今日われだけ蒙辱したのでありませう。故に朝鮮人も日本人の如く確乎たる自主的精神を有つてゐるなりは中學生の苦學位は何でも有ませぬ。此と處で、ことはありませぬ。我は確乎たる精神を有つ得るや否やの問題です。

其學子は日鮮融和を自ら破壊するもの

教育機關擴張は應急策として誠に結構

天道教宗理師 李 鎔 講

其學制の可否に就いては一言を以て断じたい。といふのは其學制を完

三十

施する理由として當局は植民地たる朝鮮と母國たる日本との差別を撤廃する——即ち民族を差別せざると同時に教育に機會均等を與へる——といふことを。成程その看板は真に美である。併し私は彼等に向ひていふ。その苦學制実施の本意は朝鮮民族を利せしむる爲であるかと。私はこの一言を以て蔽ひたい。之以上は何にも言ひたくない。即ち誠意ある計畫であらうか、誠意のない計畫であらうか。當局は日鮮融和の爲と稱して居る。併し如斯方法即ち術策を以て是れが成るものでない。その位の術策に乗せらるゝ朝鮮民族ではないのである。存つて是れが爲彼等の欲する日鮮融和は如斯き手段



の爲破壊されて行くであらう。即ち教育は進んで之を破壊せしめて  
る。阻止せしめてる。

軍事教練問題は私は良からうと思つてゐる。それは他人の知つてゐる  
ものは我々も知つてゐる。元氣があるからである。彼の人々は軍事に長  
じて居るが我々は全く知らない。知つてゐるは何にかなることであらう  
と思ふ。加之餘りに満ちたる我が民族の文弱の弊を剛直ならしめるの  
方法となるかも知れない。其他普通教育並に実業教育の擴充に  
就ては應急の手段として別に何かない如く考へる。といふのは朝鮮には  
今日も將來も二人の大人物の出現を欲するより二千万民衆の統制が

三十一

普通常識を持つやうにならねばならぬ。故に高等教育に  
力を入れるより普通教育に着眼して欲しむのである。朝鮮人は倭人  
人の家には使はねばせざる下男の小供でも五六才となれば千字文を教  
へることを知つてゐるが如く初等教育に對して昔から一の國民の義務の  
如く考へて來たのである。何も普通学校の制度が日本から來たもので  
なく小学校の真似でもない。次に生徒連中には徒意識を注入せし  
むるに実業教育を奨励することは當を得た施設と思ふ。以て  
て稱其中に在りといふが如き語は昔の觀念である。現代は今日學んで  
明日食ふべくならねばならぬ。故に生活を度外視する教育は形のみ



教育であつた外の教育を云ふことが出来る。教育は内外形実傳  
つて始めて其妙用を發揮し得るのである。

日本人は六年、朝鮮人は四年

そして中等学校で競争入学をせよは残酷だ

朝鮮日報編輯局長 韓基岳

朝鮮人兒童の就学難を緩和する爲の應急策として簡易な  
る二年制の学校を設け且普通通学校を四年制を常例として増設  
云々は見識に結構なるが如きも傳ふる所の日韓中學生共学説を

三十二

るものと結び付け、尚ほ其の裏面に入りて解剝的觀察を下す時  
は私は之は甚だ恐しい計畫のやうに思はれる。

之を單に入學難緩和の爲めのみの四年制普通校増設に止まるもの  
現今の初等教育の現状から見て大いに欠点のことであり我々も歓迎  
する所である。然るに四年制常例の普通校擴張と相待つて中等  
校の日韓人共学制を施すといふことは何なる方面から考へても朝  
鮮人の上級学校昇進の途が塞がることになる計畫としか解釋  
する外はない。同一程度の中高等学校卒業生の專門学校入学  
率を見ても明に日本人朝鮮人の比例に隔りがあるのに余儀は日



本人は六年の小学校、朝鮮人は四年の普通学校を卒業して来  
て同一の中等学校に於いて入学の競争をさせるなといふことは果して  
出来得るものであらうか、又競争し得ることであらうか、假令同一程  
度の学力を有してゐる場合にしても日本人と朝鮮人との環境を  
比較対照せば、経済力其他總ゆる点から見ても到底競争の出来  
ないものである。況んや之を一は四年とし一は六年の心算差ある教育  
を施すに於いてをや。

之が果して実施されたら自然の淘汰に依り今後朝鮮人の中等  
校入学者は益々困難となり益々減少するに至るであらう。若し此

三十三

局者にして余の觀察をして一屏の杞憂に終らしめ、政策略にあらが  
る真の教育精神の下に總ゆる方針を樹立しつつあるのであるならば  
余は潔く前言を取消し快く誤解を氷釋するであらう。あ  
らうに今後吾人は此等施設に對し十分の注意を拂つて往かね  
ばならぬ。

軍事教練は無害を得にしてその可成り論ずるに及ばぬ。故  
に敢てぬゝを要さぬ。

共 勉 子 恐 る る に 足 ら ず

日本人の学生の方が苦痛を感ずるだらう……



教育均等主義に依る著標擴張事業は至極結構である。完全な教育を施さむとすればその相應の教育費の負擔は覺悟の上でなければならぬ。國庫からや相當の支出があるであらうから其の餘りの分は或ら經濟力の貧窮を我々にしむるわけは承知せねばならぬ。『教育機關は擴張せよ、然し我々は現在以上の教育費を負擔することは出来ない』といふのは眞に無理な注文になりはすまいか。當分の計畫並案よりは斯る見地の上に於いて異議を持たない。當分の運用方法如何は注目を要することである。

又當分者としても朝鮮人を全部日本人化せしむる壯志があるか否やは知らないが、しかし教育そのものに就いては恐らく何の政策もないであらう。共学問題に就いては感情を避れての見方では可もなく不可もない。勿論朝鮮人入学率の増進を願ふ向もあるやうだがしかし余の觀察では當分の間は日本人の入学者がなつて朝鮮人入学者数より大いに少數であらうと信ずる。それは實際問題から見てさうである。而して名は例へ共学にせよ結局は自然日本人本位の中学、朝鮮人本位の中学と劃然たる區別が自づから生ずるであらうと思ふ。假に京城に於ける例を引くならば京城中学や新山中學に朝鮮人希望者の少いから



如く第一高学が第一高學は日本人の希望者か、それとも歴史  
然たる事実である。故に将来困るものは日本人の学生であつて云ふに  
云はれない苦痛を感ずるであらう。一体私は朝鮮人苦學なるもの文  
字すらも見えない。共學なるものは元來香ばしくない熟語であつた  
のである。軍事教練問題は大いに重要である。軍事的教練といふよ  
り青年の元氣振作上重要であらう。

## 日本人の優越感と朝鮮人の奮慨心

共學は融和を破壊するから喜ばずとも知れぬ

東亞日報社長

宋鎮禹

三十五

日鮮人の共學問題に就ては私は反對といふより、絶対に出  
來得ないことであるといふことを提唱するものである。共學問  
題を先づ政治的に批判すれば、總督府は日鮮融和といふ  
政策の下に想像する如うであるが、私は共學は日鮮融和  
といふより日鮮関係を疎隔するものと確信したい。日本と朝  
鮮とは先づ民族を異にし、歴史を異にし、文化を異にし、  
言語を異にし、家庭を異にし、生活様式を異にし、風習を  
異にし、其他總々を異にし、何一同一のものはない。その



總てを異にしてゐる當然の結果として第一民族的感情を異にしてゐるのである。然らば民族的感情を異にしてゐる西民族を混血せしむるならば、この西民族の感情は決して融合することなく却て相磨擦するに至るであらう。殊に各民族には各々相方らざる自尊心があつて互に負けず愧といふ性僻がある。併しこの自尊心は或る西族の文物が同位に在る時はそれ以上の現象は表はれない。唯互に相誇る位である。處が一民族の文物が事實に於て他の民族より劣る時は西民族の感情は自尊心に止まらず一步を進めて一は優越感――

即ち傲慢心を持つことになり――は對抗心――奮慨心三十一を以て對することになる。即ち日本民族對朝鮮民族の感情が之れである。日本民族は現在の榮達を以て朝鮮民族を侮であるが、朝鮮民族は過去の歴史を以て日本民族に對抗せんとする。その傲慢蔑視の態度には奮慨し抗爭せんと止まないものである。然るに如斯感情の相異を感情悪化の西民族の學子童を一室に入れて學業を共にすることは、雙方の感情を衝突させ、磨擦させるより何等得る所はない。總督府が今日まで幾何かの融合同化の實を収めたかは知らないが若



と共學を實施する。これは既往の收穫も全部流失  
することになるであらう。而してこれは夫とて一の理論的觀察を  
なくす。實に逆脚したことをある。彼の京城醫學子専門學校  
に於ける朝鮮學生の組合を何と見るか。その結果は如  
何であらう。大正八年萬歲騷擾の時分より今日に至る  
まで、朝鮮に於ける排日學生の数は彼の醫學を以て筆頭  
とするのではない。尚ほ朝鮮青年中日本留學生の内に排  
日思想がより以上強きことは何を語るものであるか。是等は  
は總て日本人の優越的態度を奮慨してゐる間に蓄成

三十七  
されたる抗爭心に基因するものである。互に接觸する際に得  
たる反感であるのである。況んや朝鮮に居住する四拾萬の日本  
人は朝鮮人には欠點以外何ものも持たざるもの、如くに見え  
り、朝鮮人にはコホといふ代名詞までも平氣で使ふその家庭を  
育てられた若者と朝鮮學童とを同一の教室に收容する  
に於てをや。尚ほ朝鮮に在住する日本人はその大半が役人に  
あらざれば豪商、地主である。然るに朝鮮人の大多數は貧  
困たる細民である。この相異なる立場を持つ二つの家庭より育  
てられたる小供、一は優越感を持ち一は自激心を起す便



利なる條件を有するものがある。故に私は以上の如き事實より立脚して、共學問題は政治的にはその根本より實施不可能なるべきものなるを確信してゐる次第である。總督府にして若し之れを發行せんか日鮮を疎隔する一の方法ともなることなれば其の點より見て共學手制の實施を我が朝鮮民族は内心歡迎するかと知れぬ。又共學手制そのものを教育問題より批判するに

第一 先づ朝鮮人生徒の能率を低下することになる。それは即ち教育用語と日本語を以て常用とすることになる

からである。如何に中等校の教育用語が大半日本語にても漢文英語等の如き課目は朝鮮語を以て教へた方が生徒の能率を本來の儘發揮させることと信ずる。日本では既に中等校の英語漢文科を廢止若くは半減するといふ説まで出て居るか之れは生徒の能率を増進せむが爲めである。

第二 朝鮮語科を如何にすべきの問題である。廢止するか存続するか存続するには如何なる程度の朝鮮語科を以てするが。朝鮮語は今後大に科學的に文學的に研究し大に朝鮮語學者の出現を期待する今日、日本人生徒



と共學する爲め、日本語に必要なる程度に於て日鮮生徒  
を同度には教授することは断じて不可である。

第三 朝鮮人生徒の入學難は今日以上に甚しくなることであ  
る。といふのは日本語を專用することになれば勢ひ日本語  
を乳飲み語とする日本人の生徒が入學試験に優位の成  
績を示すことは明白であるからである。

第四 朝鮮人生徒の立場が悪くなることである。それは共學後  
の教育は必ず日本人が多数を占むるに至るべく、生徒の取扱  
は自ら日本人生徒を主とする當然の結果として朝鮮人生徒

三十九

は恰も鯉子扱ひにせれるであらう。然らば共學とはいふ下らそ  
の實は日本人生徒を本位とする教育が施されることになる。  
勿論共學を日本人の立場より見れば大に歓迎するであら  
うが、併し教育の根本理想が被教育者の啓蒙に在る以  
上、同じ被教育者の内一はより以上の能率を發揮せし  
め、一はより以下に能率を低下せしめ、且又同じ被教育者の  
一は之を優遇し、一は之を冷待することは教育の原理に反す  
るものと謂はねばならぬ。依て私は教育問題より共學制を  
解剖して一から十まで朝鮮人の爲めにならないものであると



主張するのである。

軍事教練實施問題は、私の年來の主張である。それは

第一 朝鮮人古來の弊風たる文弱の弊を驅逐し尚武の氣風

を養成せしめ

第二 規律ある教養を授け

第三 整然たる体格を造る上に何よりも必要なる科目である。

世間では、軍事教養は軍國思想の涵養なりと貶して

唾棄する者の多いことは知つて居るが、國民に勇氣を鼓

吹し、勤勉力を培ひ、規律遵守の念を養ひ、体格を整

一することゝなれど、居る議論である。或る程度まで朝鮮人

には軍國思想も必要であること断したいのである。

其他總督府が計劃してゐる普通學校の一面二校制完成の

如き、書堂の改善、簡易國民學校併設の如きは國民教育

の普及から見ても、適正な道であると思ふ。元來國

民の普通教育は、之を義務教育月制を以て理想とすべきもので、

國民としては政府に之を要求する権利があり、政府としては之に

應ずる義務があるものである。朝鮮に未來を以て義務教育を實施

し得るは、其の責に任ずるし、總督府當局のみにあるのではないか。



當局としては大いにその理想を以て進めよう。新總督  
と新總監とは着任後目向は浅いか、その施政の内々於いて朝  
鮮人の好感を獲得するものがあるならば、それは今回發表の普通  
教育擴充計劃であらうと信ずる。

## 今回の改正案は何れを言ふべき計画

経費の不足を中央政府に仰ぐことは更に結構

セラス大醫學專門學校學監 吳龍善

總督府では最近教育方針改正の意あり普通學校の修

業年限は六年制を理想として、今後設立するものは四年制を

四十一

以て常例とすることを發表した。普校の修業年限は日本並に  
欧米各國の初等教育の實際に照し、之れを延長説へ擡頭  
しつつある此の際、之れを短縮せむとすることは進歩でなく退歩である  
と断ずることになるが、併し朝鮮の現状殊に財政的見地より見て  
毎年激増する學齡兒童を消化する方法としては少数の成規の教  
育機關を設立して一般的に普通知識を普及せしむること  
が目下の急を救ふ途として甚だ適切なる方策と謂はねばならぬ。  
然るに之に對し彼れ是れ非難する者か居るか、私は之れを淺慮



の甚だしきものと考へて置く。從來朝鮮の教育機關は僅少にして收容力貧しき爲め最下層にある普通教育に於ては大半はその恩典に浴することか出来なかつた所謂階級的教育であつたのである。二面に僅か一救といふやうなことは學子童を有する家庭では月謝や書籍代等の外に寄宿費までも支出せねばならぬ地方が少数知れない程あるのである。一個月一金五十錢内外の授業料さへ支分出来ない地方農民の家庭で月額十圓内外の寄宿費までも負担せしめねばならぬ現在の教育制度は是れ一種の特權階級の專用物でなく何であらう？然るに今回總督府が此

四十二

の朝鮮民衆の苦惱點に着目して兎に毎不就學児童を多少なりとも救済する計劃を樹てくれたことは誠に喜ばしいことである。殊に新設學校に對する經費の不足を中央政府の補助に待つと決意して呉れたことは歴代の總督、總監の曾て考へ及ばなかつたことで、その着目には實に偉い考へである。尚ほ今後共大に朝鮮の爲め朝鮮人の爲めに誠意と盡して施設して貰ひたいものである。

又實業教育の獎勵、書堂の改善、簡意國民學校等の計劃等にも機會を捉へた施設であると思ふ。朝鮮人の急務は生活の安定を圖るより外にない現状に於て、普通學校修了者



の遊民を救済する意味に於ても、教育と生活意識とを併行  
させる意味に於ても緊要のことと思ふ。書堂に就ては往年總督森  
は之を廢止する計劃を編んだことがあつたが、私は之れを絶對反  
對を唱へると共に其の改善を主張したことがある。取かしいことはあ  
るが朝鮮同胞の内には未だ己れの姓名を書き得ない者が澤山ある。  
即ち書堂程度の教育を受け得ない者が幾らもある程である。  
勿論書堂そのものの制度は原始的たるを免れないことは何人  
と雖も共認する所である。併し遺憾朝鮮の現状は直ちに  
之を廢止する能はざるを奈何にせん。愈直廢不可能となれば

四十三

不自然乍らも之を維持し、之を維持するには現制そのまゝでは  
不可であるから勢ひ改善せねばならぬことになる。從來に於ても書  
堂の改善を圖つたことなきに非ざるも、それは各地方々々思ひの儘  
に遣つたことで、全鮮的に一定の方針を以て改善の統一を圖つたことは  
ないと思ふ。

簡易國民學校といふ施設は朝鮮に於ては始めての企である故  
果して如何なる方法を取るか又如何なる成績を収むるかは豫断  
を許さないがその趣味が兎に角國民に智識を授け且又その修了  
者を以て成規の學校に轉學せしめ得る計劃であるやうに思ふは



れるのでそれを実行に於て是よりなるは甚だ妙を得た施設  
と言へ度い。

軍事教練實施問題の可否に就ては世間相當騒が居  
るやうであるが、私の意見としては實施すべき可きのみならず、其の必  
要を切認するものである。それはその補が「軍事」の二字に因は  
れるから直ちに軍備——戦争と聯想するからか知らず、か之れは  
餘り穿ち過ぎた解釋であると思ふ。それよりその教練の方法が軍  
隊——軍人に授けるものに類するを見れば良いのである。勿論  
我等も軍國主義と戦争は飽迄排斥反對する。而して軍事

四十四

教練をいへるため、或は軍國主義が注入され、又は軍憲が教育

四十四

を支配する虞があると論ずる人があるかも知れないが、それは運用  
の善悪問題であるのみならず假へる弊害があるとしても之れ  
を實施するため齎す利益には大きいものがある。といふのは第一に、  
朝鮮人の最も恐るべき文弱の弊を驅逐して今少し精神を  
武強に導くことが出来、第二に朝鮮人の最も忌むべき不規律  
の弊を矯め今少し規律ありしむること、出来、第三は朝鮮  
人の最も憾みとする体育不良の弊を苦正して今少し整健さ  
ることか出来ると信ずるからである。



中等校の朝鮮人共學問題に就ては過般來種々の議論行はれ反對する人が少なくなく見ゆゑ之れを全然政治問題に限定して解釋する必要はない。為政者は或は政策的意味に於て之を實施するかも知れなから固有民族性の一の共學制に依り全く破壊されるものとは信ぜられない。共學をしてもいなくとも家庭と公的様式並に固有の言語が相違する以上直ちに恐怖する必要はない。却つて朝鮮人生徒のためには便利であるかも知れる。専門校以上の入學難も大に緩和されるであらうと思ふ。唯要は運用の問題である。誠意存無の問題である。

四十五

その運用良しければ必ず排斥すべきにあらず。果して朝鮮人に誠意を持つた計劃であるならば大に歓迎すべきである。共學する果して朝鮮人を本位として、朝鮮人教育を多量に採用し、朝鮮人生徒を多く收容して真に朝鮮の文化を日本と同一線上に導く誠意があらはされて結構である。

ケチ臭いことはいへた義理がな

崔 南 善

朝鮮教育の改善は根本問題より始まらねばならぬ。いは



る『忠臣蔵』の型より出で、正々朝鮮人の理想を就  
かすければならぬ。噓と方便と誤魔かしとお座まりの教育より  
眞と正しき基礎とする教育本来の意義に立脚する様にな  
ければ區々なる末節は問題とするに足りないと思ふ。朝鮮人の民性  
が基調とされ、朝鮮人としての正しきが正とされ、朝鮮人本位の幸  
福安泰への知能的機會が授けられ、朝鮮及朝鮮人の當然の事  
業に順當なる導きとすべき教育とするの下なければ若干の改良を  
加へることも要するに朝三暮四のものたるべきである。  
實の問題もとりであるが量の問題も力論等間にすむけにゆかぬ。

四十六

殊に教育熱の印鵬今日の如く而も就學の設備が極僅かなる部  
を收容するに過ぎないので大部のものをして初等教育の関門さへ  
も窺はしめられぬ状態では多少なりとも之が緩和となるべき底のこ  
となればそれに對して賛意を表し且つ相當の期待を持たざるを得  
ないのである。當局今度の教育的機會均等の新計劃の如きその動  
機に於いてまたその方法に於いて幾多議論の餘地を有するものに拘  
はらず兎も鼻吾輩は一々の賛成を表したく思ふは矢張り知識的  
死線に彷徨する多くの者に一條の活路ともならはせざるからである。

今度の計劃に對する細評は今それを控へるか大體に於いて當局の



多年思惟の結果を思ひきつて發表したもので、星の文章真に、  
シシツレに加減に驚かされる。而してこれへは經費の捻出の途思はしからず  
幾年をかけて漸く實現されるとかされんとかするに於ては人を愚弄する  
にも程があるといふことになる。動すれば朝鮮人の負擔能力を云々する  
者があるが朝鮮人の貧乏さは今に始まつたことなどなし、日本が朝鮮と  
その將來の運命を引受ける當初に於いて朝鮮のことは朝鮮人の懷を  
あてにする積りであつたといへまいと、國土と政權とあらゆる機會機能  
を進上せられた今日の朝鮮人に教育費調達の經濟的機曾だや  
か恵まれてゐるを見るわけでもあるまいと、朝鮮人の負擔能力が暢

四十七

いふまではこの焦眉迫睫の問題を打つちやらかして置けると思へし  
まいし、何んで朝鮮人の負擔能力が問題とされるか寧ろ奇怪の感  
に堪へないのである。どうせ一度は何とかせねばならぬ問題、また問題の  
わりにそれほどの巨額を要する、さてもなし、當然、國庫負擔即時支  
辨すべき筈のものであると思ふ。なるほど朝鮮の豫算には年年相當  
の國庫補給があり無間の増額は出不得すといふわけが出るかも知らぬ  
が、現在の國庫補給が大體何に使はれて居るか、補給額はもとあり  
鮮内捻出の金額まで加はつて豫算の大部がそのまゝ棒給、土木その他  
で日本人の懷にはいさゝかともあつた事實であつて何程朝鮮人が



其の餘瀝に於ては、たゞその文化の生長の爲めたる  
運命の啓蒙の爲めたる、而して警察費と教育施設費の均衡如何を  
見よといふのである。

或は内地延長主義の感泣を強める。内地延長とは日本人の朝鮮移植、  
朝鮮に於ける職業的機會の日本人への取上、朝鮮價値の日本的  
轉換の謂ひなれば、朝鮮に於ける日本人には知らぬこと、それか朝鮮人  
に何んの交渉を持つてあらうか。或は文化政策の有難さを吹聴  
する。それか人心と世態とに蛇の生殺しの蛇の生殺しの蛇の生殺しを與へた以上何んの本  
質的改善を朝鮮及朝鮮に致しめたるであらうか。朝鮮問題は

四十八

そんなものではない筈である。朝鮮人に真と正しきの伸べを與へる  
以外に何んの虚飾も瞞着も許されぬが、西民族將來の眞の幸福を計  
するの朝鮮問題であるべきである。好んで保護者扶持者の地位を取り  
且維持しようとする日本は、大きく出て朝鮮教育の總體的建直し  
をするこの爲め、たゞ數百萬圓の端金が出し流れた義理やあるまいと  
思ふ。無い袖は振られぬといふが、それは朝鮮人のいふべきことであらう。  
吾輩はこの機會に於て差當りの問題として、朝鮮人教育費の全額國  
庫永年支辨を主張し、明日の問題として、正しき朝鮮人を造るに主義の  
朝鮮教育原理の確立を呼喚し置く。而してこれが朝鮮教育の合理性



重要なる所以であるといふべきである。

## 朝鮮民衆を救ふ三大名案

啓明學堂 沈 友 燮

今當局より發表された教育擴張案、細民金融機關設置案の如きは實に吾人として驚異の感を發せしむるものがある。今日まで朝鮮の施政と云へば所謂整頓充實治山治水の類に思はれたが今度の兩案は實に朝鮮人民を本位とする最も緊急且適切なる名案である。今日まで朝鮮人の林産興廢を殆んど度外視したる處に當局が於いて斯如き名案を考へ

四十九

ふべきことに對して却つて驚異の感を禁じ得ないのである。然しなから如何なる名案も實行しなければ駄目な案は出来ても實行するだけの勇氣と誠意がなくては只一紙の空案たるに過ぎない。既早漏れて聴く所によれば財務當局では豫算の關係で反對の意思を表したることなれば今急實行迄には相當な餘ゆ折があるだろう。實に朝鮮人のためなる案ならば必ず何かの故障があつて順々と進行することが出来まいかと思はれない。飽くまでも呪はれた朝鮮のことだから之れには總督總監及其の案の作成に努力されたと聞く福士學務課長の健康を祈る次第である。教育案の内容に就いては不足の言へる所もなきにあらざるも目下の執能心では先づ是れを満足せざるを得ないであらう。唯師範



學校の教材には實業方面の最も力を入れた教科とし初等學校の  
學兒童には始めから上級學校に進み得る者と然らざる者とを區別し各本  
人の將來に相應する教育を施して教ふものである。即ち上級學校に進み得  
る者は四年制とし、三年制も亦可雖普通の常識と産業とを重んずる精  
神とを養成すれば足りるのである。

### 同化政策の一段として教意を表す

同民會 曹秉相

今面總督府では統治上重要問題中の一つである教育振興策の封切を

五十

として鷄林の民に公表した。誠に當を得たもので之が新總督の立案とすれば山  
梨氏に教意を表して止まない。山梨總督は不言實行家であり之れは既に  
言を民に公表したれば一層の強き實行性を所有して居ると見なければなら  
ぬ。抑も國家は有機体なり國家を構成したる國民には國民として必要欠  
くべからざる道具を持たずとは今更贅言を要しない日常生活に必須なる  
知識と國民性の涵養是即ち國民教育なり。然るに朝鮮人たる國民に  
於ては今尚ほ如斯理由を説き且之を國家に訴へざるを得ないのを遺憾とす  
るのである。朝鮮人たる同胞中七割達は以上の道具を持て得ない否與へて居  
ない與へて就ての原動力たる資力がないのである。併し如何に朝鮮的資



力の不足を感ずるに國家としてそれを放任すべきではない。何となれば國家は有機體たるが故にその一部分の欠陥と雖も全体に及ぼさるはなかるべく、日本國民は世界列強の民として且又特殊な使命を有する民なり國民として不具なることを國家が豈放任すべきか。尚ほ國民相互間に於てもその均衡を圖るべきは國家上當然たるべきである。今回總督府の教育振興案が之に立脚したとすれば獨り教育問題のみならず併合の趣旨に則る同化政策の一段として見て大いに敬意を表する次第である。吾人は從來朝鮮人なる同胞にも均しく義務教育を施すことを主張して來たが今回の案は多少の距離はあるが目的點に到達する或は階段であるから漸次果加的に進行することを望むのみ。

五十一

案の内容を察するに初等教育の擴張、實業教育の改善、師範教育の改良等である。その擴張改善の意なるは今更贅言を要しないが、就中初等教育の擴張の必要は最速の如きであるが、それに次ぐものは師範教育の改善であらう。今全鮮に於ける初等學校教育中朝鮮人五人以上を相當する資格者は九牛の一毛たるに過ぎる状態にして教員素質の低下なるは驚くべき現状にして各級教育の内容の改善に大いに必要を認むるものである。茲に於いて初等教育機關を擴張して就學者中八割迄は收容し教員の素質向上を圖るべく師範教育の立案經營等實業教育中理想を除き實際を標し教育の方針を曰公民としての必要なる資質を向上し勤勞好愛の精神を



格興せしめ興産治産の志向を教養するに置かば最も適切なりと  
信ず。是等には要する經費中大部金を國庫又は中央政府に仰ぐことに立  
案されたるは朝鮮現下の經濟狀態に鑑み不止得方針を我れ同胞の全  
國民に訴へ速かに實現せられんことを望むと共に其の是れ一時の補綴策  
に止まらずして國家百年の大計たることを。

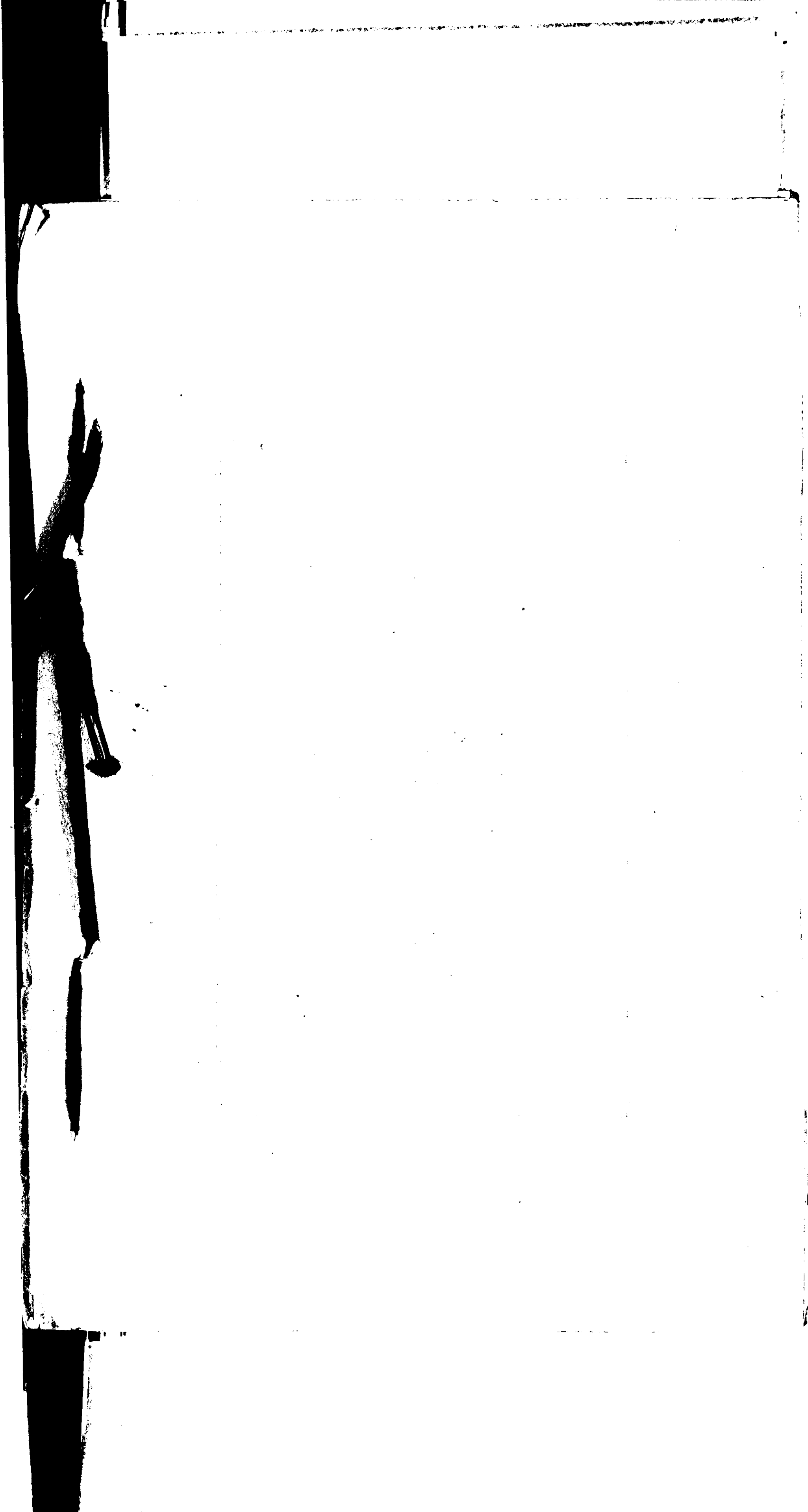
(以上)。

昭和三年五月一日

京城大漢門前

伊藤 藤 韓 堂







朝鮮併合四十年間の寡況概観

朝鮮は所謂東洋のバルカンとして東亞における禍亂の根原であつた。日本としては軍事上及び国防上の見地から併合するに到つた關係上之れを植民地として經濟的サク取の對象と考える。等の事をなく内地延長主義を根本方針として施政を行つた。低度な朝鮮を如何にして日本と同等に経済方面において日本よりれた。即ち經濟的の方面では併合当初は農、林、水産等原始産業の發達を図り大正及び昭和の年代に及び商工、地下資源の開發等近代産業の躍進を來たして遂次日本内地の經濟状況に接近せしめた。

又社会全般の方面では教育の普及、治安の確保、福祉施設の遂行等によつて民生安定し政治の方面においても地方自治に参與せしめると共に帝國議會に数名議員を出す迄に及んだ。

斯くして施政四十年間に一千三百万の人口が二倍に當る二千六百万に増加して經濟上においても安定した生活を営み諸般の状況が余程日本内地の状況に接近した際に終戦に際会した。

第二、併合前の状況

人口及び生活状況

人口は千三百万余

国民の大部分は素朴な農業による自給經濟でその生活程度は全く貧弱であつた。







## 第三

## 併合後の状況

- (イ) 内地延長主義で朝鮮を内地同様を域たらしめることを目標として植民地観念を採用しなかつた
- (ロ) これが為、漸進的教育文化産業の方面において日本と格段の差あつた為、漸進的な手段にてその進歩に従ひ逐次日本同様を制度を採用した
- (ハ) この漸進的な政策を採る為、併合当初莫大な国費を使い全朝鮮土地の調査を實行すると共に旧慣制度を調査し民度に應じた政策の基本を備えた
- (ニ) 産業経済方面
- (イ) 資本及技術を注入して開發を進め当初は農水産業の増産を図り水田の反当收穫も倍額にまで引上げた
- (ロ) 大正末から昭和年代にかけて商工、鉱業方面の發達を來たし日本資本を急速に注入した
- (ハ) 日支事變以來工業地下資源の開發は画期的な發達を來たした
- (ニ) 産業経済各般に亘る發達は植民地としてでなく朝鮮自体の發達を企図した即ち
- (イ) 米の増殖でも内地の米が余つて農民の苦んだ際でも増産を続け制限なく内地に移入せしめた
- (ロ) 戦時に日本軍需工業の必要上輕工業を整理した際でも朝



- (3) 鮮では紡織等民生に必要な工業は増産せしめた  
計に於いて日本資本は政府補助金、貿易上及貿易外收支合
- (4) 官の方面  
官の組織の中に大量の朝鮮人を参加せしめ上級官吏でも地  
方長官十三名中五六名中央局長中一名の朝鮮人を登用する  
と共に各道に参官を置き悉く朝鮮人をもつてあて行政を  
民情に即せしめることに努めた  
民衆の政治関與も逐次認め地方自治機關の如き選挙により  
決議機関の政治関與も逐次認め地方自治機關の如き選挙により  
日本内地の政治において朝鮮人の勅選を見るに及んだ  
時中民衆の政治関與も逐次認め地方自治機關の如き選挙により  
社会及民衆の政治関與も逐次認め地方自治機關の如き選挙により  
旧来の階級の打破  
教育の普及の打破  
衛生及福祉事業の拡充  
衛生及福祉事業の拡充  
(1) モト患者の絶滅  
(2) 癩患者の施設  
(3) 種痘の徹底  
(4) 水道の拡充  
(5) 治安の確立
- 肺デストマ、チブス等に対する施設  
（山鹿島には内地以上の施設七千名收容）



(イ) 日本内地に移住民の増加、日本人として全く同等を待

(四) 満洲移住者二百万人中支那人から虐待されたものを国家の

上海及米國に逃亡した一部の民族主義者及共產主義者に対しては彈圧を續けて來た爲、併合を恨み、施政に対する無

根を悪聲を放ち來つた為実情を知らない外人等を幾分迷わしめた状況



第四、併合時と終戦時との一般的比較

	併合時 (十八年)	終戦時	比較
人口	一、三〇八、八二七	二、八八二、七〇〇	二倍
耕地	一、四八四、九〇〇	一、四八四、九〇〇	
生産力	一、〇八四、五〇〇	一、〇八四、五〇〇	
電力	一、〇八四、五〇〇	一、〇八四、五〇〇	
鉄道	一、〇八四、五〇〇	一、〇八四、五〇〇	
道路	一、〇八四、五〇〇	一、〇八四、五〇〇	
社会資本	一、〇八四、五〇〇	一、〇八四、五〇〇	
学重数	一、〇八四、五〇〇	一、〇八四、五〇〇	
日本施政に対する批判	一、〇八四、五〇〇	一、〇八四、五〇〇	

第五、併合の点

- (1) 軍事上の不安定に及ぶ国防上保護国として内政及外交上の指導をしたが
- (2) 明治以来朝鮮の貿易は八割なく併合した点
- (3) 然る日本市場であつた状況で経済的に併合の必要なかつた点
- (4) 日本植民地化の問題
- (5) 内地延長主義の点上記の通り
- (6) 併合当初の産業を主とするは原料国としたのでなく、地理上当然の点、近代産業が逐次面期的発達せる点
- (7) 貿易上及び貿易外においても差引前記の如く四十億以上日



目

(一) 朝鮮の差別待遇の問題  
本資金の流入した上  
の關係

(二) 朝鮮の差別待遇の問題  
ある点  
民衆經濟に應ずる差別は当然で却つて朝鮮人の保護の爲で

(三) 移入税存置、一般課税の低率、選挙権の点・義  
務教育等

(四) 嚴正なるべき課税及び司法の点において内鮮人間の差別を  
言及する者は皆無であつた点  
近代産業の発達に伴い会社経営の進行に伴い大企業経営  
者の中に必ず朝鮮人を加えた点

(五) 徴用、供出、志願兵の点等論議あるも日本の最悪時に際し  
ても常に日本内地におけるこれ等の点に比し常に穏和な遠  
慮した強制を加えることにしていた点



22

内  
鮮  
共  
學  
問  
題  
に  
就  
て

M4-34

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



373.2

秘

内鮮共学问题に就て

関

55



二一 説は論

見地に立ち或は朝鮮統治上

の

必要があります。

朝鮮を將來どうする積りか

北

して進むか。内政独立を認めるか

も是認するか。又は鮮地に於ける内

持すへを否。こゝまで考へてか

せねばなりませぬ。單に空理に走

方々、さては空想的、相的に之を取

ねばならぬ事と信じます。

公然の標榜は別として、我國が朝鮮を統治するの

は模

我國のエゴイズムを全然捨て去ることは出来ませ

ぬ。朝鮮が獨立しようが、鮮地在住内地人がどう

いうが、そんなことはおぼえな

する所に仕せる上言ふが如き、高

鮮には行かぬ。勿論鮮人の進歩発達

の爲めに盡さねばならぬことは申す

である。然しそれは日本國民

す。吾人の同胞としての鮮人

歩が我國家の進歩に利する

は我 陛下の赤子の幸福

日鮮内の状況を現れと

人の欲



す。多数の鮮人は少くとも  
ます。其程度なり抑きなり  
通はありませう。然し大同  
事々に反日の傾向を有し、朝  
ての熱望頗る盛んなる有様で  
いふ傾向を有し、いふ行動を続け  
育上に於ては此の点を大に考慮に  
日梅ひを残すことになります。  
そこで目下は鮮地に於ける内地人と  
に意識し、凡てに於て内地人の優越を維持すること  
が頗る大切な事柄であると考えます。内地人が威張

れといふ意味ではありませぬ。朝鮮人は無暗に押一  
よとの意味でもありませぬ。前に申しました通り鮮  
人の幸福、鮮人の進歩の爲めには、  
て行かねばなりません。之が爲め  
の徳を發揮し、寛容の精神を以て親  
心身の苦勞を感はず、個人の利益  
くのが當然であります。かくて遂に  
くふり我が大君の民として共に日  
展を劃するに至ることを理想と  
こそそれまでの道行をどうす  
今日日本の過渡時代であり



づから過渡時代としての難  
以上は私の考への根本基調  
道入いたします。

一 共學の可能性に就て

小學校と普通學校との共學は概して  
にあつては不可能と認めます。一部  
を除いては共學の可能性ありと認めねば  
言語を異にし、人情風俗習慣の相同じが  
共學は不可能であります。

中等學校以上には共學を可能と認めます。但  
し中學校と高等普通學校、高等女學校と女子高等普

通學校の共學は現状にあつては尚ほ不便不利が多い  
教育能率を低下するでせう。專向學校や大學又は實  
業學校に於ては此の不便不利は比較的少しと認めま  
す。

二 共學の可否に就て

其の一 教育の本質上より  
男女高等普通教育に於ける共學は不便  
であります。例を論文と朝鮮語漢文  
等の取扱に取つて現てもすぐ判  
明、但し不便は尚ほ思ふで  
なかりと思ふべからずであ



べて見ませう。内地人と朝鮮  
人等とに於て同じからぬ点か  
學業を授けらるゝと云ふが如き淺薄  
れば世學必ずしも不可ふしでありま  
す。作爲、人格を養ふ、健全な中堅國民を  
ふ教育の本義に立脚して考へて見ます  
不可を唱へねばなりません。試みに一  
つ述べて見ると、國體觀念を養成すると  
思想問題の取扱に就ては、訓育上特に力を入ねば  
ならぬ點に相異のある事から言つても思ひ半ばに過  
くあるものがあります。

京城日日新聞の如き、最近其の論說欄で中學と高普  
校、高女と女高普との共學を主張して居ます。又新  
聞の報ずる所によると在京城の某大官（氏名不詳）  
も之を主張して居るらしい。其等主張の  
くに置かれてあるかといへば、學校騒動  
をらしい。即ち近年の學校騒動は全體  
こと深さとは殆ど從來に見ない程  
と良いのであります。殊に光州  
のものには性質は如何にも面  
の學校には騒動が比較的  
し難いと思はれます。



して共學を主張するのである。蓋する流で思はざるの甚りませぬ。如何と云れば學校の性質を犠牲にしやうと考へて居る。思ひに現在の學校騒動は民族思想が一つで居るのであります。しかし鮮内全うあつて居て醗酵醸成した一つの産物になつて居るのであつて、單に學校の問題がなつて居る。之が鎮壓若くは之を未然に防ぐ方策は根本的に對策を講ぜねばなりません。其の本を断たずして従らに未だ走り其の源を清めずして未だ流の濁り

を無くしようとしても到底目的を達するものではない。姑息の手筈を講じて居ては悔を後に残すに定まつて居ます。然るに共學を實行したからといつて、今日の鮮内の状態では鮮人學堂の設立が全然除くといふ譯には参り兼ねる。學校内に關する問題が起るやうな限がある。に觸る思ひで教育の本質上不利を來す。内鮮融和の一方便として共學を講ずる。方便としては多少の利便はあり。然し實際共學して居ると外部より想像する程の



會の各方面に就て觀察して  
されるのです。只内鮮の學  
爲めに因く行つてゐる様に見え  
民族思想の根底に手を觸れ其根  
万便的ふ蓋臭主義に事を行ふこと  
と思ひます。民族思想の根本治療上  
りも手を下すとすれば共學よりも分離を  
方がよわしい。内地人に對する教育能率を  
に實行出来ず。内地人教育と鮮人教育とは力の  
入れ所が違つて居るではありませんか。私は教育の  
根本義に立つて共學尚早を唱へます。天長節紀元節

明治節に衷心から敬虔の念を以て拝賀を行ふ人間と  
菓子でもやつて誘ひ出さねば登校者の少ふいのを心  
配せねばおろぬ人間とを一つにして教育して居ては  
眞の精神教育は出来ぬものではありませぬ。

其の二、内地人教育の普及上よ  
る可否

内鮮共學の可否を断ずるには今一  
ふ事を考へる必要があります。  
勿論理想としては内鮮人の別を  
育を普及することを正しい  
財政とを考慮いたしますと



つて居る譯には行きませぬ  
る内鮮人の教育は普及とい  
です。初等教育でも男女高等  
内地人に對する就學者の割合と  
學者数との比率を比較すればすぐ譯  
ます。

所で真に共學を實行することにあらんと内  
等普及を實現せねばそこに幾多の困難が起つて  
ます。一校に入學さす生徒数の割合をどうするかと  
いふことであります。學校数を増加せずに而して鮮  
人に不平を起させないで適當に之を解決しやうとす

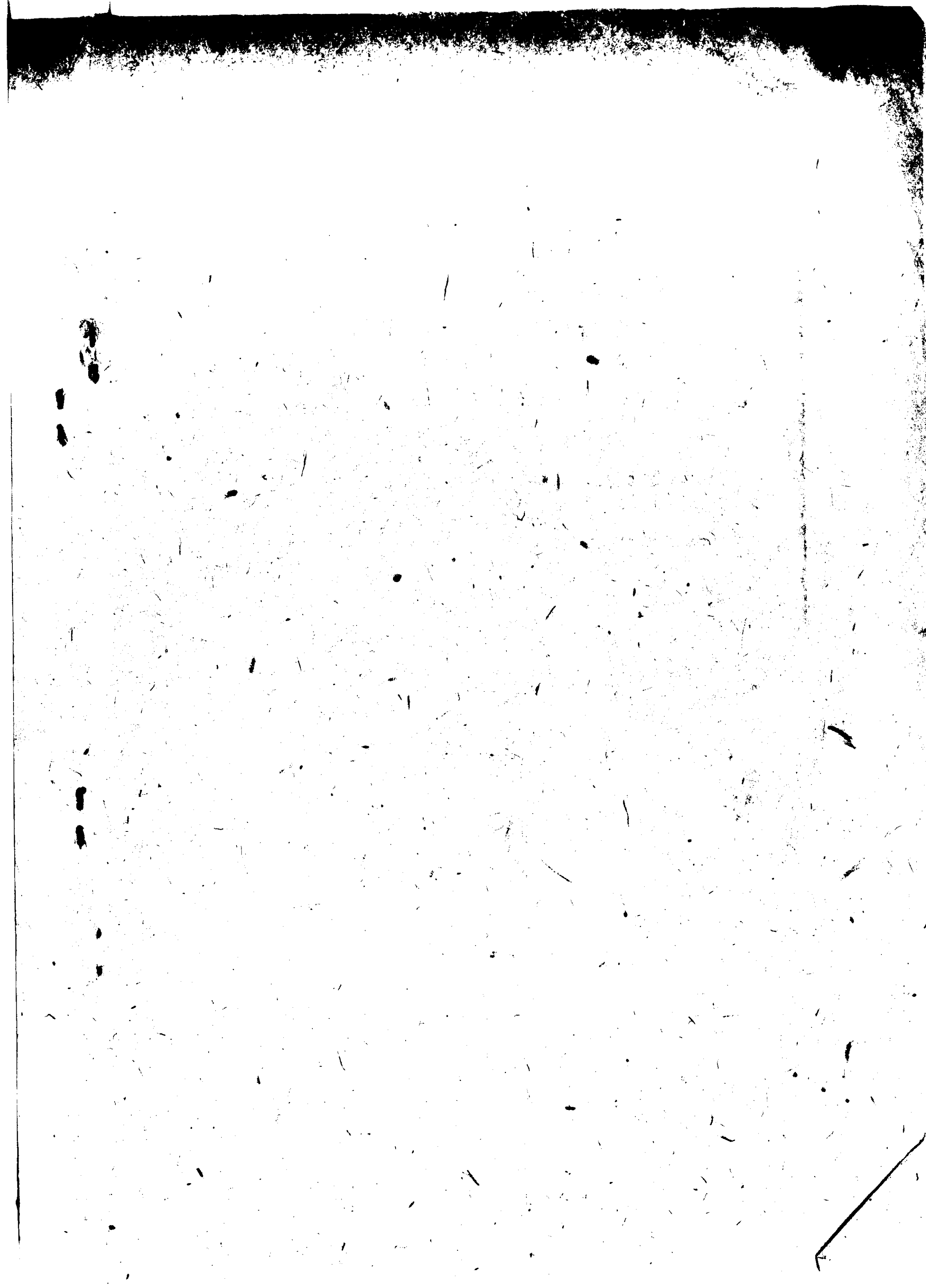
れば内地人の教育普及度を低下せねばなりません  
これは忍びざる所であります。勢ひ學校を多数増設  
る必要が起つて参ります。一面一校の問題さへ相  
當困難ありと聞いて居ります。中等學校までも増設  
することになれば財政問題を如何にいた  
してそんなに多数の人間を卒業させて  
どういたしますか。上級學校の増設  
問題等に想到すると難関は次ぎ  
ます。

上述の点に於て明案のない  
行することとは不用意の至り



査察問題を投ずることにふ  
るが朝鮮に來て居る爲めに  
い状態に多くことは獨り在鮮  
りませぬ實に國家の不祥事で  
附さ合ひの爲めにそんない事  
従つて當分の徐々に擴張の方針を取り、時  
て共學の實行する外ありますまい。此の  
三、共學の結果より見る可否  
今一つ別の方面から考へて見る必要がありす。即  
朝鮮の教育は内地人の優秀な教道者に依つて取扱







506

523

内地朝鮮及台湾に於ける  
過剰米穀割合調

拓務省

611.32

M4-35





253

秘

611.32

タイプライター用紙信託用金葉

内地朝鮮及臺灣ニ於ケル通關米穀割合

内地	朝鮮	臺灣	計
通關数量 一、二、四〇九	一、二、一九九	六、三七一	五、〇、八七九
割合 二〇・一	五・九三〇	二〇・三一一	一〇・〇〇〇

備考

- 一 内地ノ通關数量ハ米生産通關ノ青森縣外二十六地方ノ管外  
移轉数量ニ依ル
- 二 朝鮮及臺灣ノ通關数量ハ生産額ヨリ農家ノ消費見込高ヲ差  
引キタルモノニ依ル

二五三



消費ノ消費見込高ハ朝鮮又ハ臺灣ニ於テル一人當消費量ノ  
七割ヲ以テ消費人口一人當消費量ト看做シ定テ消費人口ニ乘  
シテ算出セリ

五 本調査ハ昭和六年乃至同年八年五箇年平均ニ依ル







M4-36

日本人的海外活動に關する研究報告(二) 昭和  
三十四年

報告

昭和  
三十四年

山口  
市  
政

山口  
53

3347  
734.33

3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4







人文地理概

平島と文化

民族の移動

用 - 筆子

基 - 新潟

道 - 奈良

東岸に位置する下、磯、船、沢、田、新、島、  
↓三神、三、保、冠

白旗山、月、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

白旗山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

白旗山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

平島、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪

三神、山、山、  
↓高、句、帯、  
↓雲、浪



朝鮮の地理的特徴と云ふ事は、先づ、その地を知らねばならぬ。○大體として、その地は、

東西に延び、南北に狭きこと。○東南西の海岸線は、各異なり、地形を指すこと

○地勢は、南中北三部に分れて、且に西山の西と東は、一また、西に沿ひ平地の多いこと。○地盤を

視て、古層の古層に属するもの、多いこと。○氣候の同じく、南中北三部と東南西三部とは、

おいて著しい対照あること。○地質の地質的特徴は、何れも、地質の生活に影響し、歴史の

進行を制するものがある。

○高麗大陸と日本列島との交通と便利にするものあり、事実その南北に狭長なる形状は、

地形の移轉に比し、付く、又、地理の各局は、此の特長と地形の地形を、陸橋と呼んでは、

○三面海岸の特徴

○朝鮮半島の海岸は、日本海に面する、東岸、 対馬海峡に面する、南岸、

西岸は、西海に面する、三都において、各異なり、形状を呈する。

東岸は、東海に面する、地形は、一、大湾のあり、外は、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

陸地に、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

南の海岸線は、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

及、此に、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

三港と巨港と珍島、外に、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

西岸は、南面と北面と異なり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

の、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

の、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

の、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

の、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

の、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

の、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

の、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

の、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

の、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

の、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

の、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

の、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

の、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、

の、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、一、大湾のあり、



西北に流れる漢江は漢谷に走り如き西北東南に走る構造線と、忠清から公州に至るまで、  
示す如き東北西南に走るものと公州から北に向ふ天安に至る交通の示す如き東北に走る  
ものと、黄連山を横断して交互する様相である。

○南部の特徴 中岳、金谷、慶尚、玄道を包括する半島南部、南部では  
海岸に沿うた太白山脈は蔚珍の南に達して絶え慶尚面道の東岸には  
分散西に走る箇々の小地塊があつて、それ以南に西南に横入る海岸に達する。  
東部西北に走る構造線によつて分割された地塊の隆起はこれより著しく  
北部では太白山の南から分岐し、漢江沿東江、南北上流の分水界を形成する。  
竹嶺はこの走向に延長し、南部では汝東江、錦江、西江の北岸地に、徳裕、智異  
の両高峰と、戴いた大山塊がある西南に延びてその西南端は一度蔚津江の  
後谷に截られ、尚西南に流れて山地を成して半島の西南端に及んでいる。

半島南部の南部はこの東北から西南に延長した高地帯により  
汝東江流域に属する慶尚面道と、錦江及び蔚津江上流の流域に  
属する全羅面道とに斜に二分される。

能道  
の分布

以上三部の地勢の概観が、交通の形勢を及ぼすことは勿論である。北中部  
三部を通じて西岸に沿ふ平地の荒廃——というから交通線はこれに  
沿ひ、臨海には達し、その間に幾つもの大河流と横切つてある平流、同成、玄成  
等の通を、現在の政院の中心の中、西部、中部、平地に、おのほは、決して偶然ではあ



大分県内の古期岩層

本島の地質を概観する岩層に古期に属するもの多うは、その骨格の成立が古いことと  
意味する。地質の分布から片断をその他の古期及中生代岩層から成ることは  
地質図に示すに明らかである。日本群島でも内帯の地質の分布が古期岩層の多いが

それでも第三紀以後の海成層が頗る厚く発達しているに反し、本島では中生代の  
陸成層は陸成植物を埋蔵する陸成層の著る層も道南に露出、淡路島の  
如きはこれに属する。古生代のものは乏つては、群島では新期即ち石炭、二疊、三疊

の岩層はほぼ海成層で、深海の沈渣物たる陸成層といふ層も厚層を成すに反し  
本島ではこの時代には既に平場岩田に見えぬ如き変成層が存する。また  
群島にはまた老を認められ、古生代古期に属する海棲動物化石を含む  
岩層が、江東道や大同は鴨綠江の流域に産すること、山東、遼東、西本島と

類々と同一とする。  
これ等の事實を綜合して考へれば、本島の地質の大部分を構成する古期の岩層は  
中生代前半における陸地を成し大陸の方面に属してゐたものと考へられ、群島の  
如く第三紀以前にも海面を成した状態とは大いに面目を異にするものである。

第三紀以後の大分活動も群島と異なつて古期に属する陸成岩層が主として、  
の地質の流を成すに反し、白旗山附近から成る市土に属する台地を成し、日本海の中  
の陸成層を成し、これと同様の火山岩類は群島では九州の北岸から山陰海  
域に亘る西本島にみえられ、対馬海峡の南部に達する、九州島の漢江等

と概観する火山岩もまた白色の粗面岩と黒色の玄武岩に主として、両者の山頂に尖り  
挺立し、一帯龍を呈し、群島の側でこれに類似する火山岩は本島に乏しむる位であ  
る。

豊富な鉄層  
地質の地質的特徴はまた本島の鉄層に反映し、花崗岩等の古期火成岩中に  
鉄合金石鉄層を産出し、黒鉄の砂金及山金の鉄層は北部及び中部に分布し、  
雲山及び覆山はその巨層である。

古生層及び第三紀層、漸成岩類及び火山岩の噴出に伴ふ銅鉄床は、群島には頗る  
豊富であるが、本島には極めて乏しく、成鏡山等には、甲山銅山の如く、注目を惹く  
のみである。

古代より有名なるは鉄鉱にも近き地質銅層に多く、これらその豊富なる鉄の一大  
は、戦国時代の古期古生層の一角を成す層岩のものと、徳島沖の精銅砂はこれと  
是を越えて、徳島東夷傳三韓の条に、鉄を産出し、群島に産するものと

之をとり、諸市、四国、徳島を圍する、此中、西の鉄を用ふる如く、また二郡に供給す、と  
云ふ、これら、群島の鉄層と異なり、これは、異なつた種のもので、大分、岩の、鉄層、常に、産出し、  
つてある。



即には其の露に凡化になり楊鉄銘塊とある部分の處より見ると其の
 指録し易い。銘不知り得たりとあると解される。

猪鉄し易い。鉄をかり得るものあると静電的

惟鉄金所産賣物の中、石炭は平壤炭田に産する無煙炭がや、著しく内地の  
 如く第三紀層中に産する良質の有煙炭は出ない。

如き所三紀層中に金もれを産する有煙炭は出ない

石油にまつては金と銅、鉄、亜鉛、鉛、銅、錫、炭素、硫黄の産出が多い。これにまゝと花崗岩の劣化によつて生じた粘土や良質の

名

陶土とて古くから、宜まはれ利用され、華夷文化の象徴として、高麗、琉球は二の系統に属せしところが多い。

良かれと云ふ多し



先候上の特徴

○大陸的先候

先候の特徴は大陸的内地より重なる先節的先候の变化が

大きい 即ち 暑暑甚に嚴酷なることある

春秋即ち四月と九月の

日中を花子の較差が頗る大い

大陸的先候の特徴の中で最も著しいのは冬季の低温である 南方ほど冬の気温は

高く 雪山思ひは内地とあまり差らぬが 黄河に面し西岸は一般に西北大陸

内部の低温なる先候なり地域から流出する先候により先候の低下が起る

その経過は初より三寒四温といふ変化の起る事ある

先候の低下は天気の晴朗と伴ひ上昇は降雪と伴ふことは内地における事より

この特徴は日本海に近き内河は流域外では特に明瞭である 緯度により低温なる

ことは内地の冬季より遙かに著大である 北部の東岸は降水量の多い地なるは

南北の北に向つた斜面の降雪は十月以降の降雪は春季まで積る後日霜の

融解の後に雪黒に枯れ草の根が露出する一種の沼澤地を成すのは この特徴の

先候に起因する事ある

○南北の先候

半島が形から南北に延長し緯度十度に跨ることはその南端における先候の高低の

差異の大ききことを意味する事あり 北に於ける北部の地勢が一般に高峻な

ものである この地勢は更に地表を穿て居る地勢の勾配は急峻にして北に向つて先候の

急減を起すといふ 北と同時の北緯山脈が東岸に偏して起ることはその西の低い

斜面が支那大陸から東部に向つて先候の急減を起すこととなり 半島の大分

大陸的先候に近き先候なり 対馬海峡に向つて南進のみは北に山脈を有する

半島は海に臨み黒潮主流の日本海に面し通流に當るために東南西と頗る傾

斜して冬季の先候も雨量も多し

半島の山脈は花崗岩の岩なり成る所より多く山骨の露出は草木の被覆に

乏しく陸地側は傾斜が急峻であるから夏季多雨の降る時には河水が

一時に暴漲し易い 西進の半島は北に属する北に属する先候を被る

東進は軽い河流に於いてゆるやかな河床の勾配が大いかり上流から押し流

す地には急峻な傾斜にはゆるやかな河床の勾配が大いかり上流から押し流

す地には急峻な傾斜にはゆるやかな河床の勾配が大いかり上流から押し流

す地には急峻な傾斜にはゆるやかな河床の勾配が大いかり上流から押し流

す地には急峻な傾斜にはゆるやかな河床の勾配が大いかり上流から押し流

す地には急峻な傾斜にはゆるやかな河床の勾配が大いかり上流から押し流

す地には急峻な傾斜にはゆるやかな河床の勾配が大いかり上流から押し流

す地には急峻な傾斜にはゆるやかな河床の勾配が大いかり上流から押し流

す地には急峻な傾斜にはゆるやかな河床の勾配が大いかり上流から押し流

す地には急峻な傾斜にはゆるやかな河床の勾配が大いかり上流から押し流

す地には急峻な傾斜にはゆるやかな河床の勾配が大いかり上流から押し流







○半島に及ぼす勢力

半島民衆の二千余年の東亞文化地域に有した地位をこれ等の歴史から更に立ち  
入つてこれを見れば 大陸側の支那本部とわが群島側との勢力の一伸一屈の  
こゝに重大なる結果を望むべきものである。

支那側では漢代に北即ち中部と郡縣となつた。及んで唐の高麗を征服した際には  
その勢力は耽羅と全島に及んだ。

日本側では三韓征伐は漢朝勢力の衰へた後に行はれた。唐代に至つて日本側の  
飛鳥が余儀なくあつて勢力は漸次九州半島同地を拂ひ 秀吉の出て再び  
半島の征服を試み 明人の東進に遇つて挫折し 明治時代になつて清露の

半島侵略に對して 二大戦役を経て 遂に曠古の成功を収めたのである。

半島に及ぼす連なるものは この征伐両勢力の進退を判明する 今概を維持する  
所が處にある。 王連の高麗を公家政権の朝鮮が各々百年許りつゝ  
続いて支那・朝鮮漢道して四百年と続いたに止まり 唐・宋・明共に

三百余年内外に過ぎなかつたのに比して 却て支那の永かつたのはこの一世紀に因る

ところが多い。 けれども更にこれを分析すれば 大陸と群島との中間に在る  
位置の關係が その根柢に伏在するは勿論である。



地理的特徴

○位置と外部と面積

朝鮮が東や大陸の東部より緯度にして約九度の南方に突出していることはわが日本島にありては尸史に足るものがある。大陸との交通を容易ならしめる所であった。しかし朝鮮半島を自ら守ることは東に島嶼あり西には中華の大国の古よりあつたために、又世界より見せられることも違つて、永く隣者の国として残されたやうな、そんな有様な位置にある。

半島の北は咸化陽郡の豆海江畔にあつて北緯四十三度四分三十三秒、極東は全南海郡の海南角に北緯三十四度十七分十五秒にある。

朝鮮はその南方に突出した形勢からイタリヤ半島に比較されるがイタリヤは北緯四十五度半から三十五度半にあり、ともに通常のはい同緯度に位置する。

朝鮮の南北の長さ距離は約八四〇キロである。東西は最廣三六〇キロを經てあり。

朝鮮の面積は陸地部二四七七平方キロ、

海峽五九三平方キロ、合計二二〇、七四〇平方キロである。日本九州の島嶼を併せた面積二二〇、一八三平方キロに比し、或るること九、四四二平方キロである。

○海岸線と島嶼

朝鮮は南北に長い半島で北境のみが大陸に接し、東、南、西の三辺が海に面している。海岸線が長い。特に東と西と北の三辺が海に面している。東と西との

対照が著しい。東海岸は一般に平滑で、内に永興湾の最も大なる湾の入り口がある。その湾口は元山港である。一般に東海岸は平地に乏しく、島嶼が少なく、海港が少い。

これに反して西及南の海岸には岬角を差して多くの複雑である。とくに

近海には多数の島嶼、砂洲、及暗礁に富んでいる。朝鮮に於ける島嶼の数は、三、四、五、六の多きに達し、往時朝鮮王は、島の王と称するに足るものであった。冬道の間、島嶼の最も多いのは全南の郡々八、九、十、あり、元には、この島嶼の四、五、三、ありである。

朝鮮半島の海岸線の延長は八、九、三、キロメートルである。海岸線の延長は、一、七、二、六、九、キロメートルに及んでいる。今島を言ふときは、延長と東岸、南岸、西岸の三方向に分けて見ると、如何なる海岸と西海岸とが最も長い。西に富んでいるか、概して、それは、咸化、咸南、江東の沿岸が、最も長い。とて

朝鮮半島の海岸線の延長は八、九、三、キロメートルである。海岸線の延長は、一、七、二、六、九、キロメートルに及んでいる。今島を言ふときは、延長と東岸、南岸、西岸の三方向に分けて見ると、如何なる海岸と西海岸とが最も長い。西に富んでいるか、概して、それは、咸化、咸南、江東の沿岸が、最も長い。とて



釜山の東方にあり、煙臺東にあり、また東海岸にあり、

西方に在陸の最、南端にあり、海軍角にあり、また、西海岸にあり、

北、全北、河南、安徽、廣西、平南、平北の沿岸にあり、

また、それ以外の沿岸にあり、

東海岸 一七二七、三〇〇メートル

南海岸 二二四六、七六〇メートル

西海岸 四七一九、〇〇〇メートル

今試みに、王海江口より、煙臺までと、煙臺より、海軍角までと、海軍角より、鴨綠江口までとの各方面の正偏距離を測るに、それと

ハ、九、二五五メートル、又、六、五〇〇メートル、これと比べ、各方面の海岸線

の延長を算せば、その取算率は、二、一三、八、八一、七、二六とあり、いかに

南海岸の東海岸に比し、北平取算に富み、又、西海岸の距離の程を

これと比べ、推知することか、いさゝか、況んや、南海岸にあり、岬角の所に、基

を、島嶼の取算を考慮に入れ、るときは、一層、南海岸は、

東海岸に比し、複雑であることを認める。

東海岸の特徴

東海岸は、背果山脉の脊にあり、半開ではあるが、元山、文迎、海防、近には

リヤス式海岸があり、王海江口には、近、礁、基、溝、等の、石、の、あり、

東海岸の特徴は、島嶼にあり、ことであつて、陸に接するもの、内には

威海の馬尾島、七平方キロ、又、僅かに、若しくは、遇、ある、大、山、島、あり、

對、陸、島、は、陸、より、六、海里、の、日本、海、中、の、津、合、に、浮、んで、あり、其、の、後、は

七、三、平方、キロ、に、達、し、約、一、万、の、人、口、を、有、する、な、ほ、東、海、岸、の、特、徴、は、沿、岸、に

近く、南下する、リヤス、式、の、流、の、あり、ことである、

東海岸の港、海、と、も、著、しい、は、元、山、清、甲、城、津、の、三、港、であつて

威、鏡、市、北、道、に、あり、この、外、ハ、港、と、も、は、礁、基、西、湖、津、長、新、浦、項、

等、あり、西、湖、津、の、西、に、接、する、宣、素、肥、科、の、後、生、し、港、と、も、興、南、港、

と、の、新、開、港、と、も、あり、地圖、に、載、つ、て、い、る、もの、あり、か、ある、

東海岸



朝鮮の南海岸

南海岸はわが海内には比すべき島嶼である。島嶼は多岐に亘つ

甚く水平的版部に富んで半島とともに葉片状を呈している

半島と島嶼とを併せれば七群の陸からの突出部がある。その島嶼群の

間には北々西に向つた深い湾のあつて若し南方からこれらの島及び

半島を航行しゆくならば東陸は果すところである事を定めては

感ぜざるを得ない。十九世紀初期の外名探検船はこの迷宮に入り込んで

いつて甚く神怪を説くところであつた。前に記したやうに南海岸の版部

はハ・ハにまゝという。リヤス式海岸では版部平の五内外であるのに

比すると一層版部に富んだものである。これを朝鮮式海岸といふのが

適当である。ドイツのシュレーゲンは朝鮮式海岸の定義を「朝鮮の海岸に

ある海岸型で四の字にも長く突出した版部のある。各版部は四四の

多い半島と島とにあつて是よりこれに加ふに小嶼が多たする版部の

南端は陸のものと接し多くの湾を圍んでいる。地形上これは沈降した

陸地の残物として形貌が千態万状である」と記している

南海岸において最も重要な湾のは東部にある釜山港と馬山港とである。

この二箇所は内地へつた陸に接するといふ時の足溜である。同時に現在

最も最も内地に存在状態の都市に見られる。馬山港の鎮海は日露戦役の

日本海軍に降し、主要な軍港の集合地であつた。ともに既に要港部の

所在地である。朝鮮の南海岸は又極度長の面積において彼が水軍の

居るを交へた海上であつて一勝一敗付にこれを全滅せしめ付には本露臣

とてこれを竹島に残さぬといふ。悪劣に好都合折々の水軍は彼我をて

ともにその作戦に離れを全うすることか一面に止まるものつたことであらう。

南海岸で最も著しい島は巨濟島である。面積三七六平方キロメートル及び南海島

(二九八平方キロメートル)とて前者は葉片状の島嶼、後者はとて海岸線は元々五

の表裏に亘り、その南の海上には朝鮮第一の大島済州島の海鼠形

をとりこんで横たつてゐる。この一大大島の面積は一八五九平方キロメートル

在時は耽羅國をなしたといふこと。今では二十万以上の人口を包容している。



## 西海岸の潮汐

朝鮮の西岸は寧ろリトホーエンが挙げたやうにリヤス式海岸をとり  
ところが多い。たゞ清川江、漢江等の大河の河口附近が平滑な  
海岸を作っている。西海岸の特色は潮汐干満の差、即ち潮候の  
甚しいことである。最高満潮と最低干潮の差は釜南浦においては  
六<sup>m</sup>・二七、仁川においては九<sup>m</sup>・四一、本浦においては四<sup>m</sup>・三三に達する。

これを東海岸に比べると元山の〇<sup>m</sup>・八三、清津の〇<sup>m</sup>・七三に比すると誠に  
その対照が著しい。この西海岸の潮候の大きいのは釜南浦が狭いため  
起る現象であつて、後述発電の原動力とするに足るものがあるが、  
實際それのみで未だ企業家の時機は来ないといふ。

潮の干満の差が著しいために仁川港を眺めると満潮時には廣い  
淺水たる湾で湾の多い海岸が像を付けているが、退潮時にはたゞ  
狭い水道の泥沙の荒原の中に残る砂りである。大連旅路の汽船は  
時に満潮を利用し近路を取り、たゞ仁川大連間においては一時潮の  
航行時を短縮することおこる。大同江口においては幅三六五メートルの  
水面の干満に際しては二三八メートルに短縮するといふ外、舟に於て干満の  
差が大きいため釜南浦は南渠式港、仁川には南門式港等の設備が  
あつた。干満地を堰き止めて田地を獲得することは大所におこ  
施行されてゐる。

清川江口から平安、釜南浦西道の両側に北々東から南々西に  
亘る約八列の洲がある。これは干満地の南々西から東々西に  
たゞに狭くられた残り物であるといふ。



西海岸の島嶼と汽船

西海岸には島嶼のあり多くて、多くは群をなしている。島嶼の著しいのは、平北宜川郡の身弥島(五<sup>五</sup>方<sup>五</sup>ヤ<sup>五</sup>ハ)、黄海長洲郡の白翎島(四<sup>九</sup>ノ<sup>九</sup>、<sup>九</sup>ノ<sup>九</sup>)、黄島の江華島(二<sup>九</sup>ノ<sup>五</sup>五)、中<sup>五</sup>の瑞山郡の安眠島(八<sup>五</sup>ノ<sup>五</sup>五)、全<sup>五</sup>の務安郡の慈恩島(五<sup>〇</sup>ノ<sup>五</sup>三)及び珍島(三<sup>三</sup>ノ<sup>五</sup>九)である。珍島から北へには島嶼増集して、羅州群島と呼ばれる。群島は海中最も島多き部分であり、多き島海を成し、この附近に航行することが多い。濃霧に降るとは航海甚だ危険多きところである。汽船の運搬するものが少くないのである。

西海岸には主要な港灣が多く北の如く、北には鴨綠江口の龍岩城、大同江口には近き鎮南河、仁川郡山又南河の内地及び郡との間の航運の頻繁である。

これとあわせて、群島は半島であつて、海岸線の荒々著しく、半島外との交通は陸路によるよりも海路が主要であつて、群島の開発の急務なのは半島である。ことに甚だ固すといつて可い(はあい)。



地理学

区分とその意義

新井は市北二区にも東西両区にも分けることかである。南北に分つ場合には  
元山作の通する地帯状の窪地を以てする。東西に分けて表裏二区とする。

協会には九州の東方より東南東に平地を命じ、南に下りて平野及び黄海の  
 奥地を重く日本にのれ、是を南東に江東の道里にほい、平野と太白山に  
 至り、東は日本海に達す。一線を以てするのふいと考へられ。この線は平方キロ  
 の人口五十の等密度線に一致したものである。

南北兩縣に分つことは自然地理上必要あり  
東西即ち表裏の二に分つことは人文地理上必要あり

系統は古く八道に分けられ今では十道に分けられてゐるが、その分割線は一般に  
よく地帯を隔ててゐる地理的であつた。

東馬金平南を大別して右に北にことあり  
成鏡を北園 平安を 関西

江東と関東 黄海と海面 忠清全羅 慶尚と三南といひこれに多数を加へ  
 北を再分する名稱を用ひん 咸北と關北 咸南と關南 大國嶺以東の  
 嶺より東は海岸地を嶺東、以西を嶺西と稱する如き 或は平北と清北  
 (渭川以北の意) 平南と清南といふ如きであらう また西といふは平安黃海と  
 併せ稱するものあり

現今在縣内は人王にけ北郷西郷南郷の役呼稱が同化してゐる。これに  
中郷を加へて四つになつては、東郷の自然人又西方面の地理を明かにするのには  
必要のないと思つた。

北緯は成化版圖の二邊で、その四境は正確に地形的に劃き入っている。この地方は高麗部と海岸部との二邊に細分される。

西端は、平北平南、重海の三道  
山地と丘陵地とか錯雑とあるが

その中心には平壤四周の工業地帯がある

中縣江東忠化忠南  
漢江錦江流域

人文に於て東方の太白山脈地方と蒙古部の沿岸地方とをいふ其の差がある

南鮮は、慶北、慶南、全北、全南、  
江東江と鴨津江との流域

中心にわ白山脈の山地が隆起しているのか他の地方の地勢と異なるかと云ふ。



北緯は甚高山地の東部にある狭い沿岸地帯の丘陵地を隔くと甚高丘陵地  
地である。この山地は海抜1000メートル以上の高みであるに急斜である。



新學史

22

○今より二千年前所經路に由る處を記し、其處に國々人々あり、あはれ八百年

曰元人御滿  
蓋子紅跡也元時  
八十年

[illegible]

○四郡——  
二郡（紫泥玄菟）——玄菟北徙——遼東以界公孫氏與新羅

二、梁派（市小）  
（堂东）  
江桂心  
黄伯林——文化大革命时代  
王鹤亭——已故  
中岛英子——已故

○五篇三一三 本島前後の動機  
○陽明に就きし——東洋文庫より

北部 一 括號より分れる 高句麗族

李郁  
 唐模  
 (馬和年 鹿和)  
 新莊  
 任那  
 (孟記 雷年 吳)

才即為常名也  
勝程  
王  
五七一

回 西 記 少 五 口 吃 高 司 製 百 博 新 院 什 口 井 大 一 一

三町付代——支那本部の政情は——西者の兵に侵され、北支那は露外勢力の

交帝以祿養氣——帝立於時代——三帝後之——隋文帝——

○ 高句麗一隋文帝煬帝の征討に表はく 隋元祖 大業三年壬午 六六八

清江先生集

云云 高麗討平 經年之

85  
 86  
 江  
 蘇  
 蘇  
 州  
 とある今脈に倣う  
 藏  
 自

予、新文化の旗手——仲谷はる

新雅時

王任也  
程子方  
一

王微  
——  
庚二  
不

○ 後三子以 百濟 摩震王 山現 高麗 西邊役 三子

正紀九十六 王 三子 侯 在 降 福 王 中 原 品 格 老 寒 公 三 子 並

海子  
草鞋  
二  
郭在下  
元山附近  
不插鏡  
大日如來

7  
A  
20  
子  
6  
ん

18  
14

30  
分

五印

王化胡  
北方勢力侵入  
連累古  
金  
金亡元興

中央書上、醫藥交際、係々、諸君、私に書札、願望、

此乃唐經，要他像不若回國？

正朝、君しすにすうたふ

地望所任通之北為洛水，即洛國外子午街十已。



二面七  
升る十の字

○李氏松嶺 西紀一二〇〇頃 文人政治の大成（政治の大成）  
元 松嶺の大成（政治の大成）

明 勅令 服部同様に 勅令 二面三分

司人 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

服部同様に 勅令 二面三分

勅令 二面三分

○李氏松嶺 西紀一二〇〇頃 文人政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

一 土部 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

二 外 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

三 大 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

○ 勅令 二面三分

○ 勅令 二面三分

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）

高麗 勅令 文人の政治の大成（政治の大成）



1446 漢文

8.15  
15  
95

◎ 教義

佛敎、朱子より角二 云々二十年 改中、子化行、上、道、か、明、光、  
彌、佛、上、信、と、不、信、事、や、時、の、ち、あ、る、と、初、め、し、り、

◎ 宗敎信仰

○ 東、如、家、敎

一、佛、敎、法、義、の、形、一、飛、ノ、神、敎、天、地、自、然、乃、至、生、物、を、生、じ、け、し、計、量、す、る、こ、の、信、持、を、成、る、と、い、ふ、其、ノ、宗、義、を、明、し、

こ、の、人、を、可、殺、す、柄、に、皆、こ、ノ、計、量、ノ、左、に、信、じ、も、ハ、ト、  
即、信、し、け、れ、ば、已、に、從、テ、計、量、す、る、所、に、中、テ、亦、ん、能、か、一、番、佛、ノ、

人、ヲ、已、テ、即、佛、乃、至、即、佛、ノ、信、持、者、ハ、カ、に、能、力、有、る、と、  
ナ、レ、ル、と、云、ふ、同、様、ニ、所、持、十、華、原、カ、を、中、に、亦、か、者、を、尊、崇、

サ、レ、ル、と、云、ふ、此、レ、亦、上、信、者、に、皆、コ、ウ、シ、タ、人、々、不、ア、リ、

二、外、典、家、敎

一、佛、敎

二、道、敎

ハ、オ、リ、ス、ト、云、

佛、敎

三、外、典、代、一、佛、義、則、

三、外、典、代、一、佛、義、則、

三、外、典、代、一、佛、義、則、

三、外、典、代、一、佛、義、則、

三、外、典、代、一、佛、義、則、

三、外、典、代、一、佛、義、則、

三、外、典、代、一、佛、義、則、

三、外、典、代、一、佛、義、則、

三、外、典、代、一、佛、義、則、

三、外、典、代、一、佛、義、則、

三、外、典、代、一、佛、義、則、

三、外、典、代、一、佛、義、則、

三、外、典、代、一、佛、義、則、

○ 道、敎、  
此、に、在、リ、テ、亦、佛、ノ、義、を、入、リ、コ、ノ、二、年、ノ、大、事、ノ、一、番、  
佛、ノ、信、持、を、明、し、

二、高、麗、代、一、一、〇、七、年、

○ 高、麗、代、  
十八、世、代、中、葉、一、北、高、麗、王、王、子、を、佛、ノ、義、を、入、リ、

一、九、五、年、三、月、迄、三、年、の、間、三、年、の、間、三、年、の、間、三、年、の、間、



五十年工部

(一) 宋辽时代 奇一八——三一三

(二) 高句麗

三石齋

古新羅古伽倻  
 古新羅 古伽倻  
 五三三 五三三

五五四——九五三

熊金时代  
(2) 子熊金时代  
九二八——一三九七

五元二角

東坡先生詩集

銅器

陶器

素  
西  
元

武君萬昌收錦名 仁光前二二二

大藏自

高句麗時代，在塔子溝

百信町

長弘雅及他御

新字

書畫

音



1941年 11月 1日  
1941年 11月 1日

1941年 11月 1日  
1941年 11月 1日

1941年 11月 1日  
1941年 11月 1日

1941年 11月 1日  
1941年 11月 1日

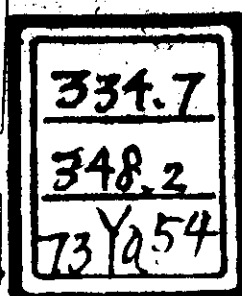
1941年 11月 1日

1941年 11月 1日  
1941年 11月 1日  
1941年 11月 1日

1941年 11月 1日



日本と海外活動に関する研究調査(?) 草稿  
経済産業部







※48枚  
334.7  
348.2  
737254

朝鮮ニ於テハ專賣事業ハ煙草・紅茶・及び塩ニシテ  
紅茶ハ既ニ保令以前ニ專賣令ヲ施行シ其ノ製造ハ其ノ地  
輸出セシキ韓國政府ノ輸入財産ニカケラレシメテ 煙草ハ  
大正十年七月 煙草ニ專賣令ヲ發布セシメリシモ 煙  
酒ハ昭和十七年八月ニ至リテ專賣令ノ施行ヲ見ルニ至リ  
タルモ 昭和十五年ヨリ米糧輸入管理令ノ公布ニ至リテ之ガ管理  
ヲ實施シ来リタル 煙草トモ同ノ戰時收入ヲ目途トセバ  
專賣公賣的ノ見地ヨリ之ヲ專賣令ノ範圍ニ從ヒシムル



煙草ノ製造事業ノ事業ノ一トナリニシテ其ノ利益  
以來朝鮮財政ニ与リ與リ朝鮮ノ文化ニ事業ノ完成  
ニ与リ與リ此ノ大ナルモノアリ

昭和十七年及十八年ノ事業ノ益金ハ八五〇・一一三円ニシ  
テ煙草事業ノ利益ハ九一・一五円ニシテ益金四四八・九六円  
ニ比スルトナリニ三一八倍ニ達シ其後更ニ利益ノ増大  
カシクアリタリ

以下ノ事業ノ一トナリニシテ其ノ利益ノ増大  
カシクアリタリ

煙草

煙草ノ製造事業ノ事業ノ一トナリニシテ其ノ利益  
以來朝鮮財政ニ与リ與リ朝鮮ノ文化ニ事業ノ完成  
ニ与リ與リ此ノ大ナルモノアリ



暫定的例外にてもあり然る其後の更なる徴入に各税の負担  
ノ甚く事と實に度り阻害せしむる成に可く速に是等ノ制度ヲ撤  
除するノ方針ニ基キ、昭和十二年以來政府は於テ簡易ナル其刻  
煙草ノ製造を給するに一般ノ嗜好ニ適シ、事業煙草ノ賣渡及  
自家ノ耕作者著しく減少し、是等ノ例外的制度ヲ存置するに必  
要ナク又他面政府ノ製造設備並ニ販賣機關も漸次整備  
入心ニ至りタルに於テ事業煙草ノ賣渡ノ限を自家ノ耕作  
ノ民肉せん製造は其ノ其、昭和四年限る何しもの之ヲ廢止せしむ  
完全ナル事業煙草ノ制度ヲ思ふに至りし

煙草ノ耕作ノ收入納め之國スル事務ハ各地ノ事ト爲る向又同土張所ヲ以テ  
之ヲ取扱ハルメ、事業煙草ノ耕作組合ヲ組織スルニ此組合ヲ以テ事業  
耕作ノ上必要ナル諸般ノ事務ヲ授けらるゝものと組合ノ對ニハ  
義務ニ必要ナル諸般ノ義務ヲ負ふことトせり

制度實施後初ハ事業煙草ノ全額（自家ノ耕作）ノ製造原料  
其他ノ主要原料並ニ製造に且事業煙草ノ全額は之ノ徴入  
ル事業煙草ノ賣渡ノ金とスル各地ノ徴入ニ耕作地中不適合ナル  
モノハ少カかりシヲ以テ此事ヲ通者ノ意見を以テ昭和十二年度  
ハ二千三百ヘリと同年同十一年度ハ四百ヘリと同年耕作面積ヲ減少  
シ健全ナル耕作地ノ育成ニ努メ、又製造煙草ノ賣渡ノ金とスル  
徴入ノ多くなる之に伴ヒ原料事業煙草ノ賣渡ノ金と徴入ノ金とを  
之ノハ之と云ふを得られ、昭和十二年度ハ之ヲ昭和十二年度以降大  
量に拡張計畫ヲ行はせ、毎年面積ノ拡張ヲ圖リ、之ヲ以テ  
又偶々之等ノ事業並ニ賣渡ノ金と適シ外國事業煙草ノ輸入ヲ中止シ  
自給自足ノ上ナリトす、之ヲ以テ之ヲ以テ更ニ右計畫ヲ決定し面積ノ  
拡張ヲ圖ルト安ニ一層耕作ノ指導ヲ徹底セヌメ、又之を收穫し、之ノ  
倍加ヲ圖リ原料事業煙草ノ賣渡ノ金と適シ、内情ヲ圖リ、今昭和十二年度



二、五、九。侯ニ達セリ。  
 侯ニ達セリ。

製法

事業局ニ於テハ、鹽羊ノ繁殖、事業遂行ノ要ニ事關、全ク、大印及平壤ニ於テハ、東亞鹽羊株式會社ニ其ノ他主要ナル民間鹽羊製造ノ場並ニ其ノ器具機械ヲ買収スルヲ該地方專賣局ノ工場ニスルモ、大正十一年七月一日ヨリ其ノ作業ヲ開始セリ、然ルニ買収ノ工場ハ設備頗ル不完全ニシテ事業開始ト同時ニ應急的伸延改善ヲ加ヘシトモ、製品ノ改善、工員ノ衛生及能率ノ増進上遺憾ノ点ナク、殊ニ事業ノ拡張ニ伴ヒ狹隘ヲ去ルカヘラズ、テ漸次根本的改善ヲ圖スルモ、差支リ設備ノ甚ク不充足ナル大印ノ場ノ改善ムコトヲモテ、ソノ同地ノ最モ進歩シタル理想的工場ヲ新築シ、大正十三年度初期ヨリ作業ヲ開始シ、次テ同十四年度ニ於テ完成義カ、同ノ場ノ増築ヲ行ヒ且ツハ、之ニ事關スル平壤ノ場ヲ廃止シ、統一管現並ニ製品純力増進ヲ圖シ、又大正十一年度ハ、鹽羊製造、引込セン生計製、其割鹽羊ハ一般ノ味好ニ適シ、他ノ製品ト共ニ

廿ノ事而女送ニ年一激降ニんトノ年ヒ  
 各ノ陽ノ新築又ハ、極築ヲ  
 行ヒ製造能力ノ増加ニ努メ事而女ノ支障ナキヲ期シタリ、昭和十七年ト  
 聯合戦事終リ、下ルニ年ニ之ヲ對ビんトナリ紙差已極、羊夜テ四、一四  
 倍。刻度羊夜ニ於ニハ七、〇人位ニ達シ、其ノ初ハ由ハ鮮肉ノ需要ヲ充  
 めんノミナラズ、此又、海軍ニモ輸出スルニ上ヒリ

工員ハ、應ニ羊、製造及材料ニ製造シ、通ハ、主トシテ、朝鮮人ニシテ、  
他人ニ、製造ハ、極ナリ、名トシテ、内、他人ニ、製造ハ、極ナリ、年ノ  
終リ、有、人、者、トシテ、再、一、枚、ニ、製造ハ、指、導、ナリ、トシテ、







この頃には既に多くの煙草が本局に於て製造される煙草の外  
内地事業者に於て製造される刻煙草と並に台煙草製造局の  
所産の煙草も葉巻煙草等として尙右の外に北支那の煙草を  
特許金等と對し相対数量の輸出中にて昭和十六年度の  
輸出額が四〇三、〇〇〇金兩に達し其後昭和十七年度に於て  
煙草の朝鮮運送量の中、大半は之を專賣と並に金、大羊の煙  
草等と共に依りて輸出する財政上重要な地位を占め  
朝鮮産煙草は之より更に多量に入れたるものあり

昭和十七年度に於ては煙草の輸入税額が官製煙草一三七、一七八金兩  
輸入品八、五五五金兩合計一三七、八三三金兩なり

人蔘

人蔘

人蔘は五加科に属する宿根草にして朝鮮全道に産出せし其の料  
作せるものは舊國一年本國と合計六年に於て收穫するの通例とい  
之を水蔘と稱す紅蔘は水蔘より更に更に乾燥し製造するものにして  
古來用處が廣く之を以て高麗蔘と稱し之を以て其の  
価値が最も高く毎年、製出の多き同國の輸出にせられ得る蔘のうち  
リレモアリシラヤ後年政府は專賣として明治三十二年より韓國  
の管内に於て所産の蔘を統制せり

人蔘

紅蔘は專賣事業の爲め我が保護政治時代殆ど類産の及ばざりし加  
へに其の國の病虫害の所より全般に瀰漫し居る種作者の困難や其の事業の  
廢止等も其の最盛時に於て紅蔘の年産額十萬金に達せしもの明治  
四十二年に於ては四個縣に於て減産するに至りし仍て韓國政府の統制に  
導かれ明治四十二年十二月該事業の所産の管内に於て度々あり



積戻し同四十二年七月に茶事専管令が公布して其の新年度の確立  
や日韓條約後、本府に於て茶事より健康に事する傾向に因り、  
指定産地、改良、茶葉の選除、予防、科学的の研究、耕作、製  
所等茶政改良の施設に力をつけ、一面茶葉組合の組織せし、茶葉  
の生産の助成せしむと共、耕作資金の低利貸付を為す事あり  
次第大正九年十月旧法を廢して紅茶専管令が公布し、取締り上、  
便宜上茶葉の生産に資せり

~~紅茶製造の増加~~

人蔘の植付より收穫迄の必要日数は、年月ト多額を要する事且、其の  
性格より脆弱にして、常ニ病虫害に罹り易き為、逐年衰微し紅茶  
の製造に乏しき人々も、水蔘の收納介致、明治四十二年に於て一萬三千余  
斤を算せし、明治四十二年に至るに二万七千余斤に漸く、隨  
て同年に於て紅茶の製造の尙僅かに、八千九百五十斤に達するに過  
らず、衰退の極に達せり

紅茶製造の増加

其の後茶政改良、益々一般に周知せられ、人蔘の耕作戸數並に  
紅茶の原料たる水蔘の收納高漸次増加し、紅茶の製造高又之  
より調う同し、明治四十四年度に於て製造斤數二万四千五百斤に過り、  
し、モ、大正三年に至るに、其の倍に達し、爾後毎年製造高同  
増加するに至り、而して一面茶葉收入の支拂に於て、紅茶の  
需要ト爲替相場との関係に依り、毎年度一定を期し、且、亦  
漸次増加するに至るに至り

其の後、紅茶の生産に伴ひ、紅茶の中心地たる、勿論、印度  
南洋の面は、紅茶の生産の増加に従ひ、漸次低下數をう増加し、  
タルト事や、茶葉の好む、優良なるものより、他向するものより、  
併して、品質の向上を期するものあり

昭和十一年度、紅茶の製造高は、五萬三千八百斤に達し、輸出高  
四八、五七五斤、価額 四一、五二、千円に達せり



塩

右末朝鮮の植う塩をえ塩の事うはるゝより何れ製法にふん煎散塩  
にアリしを煎散塩の全量を賣る物にテ從ニ賣る偏に亦大前偏下リ  
為偏散低廉に又即テ天日製法ノ輸入に圧せし朝鮮産業  
ノ既ニ打撃又入んてアリしコニ於テ朝鮮ニ於テ天日製  
塩ヲ用はるゝ外にトし明後四年に來るまで半々を以テ  
天日製法試驗ノ事トし塩政ノ破立ヲ企圖ス 茲ニ其ノ試驗ハ  
極大ノ良好ノ結果ヲ得んてアリ朝鮮に於ては鹽ノ自給自足ハ  
ラ固ニ目的ヲ以テ天日製法ハ之ヲ最善トし明後四年ニ  
來るまで用ノ事進取カリ日韓併合後モ之ヲ踏襲スル事  
決然ト固リ來り多ク 朝鮮に來る西海幸ニ於てハ氣候象  
ハ日本洋同業者 青島等ノ天日製法地ノ酸度似し殊ニ土質  
ニ在テハ深層ニ至ル迄 粘土ナリ天日製法ニ適せん  
ルニ自給自足ヲ計ル所ハ漸次用ノ事進取行ハル所ナリ







自大正10年度  
至昭和9年度 煙草專賣基金

3347  
348.2  
7318.54

年度	歳入	歳出	差引 基金	歳入=増収 基金、当分の 割合	歳出=減収 基金、当分の 割合
大正 10	13,580,539 <sup>9</sup>	10,368,156 <sup>9</sup>	3,212,382 <sup>9</sup>	2.37 <sup>9</sup>	3.01 <sup>9</sup>
11	18,295,025	12,549,745	5,745,279	3.14	4.58
12	17,022,565	12,226,405	4,796,160	2.82	3.92
13	20,832,764	14,641,908	6,190,855	2.97	4.23
14	21,024,999	13,384,305	7,640,693	3.63	5.71
大正 15 <sup>15</sup> 昭和 1 <sup>1</sup>	27,768,593	16,931,184	10,837,409	3.90	6.40
2	32,735,186	19,537,493	13,197,693	4.03	6.76
3	32,233,458	20,564,238	11,669,220	3.62	5.67
4	34,458,965	19,846,659	14,612,305	4.24	5.36
5	32,860,685	16,834,337	16,036,249	4.88	9.53
6	39,723,988	17,214,899	22,509,088	5.67	13.08
7	33,227,158	16,640,684	16,586,474	4.49	9.97
8	36,368,832	17,578,810	18,790,022	5.17	10.69
9	39,652,951	22,390,261	17,262,590	4.35	7.71

大正10年度 9月30日現在、大正10年度、基金歳入、771、



自 1922-10 年度 至 1923-10 年度 共 1 年度 共 1 年度

年度	收入	支出	制 益 金	收入 制 益 金	支出 制 益 金
10	2,104,770	1,486,915	617,851	2,94	4,16
11	2,270,732	1,626,671	644,061	2,84	3,96
12	2,226,856	1,626,693	620,163	2,78	3,86
13	2,156,409	1,339,968	816,441	3,79	6,09
14	2,691,182	1,657,803	1,633,379	6,07	15,44
15	2,769,606	1,998,978	1,770,627	6,39	17,72
2	2,444,730	1,360,237	1,084,493	4,44	7,97
3	3,069,463	1,807,867	1,261,446	4,11	6,98
4	2,484,299	1,468,711	1,015,587	5,09	6,91
5	2,455,133	1,547,637	907,496	3,70	5,86
6	2,040,932	1,466,517	574,414	2,81	3,92
7	2,100,974	1,501,274	599,699	2,85	3,99
8	1,343,263	1,254,432	88,831	0,66	0,71
9	1,573,312	1,224,133	349,179	2,22	2,85

年度 10 年度 11 年度 12 年度 13 年度 14 年度 15 年度 2 年度 3 年度 4 年度 5 年度 6 年度 7 年度 8 年度 9 年度  
 年度 10 年度 11 年度 12 年度 13 年度 14 年度 15 年度 2 年度 3 年度 4 年度 5 年度 6 年度 7 年度 8 年度 9 年度  
 年度 10 年度 11 年度 12 年度 13 年度 14 年度 15 年度 2 年度 3 年度 4 年度 5 年度 6 年度 7 年度 8 年度 9 年度  
 年度 10 年度 11 年度 12 年度 13 年度 14 年度 15 年度 2 年度 3 年度 4 年度 5 年度 6 年度 7 年度 8 年度 9 年度



自 12-10 年度 塩業産金  
至昭和 9 年度

年度	歳入	歳出	差引額	歳入の増減 割合	歳出の増減 割合
大正 10	1,162,380	775,831	386,549	3.30	4.98
11	898,290	971,566	126,724	1.41	1.64
12	567,505	817,931	250,425	24.41	23.06
13	1,054,189	913,780	140,409	1.33	1.54
14	1,198,113	1,005,537	192,575	1.61	1.92
大正 15	1,314,206	1,142,666	121,540	0.93	1.02
昭和 1	1,220,698	1,151,966	68,723	0.56	0.60
2	1,535,472	1,313,047	222,425	1.49	1.69
3	1,603,489	1,463,607	139,881	0.87	0.96
4	3,165,859	2,648,127	517,733	1.64	1.96
5	4,235,421	3,453,127	782,293	1.85	2.27
6	4,597,660	3,890,159	707,501	1.53	1.82
7	5,540,723	4,693,558	847,165	1.53	1.80
8	6,010,639	4,849,420	1,161,219	1.93	2.39
9					

中年度の増減  
入道管理(4)



昭和9年 阿片検査金

年度	歳入	歳出	差引益金	歳入増減額 前年度比	歳出増減額 前年度比
10	121,779	90,490	31,309	2,577	3,460
11	70,596	61,216	9,379	1,311	1,533
12	65,736	51,962	13,774	2,107	2,655
13	54,170	41,144	13,025	2,400	3,179
14	59	-	59	10,000	-
15	-	-	-	-	-
16	-	-	-	-	-
17	-	-	-	-	-
18	-	-	-	-	-
19	-	-	-	-	-
20	-	-	-	-	-
21	-	-	-	-	-
22	-	-	-	-	-
23	-	-	-	-	-
24	-	-	-	-	-
25	-	-	-	-	-
26	264	57,376	△57,111	△2,5727	9,955
27	198,298	79,674	118,624	5,988	14,899
28	275,626	270,734	4,892	0,027	9,027
29	284,650	285,386	△735	△903	0,037
30	750,190	478,278	271,912	3,637	5,697
31	553,432	505,647	47,785	1,337	1,547

昭和14年度止



明治四十二年 韓口政務 煙草年報概況

之朝鮮に於ける煙草の課税、酒類に

耕作税 植分概数 九百以下 五十円（年終）

九百以上 二円

販賣税 市價 十円 小賣 二円

租半度税額 二十万五千金円

大正三年

煙草年報概況 耕作税 植分概数 二万五千以上、その四日二リ上

販賣税 一ヶ年課上金額 三萬圓未満、その一日二リ上

製造税 二場 坪数 三十坪未満 三十円

以上 五十坪未満 五十円

五十坪以上 百坪未満 六十円

酒類税 製造煙草 二場 坪数 三十坪以上、その一日二リ上

当年度税収入額 六十八万八千金円

大正七年八月 清草税ノ税率アリ上

製造煙草 小賣定価 百分二十五

耕作税ノ廃止 但自家消費ノ煙草ハ三十坪以上、その一日二リ上

印税ニハ年課上 五十円以上、その一日二リ上

尚格未定ノ製造税 坪数 三十坪以上、その一日二リ上

耕作税ノ税率アリ上

一ヶ年ノ税入 八十九万六千金円

大正八年八月 煙草年報改訂

煙草年報改訂 製造煙草 小賣定価 百分三十五

耕作税ノ税率アリ上

一ヶ年ノ税入 八十九万六千金円

大正十一年八月 煙草年報改訂

煙草年報改訂 製造煙草 小賣定価 百分三十五

耕作税ノ税率アリ上

一ヶ年ノ税入 八十九万六千金円

煙草年報改訂 製造煙草 小賣定価 百分三十五

耕作税ノ税率アリ上

一ヶ年ノ税入 八十九万六千金円

煙草年報改訂 製造煙草 小賣定価 百分三十五

耕作税ノ税率アリ上

一ヶ年ノ税入 八十九万六千金円

昭和二年一月 煙草年報改訂

煙草年報改訂 製造煙草 小賣定価 百分三十五

耕作税ノ税率アリ上

一ヶ年ノ税入 八十九万六千金円



江戸幕府の御用金に於ては、  
一、御用金に於ては、  
二、東西の御用金に於ては、  
三、御用金に於ては、  
四、御用金に於ては、

其の故たるは、  
一、御用金に於ては、  
二、御用金に於ては、  
三、御用金に於ては、  
四、御用金に於ては、

一、御用金に於ては、  
二、御用金に於ては、  
三、御用金に於ては、  
四、御用金に於ては、

一、御用金に於ては、  
二、御用金に於ては、  
三、御用金に於ては、  
四、御用金に於ては、

一、御用金に於ては、  
二、御用金に於ては、  
三、御用金に於ては、  
四、御用金に於ては、

一、御用金に於ては、  
二、御用金に於ては、  
三、御用金に於ては、  
四、御用金に於ては、

一、御用金に於ては、  
二、御用金に於ては、  
三、御用金に於ては、  
四、御用金に於ては、

一、御用金に於ては、  
二、御用金に於ては、  
三、御用金に於ては、  
四、御用金に於ては、

一、御用金に於ては、  
二、御用金に於ては、  
三、御用金に於ては、  
四、御用金に於ては、



第8-27頁  
關於吸入量及呼吸量

年次	栽培面積	收穫量	品質	備註
72	2308	2022.950	360.850	
73	94	41.160	6.068	
74	452	924.5-16	70.320	
75	436	438.116	41.205	
76	377	371.381	37.306	
77	333	315.000	27.430	
78	243	225.000	22.576	
79	281	168.000	19.530	
80	370	205.000	17.942	
81	418	215.000	24.489	
82	752	400.000	40.712	
83	941	373.000	35.572	
84	1062	1507.000	166.051	
85	1096	7.634283	235.153	
86	2259	14058.782	401.149	
87	2196	11.338.802	343.028	



站号	站名	站别	站址	站址	站址
42	28.674	2.378.872	8.3	17.6	3.413.063
44	16.040	2.816.141	17.6	19.0	2.104.178
45	17.775	3.370.525	19.0	19.3	2.905.086
46	19.641	3.792.960	19.3	23.9	4.321.284
47	10.999	2.632.969	23.9	27.1	3.823.722
48	13.576	3.675.118	27.1	27.1	
49	13.127	3.488.290	27.1	27.6	
50	14.887	3.759.934	27.6	25.3	
51	17.666	3.884.720	25.3	22.0	
52	17.950	3.823.451	22.0	21.3	
53	19.207	4.135.569	21.3	21.5	
54	16.701	3.666.008	21.5	22.0	3.413.063
55	12.292	2.811.619	22.0	22.9	2.104.178
56	12.753	3.050.499	22.9	23.8	2.905.086
57	16.390	4.224.239	23.8	25.8	4.321.284
58	16.663	4.667.737	25.8	22.0	3.823.722
59	16.514	3.473.824	22.0	21.0	3.969.312
60	19.044	5.067.264	21.0	26.6	6.602.329
61	21.870	6.029.134	26.6	37.6	7.277.853
62	19.613	6.916.478	37.6	35.2	8.101.679
63	14.229	9.026.914	35.2	28.3	4.592.123
64	13.637	5.384.178	28.3	29	
65	13.584	4.414.268	29	33	
66	14.693.3	4.107.833	33	28	
67	16.366.6	5.845.627	28	3.6	
68	17.532.2	5.659.095	3.6	3.2	
69	18.669.9	7.116.933	3.2	3.8	
70	19.703.6	7.806.923	3.8	4.0	
71	21.032.4	9.146.141	4.0	9.3	
72	22.229.1	7.222.915	9.3	9.2	
73	22.193.4	7.480.687	9.2	9.4	
74	23.178.0	10.569.044	9.4	4.6	



2014年12月24日

2014年12月24日

2014年12月24日

数量	单价	总价	数量	单价	总价
44	2.921	128.324	6	190.200	1141.200
4	31.483	125.932	7	351.746	2462.222
2	33.204	66.408	8	430.437	3443.496
3	113.489	340.467	9	432.748	3894.732
4	35.967	143.868			

2014年12月24日

数量	单价	总价	数量	单价	总价
10	302.382	3023.820	21	215.220	4519.620
11	25.255	277.765	214	761.094	162865.140
12	13.088	157.056	177	585.640	103658.280
13					
14	64.632	4119.456	274	887.442	243159.108
15			227	435.784	98810.808
2			80	040	32.000
3			270	1.111	299.970
4	13.592	182.808	238	402.661	95814.558
5	10.98	119.784	122	620.293	77356.760
6			154	020	15.700
7			295	200.782	230.910
8	1.712	2.886	155	279.473	42751.185
9	1.560	1.910	276	405.276	112816.576
	416	710	97	308.246	24862.680



昭和10年度 土地所有権移転登記簿

区分	内 地	5 郡	1 市 5 郡	工 事 所	其 他	計
10	朝鮮税 計	302,382 215,220 517,602				302,382 215,220 517,602
11	朝鮮税 土地税	2,211 214,761 348 217,320			123,043	125,244 214,764 348 240,365
12	朝鮮税 計	13,088 177,585 190,673				13,088 177,585 190,673
13	-	-	-	-	-	-
14	朝鮮税 土地税 計	64,632 2820 37925 103,377	58,275 58,275	62,040 62,040	22	64,632 64,860 44,222 223,714
15	土地税	149,694	30,060	47,681		227,435
2	土地税	80,040				80,040
3	土地税 計	126,480 1026,480	270			270 126,480 126,750
4	朝鮮税 土地税 計	186,382 186,382	13,532 52,020 65,612 9,970 23,600 32,570			13,532 238,402 251,944 30,098 189,044 122,620 321,762 66,528 154,020 220,548 112,738 295,200 407,938
5	朝鮮税 土地税 計	100,020 100,020		128 189,044 189,172		128 189,044 189,172
6	土地税 計	154,020 154,020		66,528 112,738		66,528 112,738
7	土地税 計	214,216 214,216	80,984 80,984 1,712			1,712 170,400 155,279
8	土地税 計	100,080 100,080	33,161 34,873	170,400	22,038 22,038	327,891 (1,560) 716
9	土地税 計	(213,480) 72,928 (213,480) 72,928	(1,560) 416	(366,750) 97,800 (366,750) 97,800	(2,925) 780 (2,925) 780	(366,750) 97,800 (366,750) 97,800 (276,405) 73,708 (644,715) 171,929



新地別 美地年 故知 輸入 数量 (1929)  
 日 1929年  
 日 1929年

年次	内 地	支 那	外 國	比 呂	印 度	荷 蘭	其 他	計
41	154,511	45,761	437					11,587
42		7,009						22,282
43								145,627
44	231,544	86,134		12		44,302		240,011
45	180,589	63,593				56,564		374,254
2	129,246	19,236		150		3	119,389	15,434
3	105,307	243,800				1,269	38,087	11,595
4	107,890	387,065			9,649	20,368	20,407	199,583
5	284,052	26,481			18	32,910	20,407	399,531
6	390,993	1,208			18	72,580	51	527,865
7	150,148	112,033			18	54,486	100	446,587
8	149,347	291,367			18	58,140	150	320,497
9			112,760	96		504	104,295	2,075
								560,424

日 1929年  
 日 1929年



(F. 1931)

入印内唯特房蓋以五車五陸等分此則四四以分



匯算帳目

年次	帳目	帳目	帳目	帳目	帳目	合計
10	984,400 x 257	2,039,914 x 184	3,024,814 x 441	19,230 x	-	19,230 x
11	7,645,540 x 17	2,370,360 x 7,358	4,015,400 x 7,375	23,226 x	93,918	117,144
12	1,069,960 7	2,894,839 13	3,464,599 20	30,708	676,463	707,171
13	853,080 9	3,185,303 101	4,038,383 110	20,400	1,017,718	1,038,118
14	576,740 27	3,572,979 126	4,549,719 153	86,108 (22,962)	5,391,368 (1,437,698)	1,460,660
15	745,500 5	3,521,032 23	4,266,532 28	69,725 (18,060)	10,796,160 (2,878,978)	(2,897,036)
16	764,360 38	3,502,648 46	4,267,008 84	87,073 (17,886)	10,461,344 (2,923,025)	(2,940,911)
17	739,106 4	3,703,981 30	4,443,087 34	60,660 (16,176)	17,479,444 (3,061,185)	(3,077,361)
18	741,579 19	3,456,804 10	4,698,383 29	54,490 (14,176)	13,399,958 (3,573,322)	(3,587,498)
19	504,360 35	3,491,406 56	3,945,766 91	45,203 (12,054)	14,792,736 (3,992,728)	(4,004,782)
20	317,720 51	3,089,566 6900	3,407,286 6,951	29,758 (10,602)	14,556,956 (3,811,855)	(3,822,457)
21	277,200 50	3,237,468 3	3,515,168 53	32,873 (8,766)	14,941,866 (3,957,838)	(3,966,592)
22	141,243 3	3,637,145 3	3,828,388 2	28,643 (1,638)	16,095,544 (4,292,141)	(4,299,783)
23	176,400 80	4,591,352 129	4,767,752 209	30,375 (8,100)	16,424,945 (4,480,532)	(4,488,632)



製造彈藥輸入

[illegible]



荒服

1,982.566

一箇年終是正前

四下三條 板 五個半 五個半 五個半

年 度	5 年			10 年			15 年			合 計		
	数量	價格	合計	数量	價格	合計	数量	價格	合計	数量	價格	合計
5 3	122,392.2	2048.060	1670.599	265.3.531	14	1,180.43.476	327.450	2874.535	5,029.221			
4	9515.12	1698.529	2542.997	3,107.514	46	230.29.678	202.641	3,581.917	5,078.914			
5	8271.55	1,782.476	2,714.654	3,993.018	8	1,384.20.302	163.471	3,581.917	5,640.849			
6	1017.502	1,994.660	2,798.279	5,035.469	50	8,753.23.905	201.497	3,875.931	7,240.374			
7	833.140	2,465.450	2,633.922	6,552.696	+	96.20.222	209.182	3,467.062	9,227.334			
8	791.876	3,732.661	3,319.88	14,203.677	23	117.28.098	355.772	4,111.717	18,292.227			
9	876.565	5,060.150	2,853.807	12,311.452	411	64,415.27,796	453.306	3,730.783	17,889.323			

德志士克己

大正10年度報告及決算

新

明治維新以來、學者益多、  
其流派亦多、第一等（=最上）

新野縣	8,306 1/2	1,552.693 2
日本	1,860 1/2	404.141
泰國	1,135.5	414.864
印度	45.4	5306
合計	11,347.7	2,470.004

Dr. Fu & Co.

期終帳	12.27	8.58	3.003.772
日付帳	612.3	250.736	
黄毛帳	1.802.0	853.324	
計	14.693.2	4.107.833	



製造年報行入

数量		紙 卷 (44)	葉 卷 (44)	刻 (44)	価 格
42					
43					
44	505.663		15.639		
1	473.846		21.738		
2	255.006		5.840		
3	871.026		5.46		
4	26.148		1.665		
5	27.750		1.296		
6	48.147		1.749		
7	31.647		1.967		
8	126.399		2.283		
9	246.450		7.753		
10	111		1.612		
11	315		4.250		
	300		2.703		
	570	116	36	19.099	
14	2.747	5	1.050	22.691	
1	6.847	152	5.93	63.471	
2	1.602	141	3.11	36.635	
3	1.004	117	8	26.453	
4	1.017	140	13.9	28.808	
5	107	288	2.93	15.067	
6	496	27	2.89	9.828	
7	306	19	5.3	10.046	
8	444	173	6.236	47.677	
9	530	240	4.966	46.513	
10	1.104	216	4.851	53.665	
11	5.584	340	32.378	129.618	
12	57.367	154	32.442	587.170	
13	17.702	118	34.268	355.567	
14	-	7	39.487	84.903	
15	-	202	51.187	118.337	
16	-	202	74.227	187.734	
17	-	348	43.200	50.490	



自1943年起  
人壽保險費及水險保險費之結算表

人壽保險費			水險保險費及賠償金額		
年次	戶數	一戶數	數量	賠償金額	一戶數
43	7,356	4,727	0.64	2,772	12,383
44	14,346	13,285	0.93	7,719	36,960
45	56,464	57,517	1.02	18,805	94,545
46	120,941	140,096	1.16	53,100	271,705
3	192,390	241,836	1.26	64,477	376,767
4	290,519	365,218	1.26	99,303	477,892
5	346,823	528,678	1.52	162,533	842,282
6	311,627	485,063	1.56	131,892	741,392
7	125,213	201,160	1.60	67,813	335,344
8	195,620	311,106	1.59	103,785	687,583
9	319,331	525,230	1.64	146,508	846,535
10	328	733,016	1.97	129,066	1,305,399
11	475,339	842,346	1.77	163,053	1,445,912
12	419,788	705,134	1.68	166,282	1,430,680
13	380,149	545,569	1.46	141,983	1,152,934
14	267,107	425,512	1.59	112,988	917,839
15	200,658	320,017	1.595	109,759	870,366
2	326,134	509,379	1.562	154,237	1,219,808
3	327,441	576,542	1.762	197,340	1,648,012
4	334,479	549,729	1.644	165,538	1,318,715
5	336,918	584,891	1.736	170,909	1,390,478
6	350,243	717,678	2.049	161,952	1,319,327
7	365,090	744,077	2.175	165,172	1,360,548
8	350,623	730,789	2.684	142,686	1,118,734
9	357,600	727,646	2.035	142,577	1,087,948

合計 11,300,112 戶 2,035,112 戶



201443 12  
2230 9 12

紅粉人嬌似海棠。

紅 漆 製 造 高		人 漆 製 造 高		明 漆 製 造 高		白 漆 製 造 高		紅 漆 製 造 高	
43	895	208							
44	2,300	653							
45	5,886	1,524							
2	1,7122	4,536							
3	17,700	6,404							
4	29,322	8,488							
5	44,636	14,121							
6	33,368	12,812							
7	19,144	6,441							
	26,003	10,061							
	12,105								
	36,266	14,920	536,337		318,110	1,132	1,133	673	
11	40,571	14,773	95,200		105,600	1,928	535	673	
12	46,022	15,785			436,312	225	372		
13	38,538	13,344	238,270		336,550	2,275	364	1,036	
14	31,629	9,690	450,435		337,970	906	787		
15	29,369	10,084	753,187		618,050	1,900	902	1,196	
2	41,540	14,017	337,500		597,000	675,000	495	1,027	
3	50,901	19,539	1,328,560		1,504,000	1,395,000	231	1,654	
4	39,187	14,912	845,000		942,000	2,113,200	407	1,252	
5	46,259	15,838	1,180,600		1,106,000	2,061,000	492	1,207	
6	43,819	13,483			1,626,700	1,642,500			
7	43,364	15,395	9,330	2,000	46,910	4,125			
8	36,366	12,229	915,200	2,000	1,160,500				
9	37,203	12,626			2,377,130	1,793,250			



人募製品製造及臺灣高

[illegible]



自明性43年低 市天口温生產額

昭和9年度 市天口温生產額

品別	市田面積	生産額	市田一畝当生産額
43	81 <sup>5</sup>	996,174 <sup>5</sup>	12,298 <sup>5</sup>
44	479	4510,425	9,416
45	792	14,831,129	18,726
46	853	41,613,233	48,785
47	853	48,920,190	57,351
48	853	50,986,590	59,773
49	853	70,898,400	83,417
50	860	88,586,634	103,006
51	940	77,480,634	82,426
52	1,985	84,489,1150	85,977
53	1,090	91,535,182	83,977
54	1,209	93,122,846	77,025
55	1,658	95,749,828	46,687
56	1,658	67,136,736	40,493
57	1,778	108,410,305	60,973
58	2,446	84,992,768	34,748
59	2,446	155,094,553	63,407
60	2,446	182,949,600	74,745
61	2,446	253,755,500	103,743
62	2,446	309,638,000	126,589
63	2,446	242,167,000	99,005
64	2,446	243,870,000	99,705
65	2,474	355,742,000	143,792
66	2,474	336,541,000	136,031
67	2,652	237,862,517	89,489
68		(142,717,510 <sup>85</sup> )	(53,694 <sup>85</sup> )



1954年 粮食调入数量

年度	内地	台湾	国外	香港	山东	其他	合计
43							93,244,748斤
44							142,748,963
45							182,228,262
46							165,447,319
47							111,344,116
48							196,282,256
49							245,588,891
50							223,562,935
51							331,262,961
52							340,377,096
53							166,124,292
54							186,116,822
55							197,794,645
56							292,845,189
57							263,006,704
58							256,660,228
59							290,043,248
60							280,128,727
61							268,090,694
62							226,405,583
63							203,671,056
64							320,727,292
65							308,416,414
66							311,417,019
67							283,939,541
68							(170,363,725)
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							



自明弘治45年及  
正德元年度

年次	数量	西	米	白米	西	米
42	193,821	1,020	527			
43	617,327	2,202	357			
44	3,384,676	18,385	543			
45	11,322,715	73,758	651			
2	15,712,078	63,104	402			
3	36,455,948	104,156	286			
4	52,675,850	222,868	423			
5	44,358,942	197,707	446			
6	91,045,315	449,318	443			
7	52,219,759	585,049	1,120			
8	65,898,700	1030,569	1,564			
9	29,299,581	295,188	1,007			
10	112,632,217	1,104,746	981			
11	75,763,626	881,695	1,164			
	42,894,072	601,016	1,401			
	50,000,029	498,109	1,123			
	500	1,172,424	1,437			
2	116,785,334	1,302,258	1,975			
2	137,192,400	1,214,314	885			
3	196,465,481	1,527,742	778			
4	202,873,647	1,628,514	803			
5	404,744,848	3,395,727	839			
6	542,451,103	4,589,513	846			
7	476,648,661	4,249,302	902			
8	518,042,360	5,742,028	1,108			
9	582,936,282	6,467,931	1,110			
	(349,763,569)					

大正7年3月 数量 正 实施

年次	数量	西	米	白米	西	米
5	77,516	4,657				
6	44,932	2,889				
7	37,934	2,422				
8	48,363	3,053				
9	52,867	3,377				
	(31,720.85)					

(192,860.85)



五

ノミテハ朝鮮ニ於ケル麻薬類中毒患者ノ根絶シ難キヲ以テ  
麻薬類ノ製造販賣ヲ政府事業トシ此手専ラ有ノ根絶ヲ期ス  
ル方針ヲ樹テテ今ニ於テ未だ麻薬類ノ根絶ノ期未ダ至ラ  
ズトシ内ニテ陽ヲ設置シ昭和五年三月ノ事ニテ之ヲ開始セリ

專子屋の内。上場う散置い服和。五年。シムア。事世あう開然セリ  
其後。毛ルヒ。片妻。怡。療。計。在。ハ。順。調。ニ。進。捗。シ。殆。ニ。ト。其。  
跡。ヲ。絶。ワ。ニ。至。シ。リ。

高田新七郎 文政二十二年 何月事務に一切事務を承るなり  
 石山全局へ移住せしむる同年十月一日より行政官事務に化実  
 施する一箇全局を廃止せしむるより前事務の御全課、花子御事  
 入ルコト、ナリしモノトシ事務を承るに於て、佐原上事務承るの旨を御承  
 へり満喜ト御承メし 服部千八 年四月一日より事務承るの旨を御承  
 へりトコトナリし。



[illegible]



統計表



2. 艾氏收入及支出

收入	支出	差引益金	營業入部	營業入部
			428.096	40.885
			6.525.445	40.885
			5.179.671	40.885
			7.160.732	40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885
				40.885

19年度營業收入、官費收入、3割15.6厘、特別公債收入、1割9.3厘、如此。



葉煙草耕作面積及收量 (農業統計年度)

年度	面積	收量	反響收量	面積
昭和43	28,674	2,378.872	8.3	
44	16,040	2,816.141	17.6	
天正1	17,775	3,370.525	19.0	
2	19,641	3,742.960	19.3	
3	19,999	2,632.969	23.9	
4	13,576	3,675.118	27.1	
5	13,127	3,489.290	26.6	
6	14,887	3,759.934	25.3	
7	17,666	3,884.720	22.0	
8	19,950	3,823.451	21.3	
9	19,207	4,135.569	21.5	
10	16,701	3,666.008	22.0	3,413.063
11	12,292	2,811.619	22.9	2,104.178
12	12,793	3,050.439	23.8	2,905.086
13	16,390	4,224.239	25.8	4,321.284
14	16,663	3,667.377	22.0	3,823.722
昭和1	16,514	3,473.804	21.0	3,969.312
2	19,404	5,067.264	26.6	6,602.329
3	21,870	6,029.134	37.6	7,277.833
4		6,111.459	35.2	8,101.077
5			21.3	9
6			29.0	4,801.756
7	13,637	5,309.923	35.0	5,875.829
8	13,558	4,414.268	33.0	4,862.359
9	14,693	4,107.833	28.0	5,221.957
10	16,367	5,845.627	36.0	7,348.900
11	17,532	5,659.095	32.0	6,242.198
12	18,670	7,116.933	38.0	11,113.482
13	19,704	7,806.923	40.0	12,153.546
14	21,032	9,146.141	43.0	15,398.503
15	22,229	7,222.915	32.0	16,497.118
16	22,193	7,480.689	34.0	20,644.219
17	23,178	10,569.044	46.0	26,762.700
18				
19				
20				

昭和43年比 4.44倍

反響收量 昭和43年比 5.50倍

昭和10年比 2.09倍

昭和10年比 7.84倍

昭和43年 31.12

昭和17年 17.25



某種耕作及收

年度	種作		收			納		
	人員	面積	總數	內地稅	車馬稅	東道稅	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	賠償金
42.								
43		28.674	3.378.872					
44		16.040	2.816.141					
45		17.775	3.370.525					
46		19.641	3.992.960					
47		10.999	2.632.968					
48		13.576	3.675.118					
49		13.127	3.489.290					
50		14.887	3.759.934					
51		17.666	3.884.720					
52		17.950	3.823.451					
53		19.207	4.135.569					
54		11.347	2.406.397	403.572	1.582.6	414.864	5.306	3.413.063
55		7.305	1.417.673	326.522	814.2	275.901	975	2.114.970
56		8.113	1.759.800	416.127	910.6	423.919	1,029	2.894.584
57		11.172	2.929.789	489.833	1,834.2	605.565	-	4,821.284
58	82.327	11.172	2.929.789	489.833	1,834.2	605.565	-	4,821.284
59	96.030	12.815	10.171.282	1,216.034	7.143	1,811.302	-	3,823.722
60	107.002	13.700	10.002.113	1,395.593	6.660	1,946.059	-	3,969.312
61	133.844	16.838	16.396.298	2,048.554	11.699	2,648.100	-	6,602.829
62	149.758	19.493	20.859.908	1,902.690	15.837	3,119.974	-	7,277.832
63	124.997	18.176	24.525.338	1,239.068	20.010	3,275.467	-	6,812.838
64	92.484	14.230	15.100.927	445.957	12.595	2,059.226	-	4,592.121
65	89.682	15.233	16.440.671	1,113.203	12.319	3,012.622	-	4,801.756
66	77.893	13.639	19.912.211	1,333.414	15.395	3,186.003	-	5,875.829
67	78.688	13.558	16.553.509	870.540	13.061	2,616.409	-	4,862.359
68	85.696	14.693	15.404.374	940.263	11.216	199.965	-	5,221.957
69	97.481	16.367	21.921.376	1,217.923	19.499	3,203.645	-	7,348.900
70	108.647	17.533	20.626.349	929.809	16.231	3,465.336	-	6,242.198
71	112.761	18.672	26.688.500	1,782.366	20.766	4,134.364	-	11,113.432
72	122.657	19.704	29.275.961	1,852.083	22.390	5,033.619	-	12,153.546
73	131.477	21.079	34.298.029	2,060.470	20.050	12,187.456	-	15,298.503
74	132.758	22.229	29.085.927	1,472.685	17.049	11,563.369	-	16,497.118
75	139.481	22.193	28.052.581	1,596.458	14.420	12,035.895	-	20,644.219
76	142.622	23.178	39.633.915	2,256.466	21.496	15,881.157	-	26,962.700



業煙羊松移

明	總	致	移	移	移
明	致	移	移	移	移
42					
43					
44	不明	2,921			
45	不明	31,483			
46	不明	33,204			
47	113,489	111,979			
48	35,967	27,901			
49	60,452	88,851			
50	190,200	246,417			
51	351,746	727,047			
52	430,437	1,393,877			
53	432,748	1,684,265			
54	517,602	1,124,222			
55	390,365	665,298			
56	190,673	681,717			
57					
58	838,928	722,719	838,928	722,719	
59	852,881	784,040	291,529	195,576	561,352
60	300,150	255,452			300,150
61	475,313	398,889	1,013	1,111	474,300
62	444,978	689,379	246,045	143,445	698,933
63	1,206,608	787,102	831,533	533,554	375,075
64	827,055	621,513	249,480	151,425	577,575
65	1,529,768	1,036,733	726,458	349,834	803,310
66	1,229,591	808,952	771,649	419,510	457,942
67	644,715	453,679	371,235	208,776	273,480
68	421,000	272,889	421,000	272,889	
69	650,000	426,020	650,000	426,020	
70	509,580	271,924	509,580	271,924	
71	2,401,230	1,201,008	2,401,230	1,201,008	
72	3,627,720	1,857,877	3,627,720	1,857,877	
73	4,144,820	2,413,230	4,144,820	2,413,230	
74	3,623,339	4,411,670	3,623,339	4,411,670	
75	4,026,592	6,194,451	4,026,592	6,194,451	

(45,764)

明	移	移	移	移	移
明	移	移	移	移	移
156,272					
250,011		80,501		159,051	
304,254	327,984	142,710		231,544	
379,008	439,407	198,419		180,589	
199,583	241,892	70,337		129,246	
349,531	342,916	294,224		105,307	
527,865	460,444	419,975		107,890	
383,882	519,097	99,130		284,052	
446,589	679,415	55,794		390,793	
320,447	904,627	170,349		150,148	
560,424	1,655,604	409,077		149,347	
364,313	1,599,779				
416,887	2,409,886				
491,047	1,936,117				
765,852	2,448,107	183,801	1,424,685	582,051	1,023,42
2,092,789	1,970,627	536,529	1,509,843	1,556,250	460,78
8,319,356	3,694,799	1,753,230	1,583,994	6,566,126	2,110,80
6,985,050	3,766,783	529,175	3,137,904	1,633,875	628,87
5,564,134	2,658,127	2,293,766	2,493,890	3,270,368	1,164,23
3,394,528	2,814,836	1,858,429	2,037,669	1,516,099	777,16
3,680,325	3,067,453	3,316,545	2,642,872	3,63,750	424,58
1,705,869	1,056,607	1,567,110	891,670	1,38,750	164,93
22,909	772,912	1,087,909	606,490	1,35,000	166,42
882,819	1,604,834	1,807,718	1,522,769	75,401	82,06
446,448	5,441,968	6,871,422	4,689,516	1,635,026	752,43
309,698	4,342,827	4,066,198	3,343,885	1,937,500	998,94
92,217	5,655,915	2,946,217	3,647,849	4,146,000	2,008,06
35,493	1,953,548	1,605,493	1,906,425	35,000	47,12
3,175	491,044	407,175	405,305	66,000	5,79
694	83,579			65,694	83,57
960	190,163			174,960	190,16
000	187,515			112,000	187,51
10	625,644			427,000	625,64

(45,764)



煙草製造表

		紙 卷			葉 卷		
		西 口 本	口 本	計 本	細 刻 是	計 刻 是	本
明治	43						
	44						
大正	1						
	2						
	3	1,670,599	1,223,922	2,894,521			
	4	2,442,999	951,512	3,394,509			
	5	2,754,654	827,155	3,581,809			
	6	2,798,279	1,017,502	3,811,781			
	7	2,633,922	833,140	3,467,062			
	8	3,319,818	791,876	4,111,694			
	9	2,853,807	876,565	3,730,372			
	10	2,039,914	984,900	3,024,814	19,230	-	
	11	2,370,360	1,645,540	4,015,900	23,226	93,918	
	12	2,894,639	1,069,950	3,964,589	30,708	67,663	
	13	3,185,303	853,080	4,038,383	20,400	1,017,718	
	14	3,572,979	976,740	4,549,719	22,962	1,437,048	
昭和	1	3,521,032	745,500	4,266,532	18,060	2,878,776	
	2	3,502,648	764,360	4,267,008	17,886	2,923,025	
	3	3,703,981	739,160	4,443,087	16,176	3,061,855	
	4	3,956,804	741,579	4,698,383	14,664	3,573,322	
	5	3,491,406	504,360	3,995,766	12,054	3,992,728	
	6	3,089,566	317,720	3,407,286	10,602	3,811,855	
	7	3,229,568	277,200	3,506,768	8,766	3,957,831	
	8	3,637,145	191,243	3,828,388	7,638	4,295,145	
	9	4,591,202	176,400	4,767,602	8,100	4,480,322	
	10	5,110,069	203,600	5,313,669	25,425	17,351,555	
	11	5,743,375	168,135	5,911,510	4,725	16,951,572	
	12	5,174,478	146,100	5,320,578	-	15,057,260	
	13	7,062,647	118,208	7,180,855	-	14,867,729	
	14	8,529,528	161,000	8,690,528	-	14,264,990	
	15	9,575,816	165,450	9,741,266	-	14,690,512	
	16	10,878,846	179,820	11,058,666	-	15,059,192	
	17	11,856,865	170,000	12,026,865	-	14,200,110	
		大正3年比			昭和3年比		
		4.14%			87.09%		

(163,635)

14

46

8

50

-

23

411

昭和10年7月31日現在



製造 陸 陸 陸

		内				入				
總額		12分(44)	10分(44)	10分(44)	10分(44)	紙卷(44)	葉卷(44)	新(44)	價格	
明治	42									
	43									
	44									
	45									
大2	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	7									
	8									
	9									
	10	11,812,421	979,479	1,903,722	18,984	11,749,561	587	24	1,574,111	22,308
	11	17,265,312	1,476,430	2,169,942	23,147	17,067,293	1,921	134	4,033	101,095
	12	19,195,254	1,069,677	2,812,163	28,269	19,042,825	1,455	164	1,513	90,033
	13	21,544,631	958,985	3,197,004	21,545	21,357,357	1,176	145	4,802	187,274
	14	23,637,884	882,535	3,338,169	79,883	23,430,792	3,146	157	17,689	207,097
	15	27,910,442	794,193	3,493,393	69,540	27,682,548	6,895	149	15,570	227,894
昭和	2	30,274,894	782,378	3,551,703	67,489	30,097,096	3,185	129	14,321	177,798
	3	32,318,837	845,621	3,720,830	59,453	32,26,433	2,438	168	16,530	191,904
	4	33,904,285	712,409	3,790,059	54,259	33,747,236	1,095	263	14,254	162,049
	5	31,816,110	507,276	3,380,056	46,575	31,693,010	582	224	11,730	123,100
	6	31,249,404	353,938	3,166,804	38,726	31,149,653	499	159	9,190	99,751
	7	32,167,739	273,346	3,270,006	34,556	32,076,449	496	145	7,961	91,290
	8	35,313,186	221,224	3,775,613	31,058	35,227,038	518	183	6,653	86,148
	9	39,025,676	199,626	4,409,413	29,411	38,941,646	538	216	5,764	84,030
	10	42,926,286	187,293	4,954,989	27,727	42,835,698	846	233	5,244	90,588
	11	47,805,834	173,882	5,100,370	-	47,775,665	1,374	229	32,955	230,169
	12	55,110,487	139,965	5,329,798	-	55,23,317	57,367	154	32,942	587,170
	13	62,377,562	143,737	6,250,174	-	62,11,945	17,702	118	34,268	355,567
	14	76,821,227	174,773	7,508,186	-	76,44,352	1,043	166	40,545	346,875
	15	86,318,958	155,357	8,167,493	-	86,22,5733	690	181	52,570	493,225
	16	110,110,785	165,998	9,817,889	-	109,46,863	-	182	45,480	423,922
	17	137,982,854	172,361	10,356,440	-	137,46,306	-	165	64,230	804,548



水 麥 収 穫 入 収 出

年 度	作 業		収 穫 高 出				入 収		出 収		時 間 分 割 内	同 一
	人 員	面 積	収 穫	二 年 収	三 年 収	七 年 収	入 収	出 収				
43	120	427.874	293.7	211	2601	125	2	71			12.383	4.469
44	172	837.906	13.621	5.814	7.408	-	7	19			33.760	4.760
45	143	1.429.601	56.394	88.183	38.199	62	18	805			94.545	5.023
46	136	1.451.320	140.096	38.834	93.141	8.121	53	100			271.705	5.117
47	123	1.329.524	241.836	81.793	147.347	10.696	6	477			376.774	5.844
48	109	1.038.769	365.218	70.894	284.764	9.560	99	303			477.893	4.812
49	102	997.915	528.678	-	525.224	3.454	162	533			842.282	5.182
50	112	1.088.128	485.067	-	18.568	466.499	131	892			741.392	5.621
51	116	1.467.402	201.159	3.887	197.272	-	67	512			335.344	4.446
52	120	1.724.654	311.106	8.559	302.547	-	103	785			687.583	6.625
53	145	1.787.894	525.230	10.433	514.797	-	116	508			846.535	7.266
54	172	1.611.126	733.016	1.221	731.004	791	139	08			1305.309	9.284
55	192	1.328.007	842.346	-	842.346	-	163	53			1.445.912	8.868
56	228	1.674.218	705.134	-	705.134	-	166	252			1.430.686	8.604
57	249	1.595.834	573.016	535	572.663	-	142	12	56	142.156	1.152.634	8.048
58	268	1.533.402	468.872	-	429.137	39.735	113	2	-	104.217	9.615	9.17.840
59	269	1.612.580	360.737	-	328.112	32.625	116	5	-	100.080	10.925	870.367
60	306	1.767.182	531.736	-	531.736	-	154	51	-	154.451	-	1.219.803
61	298	1.790.245	577.531	-	577.531	-	197	5	-	197.645	-	1.648.013
62	298	1.833.107	551.361	-	551.361	-	165	17	-	165.897	-	1.315.812
63	291	1.891.209	586.712	2.283	584.429	-	171	19	87	170.492	-	1.390.478
64	296	1.928.962	720.473	-	720.473	3.696	162	17	-	162.779	-	1.369.327
65	299	1.948.667	745.992	-	787.296	-	165	56	-	163.539	0.1.847	1.360.599
66	293	1.882.041	734.997	-	734.997	-	143	5	-	143.615	-	1.118.734
67	289	1.981.706	727.646	-	694.203	33.443	142	77	-	135.437	7.138	1.087.948
68	287	1.671.208	774.544	-	711.893	62.701	142	62	-	132.265	10.397	1.043.882
69	284	1.560.629	916.740	-	773.938	142.802	152	57	-	127.229	24.834	1.166.063
70	286	1.562.560	909.474	-	757.172	152.302	151	10	-	129.094	22.296	1.151.089
71	288	1.499.689	683.876	-	554.270	129.606	121	77	-	98.519	22.728	921.026
72	292	1.430.172	566.548	-	561.720	4.828	99	77	-	97.927	1.150	755.895
73	295	1.616.973	506.407	-	506.407	-	101	32	-	101.732	-	760.902
74	317	1.686.483	568.793	-	568.793	-	15	25	-	15.220	-	1.163.684
75	376	1.907.002	575.688	-	575.688	-	156	504	-	156.504	-	1.184.311
43年比												
649.30												
43年比												
14.881%												



總數	天	地	雜	參	內	外	白	白	紅	紅
43	1.102	877	17	-	208	-	-	-	-	-
44	2.952	2013	286	-	653	65.00	-	8.744	-	-
45	7.410	5565	300	21	1524	19.600	6.850	39.396	-	-
2	20.658	12.270	4745	107	3536	54.400	68.800	28.960	-	-
3	24.104	12.885	4615	200	6404	62.30	-	111.520	-	-
4	35.720	18.603	5450	3,269	8,298	68.20	71.500	79.820	63.652	-
5	60.757	34.190	7,415	5,031	14,121	135.40	-	47,200	-	-
6	50.180	29.251	6,340	1,777	12,812	119.56	-	73.012	-	-
7	25.584	13.951	2,403	2,789	6,441	65.85	-	50,240	85.825	-
8	36.024	13.869	9,250	2,884	10,021	122.72	-	881	193.674	-
9	41.809	14.564	14,555	575	12,115	286.04	-	3,103	147,129	222.362
10	51.846	16.005	18,097	2,163	15,581	318.11	-	1,245	1,130	536.337
11	55.304	19,646	19,713	1,212	14,733	105.13	-	-	90,727	377,872
12	61.807	23,119	22,000	903	15,785	116.35	-	225	59,520	-
13	51.882	18,937	18,870	731	13,344	336.88	-	2,275	210 斤	238,270
14	41,319	15,683	15,345	601	9,690	337,970	-	410,961 斤	789 斤	450,435
1	39,483	13,599	15,173	627	10,084	618,750	-	861,840	902	753,137
2	55,557	20,170	20,694	676	14,017	579,000	-	680,400	293	202 337,500
3	70,440	22,575	26,808	1,518	19,539	1,504,02	-	1,406,160	130	96 1,328,560
4	54,099	17,500	20,542	1,145	14,912	942,000	-	2,113,200	265	126 845,000
5	62,097	19,619	25,492	1,148	15,833	1,106,000	-	2,061,000	333	159 1,180,600 42,506
6	59,302	21,387	21,287	1,145	15,483	1,626,700	-	1,642,500	445	197 - 43,118 22,272 6,62
7	58,759	20,939	20,592	1,533	15,395	938,20	-	1,856,250	372	154 1,221,320 2,000
8	48,525	17,824	17,687	794	12,220	1,160,50	-	-	650	257 915,200 2,000
9	49,829	18,177	17,500	1,220	12,626	2,317,10	-	1,793,250	890	331 -
10	52,152	19,134	19,061	756	13,174	3,142,40	-	1,755,000	627	192 -
11	55,368	19,471	19,233	1,116	15,548	2,539,00	-	1,215,000	463	144 -
12	53,502	18,656	18,638	1,215	14,993	1,679,50	-	1,432,800	219	111 -
13	43,872	15,119	15,039	1,178	12,536	1,740,00	-	411,000	361	14 -
14	37,055	12,986	12,739	1,072	10,258	2,320,00	-	922,000	320	15 -
15	34,131	11,211	11,418	2,194	9,308	2,830,00	-	-	325	17 -
16	56,198	19,427	19,532	2,911	14,328	4,660,00	-	350,000	302	13 892,080
17	54,378	18,628	18,295	1,899	15,556	3,500,00	-	-	371	11 800,000



期次		数量 (斤)	单价 (元)	数量 (斤)	单价 (元)	数量 (斤)	单价 (元)	数量 (斤)	单价 (元)	数量 (斤)	单价 (元)	数量 (斤)	单价 (元)
43	2,660	178.566	2,441	170.956	130	7.29	51	174	-	-	38	-	-
44	1,662	117.458	1,338	107.496	293	11.858	26	87	-	-	5	-	-
45	4,722	379.850	4,624	379.168	21	3.93	-	-	-	-	77	289	-
2	9,870	701.699	7,152	586.464	2,314	112.882	86	863	-	-	319	1,490	-
3	20,968	1,265.767	14,444	1,065.238	4,386	47.885	149	576	-	-	1,739	2,868	-
4	26,087	1,386.306	17,423	1,132.350	6,292	253.951	1	1	2.53	-	2,371	204	-
5	32,476	1,719.513	21,465	1,423.805	5,690	34.980	146	1,168	2,853	52,983	2,322	6,577	-
6	37,931	1,853.621	23,785	1,543.595	5,040	218.190	284	2,272	3,299	23,093	5,523	16,471	-
7	39,255	2,011.975	24,624	1,649.808	7,566	25.469	87	988	3,568	27,689	2,627	8,021	-
8	32,622	1,865.917	25,887	1,734.929	3,400	10.695	30	492	2,441	20,477	1,864	5,844	-
9	38,325	2,472.339	19,347	1,644.495	17,260	522.781	309	6,180	-	-	909	3,883	-
10	38,380	2,033.461	15,000	1,200.000	17,090	746.982	426	8,525	-	-	5,864	27,954	-
11	41,844	2,216.339	17,565	1,387.783	17,565	58.958	2,602	5,2045	-	-	4,112	17,552	-
12	43,740	2,174.973	17,521	1,384.083	17,344	743.124	829	16,590	-	-	8,040	31,175	-
13	35,246	2,135.213	15,160	1,313.073	15,900	95.000	527	10,545	832	5,824	2,827	10,741	-
14	40,062	2,658.864	19,840	1,724.951	19,100	117.415	536	10,735	75	3,000	511	2,763	-
1	45,582	2,735.951	21,821	1,789.756	19,548	335.412	434	8,695	x 2,542	x 9,4054	1,236	8,083	-
2	53,046	2,405.690	20,164	1,527.043	18,032	705.477	382	7,645	x 2,653	x 9,8168	11,815	67,364	-
3	61,233	3,011.214	20,305	1,732.973	20,300	77.974	1,287	28,271	x 4,243	x 19,935	15,098	91,061	-
4	53,552	2,417.398	19,752	1,496.061	19,844	74.774	573	11,460	x 2,940	x 10,4980	10,443	60,123	-
5	55,257	2,365.663	19,614	1,319.191	21,189	39.078	598	10,166	x 4,295	x 14,385	9,561	47,843	-
6	48,076	1,960.941	17,639	1,126.788	19,709	779.846	510	7,905	-	-	10,218	46,402	-
7	49,968	1,841.023	17,039	1,113.708	16,667	55.247	246	3,813	-	-	16,016	68,255	-
8	30,962	1,272.740	11,721	762.232	12,093	76.168	190	2,945	-	-	6,858	31,395	-
9	27,221	1,531.546	14,896	963.104	14,637	532.429	291	4,511	-	-	7,397	31,502	-
10	39,243	1,660.789	14,834	1,019.849	14,898	596.008	297	4,604	-	-	9,264	40,328	-
11	39,738	1,789.462	15,204	1,088.834	15,236	656.894	290	4,495	-	-	9,008	39,239	-
12	40,455	1,769.465	14,931	1,066.134	15,161	55.469	311	4,820	-	-	10,052	43,542	-
13	38,631	1,610.438	14,361	981.743	14,441	55.015	177	2,743	-	-	9,652	40,937	-
14	37,092	1,665.515	15,555	1,033.523	14,776	601.299	165	2,558	-	-	6,596	28,035	-
15	35,434	1,998.497	14,180	1,124.020	16,183	839.382	828	1,738	-	-	4,243	20,357	-
16	50,893	3,067.555	23,800	1,857.800	21,200	164.800	800	16,400	-	-	5,093	28,555	-
17	50,925	3,567.903	22,545	2,006.465	22,500	480.325	800	34,240	-	-	5,080	46,873	-
43年比		43年比											
19.14倍		19.98倍											



人 参 製 品

No.	總價格		內 甲 參 務		外 甲 參 務		白 參		紅 參		紅 參	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	30 錢入	10 錢入
43												
44	115											
45	787	3,276	655				3944	115				
2	1,716	4,624	925				5239	132				
3	9,758	17,382	8,274	4,014	502		40,569	289				
4	10,379	51,115	9,418	9,420	1,024		64,960	459				
5	21,119	103,535	19,074	14,370	938		3,200	22				
6	38,257	178,160	32,781	9,000	580	1,113	52,320	367				
7	23,231	118,675	14,476	8,000	515	1,500			37,200	3,534		
8	29,496	139,630	14,651	2,000	128	760			83,440	7,926		
9	67,217	135,009	35,100			27			156,000	14,820		
10	69,268	164,092	30,800			2029	3,043	1,059	244,000	26,240		
11	53,324	96,120	24,000			1,700	2,096		420,885	36,372		
12	50,166	97,201	22,800			1,000	1,200	221,760	200,250	24,000		
13	17,194	300,000	10,500			1,500	1,800	72,640	200,002	24,522		
14	30,563	524,000	18,340			500	600		375,000	6,094		
15	32,658	687,000	24,045	9		498,900	1,320	741	375,000	6,093		
16	38,150	800,000	28,000			952,500	2,520		375,000	6,093		
17	56,560	1,040,000	38,880			1,134,000	3,000		440,000	7,150		
18	64,600	1,200,000	45,000			1,134,000	3,600		760,000	14,680		
19	83,800	1,200,000	45,000			1,376,000	3,600		800,000	16,000		
20	78,600	1,200,000	45,000			1,575,000	4,200		800,000	16,000	31,000	18,000
21	57,251	1,200,000	45,000			1,575,000	4,200		401,200	8,024	30,000	20,000
22	65,200	1,200,000	45,000			1,575,000	4,200		800,000	16,000	30,000	20,000
23	35,515	1,200,000	31,315			1,575,000	4,200					
24	43,000	1,600,000	40,000			1,125,000	3,000					
25	43,000	1,600,000	40,000			1,125,000	3,000					
26	43,000	1,600,000	40,000			1,125,000	3,000					
27	58,000	2,200,000	55,000			1,125,000	3,000					
28	63,290	2,532,000	63,290									
29	139,000	4,000,000	120,000			1,125,000	3,000		800,000	16,000		
30	149,266	4,000,000	128,266			1,125,000	3,000		800,000	16,000		



# 人夢輪移

年度	紅	夢	輪	移	紅	夢	輪	移
數量	數量	數量	數量	數量	數量	數量	數量	數量
93								
94								
95								
96								
97								
98								
99								
100								
101								
102								
103	41,721	2,279,495	86,469	939,613	3,485	8,223	-	-
104	47,628	2,382,271	61,727	402,722	13,611	33,387	-	-
105	43,647	2,318,931	49,379	329,532	25,299	60,357	-	-
106	57,426	2,812,219	48,799	356,412	2,039	5,159	4,935	8,975
107	52,955	2,415,229	52,332	257,733	6,758	38,007	6,912	14,582
108	63,819	3,256,483	41,979	311,521	8,201	47,512	5,179	10,380
109	91,776	3,844,731	59,452	320,570	2,936	8,350	5,130	9,045
110	9,304	490,471	61,539	272,906	6,195	13,144	5,766	9,115
111	6,417	357,842	82,279	315,922	5,685	10,319	3,717	7,504
112	16,544	766,712	77,203	307,241	8,480	24,004	10,584	19,674
113	58,505	2,049,744	77,058	350,711	27,822	81,086	12,645	28,083
114	35,103	1,806,126	75,610	295,981	42,337	147,960	77,246	86,557
115	44,532	2,194,232	89,861	354,260	33,437	113,830	47,215	45,915
116	36,617	1,361,151	60,915	334,173	12,146	36,388	18,841	21,581
117	36,664	1,547,785	32,961	228,847	36,165	211,530	32,960	64,682
118	43,257	2,381,092	25,336	267,547	24,457	124,568	15,533	25,869
119	85,467	6,858,024	14,584	204,600	21,265	190,287	22,095	57,503
120	47,023	3,687,907	77,561	421,172	29,089	155,089	-	-
121	49,575	4,151,518	52,280	233,461	92,601	235,445	-	-



	天田	工區	食卓區	精製區	再製區	粉碎區	製造者数人
	塩田面積	生産高	斤	斤	斤	斤	
明治	43	.81	996				
	44	479	9,510				
大正	1	792	17,831				
	2	853	41,613				
	3	853	48,920				
	4	853	50,987				
	5	853	70,898				
	6	860	88,587				
	7	940	77,481				
	8	985	84,690				
	9	1,090	91,535				
	10	1,209	91,123				
	11	1,658	75,750				
	12	1,658	67,137				
	13	1,778	108,410	-	-	-	6,792
	14	2,446	84,993	-	-	-	7,193
昭和	1	2,446	155,095	-	-	-	7,374
	2	2,446	182,950	-	-	-	6,980
	3	2,446	253,756	-	-	-	6,723
	4	2,446	309,638	41	7	1	6,219
	5	2,446	242,167	46	84	-	5,420
	6	2,446	243,870	53	48	119	5,134
	7	2,474	355,742	69	40	127	4,996
	8	2,474	386,541	73	50	246	7,843
	9	2,658	237,863	92	55	262	7,880
	10	2,755	456,000	101	63	64	8,155
	11	3,606	292,000	128	77	410	8,276
	12	3,606	240,954	193	58	680	8,275
	13	4,325	260,000				
	14		431,355				
	15						
	16						
	17						



培 训 班

组 数		教 量		内 容		合 计	
数 量	价 格	数 量	价 格	数 量	价 格	数 量	价 格
43	93.245						
44	142.749						
1	182.256	765.529	124.848				
2	151.785	755.664	109.016				
3	123.798	555.093	15.149				
4	190.258	852.218	32	327			
5	243.065	1,096.762	390	4234			
6	220.998	1,003.062	90	1,903			
7	284.509	1,502.475	130	3,639			
8	401.290	3,268.269	401.192	3,264.522			
9	166.124	1,362.940	68	2,506			
10	188.117	1,231.482	27	1,726			
11	187.795	1,403.787	17	4,461			
12	292.846	2,465.919	76	143.775	10,792		
13	248.349	2,181.288	59	1,754	37,044	466.023	
14	277.117	2,797.216	275	6,185	3,7453	445.336	
1	302.982	2,822.099	18	3,584	74.95	62.690	
2	283.629	2,218.718	8	872	2500	25.000	
3	247.460	1,851.197	-	-	-	-	
4	228.778	1,424.787	-	-	-	-	
5	203.671	1,042.913	-	-	10,011	62.658	
6	320.727	1,701.524	-	-	27,778	184.179	
7	308.416	2,072.427	-	-	20,296	160.145	
8	311.417	2,818.249	-	-	14,531	138.042	
9	283.145	2,731.388	-	-	13,396	136.643	
10	305.765	3,010.507	-	-	17,477	175.868	
11	279.620	2,206.818	-	-	26,969	277.886	
12	198.627	1,481.309	-	-	31,649	421.414	
13	255.000	2,862.000	-	-	15.000	209.000	
14	115.762						
15							
16							
17							

其 他		数 量		价 格		数 量	
数 量	价 格	数 量	价 格	数 量	价 格	数 量	价 格
1689.15	640.376	16	305				
141690	638.829	867	7,825				
122.551	539.476	2	68				
190.225	851.829	1	17				
242.672	1,092.157	3	371				
220907	1,001.107	1	52				
284437	1,498.604	2	232				
118	3,747	-	-				
173.805	1,360.434	-	-				
768.184	1,229.612	1	144				
149.253	1,398.014	9	1,312				
166.516	2,321.364	5	780				
623.641	146.528	959.061	14,673	130.809	3,847	88.849	
1335.331	103.855	959.794	5	570	632	15,963	
1,222.782	159.480	1,530.313	187	2,730	176	6,711	
836.951	150.790	1,329.664	85436	26.231	76	4,594	
989.009	105.359	850.599	1,137	11,589	170	7,063	
658.226	114.523	772.425	30	3,886	30	3,698	
378.874	119.815	601.381	1	-	17	5,737	
812.722	140.757	713.857	34,817	190.766	201	6,020	
472.462	139.528	939.820	-	-	300	9,224	
471.417	188.567	1,208.790	-	-	103	8,746	
1,205.927	144.970	1,388.818	-	-	42	6,651	
213.415	213.415	2,226.86	222.686	211.390	42	6,082	
173.040	115.721	8694	77.691	41	5,803		
75.399	681.528	1.00	11.10	117	7,744		
138.000	1,501.000	-	-	625	2,000		



原稿




日本人的海外生活に關する研究資料の整理  
井上

山田文子  
55

334.6  
303  
7372.55



○



334.6	303	737255
-------	-----	--------







4 型半造 5 齊藤 6 宇垣一成 7 南次郎 8 小磯國昭 9 阿部信行

2 12.10  
8 17

6 8.17  
6 17

6 6.27  
11 5.5

8.5  
5.29

17 6.27  
1 1.22

19.11.29  
20.11.29



1. 日本... 2. 日本... 3. 日本...

1. 日本... 2. 日本... 3. 日本...

1. 日本... 2. 日本... 3. 日本...

1. 日本... 2. 日本... 3. 日本...

1. 日本... 2. 日本... 3. 日本...

(折上り) 國産品 121X121

16

15

1. 日本... 2. 日本... 3. 日本... 4. 日本... 5. 日本...

1. 日本... 2. 日本... 3. 日本... 4. 日本... 5. 日本... 6. 日本... 7. 日本... 8. 日本... 9. 日本... 10. 日本...







日本人の海外活動に関する研究調査の草稿  
付表 図 表

324.6  
552.21  
73/2.56

山口六書

56



3346  
73.12.58

朝鮮始政以來趨勢表 (昭和20.1.18調)

( ) 年数、該年、調  
チオ具、直接年、調  
12

項目	明治43年	指數	大正8年	指數	昭和元年	指數	昭和10年	指數	昭和18年	指數
内地人	133,130,177	100	17,149,909	128	19,137,698	143	21,891,180	164	25,917,881	194
朝鮮人	13,128,780	100	16,983,510	127	18,631,494	141	21,248,864	161	25,133,352	192
朝鮮人學童數	(44) 24,537	100	89,278	363	471,813	1,922	901,201	3,678	1,997,490	8,140
朝鮮人就學率	(44) % 1.7	100	3.9	229	18.6	1,094	30.8	1,811	580	3,411
國語普及率	(大2) 0.6	100	(13) 4.6	766	(4) 8.7	1,450	(13) 12.3	2,050	(17) 22.1	3,683
出生產額	(44) 49 381,414	100	15,897,710	416	16,211,161	425	20,904,579	548	4,826,542	1,265
農產額	307,236	100	1,168,821	380	1,069,247	348	1,100,566	358	1,641,162	534
畜產額	23,133	100	64,736	284	53,605	231	46,488	200	161,585	698
林產額	19,795	100	28,996	146	64,305	324	114,005	575	38,896	1,950

工業額	15,645	100	22,8494	1,466	30,7945	1,936	60,7476	3,882	180,712	11,915
米生產高	(44) 1,568	100	12,708	109	17,298	149	17,884	154	18,719	161
耕地面積	(44) 2,705,216	100	4,324,679	159	4,387,727	162	4,500,170	166	4,853,6	185
米作面積	(44) 1,399,012	100	15,377,977	109	1,602,331	114	1,694,539	121	1,717,176	108
總計特別會計	(44)									
輸入	522,844,664	100	125,803,797	240	234,242,219	448	330,219,483	632	1,878,647,302	3,593
輸出	461,723,10	100	930,268,93	201	210,852,949	456	283,958,943	615	1,531,982,732	3,317
銀行券發行高	20,163	100	183,600	811	124,527	1617	220,7777	1,094	1,466,777	7,274
貿易額	(44) 47,398	100	384,765	811	600,264	1,266	1,044,706	2,204	2,149,825	4,535
輸入額	34,058	100	184,917	542	269,473	791	558,813	1,640	1,360,993	3,994
輸出額	13,340	100	199,848	1,478	330,791	2,479	485,893	3,642	788,832	5,994
延長	1086	100	1,856	170	2,344	215	3,390	312	4,754	
延長	82	100	343	1071	900,2815		1,092	3,412	1,633	5



# 農業戸数

註 1. 朝鮮外人割中、朝鮮人割合ハ朝鮮人總戸数ニ対スル割合ナリ  
2. 管農種別中割合ハ自作自作兼小作小作、其、總数ニ対スル割合ナリ

年次	總数	内地人	朝鮮人	割合	自作	自作兼小作	小作	割合	被傭者	火災
明治三十四年	2,136,320	2,132	2,332,814	104%	364					
三十五年	2,300,210	2,960	2,346,727		311					
三十六年	2,423,607	2,383	2,420,884		387					
三十七年	2,572,244	2,612	2,569,697		434					
三十八年	2,596,227	2,622	2,581,125		457					
三十九年	2,622,021	2,522	2,618,828		615					
四十年	2,644,154	2,477	2,630,676		694					
四十一年	2,641,994	2,811	2,631,444	84	729					
四十二年	2,652,224	2,944	2,644,722	785	785					
四十三年	2,664,225	2,210	2,652,227	835	835					
四十四年	2,720,819	2,210	2,709,636	766	766					
四十五年	2,776,949	2,287	2,774,662	1,121	7					
四十六年	2,722,465	1,962	2,709,998	1,223	2					
四十七年	2,722,835	9,522	2,711,725	1,573	5					
四十八年	2,704,292	9,227	2,695,065	1,496	8					
四十九年	2,722,903	9,470	2,713,177	2,043	12					
五十年	2,753,497	9,844	2,743,653	2,005	9					
五十一年	2,781,348	10,500	2,770,848	2,288	16					

四十年	2,779,122	10,222	2,768,900	2,615	19	6,55894	274,2381	125,294		28,269
四十一年	2,815,297	10,290	2,804,827	3,029	21	6,11,880	285,574	128,227		29,222
四十二年	2,869,957	10,525	2,859,432	3,221	20	6,08,013	290,291	133,429		29,514
四十二年	2,881,627	10,827	2,870,800	2,280	13	5,72,283	253,770	139,224		41,212
四十四年	2,921,082	11,427	2,909,655	2,208	9	5,28,174	242,961	155,456		60,492
四十五年	2,909,560	9,225	2,899,203	2,322		5,45,222	224,941	152,256		72,227
四十六年	2,912,104	8,722	2,903,382	2,563		5,42,627	221,661	156,227		81,227
四十七年	2,966,427	8,419	2,958,008	2,627		5,47,929	222,226	157,144		91,222
四十八年	2,957,503	8,031	2,949,472	2,855		5,46,327	222,226	158,222		111,221
四十九年	2,958,955	7,427	2,951,528	2,078	1	5,47,585	222,782	158,122		119,221
五十年	2,952,392	7,227	2,945,165	2,271		5,27,420	222,220	158,225		116,220
五十一年	2,922,122	6,895	2,915,227	2,644	1	5,27,627	219,222	158,222		111,221
五十二年	2,942,246	6,826	2,935,420	2,863		5,20,227	211,220	161,222		101,221
五十三年	2,971,222	6,455	2,964,767	2,77		5,28,224	222,225	164,222		92,222
五十四年	2,953,446	5,893	2,947,553	4,087	1	5,27,217	222,221	164,222		95,222



卷之四  
詩經  
卷之四  
詩經

新發收帳一萬二千一百一十一元

教  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

水田	田	水田	田
44	1.002.225.2	1.702.891.2	1.762.774.1
1	1.024.394.6	1.822.541.7	1.770.228.5
2	1.067.290.2	1.818.621.5	1.769.572.1
3	1.089.220.8	1.869.838.0	1.767.343.9
4	1.177.530.9	1.993.079.3	2.707.982.1
5	1.340.325.0	2.249.178.1	
6	1.435.093.7	2.439.987.1	
7	1.544.430.4	2.797.660.6	
8	1.543.089.5	2.781.589.6	
9	1.543.701.9	2.778.333.2	
10	1.543.664.3	2.778.825.8	
11	1.545.123.4	2.792.194.8	
12	1.547.461.3	2.771.402.9	
13	1.553.998.2	2.768.206.5	
14	1.563.736.1	2.784.613.7	
1	1.585.605.9	2.864.032.9	
2	1.603.001.9	2.851.215.4	
3	1.614.725.5	2.841.772.4	
4	1.62.5485.6	2.829.986.0	
5	1.643.753.9	2.822.383.2	
6	1.653.072.8	2.802.203.1	
7	1.669.598.3	2.790.754.4	
8	1.681.804.7	2.807.407.3	
9	1.692.732.7	2.827.748.1	
10	1.703.279.1	2.796.229.5	
11	1.718.486.3	2.785.367.7	
12	1.726.368.4	2.768.875.9	



火田及火田耕作者

日名	火田ノミナ耕作スルモ			火田ノミナ耕作スルモ		
	面積	戸数	人口	面積	戸数	人口
8	366.570	269.436	1,442.919	138.035	82.277	419.010
9	422.624	271.238	1,447.164	146.787	81.287	423.224
10	417.855	271.127	1,469.879	141.719	76.468	400.139
11	437.230	282.044	1,520.368	154.451	74.727	398.154
12	437.126	276.586	1,502.017	158.598	72.919	372.507
13	442.045	277.648	1,491.147	158.489	71.187	382.095
14	431.750	271.777	1,450.500	152.804	69.280	368.592
15	423.072	279.362	1,474.935	145.976	65.990	352.117
16	399.014	269.863	1,445.114	134.941	59.239	320.151
17	394.247	251.889	1,372.816	120.616	56.818	305.727
18						
19						
20						



土	地	台	帳	別	登	錄				耕	小	作	別	土
						自								
						作								
						小								
						省								
總數		一毛作二毛作		田		田		田		田		總數		
(次回9除)														

44	2464.9044	847.6677		1.617.2367	398.3346	2048			
太平	2.705.216.461.008.325.8			1.702.871.8	407.299.8				
2	2.846.936.3	1.024.394.6		1.822.541.7	441.394.6				
3	2.885.911.7	1.066.292.8		1.818.621.5	489.743.3				
4	2.939.158.8	1.087.320.8		3.7	488.334.6	1.042.270.5	710.986.2	227.0.6	
5	3.170.610.2	1.177.530.9	1.016.531.4	1.60.995.5	1.972.079.3	407.399.2	1.101.882.6	770.151.7	271.196.6
6	3.587.503.1	1.340.325.0	1.134.680.6	205.644.4	2.249.178.1	441.346.6	1.213.608.2	878.775.6	225.25.5
7	3.875.080.8	1.435.092.7	1.214.534.0	220.557.7	2.437.983.1	487.763.3	1.327.924.2	947.330.4	1110.0.6
8	4.342.071.0	1.544.434.9	1.210.035.3	234.395.1	2.797.660.6	546.140.7	1.606.363.8	998.257.7	1.191.82.2
9	4.324.679.1	1.543.087.5	1.295.835.7	247.253.8	2.781.587.6	547.867.7	1.603.663.3	995.224.8	1.177.92.2
10	4.322.272.1	1.543.664.3	1.294.454.7	249.207.6	2.778.825.8	557.737.7	1.592.028.0	985.726.6	1.148.6.7
11	4.317.310.2	1.545.123.4	1.292.791.3	252.322.1	2.772.194.8	551.522.0	1.582.710.0	993.606.4	1.187.45.4
12	4.320.864.2	1.547.461.3	1.292.782.4	256.496.9	2.771.448.9	550.197.7	1.570.820.8	997.263.6	1.180.5.8
13	4.322.204.7	1.553.772.3	1.292.746.6	264.536.6	2.768.206.5	548.022.5	1.570.216.9	1.002.725.7	1.157.7

1	4418.252.2	4.348.354.8	1.563.736.1	1.292.217.8	2.68.518.3	2.704.618.7	548.208.6	1.601.419.9	1.015.537.5	1.182.7.4
2	4447.936.4	4.378.956.2	1.574.156.5	1.296.722.6	2.77.383.7	2.804.777.7	549.677.6	1.607.214.0	1.024.476.9	1.191.780.2
3	4452.235.3	4.387.727.1	1.587.035.3	1.297.810.9	2.87.242.2	2.800.672.8	555.512.5	1.488.679.0	1.031.544.0	1.312.102.8
4	4456.495.9	4.391.375.0	1.598.223.7	1.287.767.8	308.455.9	2.793.171.3	550.194.3	1.463.749.3	1.048.027.4	1.327.422.0
5	4455.471.6	4.392.115.6	1.608.888.7	1.264.182.3	344.705.8	2.783.227.5	547.486.3	1.422.777.1	1.061.401.9	1.346.256.6
6	4466.137.1	4.388.663.7	1.612.675.9	1.261.774.7	355.721.2	2.770.768.0	543.600.1	1.420.327.8	1.074.095.8	1.365.854.5
7	4455.275.9	4.384.507.6	1.612.870.3	1.263.044.6	365.737.0	2.725.526.0	535.438.5	1.383.498.3	1.093.554.5	1.372.227.7
8	4460.352.7	4.377.044.2	1.612.008.8	1.263.745.3	383.063.5	2.743.433.9	538.583.8	1.367.954.0	1.108.425.0	1.393.427.7
9	4450.548.8	4.423.148.2	1.671.387.1	1.258.462.0	412.727.1	2.760.073.6	533.723.3	1.353.674.5	1.127.445.8	1.406.440.6
10	4450.177.6	4.422.227.2	1.681.440.8	432.757.1	2.750.338.9	544.506.8	1.251.592.9	1.422.292.9	1.422.292.9	1.422.292.9
11	4450.385.0	4.426.776.7	1.687.786.4	1.240.216.1	447.520.3	2.736.781.5	537.386.4	1.337.370.6	1.154.402.0	1.397.770.6
12	4450.624.3	4.427.148.7	1.703.835.0	1.241.642.8	462.142.2	2.723.332.7	545.761.4	1.327.463.7	1.158.073.6	1.395.270.6
13	4451.676.1	4.426.885.2	1.717.236.8	1.260.080.9	457.152.9	2.719.573.4	552.657.0	1.314.453.3	1.164.577.8	1.385.140.1
14	4452.675.5	4.448.373.3	1.729.537.2	1.261.142.1	528.157.3	2.718.834.1	544.657.2	1.311.664.3	1.174.880.0	1.407.149.8
15	4451.158.2	4.447.179.3	1.737.621.9	1.261.142.1	536.579.8	2.699.547.3	562.413.3	1.325.831.6	1.175.218.6	1.393.725.8
16	4449.536.0	4.444.606.5	1.734.757.8	1.193.420.5	546.337.3	2.667.846.7	554.585.1	1.279.550.9	1.180.174.7	1.370.275.8
17	4447.532.0	4.426.002.6	1.735.877.8	1.207.310.6	526.587.2	2.660.104.8	555.061.7	1.268.711.4	1.180.836.1	1.391.373.4
18										
19										
20										

總數	4475.326.0	4.376.002.6	173.577.0	120.731.0.6	526.587.2	2.660.104.8	555.061.7	1.268.711.4	1.180.836.1	1.391.373.4
京	4481.375.3	377.442.4	207.498.1	174.896.3	146.11.9	1.679.50.3	516.22.4	515.57.2	127.87.5	116.2
志清北道	1583.14.5	1571.6.6	730.0.1.1	39.167.4	22.831.7	84.57.5	23.643.5	22.462.5	49.359.6	54.6



11	4317.3102	15445.1234	1292.791.3	2522.322	12.722.1948	5515.2220	1522.7100	993.6014	118745
12	4320.8642	15446.613	1292.792.4	2522.323	12.722.1949	5501.977	1572.8208	999.2216	1180.58
13	4322.2047	15523.992	1292.793.6	2522.326	12.722.1951	548.0225	1572.8119	1005.7257	115.7
14	4323.5452	15524.383	1292.794.8	2522.329	12.722.1952	549.6996	1607.2140	1024.476	119
15	4324.8857	15524.774	1292.795.0	2522.332	12.722.1953	550.1943	1563.7493	1048.0294	122
16	4326.2262	15525.165	1292.796.2	2522.335	12.722.1954	551.5725	1548.6790	1031.5408	123
17	4327.5667	15525.556	1292.797.4	2522.338	12.722.1955	552.9507	1533.6001	1014.0758	124
18	4328.9072	15525.947	1292.798.6	2522.341	12.722.1956	554.3289	1518.5212	1001.0011	125
19	4330.2477	15526.338	1292.799.8	2522.344	12.722.1957	555.7071	1503.4423	988.9264	126
20	4331.5882	15526.729	1292.800.0	2522.347	12.722.1958	557.0853	1488.3634	976.8517	127

京 畿 道	4475.3260	4396.0026	1735.8978	1209.3106	526.5872	2.660.1048	555.0617	1268.7114	6180.8361	11291.39
忠 清 北 道	4481.3953	3794.484	2074.981	1948.8962	146.11.9	1679.503	516.224	515.8722	1278.757	1163
忠 清 南 道	1583.14.5	1572.10.6	7300.1.1	391.694	33.831.7	8415.75	2364.35	2746.2.5	4935.96	546
金 羅 北 道	2440.347	2441.522	1638.55.1	1187.532	44.901.9	802.98.1	4086.7.5	2845.2.8	1229.876	5184.53
金 羅 南 道	2453.543	2405.5427	171.716.9	8014.73	91.619.6	687.76.8	3371.0.4	199.92.0	13805.6.5	4878.4.8
慶 尚 北 道	4329.142.5	4242.943	2105.483	1034.244	1074.239	2134.460	73000.6	131.040.7	13784.7.7	12405.3
慶 尚 南 道	38104.9.2	3793.244	2025.502	8202.25	1205.2.7	1767.748	84.973.1	8184.5.9	11807.1.1	94928.3
黃 海 北 道	2754.840	272.943.9	172.752.7	732.377	106.15.0	9319.1.0	590.78.0	40750.1	1206.74.7	123410.7
黃 海 南 道	5638.93.1	5453.544	148.800.6	1476.064	1194.8	376.553.8	41.000.5	1436.51.3	107800.1	253902.5
平 安 北 道	4017.94.9	3970.36.6	88160.1	88160.1	-	308.876.5	322.42.9	1364.78.8	539.172	1023.97.7
平 安 南 道	4017.95.7	3980.63.3	96.962.9	96.962.9	-	301.100.4	304.37.4	1136.21.4	665.25.5	1824.97.0
江 原 道	3521.83.7	3482.84.1	9505.46	8907.22	1902.4	2531.795	384.76.3	128.610.3	515.78.3	1245.94.2
咸 鏡 南 道	412.934.6	4015.14.9	730.84.3	726.05.4	498.9	328.430.6	3370.6.3	2302.88.5	393.70.0	981.42.1
咸 鏡 北 道	2200.26.3	207.931.0	325.62.7	225.62.7	-	187.28.1	128.02.8	132.89.9	9.760.1	544.68.0



[illegible]



[illegible]



農業生產面積統計表 (單位: 丹)

明治	43年	系統		面積		產量		單位		合計		其他		合計	
		系統	面積	系統	面積	系統	面積	系統	面積	系統	面積	系統	面積	系統	面積
大正	1	43	222,107.25	200,568.49	42,938.79	23,903.33	18,160.47	12,950.91	15.02	16,907.19	8,415.88	5,73	1,831.563	1,831.563	4,46
	2	44			14,971,302.2	39,954,925	3,985,508	3,985,508	15.51	15,51	15,51	15,51	15,51	15,51	15,51
	3				1,714,500.07	4,985,089	4,985,089	4,985,089	13.21	4,985,089	4,985,089	4,985,089	4,985,089	4,985,089	4,985,089
	4				1,985,361.93	5,701,308	5,701,308	5,701,308	13.21	5,701,308	5,701,308	5,701,308	5,701,308	5,701,308	5,701,308
	5				16,833,040	38,571,578	38,571,578	38,571,578	13.21	38,571,578	38,571,578	38,571,578	38,571,578	38,571,578	38,571,578
	6				11,878,761.9	3,707,020.9	3,707,020.9	3,707,020.9	13.21	3,707,020.9	3,707,020.9	3,707,020.9	3,707,020.9	3,707,020.9	3,707,020.9
	7				15,632,927.3	4,207,607.0	4,207,607.0	4,207,607.0	13.21	4,207,607.0	4,207,607.0	4,207,607.0	4,207,607.0	4,207,607.0	4,207,607.0
	8				2,246,681.20	6,187,018.8	5,701,308	5,701,308	13.21	5,701,308	5,701,308	5,701,308	5,701,308	5,701,308	5,701,308
	9				4,037,144.5	1,004,323.5	9,494,520	9,494,520	13.21	9,494,520	9,494,520	9,494,520	9,494,520	9,494,520	9,494,520
	10				5,163,361.5	12,968,573	7,212,334.8	7,212,334.8	13.21	7,212,334.8	7,212,334.8	7,212,334.8	7,212,334.8	7,212,334.8	7,212,334.8
	11				5,495,520.1	13,292,195	12,687,265.9	12,687,265.9	13.21	12,687,265.9	12,687,265.9	12,687,265.9	12,687,265.9	12,687,265.9	12,687,265.9
	12				3,112,613.9	9,247,054	7,890,173.0	7,890,173.0	13.21	7,890,173.0	7,890,173.0	7,890,173.0	7,890,173.0	7,890,173.0	7,890,173.0
昭和	1		1,134,594.370	954,515.857	460,163.517	107,208.185	78,138.050	57,212.711	15.02	16,907.19	8,415.88	5,73	1,831.563	1,831.563	4,46
	2		1,122,853.708	931,470.226	434,545.376	92,987,068	80,727,237	61,686,282	15.51	15,51	15,51	15,51	15,51	15,51	15,51
	3		1,222,604.496	811,853.319	341,811,545	71,772,672	71,772,672	53,070,342	14.51	53,070,342	53,070,342	53,070,342	53,070,342	53,070,342	53,070,342
	4		9,642,806.03	753,033,576	322,442,126	8,295,322.2	1,207,980	5,018,926	13.21	5,018,926	5,018,926	5,018,926	5,018,926	5,018,926	5,018,926
	5		7,242,707.5	55,876,385	251,645,585	80,077,620	41,440,606	31,438,909	7.11	31,438,909	31,438,909	31,438,909	31,438,909	31,438,909	31,438,909
	6		7,028,577.0	54,616,428	268,849,977	5,047,393	4,231,990	3,210,322	7.11	3,210,322	3,210,322	3,210,322	3,210,322	3,210,322	3,210,322
	7		831,816.201	655,652,622	308,733,885	64,377,410	57,356,618	455,180	7.11	455,180	455,180	455,180	455,180	455,180	455,180
	8		920,841,750	704,677,545	341,590,148	760,578,555	58,077,349	44,001,461	11.41	44,001,461	44,001,461	44,001,461	44,001,461	44,001,461	44,001,461
	9		1,020,149,822	803,841,780	415,544,387	828,535,685	57,233,221	44,557,665	11.21	44,557,665	44,557,665	44,557,665	44,557,665	44,557,665	44,557,665
	10		1,147,055,168	926,118,091	487,572,442	1,190,210,810	78,205,395	40,237,208	14.21	40,237,208	40,237,208	40,237,208	40,237,208	40,237,208	40,237,208
	11		1,211,111,111	1,211,111,111	1,211,111,111	1,211,111,111	1,211,111,111	1,211,111,111	15.51	1,211,111,111	1,211,111,111	1,211,111,111	1,211,111,111	1,211,111,111	1,211,111,111



產

雜

牛

植

其他 雜狀 種類 產

種

泰

蜀

泰

正蜀

泰

蓄

牛 特用 作物

棉

種 類

大

麻

草

1 22355.637

1/2290114

22912966

329561

1507045

1574212

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717

32023483

1814294

1

1

3286311

1357566

1606959

1432008

1

20517795

2475491

602717



植特

產

其

他

麻

荷

人

考

性

總類	大	麻	荷	人	考	性
----	---	---	---	---	---	---

1666959	1432002	174930	?	321795	?	?
---------	---------	--------	---	--------	---	---

1782102	157633	?	?	321795	?	?
---------	--------	---	---	--------	---	---

2460277	205601	1856	?	516216	?	?
---------	--------	------	---	--------	---	---

3376785	375937	244	?	537577	?	?
---------	--------	-----	---	--------	---	---

4173949	410354	314	?	546266	?	?
---------	--------	-----	---	--------	---	---

3821488	374292	330	?	575771	?	?
---------	--------	-----	---	--------	---	---

4042070	399111	427	?	632178	?	?
---------	--------	-----	---	--------	---	---

5502249	392437	5157	?	688892	?	?
---------	--------	------	---	--------	---	---

8437821	711932	7344	?	762272	?	?
---------	--------	------	---	--------	---	---

13239912	1379163	12638	?	779611	?	?
----------	---------	-------	---	--------	---	---

12307334	1087367	12862	?	682780	?	?
----------	---------	-------	---	--------	---	---

9921310	920650	3449188	?	1282442	?	?
---------	--------	---------	---	---------	---	---

945895	990820	7223621	?	1042675	?	?
--------	--------	---------	---	---------	---	---

10862939	1017055	3882577	?	1030383	?	?
----------	---------	---------	---	---------	---	---

10774577	1048385	3114367	?	945138	?	?
----------	---------	---------	---	--------	---	---

12487683	8672021	1633184	?	988260	?	?
----------	---------	---------	---	--------	---	---

13423388	7229082	1616155	?	1035762	?	?
----------	---------	---------	---	---------	---	---

129761152	7135578	1608167	?	1232097	?	?
-----------	---------	---------	---	---------	---	---

12194553	8825988	694112	?	1064253	?	?
----------	---------	--------	---	---------	---	---

1204224	8344623	1377178	?	11450787	?	?
---------	---------	---------	---	----------	---	---

1237859	5385536	1149693	?	1065601	?	?
---------	---------	---------	---	---------	---	---

70582087	4869035	724661	?	973997	?	?
----------	---------	--------	---	--------	---	---

2921717	5762744	831151	?	596102	?	?
---------	---------	--------	---	--------	---	---

8182478	5550565	1046892	?	569048	?	?
---------	---------	---------	---	--------	---	---

823858	5502983	1071425	?	706961	?	?
--------	---------	---------	---	--------	---	---

9335299	6217922	1070870	?	731526	?	?
---------	---------	---------	---	--------	---	---

1217	1217	1217	?	152108	?	?
------	------	------	---	--------	---	---

1217	1217	1217	?	132947	?	?
------	------	------	---	--------	---	---

1217	1217	1217	?	155146	?	?
------	------	------	---	--------	---	---

1217	1217	1217	?	287266	?	?
------	------	------	---	--------	---	---

1217	1217	1217	?	477797	?	?
------	------	------	---	--------	---	---

1217	1217	1217	?	625756	?	?
------	------	------	---	--------	---	---

1217	1217	1217	?	440571	?	?
------	------	------	---	--------	---	---

1217	1217	1217	?	371572	?	?
------	------	------	---	--------	---	---

1217	1217	1217	?	531524	?	?
------	------	------	---	--------	---	---

1217	1217	1217	?	234841	?	?
------	------	------	---	--------	---	---

1217	1217	1217	?	125478	?	?
------	------	------	---	--------	---	---

1217	1217	1217	?	5871622	?	?
------	------	------	---	---------	---	---

1217	1217	1217	?	867	?	?
------	------	------	---	-----	---	---

1217	1217	1217	?	71724	?	?
------	------	------	---	-------	---	---

1217	1217	1217	?	8579017	?	?
------	------	------	---	---------	---	---

1217	1217	1217	?	47140	?	?
------	------	------	---	-------	---	---

1217	1217	1217	?	890	?	?
------	------	------	---	-----	---	---



[illegible][illegible]



[illegible]



[illegible]



[illegible]



日本人の海外活動に関する研究調査(?) 草稿

朝鮮ニ於ケル資源ノ分布

江村保

334.6
602.9
73/a.57

512.7
-------

51
----

3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4





二  
於  
充  
資  
源  
分  
布

江  
村

保

645  
~~\*645~~  
334.6  
602.9  
732.57



資源、分布

第一、礦物

諸種  
、  
礦物  
二  
富  
、  
且  
、  
礦業  
、  
起源  
、  
懷  
、  
二  
拘

ラ  
ス  
、  
其  
ノ  
事  
業  
ニ  
ハ  
殆  
ン  
ト  
見  
ル  
ベ  
キ  
モ  
ノ  
十  
カ

月  
廿  
○  
是  
二  
於  
戶  
朝  
鮮  
總  
督  
府  
八  
大  
正  
四  
年  
朝  
鮮  
鐘

業令ヲ制定シ同年四月ヨリ之ヲ施行、同時

朝鮮鑛業令施行規則及朝鮮鑛業登錄規則

施行  
之  
テ  
、  
外  
國  
人  
、  
鑛  
業  
権  
、  
享  
有  
ヲ  
禁  
止  
新  
二

重要礦物  
ヲ  
鑛業令  
ノ  
支配  
ニ  
屬セ  
シ  
ノ  
鑛業権  
ヲ

物権トミテ不動産ニ関スル規則ヲ準用シ鑛業



上必要ナル土地ノ使用及收用ニ付收用令中ノ規則ヲ準用スル等鑛業ノ保證ヲ確實ニシ、以テ益々鑛業ノ發達ヲ促進セシメ、其後更ニ數次ノ改正ヲ加ヘタリ。後國內ノ經濟情勢ニ鑑ミ政府ハ國策トシテ產金ノ增加政府集中ヲ圖ルニ至リタルヲ以テ、朝鮮ニ於テモコレニ順應シテ昭和十二年九月朝鮮產金令ヲ公布シ、更ニ時局ノ進展ニ伴ヒ各種重要鑛物増產令ヲ公布シ各種重要鑛物ノ積極的増產確保ヲ圖ル為昭和十三年五月朝鮮重要鑛物増產令ヲ公布

シ各種ノ獎勵方法ヲ講シ銳意其ノ増產ニ努メタル之末々未究見ノ鑛物層相當アルモノト推測セラル。明治四十四年ノ狀況ト其後ノ狀況ト對比セバ次ノ如シ。

(一) 明治四十四年ノ狀況 (朝鮮總督府統計年報明治四十四年度)

鑛物埋藏面積

道名	面積	道名	面積	道名	面積
平安北道	27,724,261	江原道	4,662,249	慶尚南道	14,661,444
平安南道	12,444,026	京畿道	4,396,909	咸鏡北道	4,681,693
慶尚北道	22,720,066	咸鏡南道	4,794,729	計	82,249,145
忠清南道	4,700,442	全羅北道	2,922,992		
忠清北道	1,144,441	黃海道	1,144,441		

道名	面積	道名	面積	道名	面積
平安北道	27,724,261	江原道	4,662,249	慶尚南道	14,661,444
平安南道	12,444,026	京畿道	4,396,909	咸鏡北道	4,681,693
慶尚北道	22,720,066	咸鏡南道	4,794,729	計	82,249,145
忠清南道	4,700,442	全羅北道	2,922,992		
忠清北道	1,144,441	黃海道	1,144,441		



銅

道名	面積	道名	面積	道名	面積
咸鏡南道	2,617.015	慈南南道	5,602.960	咸鏡北道	2,137.992
平安南道	726.523	黃海道	448.270	慈尚北道	200.103
忠清南道	314.192	京畿道	75.500	計	10,223.860

鐵

[illegible]

金銀

金		銅	
道名	面積	道名	面積
平安南道	1,549,414	咸鏡北道	390,300
紫尚北道	474,000	京畿道	127,000
		道名	面積
		平安北道	443,200
		計	2,996,614

金銀銅

[illegible]

No. 5

金  
銀  
銅  
鉛



No 6

道名	面積	道名	面積	道名	面積
北海道	400,975	江東道	226,100	廣南道	206,200
計	231,261				

道名	面積	道名	面積	道名	面積
北海道	531,795	江東道	170,211	廣南道	87,065
計	769,982				

道名	面積	道名	面積	道名	面積
北海道	272,213	全羅北道	398,400	廣南道	285,615
計	1,662,330				

道名	面積	道名	面積	道名	面積
廣南道	191,197				

道名	面積	道名	面積	道名	面積
廣南道	441,670	江東道	292,000	廣南道	109,014
計	943,680				

銀鉛

銀銅

銀銅

金銀鉛

No 7

(二) 昭和六年11月1日(朝鮮要覽昭和六年版三依止)

鑛業出願件數ハ大正元年中大三三件ヲ算シ

爾後年々増加シテ出願數大・一八九件ニ達

セリ。

鑛物名	出願件數	面積	鑛物名	出願件數	面積	鑛物名	出願件數	面積
金鑛	299	420,000	砂	53	220,000	雲母	14	290,000
水銀鑛	3	50,000	明礬石	2	22,000	高嶺土	67	115,000
赤鐵鑛	142	13,000	重晶石	7	20,000	燐石	5	710,000
青銅鑛	2	390,000	銅鑛	16	4,000,000	螢石	8	1,000,000
水銀鑛	7	700,722	亞鉛鑛	5	705,000	砂金	94	22,000
金鑛	531	270,000	明礬石	4	40,000	一切出物	3	2,000,000
燐石	1	90,000	亞鉛鑛	4	20,000	計	13	2,200,000
赤鐵鑛	253	200,000	砂金	2	170,500	合計	2,390	1,400,000
石	2	100,000	重晶石	142	2,000,000			



(三)昭和十六年ノ状況(朝鮮事情昭和十五年版依此)

鑛業七年ヲ追ヒ盛ニシテ発見ノ相當數ニ昇

リ状況左ノ如シ。

金 全鮮到ル所ニ存在スルモ平安北道咸

鏡南道江原道ニ最モ黄ク次グ慶尚北

道忠清南道平安南道忠清北道黃海道

京畿道全羅北道慶尚南道全羅南道咸

鏡北道ノ順序ナリ。

産額ニ依レバ平安北道黃海道忠清南

道咸鏡北道忠清北道全羅南道江原道

砂金

京畿道全羅北道ノ順序ナリ。

面積ニ依レバ京畿道全羅南道忠清南

道全羅北道平安北道平安南道忠清北

道ノ順序ニシテ

産額ニ依レバ全羅北道忠清南道平安

南道平安北道等ナリ。

鐵

朝鮮ニハ鉄鑛産ノ賦存豊富ナリ。

赤鉄鑛ハ咸鏡南道平安南道磁鉄鑛ハ



咸鏡北道江原道赤楊西鉄ノ混合ニ夕  
ルモノハ咸鏡北道江原道ニ多シ。

石炭

朝鮮ニハ褐炭ト無煙炭ノ二種類ニシテ褐炭ハ咸鏡北道吉州、明川、鏡城、安田、會寧、安田、慶源、慶興、安田、平安、南道、安州、黃海道鳳山、慶尚北道慶州、慶尚道無煙炭ハ褐炭ニ比シ黃銅田ニ埋藏サレ埋藏量十三億五千萬ヒト称セラル。稼行中ノモノハ平壤、三陟

、文川、高原、寧越、和順、平安南道北部、固安炭ヲ主ナルモノトス。

黒鉛

鱗状ト土状ト二種アリテ鱗状黒鉛ハ平安北道咸鏡北道主要産地ハ咸鏡北道城津地方平安北道江界地方平安北道楚山郡地方ニシテ就中江界地方が最も重要ナル産地ナリ。土状黒鉛ハ慶尚北道咸鏡南道ヲ主トシ産地ハ山野、明（忠北）小宮（忠北）咸昌（



主トス。	タシ	江原道金剛山附近、寧越郡平安北道	昌城郡平安南道陽德郡咸鏡南道長湍	郡忠清北道忠州郡、堤川郡黃海道谷	山郡忠清南道靑陽郡方面、主産地ト	ス。	水鉛鑛	全羅北道長水鑛山江原道金剛鑛山
------	----	------------------	------------------	------------------	------------------	----	-----	-----------------

忠清北道忠州重石鑛山大華鑛山、慶尚	北道龍鳳水鉛鑛山等ナリ。	マクネサイト	咸鏡北道吉州郡咸鏡南道端川郡、主	産地トス。	螢石	咸鏡南道、江原道、忠清北道、全羅	北道、咸鏡南道	雲母	咸鏡北道、平安北道、咸鏡南道
-------------------	--------------	--------	------------------	-------	----	------------------	---------	----	----------------



明礬石

全羅南道、慶尚北道

燐礦

咸鏡南道、咸鏡北道、平安北道、平

安南道

ニツケル鑛

江原道、咸鏡南道、慶尚北道

コバルト鑛

慶尚北道、咸鏡北道、慶尚南道

海産鑛

第二、水産物

慶尚北道、江原道

朝鮮ハ海岸線ノ延長一萬七千五百八十浬、達

シ、地勢氣候及潮流等ノ關係上水産物頗ル豊

富ナリ。有利ノ漁場ニ乏シカラザルモ、古來

漁政ニ関スル施設ニ乏シク為ニ斯業亦不振ノ

状態ナリキ。併合以來朝鮮總督府ハ銳意、斯

業ノ發達ヲ圖リ、之ガ保護取締ヲ周密ニシ、

各種ノ調査及試験ヲ行ヒ其ノ結果ヲ公表シ、斯

業ニ関スル講習ヲ行ヒ當業者ノ知識技能ヲ啓



發之、有望ナル事業ニ對シテハ金品ヲ補助シ  
 テ其ノ發達ヲ助長シ、漁港及避難港修築、為  
 年々工費ノ一部ヲ補助シ、漁業組合ノ改善發  
 達ヲ圖リテ漁民共同ノ福利ヲ増進シ又輸移出  
 水産製品検査ヲ行ヒ製品ノ改良統一ヲ圖リ、  
 又當事者ヲシテ朝鮮水産會又水産會ヲ組織セ  
 シ、水産業ノ改良發達ヲ圖リ、近クハ優良漁  
 船獎勵補助、淺海水産物増殖獎勵補助、水産  
 物冷藏獎勵補助、漁業經營施設補助ヲ為ス等、  
 各稱ノ施設ヲ講シタル結果、漸次發達ノ域ニ

進、昭和十六年ニ於テハ漁獲高ハ一億六千六  
 百七十五萬圓、養殖生産高一千八百四十七萬余  
 圓、製造高一億七千二百六十三萬余圓ニ達セ  
 リ。

(一) 明治四十四年ノ主要水産物漁獲高(朝鮮總督府統計)

めんたい

道名	漁獲高	道名	漁獲高
北海道	21,619	秋田県	2,682
青森道	15,400	岩手県	22,100



道名	澳獲高	道名	澳獲高
廣南道	527.216	忠清南道	10.571
江原北道	46.200	咸鏡南道	3.715
廣海北道	10.200	咸鏡北道	505
黃海道	22.200	計	790.678
全羅南道	180.000		

た

道名	澳獲高	道名	澳獲高
廣南道	288.871	忠清南道	49.000
平安南道	45.700	全羅南道	28.577
全羅北道	20.509	咸鏡南道	16.637
黃海道	15.420	忠清南道	6.788
廣海北道	0.622	平安北道	2.205
咸鏡北道	9.608	江原北道	814
計	489.823		

のうめ及北

道名	澳獲高	道名	澳獲高
廣南道	530.809	廣南道	23.060
咸鏡南道	20.150	平安南道	14.486
江原北道	2.860	咸鏡北道	3.892
全羅北道	805.1	忠清南道	59
計	589.222		

のうめ

道名	澳獲高	道名	澳獲高
廣南道	241.927	咸鏡南道	52.444
廣海北道	19.523	全羅南道	14.000
平安北道	8.210	江原北道	5.400
咸鏡北道	6.597	忠清南道	1.307
全羅北道	914	計	451.442



No 20

道名	澳積高	道名	澳積高
黃海道	122.477	忠清南道	94.000
平安北道	62.560	全羅南道	5.000
忠清南道	22.102	廣南道	23.500
全羅北道	23.182	計	26.616
平安南道	7.070		396.247

道名	澳積高	道名	澳積高
慶尚北道	257.000	慶尚南道	5.609
咸鏡北道	0.104	咸鏡南道	4.929
計	275.742		

道名	澳積高	道名	澳積高
全羅南道	01.800	京畿道	93.945
平安北道	47.000	黃海道	38.700
平安南道	2.600	忠清南道	1.146
慶尚南道	921	全羅北道	257
計	267.429		

No 21

道名	澳積高	道名	澳積高
慶尚南道	122.537	慶尚北道	16.600
咸鏡北道	9.200	江原道	4.500
平安南道	4.355	全羅北道	1.015
平安北道	1.215	黃海道	500
計	160.212		
道名	澳積高	道名	澳積高
慶尚南道	06.401	平安北道	20.490
京畿道	24.116	忠清南道	5.182
全羅南道	3.900	平安南道	2.000
慶尚北道	1.900	黃海道	1.205
咸鏡北道	0.220	咸鏡南道	1.53
計	01		284.789



道名	源	道名	源
黄骅道	51.240	平安北道	29.280
黄骅北道	26.522	金羅北道	4.126
平安北道	2.215	金羅南道	2.500
黄骅南道	1.490	忠清南道	1.434
計	126.739		

[illegible][illegible][illegible]

道名	漢	積高
金羅南道		26.975
慶尚北道		28.900
咸鏡北道		30.9
計		106.770

(二) 昭和六年，利用狀況（朝鮮要覽昭和八年版）

[illegible]

(五) 昭  
和  
十  
六  
年  
、  
利  
用  
状  
況  
(朝鮮事情昭和十八年版之依り)



あんたい	26279017	さわう	1994002	2013	
い ち	12111226	た い	492296	15 も	
015(5.1.12)	2017.4.06	10901520	2221212	30 1"	
さ 15"	21246.112	01うあ	1200254	う 1=	
た ち う ち	2004.112	2人(1.5	25120276	01 1=	
に 1 人	2005.120	あ 15 2"	1295122	く ち たい	
2. 01	2020.7.12	あ 1"	1222112	い ち	
た う	2192.121	33 9"	1116925	3. 0 1)	
01 11 11	2022.014	<del>15 2 15</del>	20042011	ね ま た	
わ 01 ち	2024.7.20	702094	2022.212	あ 209)	
た 2	2022.212	う (0) 15			

昭和十五年十二月末現在林野ノ總面積ハ約一  
、大ニ七町歩ニテ全土ノ七割三十分強ヲ占メ居  
レリ。

朝鮮ハ古來林政不備、封山ノ如キ特殊

要	火	由	保	江	又	ヲ	府	、	要
アリ	田	採	護	、	、	害	ハ	水	アリ
ト	ヲ	樵	林	豆	其	ス	森	源	ト
認	起	ニ	ヲ	滿	ノ	ル	林	ノ	ム
ム	シ	季	除	江	結	コ	令	涵	ル
モ	、	シ	ク	ノ	果	ト	ヲ	養	モ
ノ	或	タル	ノ	流	產	甚	布	、	ノ
ハ	ハ	ヲ	外	域	業	シ	キ	公	ハ
之	急	以	ハ	等	ノ	カ	、	衆	之
ヲ	斜	テ	、	ニ	發	リ	國	衛	ヲ
保	地	到	僅	於	達	キ	土	生	保
安	ヲ	ル	ニ	テ	ヲ	。是	ノ	及	安
林	開	處	墾	林	妨	ニ	保	又	ニ
ニ	墾	濫	之	相	ゲ	於	安	ハ	編
編	為	代	テ	ヲ	、	テ	、	風	入
シ	ニ	ヲ	人	保	國	朝	危	致	シ
テ	其	行	民	ツ	土	鮮	害	上	テ
	ノ	ヒ	ノ	ニ	ノ	總	ノ	心	
	大		自	過	保	督	防		
				ギ	安		止		



自由ノ施業ヲ制限シ、又永年禁養林該與ノ途  
ヲ開キテ愛林ノ美風ヲ助長シ、或ハ造林奨育  
ノ制度ヲ設ケテ造林事業促進ノ策ヲ講ジ、其  
ノ他年中行事トシテ記念植樹ヲ行ヒ又ハ造林  
補助ノ途ヲ開キ或ハ砂防事業ヲ行ヒ或ハ保護  
指導林園ノ充實ヲ圖リ来リタルヲ以テ年ト共  
ニ林地ノ林相ノ革新的発達ヲ見ルニ至レリ。  
(一) 明治四十四年ノ状況 (朝鮮總督府統計年報明治四十四年版)  
・ 国有林野  
・ 林管理概圖ヲ有スルモノ

地名	造林地	種樹造林地	實生林地	合計
京畿道	24,984	10,975	19,415	55,374
全羅南道	24,371	42,375	66,290	140,036
平安南道	22,276	9,447	9,226	41,949
忠清南道	2,716	19,497	8,442	30,655
慶尚北道	37,185	30,782	14,034	81,999
平安北道	27,184	15,254	33,044	75,482
忠清南道	1,246	2,176	4,372	7,794
慶尚南道	3,054	2,498	25,296	30,848
江原道	15,248	32,446	5,327	53,021
全羅北道	4,424	8,744	1,166	14,334
黃海道	25,322	12,226	19,458	56,996
咸鏡南道	22,402	1,166	2,074	25,642
咸鏡北道	0	0	0	0
計	226,940	188,909	221,424	637,273

林管理概圖ヲ有セザリシモノ



道名	成林地	雜樹地	無主木地	合計
東 嶺道	34,992	17,447	118,495	169,934
廣尚北道	71,315	28,202	187,332	386,849
平安北道	540,639	279,205	124,146	1,172,090
忠清北道	59,129	22,857	98,440	280,426
江原南道	44,149	29,740	153,233	297,122
江原北道	434,401	324,212	140,549	979,222
忠清南道	26,720	12,341	22,632	42,693
京畿南道	23,847	29,092	59,576	112,515
京畿北道	1,332,192	245,944	299,410	1,877,546
全羅南道	21,194	14,512	11,055	46,761
平安南道	182,830	250,969	25,938	459,737
咸鏡南道	291,499	29,435	211,854	592,788
全羅北道	11,578	27,498	23,164	62,240
合計	3,666,541	1,987,857	1,413,549	7,067,947

管理

无ノトノ合計

道名	成林地	雜樹地	無主木地	合計
京 畿道	56,963	28,442	138,410	223,815
全羅南道	37,949	26,072	139,074	203,095
平安南道	206,106	260,416	85,144	551,666
忠清北道	57,047	102,304	146,092	305,443
平安北道	108,500	150,991	202,166	461,657
忠清南道	210,712	474,641	207,190	1,492,543
江原南道	89,244	15,517	28,985	133,746
江原北道	69,224	23,438	155,293	247,955
全羅北道	587,085	417,758	165,946	1,170,789
京畿北道	25,610	23,276	12,221	111,115
京畿南道	76,380	305,319	29,234	460,933
咸鏡南道	1,405,593	217,080	302,224	1,924,897
咸鏡北道	791,499	29,435	241,854	1,062,788
合計	4,293,401	2,174,760	1,835,213	8,303,374

寺院

二

管理

也

林

部



道 名	成林地	程洲地	苗圃地	合 計
系 戴 道	2,211	1,017	281	3,509
奎 羅 南 道	7,025	5,427	2,055	14,507
平 安 南 道	4,060	4,201	2,983	7,959
成 隆 北 道	1,752	803	4,985	12,302
瑞 濟 北 道	4,181	80	7,558	4,261
肇 高 北 道	7,628	3,779	3,838	19,085
平 安 北 道	10,613	2,613	7,196	20,422
忠 清 南 道	2,094	4,844	1,211	7,079
奎 尚 南 道	12,029	682	4,225	16,936
江 羅 北 道	27,939	8,362	1,093	37,306
奎 羅 北 道	3,458	562	6,833	10,854
奎 隆 南 道	1,045	2,925	201	4,221
成 隆 南 道	4,084	1,009	0	6,753
斗	96,721	24,411	34,270	155,402

3. 私有林野(地方部落民  
2  
於  
30  
使用  
收益  
也

12  
元  
1  
7  
合  
4  
✓

[illegible]

道 名	成林地	雜草地	無主木地	合 計
永 羅 南 道	50000	387000	180000	486000
黃 海 南 道	40000	500000	200000	700000
黃 海 北 道	33000	300000	77000	539000
廣 南 北 道	33000	300000	200000	300000
廣 南 北 道	33000	300000	200000	300000
平 安 南 道	26000	300000	100000	426000
忠 清 南 道	20000	180000	100000	400000
忠 清 南 道	42000	400000	100000	520000
平 安 北 道	57000	300000	400000	600000
平 安 北 道	100000	100000	200000	400000
江 原 南 道	50000	500000	100000	700000
咸 鏡 南 道	40000	300000	200000	500000
咸 鏡 北 道	10000	100000	400000	500000
計	700000	4000000	2000000	7000000

4  
林野  
総合計

[illegible]



道名	次林面積	雑樹林面積	無主林地	合計
北海道	112,253	2,272,219	2,98,530	714,112
青森道	124,428	758,931	376,910	1,259,269
岩手道	278,092	2,272,779	708,646	3,259,517
秋田道	26,027	254,199	194,930	525,156
山形道	125,224	444,722	394,646	964,592
福島道	672,144	2,572,921	254,219	4,549,284
茨城道	91,977	1,024,222	191,223	1,207,422
栃木道	110,449	784,947	157,423	1,052,819
群馬道	212,450	212,342	472,074	896,866
金沢道	25,244	472,249	224,115	721,608
石川道	234,497	144,975	154,020	533,492
富山道	445,842	224,252	572,682	1,242,776
福井道	212,020	224,252	124,254	560,526
山梨道	5,122,665	4,419,423	4,102,441	13,644,529

(二) 昭和十六年ニ於ケル状況 (朝鮮事情昭和十六年)

「八年版」

林野總面積一六、二七三町歩ニシテ林相別ト

ナストキハ立木地一一、四八八町歩稚樹地  
 生地三、六五五町歩未立木地一、一三〇町  
 歩ニシテ林産額年二億四余ナリ。

第四、農産物

耕地及氣候

朝鮮ハ南北ニ長ク位置シ南ノ氣候ト北  
 ノ氣候トハ著シキ相違アルモ夫々ノ地  
 方ノ風土ニ適シタル農業ガ発達シ居リ  
 テ、農業ノ出来ザル地方無シ。土地ノ



拓ヶ居ル點ニ於テハ中鮮地方最モ廣ク  
 北鮮地方ハ未ダ開拓ノ余地モアリ、一  
 農家當リノ耕地モ廣シ。農耕地ハ西海  
 岸ニ面シタル方面ニ廣ク高度ガ概シテ  
 低キモ、東海岸方面ハ概シテ耕地狹ク  
 標高モ高シ。耕地ノ全面積ニ計スル割  
 合ハ中鮮地方ハ約三割内外南鮮地方ハ  
 約二割内外北鮮地方ハ約一割五分内外  
 ナリ。  
 其ノ總面積ハ四九〇万町歩ニ及ビ内三

割大分ハ苗ナリ。氣候ハ西側及南鮮方  
 面ハ温暖ニテ内陸ハ大陸性ノ氣候ヲ帶  
 ビ、東側ハ夏期稍冷涼ニシテ處ニコリ  
 寒流ノ影響ヲ受クル處モアリ。高地帯  
 ハ冷涼ナリ。一般ニ夏作物生育期間ハ  
 雨季ニテ收穫期ハ乾燥スルヲ以テ收穫  
 物ノ品質ハ甚タ良好ナリ。  
 國有未墾地  
 國有未墾地ノ面積ハ概算九十万町歩ニ  
 達シ、國有未墾地利用法ニ依リ此等未



望地ノ利用開発ヲ獎勵セリ。即チ面積  
十町歩未満ノモハ通知事ノ處分ニ移  
シ、面積十町歩以上ノモハ朝鮮總督  
ノ許可ヲ受ケ開墾、教育又ハ植樹ノ爲  
若クハ公共ノ利益トナルベキ事業ニ供  
セリ。  
公有水面（干潟及沼沢）  
干潟及沼沢ハ從來國有未墾地トシテ取  
扱ヘルモ大正十三年八月一日以降朝鮮  
公有水面埋立令施行ノ結果、埋立及干

拓ニ付テハ同令ノ適用ヲ受クルコトト  
ナリタリ。干潟地ノ各道面積ハ約二十  
萬町歩ニ達セルモ、其ノ内土地改良基  
本調査計畫ニ依ル開墾見込面積七万三  
千三百五十七町歩中、事業未着手ニシ  
テ将来開墾シ得ル面積ハ二萬五千九百  
六十町歩ナリ。  
（一）明治四十四年ノ状況（朝鮮總督府統計年報明治四十四年版）  
耕地面積  
畝（田）一九九二、八九六、七町歩田（



No 38

烟 一 一 三 四 一 二 六 一 九 所 步 計 二  
 一 七 二 一 五 八 一 六 所 步

2 耕地面積ノ道別調

道名	苗(田)町	田(畑)町	合 計 町
京 黄 北 道	124,945.5	122,945.5	247,891.0
忠 清 南 道	48,274.1	42,625.1	90,899.2
金 羅 北 道	125,786.8	41,448.1	177,234.9
全 羅 南 道	100,548.5	21,724.4	122,272.9
慶 南 道	125,981.0	18,444.2	144,425.2
廣 南 道	115,783.2	87,174.9	202,958.1
黃 海 北 道	80,882.2	21,897.0	102,779.2
平安南道	46,990.0	224,329.9	271,319.9
平安北道	42,711.2	304,929.7	347,640.9
江 南 道	27,794.4	129,672.2	157,466.6
江 南 南 道	94,840.0	51,988.5	146,828.5
江 南 北 道	21,491.1	197,712.2	219,203.3
江 南 南 道	3,708.7	141,740.0	145,448.7
江 南 北 道	992,896.7	1724,261.9	2,717,158.6

No 39

米ノ作付段別	種 類	作付面積町	收穫高町
	粳 米	844,657.9	8982.163
	糯 米	71,322.2	673.094
	陸 米	15,459.2	125.913
	計	931,439.3	9,782.170

米ノ作付段別道別調

道名	粳米町	糯米町	陸米町	合 計 町
京 黄 北 道	118,422.2	16,166.3	4,225.0	138,813.5
忠 清 南 道	26,344.4	2,984.1	52.0	29,380.5
金 羅 北 道	82,491.1	7,091.8	82.2	89,665.1
全 羅 南 道	96,498.1	7,124.1	341.1	103,963.3
慶 南 道	115,229.9	2,755.0	1,844.9	119,830.8
廣 南 道	107,708.3	4,952.9	478.0	113,139.2
江 南 道	24,492.0	1,422.8	494.2	26,409.0
江 南 南 道	64,922.2	4,174.2	241.9	69,338.3
江 南 北 道	22,784.2	2,114.1	1,285.0	26,183.3
江 南 南 道	43,988.1	2,145.9	74.4	46,108.4
江 南 北 道	34,920.0	2,222.7	6.1	37,148.8
江 南 南 道	22,288.1	4,520.0	114.1	26,922.2
江 南 北 道	2,135.0	148.2	-	2,283.2
計	844,657.9	71,322.2	15,459.2	931,439.3



米  
一  
收穫高

No. 40

道名	粮米石	糯米石	陸米石	合計
東道	1,207,440	1,441,205	48,226	1,400,471
北道	252,449	327,044	503	296,216
南道	263,944	24,754	118	288,816
金道	1,144,361	70,928	2443	1,215,732
北道	1,208,252	80,289	14,288	1,302,829
南道	1,419,122	25,784	5,526	1,450,432
東道	1,063,293	44,497	4,852	1,112,642
北道	550,266	20,018	1,495	571,779
南道	372,948	22,432	42,134	357,514
平道	326,199	22,033	5,240	353,472
北道	289,492	19,443	48	308,983
南道	178,359	14,775	440	194,574
咸道	19,027	2,629	-	21,656
北道	8,903,63	473,094	125,913	9,702,637

麥，作什，餒，別，及，收，穫，高。

禾	大	小	禾	禾	禾
作	341.837.9	147.910.9	20.249.1	2.905.099	2.905.099
收	509.997.9	509.997.9	509.997.9	509.997.9	509.997.9

麥  
作  
付  
餃  
別  
道  
別  
調

品名	大	小	標	麥	合計
黃北道	22,290.9	11,005.9	205.5	45,992.3	
黃北道	19,415.0	4,770.5	122.9	24,859.4	
黃北道	17,272.7	4,029.1	775.4	22,947.2	
黃北道	12,372.9	5,612.3	2,316.1	19,441.3	
黃北道	54,102.5	14,407.8	7,041.4	75,551.7	
黃北道	58,222.2	12,062.2	1,032.9	71,317.3	
黃北道	59,344.2	7,734.1	2,329.0	69,407.3	
黃北道	1,215.2	4,542.2	208.1	5,965.5	
黃北道	10,442.4	16,074.4	3,752.1	29,268.9	
黃北道	4,372.1	1,029.5	—	5,401.6	
黃北道	13,315.0	11,220.7	782.0	25,317.7	
黃北道	25,024.7	2,155.2	2.3	27,182.2	
黃北道	34,076.9	—	147.4	34,224.3	
黃北道	24,153.9	14,771.4	2,022.4	40,947.7	

麥  
收穫  
高  
道  
別  
調

No. 41



道名	大麥	小麥	裸麥	合計
北道	270.401	28.095	9.411	307.907
南道	242.980	28.257	790	251.927
東道	241.200	28.520	14.901	284.621
西道	153.720	28.120	22.265	204.105
北道	267.700	28.140	12.145	307.985
南道	285.171	28.140	12.145	325.456
東道	221.905	28.140	30.494	280.539
西道	41.207	28.222	14.712	84.141
北道	120.033	28.031	14.995	163.059
南道	22.160	2.291	—	24.451
東道	99.713	10.044	1.171	110.928
西道	201.020	10.077	22	211.119
北道	154.293	2.000	147	156.440
南道	290.099	90.007	109.445	509.551

豆、作付段別及收穫高

種類	作付面積	收穫高
大豆	342.940.1	20.224.911
小豆	267.673.9	72.1.609
其他	800.0	41.600
合計	579.244.0	20.89

豆、作付段別及收穫高

道名	大豆	小豆	其他	合計
北道	253.760	9.490.3	245.718	49.811
南道	14.222	24.90.3	—	12.820
東道	15.227	39.15	240	12.896
西道	20.594	3.000	1725	14.717
北道	20.201	4.1720	—	24.371
南道	14.010	4.220	—	18.230
東道	28.220	2.047	—	30.267
西道	21.220	2.047	—	23.267
北道	21.220	2.047	—	23.267
南道	21.220	2.047	—	23.267
東道	21.220	2.047	—	23.267
西道	21.220	2.047	—	23.267
北道	21.220	2.047	—	23.267
南道	21.220	2.047	—	23.267
東道	21.220	2.047	—	23.267
西道	21.220	2.047	—	23.267
合計	342.940.1	16.732.9	8.630.0	579.244.0

桑畑	三	九	二	七	六	町步
繭登額	二	〇	一	一	一	石内訳春蚕一入
五	二	三	石	夏蚕一	一	一四石秋蚕五七四







No. 46

道名	作牛面積	收穫高石	價格
忠清南道	140,974.1	14,927.207	44,055.520
全羅北道	144,734.0	14,524.491	44,900.004
全羅南道	201,454.2	14,411.521	44,492.972
慶尚北道	207,004.1	20,999.910	56,000.552
慶尚南道	182,305.9	17,719.055	45,910.029
京畿道	184,107.4	2,007.929	49,174.101
江原道	19,410.1	45,211.6	18,105.519
忠清北道	24,910.2	43,671.6	14,402.402
江原道	144,419.0	220.402	10,100.200
黃海道	140,100.0	571.909	12,010.930
平安南道	71,079.4	583.079	12,120.012
平安北道	42,830.7	330.912	7,720.490
咸鏡南道	2019.3	67.547	1,507.036
咸鏡北道	1,521.715.9	14,325.226	261,096.929

大	麥	作	段	別	及	收	穫	高	並	價	格
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

[illegible]

No 47

名	作价	收	18
道南	130.234.9	10026.524	11,000.053
道南	162.007.4	15000.943	12,251.398
道南	110.097.1	147.123	11,719.607
道南	10.201.0	549.005	11,031.018
道南	57.101.0	500.279	11,393.025
道南	00.200.9	122.000	11,111.577
道北	26.570.4	1000.910	11,021.000
道北	25.231.7	234.549	1,051.549
道北	12.390.6	201.453	1,001.070
道南	39.040.2	234.490	1,111.447
道南	10.000.0	171.222	012.204
道南	15.000.5	115.181	549.010
道北	10.970.9	75.100	111.120
道北	00.430.9	71.155.500	57,608.106

小	麥	作	段	別	及	收	獲	高	產	價	格
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

[illegible]



道	名	他行面積畝	收穫畝	價	格
廣德	北道	882844	398.904	44220.790	
廣德	北道	1664445	101.016	12222.770	
廣德	北道	24.599	167.081	2217.229	
廣德	北道	14.096	102.276	1422.274	
廣德	北道	20.364	154.472	2044.474	
廣德	北道	22.078	155.279	2225.440	
廣德	北道	15.520	97.122	1222.123	
廣德	北道	22.140	125.002	1222.121	
廣德	北道	122.298	772.308	11.099.958	
廣德	北道	29.192	156.209	2.240.010	
廣德	北道	6.447	26.032	397.208	
廣德	北道	1718.4	5.905	85.022	
廣德	北道	471.2	1.220	1222.4	
廣德	北道	857.290	2470.525	21.275.623	

棵	夢	作	什	段	別	及	二	收	獲	高	並	二	價	格
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

[illegible][illegible]



[illegible]

大豆  
作  
別  
及  
收  
穫  
高  
並  
、  
遷  
格

[illegible]

粟	作	段	別	及	收	獲	高	並	要	格
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

[illegible]



道名	作付面積	收穫高	價格
江原道	78,411.5	419,070	3,442,444
全羅南道	25,412.7	294,096	2,444,374
全羅北道	21,155.7	198,258	1,725,522
忠清南道	44,922.9	398,220	2,744,802
忠清北道	15,958.9	97,076	849,415
京畿道	20,902.3	27,407	257,270
江華道	1,444.5	10,644	98,627
江陵道	1,524.2	12,874	102,608
江陵道	18,372.4	141,920	1,272,702
江陵道	24,745.4	112,017	9,207,414
江陵道	10,105.4	81,178	1,402,942
江陵道	17,078.5	458,542	3,008,434
江陵道	22,444.4	594,992	4,556,779
江陵道	77,027.0	5,444,688	10,066,558

棉

朝鮮ノ棉ハ大別ニテ陸地棉及ヒ在来

棉ノ二種トス

大正十年ノ作付面積別ハ陸地棉十萬四

道名	作付面積	收穫高	價格
江原道	54,094.1	210,562	4,031,162
全羅南道	15,326.6	16,206,020	1,474,980
全羅北道	21,902.7	14,112,494	1,022,140
忠清南道	4,112.8	3,653,858	468,496
忠清北道	5,906.7	2,022,573	456,422
京畿道	9,026.4	4,925,180	711,254
江華道	4,418.7	21,440,026	295,402
江陵道	2,390.6	14,779,276	129,720
江陵道	12,904.5	12,442,012	1,597,441
江陵道	2,006.1	4,452,047	599,729
江陵道	7,515.6	3,052,844	462,458
江陵道	944.7	24,458	206,900
江陵道	14,773.5	95,446,121	11,959,184

千九百四十町七反在来棉四十二十  
七百九十六町八反歩合計十四万七千  
七百三十七町五反歩

棉ノ作付面積別ハ收穫高ニテ價格



諸

大正十年ノ作付段別ハ四千三百四十

町步ニシテ其ノ九割ニ分強ハ南朝鮮

ニ栽培セラレ北朝鮮ニ於テハ僅ニ七

分強ニ過キス。

三) 昭和七年ノ状況(朝鮮事情昭和七年版依ル)

米

農業生産額由ノ首位ヲ占メ施政當初

ハ當ノ荒損甚シク其ノ收量品質トモ

劣等ナリニ力改自増殖ヲ圖リタル結

果、今日ニ於テハ其ノ面目ヲ一新シ

、近年作ヲ突破シ二千四百八十八万

石ノ生産高ヲ示スニ至レリ。

米ノ作付段別及ヒ收穫高

種類	作付面積	收穫高
水稲	1,634,296.5	24,796,287
雑糧	14,600.9	28,855
芋	1,649,877.4	24,005,642

麥

大麥小麥及ヒ裸麥ヲ主トシ鮮肉ニ消

費セラルル額益増加スル状態ナリ。

麥ノ作付段別及收穫高



大豆		品質收量共ニ佳良ニシテ旧日本内地	及ヒ滿洲種ニ比シ足自質ニ富ミ豆質	味噌、醬油等ノ原料トシテ米ニ次	ク重要品ナリ。
大豆	作付面積	收穫高	大豆	作付面積	收穫高
大豆	786,411	4,994.41	大豆	6,062,266.3	2,066.159
大豆	310,332.9	2,024.107	大豆	2,052,400.1	624.528
大豆	227,430.1	2,254.061	大豆	890,606.4	3,480.688
大豆	1,474,204.2	12,324.699			

要

西北部ノ主要畑作物ニシテ、該地方	ノ常食品トシテ重要視サレラルモ、	未ダ鮮肉ノ需要ヲ充スニ至ラス。
甘藷	南鯉地方ニ多ク栽培セラレ農家ノ補	食用トサレオレリ。
馬鈴薯		



北輝地方ニ多ク產シ、品質佳良其ノ	栽培年々増加シ甘藷ト共ニ農家ノ需	要ヲ充シツツアリ。	果實類	畝土極ノテ果樹ノ生育ニ適スルヲ以	テ羅州大邱、三浪津、金海、黃州、鎮	南浦、平壤、咸興、元山、安邊ヲ初	メ其他各地ニ栽培サレ昭和十六年ニ	於ケル果樹園作付段別三萬三千三百	一町半收穫高四千九百十五萬二千七
------------------	------------------	-----------	-----	------------------	-------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

百三十三畝ニシテ其ノ重ナルモノ、	蘋果、梨、葡萄、桃、柿等ナリ。	蔬菜	従来白菜、蘿蔔、甜瓜、蕃椒、ノ裁	培多ク行ハレ、昭和十六年ニ於ケル	作付段別十八萬二千四百六十八町半	收穫高三億七千八百九十四萬九千八	百九月ニシテ成熟甜瓜、江西甜瓜ハ	用城、京城白菜、如キ其ノ最タルモ	ナリ。
------------------	-----------------	----	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-----



棉

正未棉ハ纖維太クニテ短ク彈力ニ富  
ミ持殊ノ用途ニ適スルニ繰綿歩合低  
ミ且品質優良ナラサルヲ以テ明治三  
十九年以來政府ノ保護ノ下ニ收量操  
綿歩合共ニ多ク纖維細長ニテ紡績  
原料ニ好適ナル米國種陸地棉ノ栽培  
ニ獎勵ニル處成績良好ニテ年々其  
ノ栽培段別ヲ増加シ昭和十六年ニ  
ハ作付段別三十一萬七千五百六十  
步

蘭

棉ノ作付段別及收穫高

種別	作付面積	收穫高
陸地棉	217,056.0	199.620222
海綿	9,005.6	4.627426
半	326,061.6	204.247648

養蚕ハ全縣到ル處ニ營マレ、就中愛  
宕北道、江原道、全羅南道、全羅北

其ノ栽培戸數百六十二萬五千百六十

九戸ノ多キニ達シ、尚陸地棉ノ栽培

ヲ獎勵ニタル結果成績良好ニテ年

々其ノ栽培段別ヲ増加シツアリ。



道ノ諸道最ニ多ク其他各道ニ成リ
。從來ハ劣等ナル在来三眠蚕ナリシ
ガ、施設以來品種改良ニ努メ獎勵ノ
結果漸次飼育技術ノ向上ト共ニ其ノ
面目ヲ一新シ、全縣到ル處優良繭ヲ
見ルニ至レリ。
昭和十六年度ニ於テ桑田段別ハ七、
四五九、八町歩養蚕戸數ハ六〇、一六
九七戸蚕種掃立枚數一、一二六、三
八。枚産繭額春蚕三、三九〇、七六

五貧夏秋蚕一、九九四、六四八貫計
五、三八五、四一三貫
畜産
牛
朝鮮牛ハ性質温順体軀強健ニシテ
農耕、運搬ニ適シ營養上重要ナル
ノミナラズ肉質モ良好ナリ。
施政當時七。三、八〇。頭ニ過キ
ヤリシ畜牛數八一、七五〇。〇。
。頭ヲ集スルニ至レリ。



朝	鮮	ノ	在	来	馬	ハ	依	軀	矮	小	力	量	及	ヒ
等	久	力	=	缺	ケ	実	用	的	價	値	乏	シ	ク	頭
数	モ	余	リ	多	カ	ラ	ズ	。						

在来種ハ品質劣等ナルヲ以テ早ク	ヨリバークシヤー種及ヒ其ノ雜種	ハ飼養ヲ奨勵シ来リタルガ近來豚	肉ノ需要増加ト新ニ豚皮ノ用途開	ケタルタメ、一層之が増殖ヲ圖レ
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

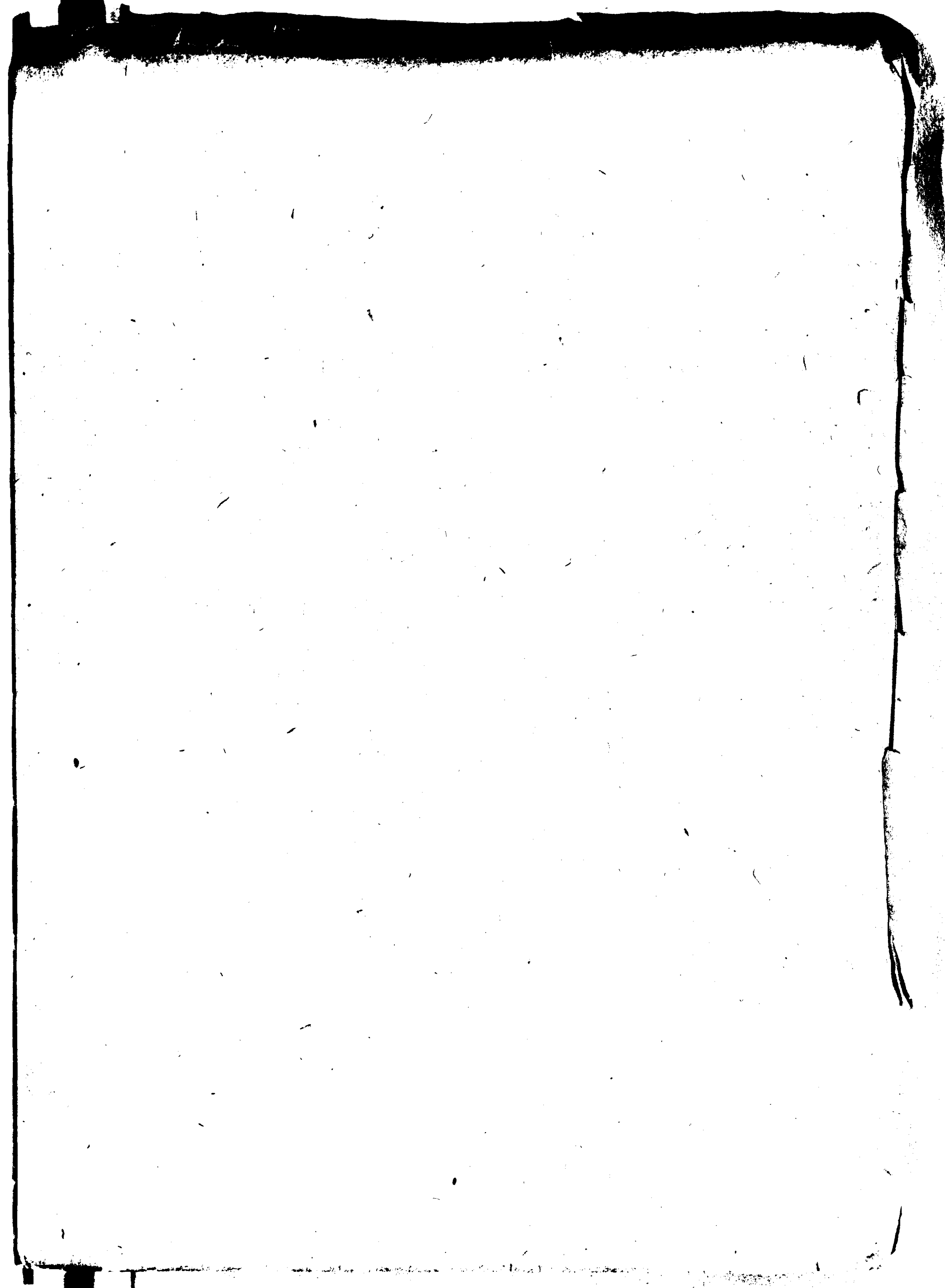
[illegible]



NO 64

[illegible]







日本人の海外活動に関する研究調査  
朝鮮の文化

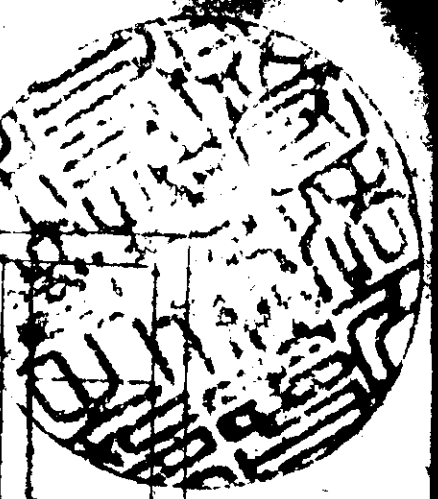
江村保

334.6  
361.6  
7372.58

山口文書

58





朝鮮の文化	朝鮮の文化を述べるに當り、教育、衛生、藝術、演劇及び体育（教育の項に述べる）に分けることとする。	(一) 教育	朝鮮に於ける教育を併合以前と併合以後に分けてみると次の様な状況である。	一、併合以前の教育	朝鮮従来の教育は儒學と宗とし範を明、清に採つて主として經學の諸書を講ずる
-------	--	--------	-------------------------------------	-----------	--------------------------------------

142p  
71p  
共144p  
334.6  
361.6  
632.58

江村保



に止まつた。教育機関として京城に成均館及び東、西、南、中の四學があり各郡に郷校があり各面洞に書堂があつた。書堂は所謂初等教育の機関であつて書堂を経て郷校若くは四學に入學し、更に成均館に進んで最高の學問を修むるの順序とした。

明治二十七年（開國五百三年）科擧の制が廢止せられると同時に此等の教育機関は著しく衰退して四學は自然に罷み、郷

校も文廟の享祀に旧態を存するだけで子弟の教育は行はず成均館は存在したが舊時の盛さが見られず唯全國無數の書堂のみが到る處に存在してその命脈を保つた。

明治二十八年（開國五百四年）旧韓國政府は廢政の改革を行ふと同時に教育の制度を樹て小學校令を始め教育に關する諸般の法規を頒布し京城に官立師範學校、中學校、日、英、独、佛、露、漢の外國



語學校、醫學校、農商工學校、高等尋常  
小學校と各地方に小學校の設立と見たが  
此等の制度は悉く日本の法令を模倣した  
もので、當時の時勢が民衆に適せまいも  
のがあり又之を運用すべき職員に其の人  
を得なかつた等の理由で効果はさほどあ  
らうなかつた。  
朝鮮に於ける私立學校は基督教宣教師が  
布教の傍ら子弟を集めて、教育に従事し  
たのが最も古いが、私立學校勃興の兆と

呈したのは先づ明治三十一年で當時京城  
附近に於ては相次で其の設立と見るに至  
り、内地人の經營にかゝる朝鮮人教育の  
學校も此前後から漸次設立せられ大日本  
海外教育會及び東亞同文會が朝鮮の教育  
事業に率先盡力した功績は決して没する  
事の出来まいもので、明治三十八年（光  
武九年）日韓協約の締結に次ぎ統監府設  
置前後から私立學校の数が著しく増加し  
て、全道到る處に其の設立と見ない所は



はく其の数が殆んど數千に數ふに至つた。  
明治三十七年八月日韓協約が締結せられ  
統監府の設置があり銳意教育の刷新に従  
事し法令の改廢、學校の新設等に歩を進  
め教育の配置、教科書の編纂等に至るま  
で制度内容を一變した。  
明治三十九年の學制改革は之を臨時學部  
擴張費に依り、同年三月日韓國政府の起  
業資金債が成立すると同時に同政府は五

拾萬圓を割いて臨時學部擴張費に充當し  
た。そうして其の用途は主として初等普  
通教育の擴張に向け旧來の官立師範學校  
に大刷新を加へ普通學校教育の養成機系  
を擴張し又在來の小學校を廢し普通學校  
となし京城及び各道樞要地の普通學校に  
適材教員の配置やその他官立諸學校を整  
理して之を刷新と圖つた。そうして古臨  
時擴張事業は明治三十九年より翌年に至  
る二箇年に於て畧其の業を完了すること



と得た。

以上の學制整理改善に依つて旧韓國政府は此に新教育を開始した。因政府が施設した新教育は教育の模範を示すにあつたが因襲の久しい朝鮮教育上の積弊は容易に改善することが出来なかりでなく當時名を韓國の富強開発に藉つて各所に私立學校が勃興したが時勢に應じ民度に照して施すべき教育が何んであるかと知らず旧弊は更に新弊を加へ少年子弟の前

途を誤るものが多い状況であつた。此に於てか旧韓國政府は各道樞要の地に公立普通學校を設置し更に私立學校を選擇して之に補助を與へ公立普通學校に準じた教育を施さしめた。旧韓國政府が施設した教育は普通教育に重きを置き次て實業教育を獎勵し更に師範教育、高等普通教育並に或種の専門教育を施すにあつた。明治三十九年學制を改革するに當つて總て旧來の制度を改め



て普通學校、師範學校、高等學校、外國語學校、高等女學校、實業學校の諸學校令及び同施行規則並に私立學校令等相次て發布せられ京城及び各道所在地より始めて漸次官公立普通學校を設置し京城と成均館、法學校、師範學校、高等學校、外國語學校、高等女學校を又平壤に高等學校の各官立學校を置きとうて釜山、仁川、其他樞要地點に官立又は公立の實業學校を設置し此等の施設は年々擴張と

改善とを加へると共に漸次民心の歸向する所となり併合當時に及んだ。とうて以上の諸學校は旧韓國政府學部の所管に属し古の外水原農林學校、大韓醫院、醫學校、工業傳習所等何れも相當の設備を有し且良好の成績を挙げた。明治三十九年學制改革以來併合當時までの韓國政府學部所管に属する教育施設の状況を概記するに左の様なものである。



種別	明治三十九年	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年
普通學校	官立 一 公立 三九	官立 一 公立 四九	官立 一 公立 五九	官立 一 公立 八九	官立 一 公立 一〇〇
法學校	官立 一	官立 一	官立 一	官立 一	官立 一
師範學校	官立 一	官立 一	官立 一	官立 一	官立 一
高等學校	官立 一	官立 一	官立 一	官立 一	官立 一
外國語學校	官立 一	官立 一	官立 一	官立 一	官立 一
高等女學校	官立 一	官立 一	官立 一	官立 一	官立 一
實業學校	官立 一 公立 一	官立 一 公立 一	官立 一 公立 一	官立 一 公立 一	官立 一 公立 一
實業補習學校	官立 一 公立 一	官立 一 公立 一	官立 一 公立 一	官立 一 公立 一	官立 一 公立 一

備考 本表には私立學校を掲げず、但し公立普通學校中には補助指定普通學校を含むも、乙種公立普通學校を除外する。

二併合以後の教育	明治四十三年八月	韓國が日本に併合せらるるや時の寺内統監は施設の綱領を示し教育の要は智を進め徳を磨いて修身齊家の目的に資するに在る事といたした。	韓國の併合は極めて平穩の間に決行せられ當時に於ける民心の傾向は中外の注目した。此特に民心と直接の交渉を有する教育施設に對する民心向背の状況に於いて杞憂を抱くものが尠くおかつたが京城に
----------	----------	---	---



に於ける官立諸學校の生徒が不安の念に  
 驅られ一時は減少を見た外地の公  
 立普通學校の如きは殆んど何等の影響を  
 見ず一百の官立及び準公立普通學校は著  
 々其の施設を進むることが出来た。併合  
 前後に於ける官公立諸學校の状況を調査  
 すると大要左の現象を呈した。

學校名	學校數	併合前後の生徒數		備考
		併合前 (九月)	併合後 (九月)	
法學學校	一	一五四	一八三	
官立漢城師範學校	一	二八〇	二五三	
官立漢城高等學校	一	二七五	二一七	
官立平壤高等學校	一	一一七	一一六	
官立漢城外國語學校	一	四七一	四四六	
官立漢城高等女學校	一	二二二	二一三	
計	六	一、五〇九	一、四三九	
官立普通學校	一	二六二	二五〇	官立普通學校は師範學校併 合普通學校中は補助指定 校と普通學校とを兼ねる
公立普通學校	一〇〇	一六、三八六	一五、七九四	
計	一〇一	一六、六四八	一五、三〇六	
合計	一〇七	一八、一五七	一六、九四四	
		一八、一五七	一五、五七六	

備考 併合は明治四十五年八月であるが同月には夏季休暇中に行  
 現在物とされて代へた。



併合後一面教育制度の調査研究を進めると同時に諸般の教育施策に付てその内容の充実に期し特に著しい進歩を来したものは公立普通学校の擴張である。韓國の併合が行はれるや明治天皇は授産教育及び災害救済の資に充てる為め臨時恩賜金として一千七百餘萬圓を下賜せられ其の利子五分の一、五を教育に、特に普通教育の資に充當することに定められたので此を以て直ちに地方當局と交渉して公立

普通学校の増設を企劃し右恩賜の利子と基礎として國庫及び地方費の補助、郷校財産の收入等と合せ翌明治四十四年度に於て一百三十四校を増設し従来百校に過ぎなかつた公立普通学校は一躍二百三十四校を有するに至つた。此のように教育施策の刷新擴張を圖ると共に新制度の調査が出来て明治四十四年八月朝鮮教育令が發布せられ又同十月系諸法規を發布し共に同十一月一日を以



て実施するに至つた。

朝鮮に於ける教育は従来内地人と朝鮮人とは其の系統を異にしたが、時勢の進歩は此の差別を撤廃する極端に到達した。で大正十一年普通教育に付てだけ國語を常用する者（主として内地人）と國語を常用しない者（主として朝鮮人）との二種に分けて、其他の実業教育、専門教育、大學教育及び師範教育では總て内地人と朝鮮人と原則とし、新に教育系統を立てて

之を統一すると同時に普通教育にあつても、特別の事情がある場合は内地人と相互に入學が出来る途を開いた。然るに半島の實情と時勢の進運は愈々著しいものがあつた。昭和十三年普通教育に付ても、内地人と依る教育格差の區別を撤廃した。これに於ける教育は制度上内地に於ける教育に比較し殆んど何等の差等がなくなつた。

(1) 普通教育



終戦當時に於ける普通教育は昭和十三年三月改正した朝鮮教育令に據るもので、國語を常用する者とさうでない者  
とに分て教育機関を區別することなく  
等しく國民学校令、中学校令及び高等  
女学校令に依つて教育を施し、又内  
人に依る課程上の差異もなく、内  
体の理念の基に教育を施してゐる。昭和  
十六年五月末現在に於ける普通教育  
概況及び児童と生徒の数は次の様であ

る。  
尚昭和十六年三月小學校の制度が國民  
學校の制度に改められたのに伴つて朝  
鮮に於ても同制度を適用し小學校を國  
民學校と改めた。但し國民學校の課程  
は土地の情況に依つて修業年限を六年  
とすることが出来た。



学校別	学校数	職員数	内地人	朝鮮人	外国人	計
官立国民学校	一三	一三一	六三三	四、六四〇	—	五、二七三
公立国民学校	三四九七	二、三、三九四	九四、三三四	一、五、八、九二	—	二、一、六、〇、二、五、三、七
道知事立学校	一四五	九元	二〇	六、三、五、八	—	六、三、五、八
公立国民学校 附設幼稚园	一六八	一、七、九〇	四、一、四、五、九三八	—	—	一、四、五、九、四、二
公立中学校	四八	一、〇〇〇	一〇、二、三、二	一、三、五、六八	—	二、三、八、〇〇
私立中学校	一六	三、四一	三	九、三、五	—	九、三、八
公立高等女学校	五五	八、〇六	一、三、二、四四	七、四、二	—	二〇、六、五、五
私立高等女学校	一三	二、六〇	九、二二	三、四、五五	—	六、三、五、六

書堂

書堂は前述の様にお来朝鮮に於ける少年子弟唯一の教育機関で、一泊又は個人或は教師自らの設立に係り、極めて不完全な教育を施したものであるが、其の數各道に亘つて頗る多くて遽に廢止し得ない事情にあつたので、弊害がない限りは之を存置して来た。然しなから普通学校の普及に伴つて、往々普通學科と其の教科



併せて園數三百四十九、園見數は二萬六千二百五十八人であつた。

大藏省



に加へるものがあるようにかり、大正七年書堂規則を發布し、更に昭和四年之が改正を行つて、道知事の認可を授け、其の監督及び指導に努めた。明治四十五年三月末書堂数一万六千五百四、教員数一万六千七百七十一人、生徒数十四萬一千六百四十九人、昭和十六年三月末書堂数三千五百四、教員数四千九十七人、生徒数十五萬百八十四人である。

幼稚園は昭和十六年五月末に於て公立並併せて園数三百四十九、園児数は二萬六千二百五十八人であつた。

## (2) 実業教育及び専門教育

普通教育の普及に伴つて実業及び専門の教育が勃興して、其の教育振興である諸學校は大正十一年二月新教育令の公布と同時に、実業教育、専門教育は内務省の共學を原則とし、実業學校は実業學校令及び文部省令の當該規程に準據し、専門教育は専門學校令に依ることとした。従つて其の入學資格、修業年限、學科程度等全く内地に於ける専門學校と異なるところは無かつた。



実業及専門教育概況（昭和十六年五月末現在）

種別	学校数	職員数	内地人	朝鮮人	外国人	計
官立専門学校	7	446(22)	1,327	627		1,954
公立専門学校	2	44(5)	564	21		585
私立専門学校	10	402(23)	632	2,806		3,438
公立工業学校	7	144(10)	1,044	1,044		2,088
私立工業学校	1	19(10)	204	215		419
公立商業学校	4	63(5)	967	1,015		1,982
私立商業学校	1	7(1)		199		199
公立商業学校	2	40(8)	432	517		949
私立商業学校	1	17(2)	479	499		978
公立水産学校	4	93(3)	129	582		711
公立職業学校	11	234(32)	797	3,683		4,480
私立職業学校	4	56(8)	564	791		1,355
公立実業補習学校	9	271(22)	771	3,771		4,542
私立実業補習学校	1	16(1)	33	33		66

備考 実業専門教育に於ける職員数中括弧内のものは兼務者を示し内書である。

大正十一年二月朝鮮教育令に於ける

大正十一年二月朝鮮教育令に於ては、朝鮮に於ける大學教育に關する要綱を定め、京城に綜合制の官立大學を設置し、並當り法文學部及び醫學部を置き同十五年度より開設し、其の豫備教育としては修業年限二年の豫科を附置し、同十三年度より開設し、昭和九年度からは其の修業年限を三年とした。大學の組織内容は共に内地に於ける帝國大學と殆んど同様であつて、内學人共學であるが、設立の使命に鑑み、法文學部に於ては朝鮮の法律、制度、經濟、言語、文學、思想、信仰、風俗習慣、美術、歴史等に關する研究を、又醫學部に於ては朝鮮特殊の疾病、藥物等の研究を其の特色とする。



尚朝鮮に於ける産業經濟の急激な躍進、特に國策に對應する諸工業の勃興に伴つて昭和十六年頃から新に理工學部を設置した。

昭和十六年五月末大學職員七、四（三七）人、學生六、生六、豫科職員八五（二九）人、生徒六、一四人である。（職員數中括弧内は兼務者（内書）を示す。）

（4）師範教育

師範教育は内鮮人共學子と本體とした。そうして本教育は従来朝鮮の實狀に鑑み、内地に比し少く入學資格を低下して、此の代り修業年限を延長する等特種の施設を爲し、又他の教育機關に於ては公共團體及び私人の設立經營を認め、師範學校は官立の外道

費の經營に限つて之が設立を認めたが、昭和四年四月師範學校は當分官立とするの方針を定め、各道地方費の師範學校は何れも同六年三月限廃止した。昭和十六年五月末に於ける校數十一（内二校は女子師範）職員三百四十五人、生徒七千四百八十四人を算した。

（5）在内地朝鮮人學生

内地に於て勉學する朝鮮學生は昭和十六年十月一日現在で一萬八千九百五十一人あつた之を地方別にすると、東京在學者一萬二千九名、地方在學者六千九百四十二名で、之等學生生徒中最も多數を占めるのは、上級學校入學者の爲準備教育を受ける者及び私立大學專門部其



の他に於て法政経済等と修學する者であつた。之等内地にあつた即ち現在の日本にあつた朝鮮人學生生徒の保護監督に榮し  
ては昭和十六年二月新に出た朝鮮獎學會が之に當り、又其の卒業後に於ける就職に榮しは積極的に幹事の衝に當つてゐた。

(6) 体育

朝鮮に於ける体育運動に付ては従来朝鮮体育協會を中心として各道体育協會及び各種体育運動団体と統制し、之が組織内容の充實並に事業の振興と指導又は助長して来た。そうして体育水準も當時の内地、現在の日本と殆んど差異のない迄に發達してゐた。

(7) 經學院

經學院は經學を講じ、風教徳化を扶くるを以て其の目的とし、下賜された臨時恩賜金二十五萬圓を基金とし、其の利子と以て之が維持に充つる外、毎年朝鮮總督府から約一萬圓を補助してゐた。本院には大提學、司成、直學等の職員を置いて、院務を處理させ、又各道から碩學高德の耆宿を擧げて講士と爲し、毎年春秋二回文廟に於て釋奠を嚴修し、尙大正十一年度から東西兩廡及び啓聖祠の祭典を復活した。本院の事業は月次講演會を用いて、或は職員と地方に派遣して臨時講演會と爲し、毎年「經學院雜誌」を發刊して汎く之を頒布し、各道に於ける講士は時々道内各地に巡講する等、常に施設の



和十四年の秋期釋奠祭を期して京城に開  
催された全鮮儒林大會の總意思で時局  
発心として經學院を中心にして朝鮮儒道聯  
合會を組織し、國家總力運動の二組織体  
として臣道の実践に邁進するの外皇道儒  
學を確立し皇道の宣揚に努むる是に之等  
の事業を達成するに必要なる組織体として各道  
には道儒道聯合會、府郡島には府郡島儒道  
會を結成せしめて經學院の活動体と爲し  
所期の目的達成に向ひ着々其の成果を收めた。

(2) 圖書館

總督府圖書館は大正十二年十一月に官制  
の發布を見て同十四年四月に之を所館した。  
爾來年々増する事二十年、その間蔵書

年度の蔵書數は三十八萬二千九百四十  
七冊、同年度中の閱覽者數は四十二萬二千  
二百九十八人と算するに至つた。一方同館は朝  
鮮に於ける中央圖書館として、鮮内全圖書  
館の指導と新設に努め、此等各地の圖  
書館並に各種團體に對し巡回文庫を頒給し  
たり又館外圖書帶出制度を確立して僻遠  
の地に在つても同館利用の途を拓き、更に  
附帶事業として國民教育上有益なる展覽  
會、講習會、講演會等と隨時開修  
して民衆の教化に盡した。

(3) 古蹟調査及び博物館

古蹟調査

古蹟調査に就ては朝鮮總督府は明治



四十二年以來、舊政府時代は著しく、古建物と古蹟の調査を繼續し、大正四年一旦終結を告げたのであるが、古来の遺物及び遺蹟は其の数が極めて多く従来、調査は其の一斑に過ぎず、又遺蹟遺物も漸次散逸湮滅に帰する虞があるので、翌五年四月更に新計畫を樹て五箇年を期して之が調査を行ふこととし、同十年三月末を以て完結し、毎年報告書を公にした。

尚朝鮮古来の工芸、美術と共に其文化發達の有様を紹介するが為め、「朝鮮古蹟圖譜十五冊及び「朝鮮寶物古蹟圖録」二冊を刊行した。

古代建造物

古代の建造物中國有及び朝鮮の所存は屬するもの五百餘棟の多數があり、此等の中歴史の証徴若は美術の模範となり、其の維持保存を圖る必要があるものに對しては破損の程度に應じて、順次保存工事を施行した。又朝鮮に於ける寶物古蹟名勝天然記念物保存會を設け、昭和九年五月第一回保存總會を開演、爾來昭和十六年十月第六回保存總會迄該會に諮問して指定したものは、寶物四百三件、古蹟百四十四件及び天然記念物百三十二件、古蹟及び名勝四件名勝及び天然記念物二件に上る。

博物館  
博物館に於ては總督府博物館中京城  
大藏省



景福宮構内にあるものは大正四年の開設に  
 かり、制度、風俗、文藝、宗教、美術、工  
 藝、其他歴史の参考証物となるべき資料  
 を集め、一般の参考並に観覽に供した。  
 又新羅の旧都である慶尚北道慶州の博  
 物分館は大正十五年開設し、慶州金冠塚を  
 はじめ慶州附近に於ける三國時代新羅の古  
 墳、墓内出土品及び新羅統一時代の佛教  
 藝術品を蒐集陳列し、百濟最後の旧  
 都である忠清南道扶餘の博物館分館は  
 、昭和十四年開設し、主として百濟時代の遺  
 物と蒐集陳列の上一般の観覽に供して  
 居る。以上總督府博物館及び分館の外  
 に平壤には平壤府立博物館があつて博

う、樂浪の王都であつた京畿道開城では  
 又高麗の王都であつた京畿道開城では  
 昭和六年開城府立博物館を設立し高麗  
 時代の遺物を中心とした陳列をして居り、更に  
 忠清南道公州には昭和十五年以來同地古蹟  
 保護會の公州博物館の開設があつて、同  
 地附近発見の各種遺物を展觀し、夫々特  
 色のある郷土博物館を形成してゐる。尚昭和  
 十七年秋咸鏡北道清津府に北鮮科學博  
 物館が設立せられ、工業地帯として重要  
 視せられる北鮮地方の科學教育に大きい貢  
 獻が期待された。

(二) 衛生

衛生に於ては併合後朝鮮總督府に於て醫藥検査  
 の整備、増設及び衛生思想の普及には全力を擧げた



そのの未だ修了しなかつた相當には改善施設さへ

一、醫療寮概況

昭和十六年十二月末に於ける醫療寮概況の状況は左の如くである。

道名	病院	醫師	醫士	道名	病院	醫師	醫士
京畿道	八六	一五二	一三二	黄海道	八	三〇	三七
忠清道	二	三二	一三	平安南道	六	三六	一一一
忠清南道	五	二八	一五〇	平安北道	六	三二	一〇四
全羅北道	八	六	一七〇	江原道	二	六八	三七
全羅南道	七	一六四	五六	咸鏡南道	七	二八	二六八
咸鏡北道	四	三二五	五七	咸鏡北道	一〇	一六	九〇
慶尚南道	九	一〇九	一五三	合計	一六〇	九一七	一、五八八

昭和十六年十二月末に於ける醫療寮概況の状況は左の如くである。

道名	病院	醫師	醫士	道名	病院	醫師	醫士
京畿道	五三	一〇一〇	三三五	黄海道	八	三八〇	八四〇
忠清道	四	一〇二	一六二	平安南道	八	三八一	五五八
忠清南道	六	一五五	二一五	平安北道	一〇	三五四	七三七
全羅北道	五	一四八	二一五	江原道	一〇	四五四	一、三九〇
全羅南道	九	二一六	二五三	咸鏡南道	一〇	八四六	一、三〇一
咸鏡北道	一〇	二一九	三三〇	咸鏡北道	一一	一、〇二〇	七三二
慶尚南道	二	二七六	四二二	合計	一、〇二〇	八、四六〇	二、一五五
慶尚北道	九	二二五	一五〇				
平安南道	八	二五七	一五〇				
平安北道	一四	二四六	二五三				
江原道	一六	一五二	二五〇				
咸鏡南道	一六	二二〇	二五三				
咸鏡北道	一六	二二〇	二五三				
合計	一六三	三、六七四	三、五九七				

大藏省



道名	齒科醫師	齒科衛生士	看護婦	接生婦	検査員	公衆衛生員	衛生員
道	三二四	一一二	五五五	六八五	一六九	二二五	二〇〇
京畿道	一八	九	五〇	二〇	九	七	六
忠清北道	四一	一三	六二	五二	五三	五三	五二
忠清南道	四〇	一三	六二	五二	五三	五三	五二
全羅北道	五五	二五	一〇八	九二	四二	五〇	四〇
全羅南道	五五	二五	一〇八	九二	四二	五〇	四〇
慶尚北道	六三	一五	九九	一五三	四四	四〇	四二
慶尚南道	一一二	一八	一五七	一九一	一三三	一六八	一一〇
釜山道	四三	二四	一〇〇	九八	二四	六五	二五
平安南道	九〇	一三	一八八	一九〇	六六	八一	二八
平安北道	四四	一八	一〇五	八八	一五	三九	二八
江原道	四〇	一五	五七	七〇	一五	一五	一五
咸鏡南道	六五	一三	一七〇	一九八	六九	一三六	九四
咸鏡北道	六六	一〇	一七三	二〇一	五七	九九	九五
合計	九八八	一八八	一八九〇	二二二	七五七	一〇三三	七八八

又各道に在る伝染病院及隔離病舎は昭和十六年末の数は右如くである。

伝染病院 存立四 邑面五

隔離病舎 一八 四一。

計四 四三八

醫師及び歯科醫師は僻地に於ては、醫師の分布が今尚ほ薄であつて、前記醫務行政表に示すように、昭和十六年十一月末に於てさえ其の總数が僅に三千六百七十四名に當り、しかも其の多數は都會地に集はして居るので、朝鮮人の大部分は在來の醫業者である醫生の診療に俟たなければならぬ状態であつた。之が為京城醫學專門學校に於て醫師を養成する外、大正十二年にセブラス、醫學專門學校を開設し、更に毎年二回醫師試験を行つて銳意之が普及を圖り、同十三年五月京城帝國大學に齒醫學部を設置し更に昭和五年三月慶尚北道立大邱醫學講習所及び平安南道立平壤齒醫學講習所を指定した。齒科醫師は昭和十六年十一月末に於て全鮮を通じて其數僅に九百八十九名を算するに過ぎない。従つて入齒營業を許可して之が不足を補充してゐるが、同營業者は専ら技工に従事し醫術の素養が



大正十年六月、齒科醫師試験規則を公布し、同十四年二月、京城齒科醫學校を指定し、極力優良な齒科醫師の充實と普及に努めてゐるが、一般醫師及び齒科醫師の普及は容易でない状態であるが、邊陲地に於ては醫術及び齒科醫術の経歴を有する者に、地域及び期間を限つて醫業又は入齒科營業を免許してゐる。又昭和十七年、京城女子醫學部専門學校を指定した。都市では内地へ移住の増加に伴ひ漸次醫療機關も充實するが、僻地に於ける醫療は、道立醫院の巡回診療の外、道衛生課に於ても実施中。大正三年四月、公醫制度を布いて、全縣に百三十七名の醫師を配置し、主として民間診療を為さしめると同時に、各官廳の衛生事務にも従事せしめることとした。この公醫は定員百八十三名あつたが、昭和十六年更に四百十三名を増員せし、五九六名となつたが、定員五百二十名でその外、實の公醫が百八名あつた。

醫生には二種あつて、一は大正二年十月發布の醫生規則に依り、朝鮮人にして、本則發布前二年以上醫業を免許した者に對して永久に醫術の開業を免許した者、一は醫生に就き三年以上醫業を修習した者に對し、地域を定め五年以内の期限を付して、其の開業を免許した者である。醫生は猶ほ朝鮮に於ける重要な醫術、療養所であるが、公醫と教師として、醫術の教養を行はしめた。

産婆は従来朝鮮人は一般に分娩に際して他人の介添を嫌ふたため、朝鮮人で産婆を業とする者は無かつたが、近時漸く其の効用を認めるやうになつて来た。そこで京城帝國大學醫學部附屬醫院及び大邱、平壤、咸興の道立醫院、鉄道醫院等に於て之が養成所を設け、大正十三年九月セブラン



養育所と昭和七年三月釜山府立病院附設産婆女  
看護婦養成所産婆科を指定し又昭和十六年平壤  
海軍共済組合病院附屬看護婦産婆養成所を  
指定すると共に各道に於て産婆試験を行つて其の  
増加を圖つてゐる。

看護婦は醫師、醫學院の増加に伴つて看護婦の  
需要も漸次増加して来た。そこで大正十一年五月看  
護婦規則を制定し、産婆と共に前記各醫學院及  
官立、公立病院に於て之を養成する外、各道に  
於て試験を施行し之が増加普及を圖つて居る。昭和  
十六年迄に於ける看護婦養成所の指定は十二箇  
所となつた。

種痘衛生、種痘普及の爲、明治三十二年各道  
に種痘認許員を設置し、其の素養ある朝鮮人

子に近接することゝおひで、内地人に對しては特に婦人  
にのみ許すこととした。尚大正十二年朝鮮種痘令公布に  
伴つて従来の種痘の認許員を種痘衛生と改めた。

### 二、藥品取締

藥品に對しては明治四十五年三月藥品及び藥品營  
業取締令を公布し、藥劑師、製藥者、藥種商、  
賣藥者等の各業務範圍を限度とし、毒藥劇  
藥の販賣授與に嚴重な制限を加へ、殊に阿片煙  
の密輸入、不正販賣、吸煙に對しては朝鮮刑事令  
の規定に依つて之を取締つた。然るに欧州戦亂以後  
阿片等の價格暴騰に因つて、平安北道及び咸  
鏡北道に於ては阿片の製造を為す者が續出し  
たので、大正八年六月朝鮮阿片取締令を公布し、罂  
粟の栽培を制限し、生産阿片は政府に收納して



賠償金を公布し、罂粟の栽培を制限し、生産阿片は政府に收納して賠償金を交付し、同時に歐西藥用阿片及び製藥用阿片は政府の專賣として賣下げ又は交付する規定を設け、其の販賣授與に付ても亦取締を嚴重にしたので、朝鮮刑事令の勵行と相俟つて阿片煙の吸飲は全く其の跡を絶つに至つた。然しながら之と共にモルヒネ類の注射服用を以て阿片烟吸飲に代へ、其の爲に其の害は阿片に劣らぬものがあつたので、之を防止する必要を因時に國際阿片條約を履行する爲、同九年十二月にルヒネ、コカイン及び其の塩類取締に果する府令を公布して麻藥の輸入を制限し、且鮮内に於ける製販造販賣に付ても嚴重な取締を加へ同十二年及び十五年の兩年度に亘つて右府令を改

は敬言寮署の身分証明又は認證を必要とし、その手續のむづかしい者にしては一切其の所有と所持を禁止した。然しながら麻藥類の密賣と濫用が其の跡を絶たなかつたので、製藥用阿片の賣下を廃止し、昭和五年三月から專賣局に於て塩類モルヒネと塩酸チヤチール、モルヒネを製造賣下することとして、麻藥類の取締を一層嚴重にした。更に昭和十年四月朝鮮麻藥取締令を制定して取締の完璧を期してゐるが、昭和十七年五月阿片製造と麻藥製造等の事務を專賣局から厚生局に移管し一段と取締の強化を計ることとなしたが、同年十一月日の機構改革によつて同事務は敬言務局に於て管理大藏省



其他賣藥検査規程を定め、又大正二年七月  
薬品巡視規則を施行して漸次薬品及び  
賣藥の精良を期し、併せて一般藥業者  
に對する取締を勵行した。  
藥劑師は他の西藥技師に比し、遙に少數で  
あつた。そこで藥種商を許可し、薬品需給  
の円滑を圖つたが、薬品の知識が乏しく危險が  
少くないので、大正五年に藥劑師試験規則を發  
布し、同十四年に朝鮮藥學學校を指定し更に昭  
和五年九月京城藥學專門學校を指定して  
藥劑師の養成並に努めた。同十五年十一月  
調査に於ては藥劑師の數は僅に六百七十一名に  
過ぎなかつた。

### 三、食品取締

飲食物其の他物品の取締は付ては、牛乳營業  
取締規則、衛生上有害飲食物及び有害物品取  
締規則、清涼飲料水及び氷雪營業取締規則  
並にメチール、アルコール（糖）取締規則等を發  
布し、且本府及び各道に衛生試験室を設置  
し、藥劑師がある技師員を、一、飲食物及  
び飲食用具並に薬品、賣藥等の化學的  
試験に當らせて不良飲食食物や薬品賣  
藥等の取締に遺憾なきを期した。

昭和十六年中に於ける衛生試験件數は三萬  
四千七百三十七件に達した。

屠場の取締は韓國政府の発布に係る屠  
畜規則を發布して之を統一した。

昭和十六年末に於ける屠場數は一千四百十  
三箇所、同年中の屠畜總頭數は六十八



最も多いのは豚の三十六万五千六百五頭で之に次ぐものは牛の三十一万五千二百九十九頭である。牛乳採取所及び牛乳取締に付ては従来牛乳を用うるものが少く、唯内地又は外國人が之を需要したばかりであつたが、併合以来朝鮮人間の需要も漸次増加して、営業者の數も又増加した為、明治四十四年牛乳營業取締規則を發布して、之を取締つていたが昭和十五年四月朝鮮牛乳營業取締規則を發布し、従来の規則を全面的に改正した。そうして昭和十六年末の搾乳營業者は二百二十一名で、乳用牛と山羊約三千九百九十三頭其の搾乳量は二萬三千八百二十七石である。

#### 四、上水

が改良の必要を認め、併合以来毎年國費、道費及び道費補助を以て地方に水道の敷設及び模範的公共井の掘鑿を行はしめた。昭和十五年末現在に於ける水道數は二十府二十一箇所、單四邑中四十九箇所、其他郡所在地面等に九箇所合計七十九箇所である。

#### 五、傳染病豫防

傳染病は韓國併合以来傳染病豫防令其他諸種の法令を發布し、海港檢疫所をも設置して、豫防處置を講じたが、大正十三年傳染病豫防令を改正して、指定病數を十種とし、疑似症及び病原體保有者の措置に関する規程を完備し、昭和三年六月一日から傳染病豫防令施行規則を改正実施する。



行に努めて来た。尚昭和十五年六月再歸航  
を指定して傳染病豫防令を適用することと  
した。

(4) コレラ

鮮内に侵入するコレラは主として其の割原  
を上海地方に発し、一は内地諸港を、一は滿  
洲を経て侵入するものであるが、本府は  
例年コレラ患者が上海に発生する時を以て、  
第一期とし、沿海及び國境地方民に豫防  
注射を実施すると同時に海港檢疫の最行  
に努めてゐる。尚ほコレラ豫防宣傳の爲  
大正十年以来活動寫眞フィルムを作成し、各  
道に配付すると同時に海外に於けるコレラ  
状況の周知に努め、一般民衆の警戒心を

(5) 痘瘡

本病は古来一般に朝鮮人間には免れなかつた  
の、信ぜられてゐたので、種痘施行に對して  
之を忌避する状況であつた。それで大正十二  
年朝鮮種痘令を公布して其の強行に努め  
、一面痘瘡豫防宣傳フィルムを調製して  
各道に配付し、大いに之が宣傳に努めた結  
果、漸次患者の減少を見た。

しかし今尚ほ往々滿洲地方から梅毒が  
侵襲し、各地に流行する事例もあるので  
種痘の徹底を期し、防疫の最善と  
盡くする。

(3) 赤痢、腸チブス

本病は到處に四季を通じて小流行を  
大藏省



並に衛生講話、ポスターの配布等あり  
る方法に依つて、民衆思想の啓発に努め  
ると同時に飲料水の改善、便所下水の改  
良、豫防注射の無料実施に意を用ひた  
が、大正十三年豫防令の一部を改訂して  
菌保有者に対する制限を設け、特に菌保  
有者の檢索に努めてゐる。又痘口免疫法  
の研究發達に伴つて朝鮮總督府は昭和  
七年以來赤痢、チフス等の豫防内服薬  
を製造して、之を一般に有償頒布し、事前

豫防上良好な成績を収めてゐる。  
海港檢疫は警務警察官署の管掌に属し、鮮  
外から来る船舶に對して之を行ふもので、現在之を  
行ふ港は仁川、群山、木浦、釜山、鎮南浦、

い海州の十四港である。

痘苗は朝鮮總督府家畜衛生研究所に於て  
之を製造してゐるが、府邑面々の警務警察官署に於  
て施行する種痘用を無料として、京城帝國大學  
附屬醫院、道立醫院、藥劑師、藥種商の  
請求に依るものに對しては割計して賣下げて  
ゐた。又滿洲、間島は地域が相接し、同地に於け  
る種痘の疎密は直に朝鮮に影響する為に、  
同地の公種痘に對しては特に無料配付をして  
ゐた。

4) 慢性傳染病  
慢性傳染病中主なるものは癩及び結核  
である。

癩 大藏省



果に依れば其の數一萬三千七百七十三人と算  
 してゐる。ところが醫療機關として  
 は全羅南道小港島に官立癩療養  
 所が一つあつて、大邱及び釜山の二箇所  
 私立癩療養所がある。官立癩療  
 養所である。小港島更生園は五千九百六  
 十九人の患者を收容し、私立療養所  
 では大邱癩病院に六百八十八人、麗水の  
 愛養園に六百九十九人を收容した。此等  
 私立療養所にはおいては國庫から補  
 助を與へ、又私立療養所の所在地附  
 近に各地から蠅集して、癩部落を形  
 成し、相助會を設けて居る患者に對  
 しては朝鮮總督府の製造に依る治

## 2. 結核

本病の豫防に際しては、大正七年結核  
 豫防に際する府令を發布し、病毒傳播  
 防止の取締としてゐるが、昭和十一年四月  
 朝鮮結核豫防思想の普及や啓発等  
 、社會事情に適應した豫防對策を  
 講じてゐたところ、皇后陛下に於りて  
 國庫に於ける結核蔓延の現状に憂慮  
 せられ昭和十四年四月二十日結核の豫防  
 並に治療に際する施設の資金として  
 多額の御内帑金と下賜あられたの  
 でそれに基き財團法人結核豫防會を  
 設立し之を内地外地に亘る中央團體と  
 して結核豫防上必要な諸事業を行ふ

大藏省

昭和十四年四月二十日



地方本部を置き道庁に其の支部を  
設置することとなつた。朝鮮に於ても財團  
法人結核豫防會朝鮮地方本部を設立  
し、各道に其の支部を置き、該事業を  
支援、補充して朝鮮の結核豫防と治療  
に資する事業を行ひ、政府の施設と相俟て  
結核豫防の目的の下に事業を遂行するも  
のである。

朝鮮に於ける地方病は肺ガストマ、十二指  
腹虫、マラリヤ等である。肺ガストマは本  
大正十一年から十二年に亘り各道よりして  
本病の分布其の他の基に調査をせしめ  
めた結果、一般朝鮮人の嗜好するモクツ  
蟹、サリ蟹の生食に基因することと

経路を示した映畫を制作して各道に配  
付し、其他豫防宣傳、講話會等を用進  
して民衆の自覺喚起に努め、又大正十三  
年六月モクツ蟹及びサリ蟹の採取及び授受  
禁止に資する府令を發布して之を取締り最  
に、一面罹病者の治療方法を講じて来た  
。處が此等蟹類は之を火食すれば感染  
の虞がないばかりでなく、農村疲弊の極、極  
相當食用ともなり、經濟的價値も少くない  
ので、昭和九年八月限り該府令を廢止し  
て其の取締方法を通知することとし、地方の実  
情に即せしめると同時に蟹類火食の風習  
を剔致する方策を講じてゐる。

十二指腹及びマラリヤは各地に散在して



て自衛心の喚起を促し、豫防治療の  
該地に努めた。

### (三) 藝術

朝鮮の藝術に對してはその價值と意識——その人  
は比較的少ないようであるが、それは古來から朝鮮  
が日本と支那との間に位して、日本が島國として外  
寇に侵さるる事なく、溫和な氣候と自然の美、  
人情の中に生き、その皇統を長く續けて、恐怖のない  
民族で生活には餘裕を持ち、樂園的生活をなした  
結果華麗な藝術を生み出したのに及んで、又支  
那はどこの道も大陸であり大國である。その為、その偉大  
な力に惹きつけられ、強さを持った線、太い藝術である  
のに及し、朝鮮は北大陸の興亡がたたき、影法師  
に平安を失ひ、勝たず又時々侵略を受けて平和も永く

かう違つた立場にある藝術である。

その表現は華やかでなく又強くなく、地味な色彩から  
であると考えられる。

しかし朝鮮には朝鮮独特の藝術があつて、そ  
の優美さは日本と支那とは自かう本質を異に  
たものである。

### 二

藝術の構成は種々の要素をもつものである。

ところでその中で基調となるものが三つある。第一  
は形であり、第二は色であり、第三は線である。

もとより是等のものの結合によつて一つの作品が構  
成されるのである。然し、<sup>その結合は</sup>各の特質や使命を持つよ  
うに見える。現はすべき美の性質によつて、その  
要素の——は、他に對して占める位置を占めるもの



形とは何を意味し、形の美とは何なる心を語  
 るものかと必ずしも安定無情な形であるとの  
 意味がある。何故なら不安定な形は心に不安を  
 訴ふから美感を奪ふものである。形が美の要  
 素となる為には安定した形でなければならぬ。  
 然し安定はどうして保たれるのであるかと云  
 へばそれが地上に安んずる時に最も確乎とした  
 姿を得るのである。形は大地にある形である。か  
 かる形は如何なる美を示すものであるか。それは健全  
 な強固な確乎とした又最も美しい美がそこに示  
 されてくる。それ故に美に強さといふ力といふ魂  
 はさうとするなり、作品は形に強さをもたねば  
 ねばならぬ。

若し茲に強大な民族があつて、その宗教が如の

宗教であるやう、その民族から産み出される藝  
 術は必ずや形の藝術であると見ていい。實に此適  
 例を五々々は支那に於て見る事が出来る。巨大な  
 自然に圍まれ、廣大な歴史に生ひ立ち、大地の漂  
 流に育てられた民族は一日も地を離れない實際的な  
 強固な民族である。その地に横る安定な形は必  
 然的にその心のシムボルである。

如何に支那の藝術は莊嚴な形の美に於て古  
 来一たる事か。あの周代のものだと傳へる銅器を  
 始めとして凡ての建築物から器物に至るまでその  
 形は驚くほどの強さである。樂しい日本の民族  
 が又は寂しい朝鮮の民族が、強固な形の美にと  
 の心を抱く事がなかつたのは必然的なことと云はな  
 ければならない。

次に色とは何を意味するのであるかと云へば形につ



けて安定な形との意味が想い出される程に色と  
 云はるゝが美しい色であるといふ事と必然に意味  
 する。醜き色は美感を離れる。そこで美しい色  
 彩とはどんな心で告げるか。それはそれが美しい  
 は美しい程、美しいさとか喜ばしいさとか、又は平和  
 な心とかを語るが、それは地を飾り地に染む色  
 彩である。若々しい活々とした華やかな姿である。  
 若くも美しい感懐を美に表現しようとするな  
 らば自然に美しい色をなめるであらう。疑ひなく  
 色彩の道が、美しい平和な心を表現する者も  
 想はしい道であるにちがひない。

その中で茲に美しい自然に恵まれた民族があつて、  
 その生活が境遇に俾せられてゐるやうに、そこから  
 現はれて来る藝術は色彩の藝術となるのは  
 極めて自然な結果である。東洋に於てその位置

に當るのけ、云ふ迄もなく日本である。糸候の温  
和な、花の多い、緑に満ちる自然の中に育つて、  
どうして色彩に冷みであるか。然る國々は安  
らみであり、生活は保たせられ、人情は柔ふ事と許  
されてゐた。柔しい色彩、此のも優しく、長はしい  
多様な色彩云ひ換へるかうば人々が呼んで、綾錦と  
云つた心が此民族のはんだ世界である。

色彩は日本に於て最も豊富にせう。可憐にせう  
ル又華やかにせう。純粹なる日本の畫家は色彩家  
であつた。例へば光院とか宗達とか乾山とか此の特  
質は日本に於そのみではない。樂一とか院はさ  
とか美しきよかを愛した畫家は、凡て色彩の畫  
家であつた。イタリーで云ふならはベネチヤ派の畫  
家がさうであり、近代で云ふならはルノアールの如  
きは其の代表的なものであつた。



寂しさに活きた朝鮮が日本のように色を特に  
 愛しなかつたのは自然である。  
 線とは何ぞ意味し又如何なる心に示すの  
 であるかと云ふは色が必然美しい色であるとの念  
 と伴ふ様に線と云ふは細い線との意味がある。  
 太い線は形に近づかう線の意味からは離れ  
 てくる。此も細い線とは細長い線との意味をも  
 つ。線は長い線である。長い線はどうして作ら  
 れるのであるか。それは直線は二点間の最短距  
 離である。それならは線の真意は直線を求め  
 てはゐない。直線ではなく曲線が線の心とも云ひ  
 得る。細く長い線は曲線によつて代表される全  
 く線の美は曲線の美にある。そこで線の内な  
 る意味は何んであるかと云ふはそれは形と  
 は相反するように見える。形とは地に横へる形  
 である。形はその重さに於て方向を大地に  
 向けてゐる。だが線は或一瞬間の他の方へ去らう  
 とする線で、それは地に横たはるのではないから  
 離れようとするのである。歸つて行く心ではなくて  
 別れようとする心である。憧れる先は此世ならぬも  
 のに向けられてゐる。形は強さがあるならは線には  
 淋しさがある。細い線とは既にその心を語るも  
 のである。

曲線とは風に靡く姿である。地の力に強いられ  
 る不安定な動揺する心の象徴である。地を離れ  
 るとは、此世の無常が身に迫るからである。連々と  
 りて何ものかに憧れ、然も切れようとして切れな  
 い。此世の絆が、あのたわやかな線によつて最もよく  
 暗示を興へる。彼岸を求めて地に苦むものの  
 姿がそこに象徴される。線は全く淋しさを語  
 る。



る線である。  
 力とか線—さとかが許されず、悲—さや苦—さが宿命として身にまつはるやう、そこに生れる藝術は形よりも色よりも、線と自然の選ぶに至るものである。それより想はしい表現の道は他にないからである。藝術に於てこの線の要素を多量に含んでゐる場合を求めらるやう、朝鮮の藝術こそその適切な実例であらう。その民族ほど曲線と愛したものは他にない。心情から自然のやうに建築から彫刻から、音楽から、器物に至る迄、凡てに線が流れてゐる。東洋の三個の國に於て、三個の異なる自然が代表せられ三個の異なる歴史が代表せられ、三個の異なる藝術の要素が示現せられた。大陸と島國と半島と一つは地に安んじ一つは地に居び、一は地を離れる。第一の道は強、第二の

道は柔、第三の道は寂い。強さは形と線—さは色と、寂—さは線と響んでゐる。強さは宗教の力による為、線—さは味はれる為、寂—さは静心めづる為、共に興へられた。  
 朝鮮の藝術は建築に於て、繪畫に於て、彫刻に於て、陶磁器に於て、又衣服に於て、漆—さと弱々—さと悔み深い曲線と又白さる以て表現されて居る。  
 三  
 そうして朝鮮の藝術構成の各要素は比較的に、相當発達の変遷度合があつた。  
 上代は朝鮮藝術の発生時代である。宋浪時代は主として支那から渡來した漢民族の文化を示したもので其の民族の道—た藝術品には朝鮮固有のものはいりも加はつて居る。



次に高句麗、伽倻、百濟、古新羅の藝術は此等民族の固有したものに支那の漢魏六朝時代の影響の加はつたものである。又地方には日本上代の藝術と大きい系を保持する。

新羅統一時代には支那の文化の黄金時代とも称すべき唐の藝術を大いに輸入して頗る優美なるものを作り出した。實に新羅統一時代は朝鮮美術の極盛時代である。高麗時代は其の餘盛時代とも称すべきもので、一面には新羅藝術の延長であり。又一面には宋元の感化を受けてゐる。新羅のものに比すると織巧に失つたけれども、非常に優美なるものを出した。朝鮮時代は美術の衰頹時代であつて、其の様式は直ちに高麗時代を兼ね、

又多少明時代の影響を受けるも受けた。初期に於ては猶相當觀るべきものを出したが後期に入つて、日露の元系の衰へると共に、次第に墮落するに至つた。しかし多少固有の特質を發揮したのは多とすべきである。

各時代に分けて見ると左の様な状況である。

(1) 楽浪郡時代

朝鮮の歴史に於ける今と距ること四十年前檀君が大島に天降つて朝鮮國王の始祖となつた。又周の武王が箕子を朝鮮に封じた。箕子は平壤に都して所謂箕子の朝鮮を建設したといつてゐる。是等はあまり正確ではないが、兎に毎朝鮮の歴史が曙光を見るに至つたのは漢の武帝が耶蘇紀元前百八年に朝鮮を征服して、楽浪、臨屯、玄菟、真番の四郡を置いた時からであ



る。當時朝鮮の南半には馬韓、弁韓、辰韓があり北半には朝鮮、濊、貊、沃沮等の諸民族がゐたがその中に於て藝術發生時代を礎き出したのであつた。現在樂浪の藝術を証據たる現存物は左の如きものである。

#### 1. 郡縣治址

(イ) 樂浪郡治址—平安南道大同郡大同江面古城

(ロ) 粘蟬縣治址—平安南道大同郡龍岡郡於乙洞古城

(ハ) 帶方郡治址—黃海道鳳山郡唐土城

#### 2. 古墳

樂浪郡治址(平安南道大同江面古城)を中心として現在千餘の古墳が散在されてゐる。粘蟬縣治址(平安南道龍岡郡於乙洞古城)の附近にもいくかの古墳がある。又帶方郡治址(平安南道鳳山郡唐土城)と思はれる地奥を中心として其周囲にも

數十の古墳がある。是等の古墳は皆同形式のものである。

#### 3. 殉葬品、埴、及び瓦

平安南道大同郡及び黃海道鳳山郡の樂浪、粘蟬、帶方治址を中心として発見され又発見されてゐる。

#### 4. 建築木、彫刻、及び繪畫

樂浪郡時代の建築木(古墳以外の)も彫刻も繪畫も朝鮮に於ては全く其形迹を見ることができないが、土城内又は古墳内から発見せられた遺物によつて當時の工藝の一斑を知る事が出来る。其銅器といひ陶器といひ漆器といひ瓦埴といひ其処各般の工藝品といひ形に於ても、意匠に於ても技工に於ても非常に勝れたものであつて樂浪郡時代の藝術が如何に高度の



発達をしてみたいと察知することが出来る。其  
 銅器といひ陶器といひ漆器といひ瓦埴といひ  
 其他各般の工藝品も、ひ形に於ても喜望に於  
 ても技工に於ても非常に勝れたものであつた。果  
 浪那時代の藝術が如何に高度の発達を以て  
 ゐたかを察知することが出来る。ところが此等の  
 藝術は全く支那本國のものとなつて全同のもの  
 である。察するに漢民族の来は以前朝鮮民族  
 は多少固有の藝術を持つてゐたであらうが、  
 併し極めて簡單幼稚のものであつた。新  
 たに輸入された優秀な藝術のためたちま  
 ち壓倒され消滅したのであらう。今日ま  
 で発見された遺物は全盤漢晋式であつて、  
 少くも土民の手法と思はるものを見つて  
 居らぬ。

此等の遺物は悉くは移住して来た漢  
 民族の作つたものと推定される。其の中には土着  
 民族に属する者があるかも知れぬ。假令土着民  
 族に属するものがあつても彼等の固有した藝  
 術は早く消滅して新來の支那文化に同化さ  
 れてしまつたものと考へらる。

(2) 高句麗時代

高句麗は扶餘族の一派にして始め沸流江(富  
 爾江)の流域卒本扶餘に都した。其説に  
 依ると疏靖王の時國內城に移り、山上王の時  
 丸都の新國都に都を遷した。其後燕の慕容  
 皝の為に撃破せられ、都城が灰燼となるに  
 及んで國內城に歸り、此に都を置いた。高句麗  
 王の時國威が最も振ひ版圖を四方に開拓して  
 朝鮮の北半を平げた。其子長壽王の十五年



(西歷四三七年)都を平壤に遷し、平原王の二十八年(西歷五八六年)長安城を築いて之に移り、竇藏王の二十七年(西歷六六八年)唐、新羅連合軍の爲めに滅亡するに至つたが、高句麗時代の遺物は主として都城と陵墓とである。都城址よりは當時の工芸品を見るべき古瓦の類が豊富に発見せられ、陵墓の内部玄室の構造、裝飾では建築美術の一端を見るべく、又其壁面に施された繪畫には當時の繪畫の性質を知ることが出来る。隋のことには高句麗滅亡の時唐兵が其陵墓を悉く破壊して殉葬品を盗み去つたから、當時の工芸品は殆んど発見することが出来ぬ。しかし其間の藝術を證據たる現存物は左の如きものである。

# 1. 陵墓

岸の各地に數百基の古墳が散在してゐるが、あまり重要なものは無い。

## 2. 埴及び瓦

埴に付ては樂浪時代には玄室を築くに埴を用いたが高句麗には全く之を見ることが出来ぬ。

尤も満洲輯安縣にある大王陵及び千秋塚の文、字銘のある埴を出した。しかし此等の埴は割合に少く且薄い。

瓦に付ては國內城附近に出るものも平壤附近に於て発見せられたものも共に同一の様式である。巴瓦の文様には蓮花文、忍冬文、獸面文、唐草文、重圈文の數種あつて、蓮花文には種種の意匠から成るものがあつて、又漢瓦の形迹を認むべきものもある。

## 大藏



高句麗は其の初めは符秦から後には主として北魏東魏、北齊から佛教を輸入し、伽藍の興隆に随がつて佛教教内に安置した佛像の彫刻は北魏の様式に倣つて大きい發展を遂げたことだらうが、其の遺物は極めて稀で唯僅かに平壤附近や黃海道、の佛寺の發址から數軀の小銅佛と其の鑄型と瓦佛の残片を發見したに過ぎぬ。

繪畫

高句麗の繪畫は約千四百年前から千三百年前頃に亘つて、次第に進歩して北魏の影響を受けるようになる。それから急速の發展を示している。

百濟は初め京畿道廣州地方に國を立てたが、蓋鹵王の時高句麗の侵略を受けて國都が陥落し文周王元年に都を熊津へ即ち今の忠清南道公州に移した。聖王王十六年更に泗水に遷り義慈王二十年唐の蘇定方の高麗に滅ぼされたとの間を百濟時代といふ。百濟は建國の初め北は帶方に接し、彼より漢民族の文化を受け又常に南方支那とも往來してゐたから、新羅、任那に比すると割合に早く制度文物の發展を見るに至つた。當代の遺物の現存するものが極めて少ないが、扶餘附近には當時の石塔及び多數の陵墓土が猶存し、瓦、磚、金銅の住々出土せるものがあり、古墳内から發見せられた僅かの副葬品



と共には不十分なり。古くは、  
ることが出来る。現在百濟の藝術を証據たて  
るものは左の如きものである。

#### 陵墓

京畿道廣州―百濟時代初期の墳墓と認  
むべきものは京畿道廣州郡中堅面石村に大  
小數十基遺存し、又公州地方にも多少散在  
してゐるが、藝術上格別重要なものはない。  
扶餘附近に於て近年重要な陵墓が発掘調  
査されたが、此等は何れも聖王還都以後にか  
ゝり特殊の形式を具へてゐる。

#### 2. 建築

扶餘郡縣内面―五重の石塔波女

#### 3. 彫刻

扶餘陳列館―金銅小三尊像、金銅佛立像

#### 4. 埴瓦及び陶器

公州は即ち百濟の故都能津に當り、當時の  
山城が猶存在するけれども城内から昔時の  
陶器の残片を出せる外百濟時代の遺物  
を発見することが極めて稀であつた。然る  
に大正十二年六月頃公州尋常高等小學校  
の敷地内で地形工事の際偶然多くの  
埴瓦を発見した。

瓦は扶餘の色内外及び扶餘山城から従  
来多くの巴瓦及び平瓦の破片が発見  
され又鷗尾の残欠も出た。

(4)

古新羅及び伽倻諸國時代  
朝鮮半島の南半には昔時馬韓、下韓、辰  
韓の三民族が割據してゐたが、其中馬韓の



地域には既記の如く百済が國を創め、そうして  
下韓の地には伽倻、辰韓の地には新羅が起  
つた。此下韓、辰韓の地域は大体に於て今の  
慶尚南道北道に當り、下韓は其西南部、辰  
韓は其東北部を占めてゐたのであつた。  
新羅は慶州を根據地として統一した王國を  
建設し次第に領土を開拓したが伽倻は幾個  
の勢力ある小國相集團として一の聯邦のよう  
なものを組織してゐた。

其小國の数は時代によつて増減があつたが、其  
中最も有力なものは高麗（大伽倻）咸安（安羅）  
（昌寧）（比自津）星州（本彼）金海（伽羅）  
などであつた。伽倻諸國は早くから日本に通  
じ、其の保護の下に百済や新羅に對抗

したのが、高麗が次第に強大になり、新羅の勢力を

真興王の時終に其の攻滅するに至つた。  
伽倻諸國の歴史は文献缺乏のためあまり  
してゐないが、文化の性質は大体に於て新羅と  
殆んど同様であつたやうである。

又伽倻諸國の晩年には既に佛教藝術の輸入は  
あつた事と思はれる。ものゝ盛になつた由に滅  
亡したので當時の遺物は殆んど全く存在して  
ゐない。

古新羅時代の遺物はほとんど古墳である。又  
其後期には塔婆、瞻星台、佛像、瓦、埴、等の  
外多しの彫刻工芸が遺つてゐる。

陵墓

慶州、古新羅時代の墳墓は、其の舊都慶  
州の附近にあるもの無慮數萬あり、其

大藏



其の既記の如く百濟が國を創め、さうして  
 下韓の地には伽倻、辰韓の地には新羅が起  
 つた。此下韓、辰韓の地域は大体に於て今  
 慶尚南道北道に當り、下韓は其西南部、辰  
 韓は其東北部を占めてゐたのであつた。  
 新羅は慶州を根據地として統一した王國を  
 建設し、次第に領土を开拓したが伽倻は幾個  
 の勢力力ある小國相集團として一の聯邦のよう  
 なものを組織してゐた。

其小國の数は時代によつて増減があつたが、其  
 中最も有力なものは高麗(大伽倻)咸安(安羅)  
 (昌寧)(比自休)星州(本彼)金海(伽羅)  
 などであつた。伽倻諸國は早くから日本に通  
 じ、其の保護の下に百濟と新羅に對抗

真樂王の時終に其の攻滅するに至つた。  
 伽倻諸國の歴史は文献缺乏のためあまりはつきり  
 してゐないが、文化の性質は大体に於て新羅と  
 殆んど同様であつたやうである。  
 又伽倻諸國の晩年には既に佛教藝術の輸入は  
 あつた事と思はれる。ものゝ盛にならないうちに滅  
 亡したので當時の遺物は殆んど全く存在して  
 ゐない。

古新羅時代の遺物はまづ古墳である。又  
 其後期には塔婆、瞻星台、佛像、瓦、埴、等の  
 外多しの彫刻工藝が遺つてゐる。  
 陵墓

慶州古新羅時代の墳墓は、其の舊都慶  
 州の附近にあるもの無慮數萬あり、其

大藏省



他大邱、萊山、善山等の地方に於ては注意すべきものがある。伽倻諸國の墳墓は高靈、星州、昌寧、咸安等に重要なものが多く金海、靈山、咸昌、晋州等の地方にも多少散在してゐる。

2. 殉葬品

殉葬品は墳墓の年代と死者の身分によつて様でない内容の極めて豊富なものもある。貧弱なものもある。

3. 都城及び建築物

慶州一月城、瞻星台、芬皇寺塔。

4. 繪畫及び彫刻

慶州一彌勒菩薩像、釋迦如來像（朝鮮總督府博物館慶州分館）

京城一石佛（李王家博物館）

5. 瓦

當代の者と認めべき巴瓦の破片は月城、南山城、皇龍寺址其他廃寺の址より発見せられた。

(5) 新羅統一時代

新羅統一時代は太宗武烈王の九年（西暦六五四年）教順王の八年（西暦九三五年）即ち新羅の滅亡に至るまでを指すのである。

武烈王の時には唐の力を藉つて百濟を亡ぼし、其子文武王の時に至つて高句麗を平げて半島統一の大業を遂げた。武烈王は親しく唐に往き其の盛大な文化を目撃して歸國の後盛んに唐の制度、文物を模し、又佛教と共に其の優美な佛教藝術をも輸入して爾後唐の文化は崇拜の熱は益々高まり建築・彫刻・繪畫、其他諸般の工藝はその影響を受けて大きく発展を遂げた。



新羅の藝術は一方には中印度に於て大成された笈多朝の藝術と波斯の薩珊朝の藝術の影響を受け、之を渾化融合して雄麗豊美な新様式と大成したのである。實に唐初の文化は當時の世界的偉觀であつて支那藝術の最高頂に達した時である。ところが其の優秀な藝術は新羅統一時代に於て盛に輸入せられて當時様式の基礎となつたのである。

新羅統一時代の藝術は其始めに初唐様式の直寫で頗る雄大な氣象を發揮して居たが景德王の頃には漸く國有の趣味を露はして華麗纖巧の極に達し爾後次第に衰頹を呈し纖弱の弊實に陥つた。

それでも猶後世の決して企及することの出来ぬ

優秀な特質を持つてゐた。その頃の藝術を証據たてる現存物は左記の如きものである。

王宮及び苑池

慶州一魁石亭、雁鴨池、

2. 建築

益山郡一禿彌勒寺塔(六重)、王宮塔(五重)

忠州郡一塔亭里七重石塔、

慶州郡一佛國寺多寶塔、佛國寺輝如塔(三重)

求禮郡一華嚴寺舍利塔(三重)華嚴寺東

塔及び西塔(各五重)

扶餘一無量寺五重石塔、

大邱一桐華寺五重石塔、桐華寺金堂、庵東

塔及び西塔(各三重)



梁山郡一通度寺三重石塔  
 東萊郡一梵魚寺三重石塔  
 原州郡一磨居禪寺三重石塔  
 杆城郡一神溪寺三重石塔  
 榮州郡一浮石寺三重石塔  
 金堤郡一金山寺五重石塔  
 慶州郡一石宮庵三層石塔  
 鉄原郡一到彼岸寺三重石塔  
 義城郡一寺院洞五重石塔、塔里洞五重石塔  
 江陵郡一廢神福寺三重石塔  
 慶州郡一廢淨惠寺十三重石塔  
 金堤郡一金山寺大角多層石塔  
 (四) 磚築木及び磚石混築木塔  
 驪州一神勒寺五重磚塔

安東郡一邑南五重磚塔、邑東七重磚塔、

造塔洞五重磚塔

(一) 石心灰皮塔

尚州郡一上内里石心灰皮多層塔(六重)

3. 石心塔

慶州佛國寺の後の山の上にある。石心塔には朝鮮唯一の石心塔がある。景德王朝佛國寺を經營した金太城の築造したもので北魏、隋、唐、間に行はれた支那の石心塔を模したものであるが、自然の出殿壁を用敷金し、其の内部に佛像を彫刻したのに及し此れは花崗石材を用いて石心塔を構造し其の上に土を覆ひ恰も自然の石心塔の如くしたものである。

4. 浮屠

原州郡一興法寺奈巨和尚浮屠



昌原郡一鳳林寺真鏡大師寶月凌空塔  
金堤郡一金山寺舍利塔及石基壇

5. 石碑

慶州郡一太宗武烈王碑  
扶餘郡一唐劉仁願紀功碑

慶州郡一仿金陽墓龜趺、四天王寺碑

河東郡一雙溪寺真臨金禪師碑

保寧郡一廢聖德寺大朗慧和尚塔碑

堤川郡一廢月光寺日朗禪師大寶禪光靈塔碑

昌原郡一鳳林寺真鏡大師寶月凌空塔碑

6. 鐘

平昌郡一上院寺鐘

慶州郡一奉德寺鐘

石燈及石蓮池

報恩郡一法住寺雙獅石燈、法住寺四天王石燈

榮州郡一淨石寺石燈

東萊郡一梵魚寺石燈

慶州郡一佛國寺石燈、古物陳列所石燈

陝川郡一海印寺石燈

求禮郡一華嚴寺石燈(覺皇殿前)

潭陽郡一廢開仙寺石燈

A. 陵墓

慶州郡府內面一太宗武烈王陵

慶州郡外東面一樹陵(文武王陵)

慶州郡府內面一金角干墓(文武王弟金行

墓)

9. 彫刻

慶州郡一石窟菴佛像、甘山寺石造彌勒菩薩

像(總督府博物館)



釋迦如來像

大邱

桐華寺毘盧菴石造毘盧菴石造毘

盧舍那佛像

榮州郡

毘盧寺寂光殿石造毘盧舍那佛像  
毘盧寺寂光殿石造彌陀像

慶州郡

掘佛寺四面佛石

咸安郡

防御山第二峰碧山屋陽列尊佛

報恩郡

法住寺碧山屋陽刻彌勒菩薩像

慶州郡

佛國寺大雄殿銅造毘盧舍那佛坐像  
佛國寺極樂殿銅造阿彌陀如來坐像

柏梁寺銅造藥師如來立像

高城郡

輪帖寺龍仁殿銅造五十三小佛像

鉄原郡

到彼岸寺鉄造毘盧舍那佛坐像

忠州郡

丹月寺藥師殿鉄造釋迦坐像 邑輔

鉄造釋迦坐像 (忠州郡廳内)

廣州郡

鉄造釋迦坐像 (李王家博物館)

京城

小銅佛 (總督府博物館藏) 小銅佛

慶州郡

四天王寺出土釉埴陽刻四天王像

埴及の瓦

埴に付ては

慶州附近の官殿佛寺の址跡及び

當代經墓の各地方古刹の廢址かう多くの埴

及の瓦の残片が発見せられた。埴は方形若く

は長方形にて其の表面又は側面に織罫か

寶相花文を浮彫にしてゐる。

瓦に付ては巴瓦、唐草瓦、鬼瓦、鰐瓦、平瓦

等がある。

11. 陶器

此の時代は佛教の隆盛に伴つて半葬は

大藏省



此等の陶器は、無文のものもあるけれども多くは細密な印花文を有してゐる。其の質は灰黒で堅緻、稀に黄色の釉薬を施してあるものもある。  
 此等の陶器は、無文のものもあるけれども多くは細密な印花文を有してゐる。其の質は灰黒で堅緻、稀に黄色の釉薬を施してあるものもある。

## (6) 高麗時代

新羅統一時代を受けての高麗時代は西暦九百十八年から西暦一千三百九十二年に至る間で高麗の始祖王建建國の始め都を松岳(開城)に奠め、此に先づ壯麗な宮闕を立て市廛を置き坊里を定め更に法王、王論等の一寺を都城内に創め、大に

要するに古新羅時代のものよりは形に於ても手法に於ても一段の進歩をなし、特に唐の影響を受け、美し、釉薬を施せるものもあるに至つた。而も當時代の墳墓には大きい石槨を作ることなく蓋に副葬品を藏するの風がやみ、爲めに出土の陶器も主として此等骨壺に限らるのみならず他の各種の工製品も発見することが出来ないので、當代藝術の研究上實に惜むべきことと謂はねばならぬ。



の基を用いた。爾後殆んど二百年間は契丹の侵掠に悩まされたこともあつたが、比較的平和の時代で物質的文化は大に発展した。李資謙の死以後百年間権臣々威福を弄し、紀綱大に紊亂した。其後蒙古に隸属すること約百年間國王の廢立、大いの政務皆彼の羈絆を脱することが出来ず、制度文物の風俗慣習に至るまで彼の模倣に甘んじた。元の滅亡後明の正朔を奉じて鏡意古制を回復したが、間もなく朝鮮の太祖李成桂の為に覆滅せらるるに至つた。高麗時代の文化は通觀すると大体前後の二期に分つことが出来る。前期は太祖の建國より高麗の初年に至るまでで、新たに元の文化の影響を受けられたのみならず、其の藝術は次第に衰頹退化するに至つた。

前期に於ては初め宋の支配を受け後に遼、金の文化はまぎして宋と祖述したものであるのみならず、高麗は終始宋と敬慕した。其の文化の影響を受け、其のことも随て著しかった。元は一方には宋の文化を継承し、一方には西藏より喇嘛的藝術を輸入し、其の影響を受けたりする。高麗も亦喇嘛藝術の感化を全く免れぬことはできなかつた。

建築的遺物として石造の塔婆、浮屠の類が多く保存され、二、三の木造建築が遺つてゐる。又僅かながら木彫の佛像や繪画が現存し、古墳内から當時の陶器、銅器等の優秀な工芸品が多量に発見された。

都城及び王宮

開城郡—開城々郭

王宮—瑞月台、瞻星台



2. 佛寺、建築

榮州一浮石寺、無量壽殿、浮石寺祖師殿、  
安辺郡一釋王寺、應真殿

3. 石塔、婆

豐前郡一廢開心寺、七重石塔、廢玄化七重石塔、  
廢靈通寺、五重及〇三重塔、

豐前郡一廢開心寺、五重塔、

開城郡一廢興國寺、石塔、

忠州郡一廢獅子頻延寺、獅子塔（三重）

泰谷郡一廢淨光寺、五重塔、

寧辺郡一普賢寺、九重石塔、普賢寺、八角十三重塔、

平壤郡一永明寺、八角五重石塔、六角七重石塔（大  
同公園内）

平昌郡一月精寺、八角九重石塔、

寧辺郡一普賢寺、八角十三重塔、

4. 陵墓

開豐郡一廢敬天寺、大理石多層塔、  
和順郡一多塔峰、石塔十四基、二重方塔一基、三重  
方塔二基、五重方塔二基、大重方塔一基、  
七重方塔五基、九重方塔一基、四重圓塔  
一基、七重圓塔一基、

開豐郡一太祖顯陵、惠宗順陵、定宗安陵、

光宗憲陵、戴宗春陵、成宗智陵、

顯宗宣陵、順宗成陵、肅宗裕陵、

神宗陽陵、天宗韶陵、忠穆王明陵、  
忠定王顯陵、恭愍王玄陵、

長湍郡一文宗景陵、肅宗英陵、明宗知陵、

江華島一熙宗碩陵、高宗洪陵、

5. 浮屠

當代前期は佛教隆盛で朝鮮の崇信が篤く



命令で作成されたものが多く、工巧の精進盡した  
ものも亦少くはなかつた。初めは大体に於て新  
羅様式の繼續であつたが次第に固有のものに  
生じ、後期に入つては手法が稍退化した。新た  
に印度系に属する様式があらはれ次の朝鮮時代  
に入つて行はるるに至つた。今其重要なるもの  
を挙げて左の如きものである。

原州郡一廃興法寺真定大師塔、

驪州郡一廃高達元宗大師慧真塔、廢高達院

元宗大師逸名塔

忠州郡一廢淨土寺弘法大師實相塔（總督府博

物館）

原州郡一廢居禪寺日空國師勝妙塔（京城）

廢法泉寺智元國師玄妙塔（總督府博物

館）

金堤郡一金山寺真德塔

大邱一桐華寺弘真大師塔

長湍郡一華藏寺指定惠靈照塔

驪州郡一神勒寺普濟舍利石鍾

寧辺郡一安心寺石鍾

6. 石碑及び石幢

海州郡一廢廣照寺真徹大師月東空塔碑

原州郡一廢興法寺真定大師碑（總督府博物館）

江陵郡一普賢寺朗日大師悟真塔碑

忠州郡一廢淨土寺法鏡大師慈燈塔碑

驪州郡一廢高達院元宗大師慧真塔碑

忠州郡一廢淨土寺弘法大師實相塔碑

開豊郡一玄化寺碑

原州郡一廢巨禪寺日空國師勝妙塔碑



廣法泉寺智光國師玄妙塔碑

金堤郡—金山寺真德塔碑

開豐郡—廣通寺大覺國師碑

海州郡—神光寺無字碑

寧邊郡—妙高山普賢寺碑

開豐郡—廣通普濟禪寺碑

驪州郡—神勒寺普濟石鐘碑

海州郡—陀羅尼石幢

龍川郡—陀羅尼石幢 石燈

恩津郡—灌燭寺石燈

羅州郡—羅州西門內石燈

淮陽郡—正陽寺石燈 摩訶衍吉祥石燈

驪州郡—神勒寺普濟石鐘前石燈

開豐郡—七陵碑第三陵石燈 恭愍王玄陵及妃正陵石燈

彫刻

證山郡—灌燭寺彌勒大石像 廣開泰寺三尊佛石像

扶餘郡—大馬寺彌勒大石像

淮陽郡—摩訶衍妙吉祥石造大佛像

京城—像伽寺碧崖釋迦像

南原郡—廣萬福寺彌勒石像

開豐郡—觀音寺觀世音菩薩石像 廣寂照寺鉄

造如來像

原州郡—彌勒彌陀寺の石像

和順郡—多塔峰石佛二十餘軀

平壤郡—永明寺八角石佛合龍

榮州郡—浮石寺無量壽殿木造彌陀像

高城郡—榆岾寺能仁殿小銅佛五軀

原州郡—鉄造彌陀像(楮田洞) 鉄造藥師像(不郭洞)

繪畫

榮州郡—浮石寺祖師殿壁畫

大藏省



京城—傳恭愍王筆天山獵圖(朝鮮總督府博物館)

元陳鑑如筆李齊賢像(李王家博物館)

傳恭愍王筆天山獵圖(李王家博物館)

10. 安東郡—紹修書院安格像

10. 工藝云

高麗時代の工藝云は一面には新羅を継承し、一面には宋元の影響を受け、更に固有の発展を遂げたもので、特に陶器に至つては宋元の範疇を出て空前の陵墓中には多くの明器を藏した。その後に此等が盛んに市場に出て、李王家博物館總督府博物館が之の蒐集に努め、又私人の手に歸したものも多く、爲めに高麗時代の工藝の真相が始めて世に明かになるに至つた。銅器の地上に保存されたものは主

として鐘と香爐と佛具の類で墓中から出た金屬製品は鏡、食器、佩飾品、文房具等である。

(1) 金工

天安郡—天興寺鐘(金在李王家博物館)

海南城南門大興寺鐘

水原郡—龍珠寺鐘

開豐郡—南大門演福寺鐘

京城—東本願寺別院鐘

香爐

杆城郡—乾鳳寺銀象嵌香爐

梁山郡—通度寺香爐

江華郡—傳燈寺香爐

順天郡—松廣寺香爐

公州郡—林谷寺香爐



禮泉郡・龍門寺香爐（李王家博物館）

(ロ) 瓦

瓦は新羅時代の様式を踏襲して初期にあつては頗る靚るべきものがあつたが、技工は次第に粗漫に流れ文様の種類も少く且繊弱のものとなつた。

(ハ) 陶器

陶器は實に當代工芸の精華である。新羅時代には既に堅緻な陶器を出し、往々黄緑を施したものがあつたが、其形も技工も尚稚拙の域を脱することが出来なかつた。然るに高麗時代に入つて宋元の影響を受け異常の発達を見るに至つた。

(7) 朝鮮時代

朝鮮時代とは太祖李成桂の建國から日韓併合に

至る五百十九年間及び其後を指し西暦千三百九十二年から千九百四十五年に至る間である。

朝鮮の建國は明の創業に後れること僅かに二十五年、其太祖李成桂は都を漢陽に定め、都城を築き、宮闕を起し、宗廟社稷を建て文廟及び成均館を設け、前朝蒙古の餘習を除去し公規を振作して開國の規模を確立した。

高麗の末に儒教が勃興し、太祖を扶けて國家の建造に参列したものは多く鴻儒碩學の徒で儒教は佛教に代つて當時の文化発展の原動力となるに至つた。特に太祖、太宗、世宗を始めとして世祖、成宗相繼いで大いに文學を奨励し、典章文物燦然として其は、諸般の藝文術も之に伴つて大きい発達を遂げ當代文化の最高潮を示した。



然るに燕山君以後は紀綱弛廢、文化は次第に頽廢の兆を示した。その上宣祖の時所謂壬辰の乱が突如起り、前後六年間八道の山河は干戈の卷となりて、都邑廟寺の兵燹にかゝるものが多い。新羅高麗以来建設して来た有形の文物の大半は烏有に歸し、半島の文化に大きい瘡痕を負はしむるに至つた。

壬辰役後間もなく愛親覺羅氏が滿州に起り仁祖の時半島に侵入すること前後二回朝鮮は力及ばずして終に城下の盟となり、長く清朝の指配を受けることとなつた。壬辰の瘡痕が未だ回復しないのに更に此打撃を蒙つて國家の疲弊は其極に達した。加ふるに政權の篡奪と事として眞に國家を憂ふるものが稀れで紀綱は益々紊亂し、國勢は衰へるに至つた。

正祖以後は國勢も漸く老練の平和的な事業は相當に行はれ李朝後期の固有の文化を各方面に發揮することが出来た。

要するに始めは高麗時代を継承して一面には大に明の感化を受け一面には國家の隆盛に乗じて固有の發展を遂げたのである。後に國力の衰運を挽回し陽に清に従ひ陰に夷狄として彼と卑劣の傾向があつたので、其文化の影響は割合に少く、その為には大いに固有の趣味手法を發揮することを得た。

考ふるに新羅以来の文化の感化の最も稀薄な時代である。

太祖が國を建てると同時に前朝佛教の弊害に鑑み、儒臣の建議を入ル佛教を壓抑の方針を採つた。太宗以後歷世の君主（世祖を除く）は



毫も禁壓の午と弛めなりつた為に三國以後  
最も隆盛を極めた佛教は瀕死の大打撃を  
被るに至つた。

此の様に佛教の排斥と共に盛に儒教を奨励  
し京城を初めとして各道の府郡には必ず郷  
學を立て文廟を設けるなど儒教的建築と  
之に附属する工芸も盛に經營されたが、佛教  
の様に大きい影響者と興へることは無かつた。  
當代の人々は政争に没頭して他を顧る暇がな  
く、儒教は其形式に捉はれて煩瑣な儀禮に  
拘泥し趣味は枯渇して純良の情操を欠  
ぎ其の藝術は支那の影響者と離れて特殊  
の発達をなしたのが輕浮纖弱な單に外面の修  
飾を喜ぶ風を馴致した。

この時代の藝術と証據立てる現存物は左の

如きものである。

1. 建築

木造建築は高麗時代の者は僅かに三棟  
に過ぎざりしが當代に入つて始めて遺物豊富  
富となつた。今其遺存せる建築の種類に  
より大別すれば一城郭ニ宮闕ニ客舎四廟  
祀五佛寺。

1. 城郭

京城一京城城郭(南大門(崇禮門)東大門  
(興仁門))

開城一開城城郭(南大門)

平壤一平壤城郭(普通門、大同門、浮碧樓)

水原一水原城郭(長安門、八達門、華虹門、  
訪花隨柳亭)

寧辺一南門



晉州 - 直道石樓

安州 - 百祥樓、清南樓

義州 - 南門

(四) 宮闕

京城 - 景福宮 (光化門、勤政殿、勤政門)

弘文館、康寧殿、文泰殿

慶會樓

昌德宮 (敦化門、仁政門、仁政殿及仁)

應廟、樂善齋

昌慶宮 (弘化門、明政門、明政)

殿及應廟

慶熙宮 (山宗政殿)

(八) 客舍

安邊 - 客舍、駕鶴樓

高靈 - 伽倻館

江陵 - 客舍大門及中門

慶州 - 東京館中堂、東京館左右翼

咸川 - 東明館

(二) 史庫

宮內府 - 江華島史庫

春陽 - 太白山史庫

江陵 - 五台山史庫

茂朱 - 赤裳山史庫

京城 - 文廟大成殿

大邱 - 文廟大成殿

慶州 - 文廟大成殿

開城 - 文廟大成殿

慶州 - 鄉校明倫堂

安東 - 文廟大成殿

(水) 書院



慶州一三山書院獨樂堂養真菴

玉山書院

榮州一紹修書院講堂、文成公廟

禮安一陶山書院

開城一山松陽書院

(八) 佛寺

安邊一釋王寺護持門

驪州一神勒寺祖師堂

陝川一海印寺藏經版庫

黃州一成佛寺極樂殿、成佛寺應真殿

春川一清平寺極樂殿

淮陽一長安寺聖殿

永川一巨祖菴靈山殿

靈巖一道岬寺解脫門

江華一淨水寺法堂

昌寧一觀龍寺藥師堂

康津一無為寺極樂殿

順天一松廣寺國師殿、松廣寺祖師殿、

松廣寺龍華殿、松廣寺白雪堂、

青雲堂下舍堂、

梁山一通度寺大雄殿、通度寺勸音殿、

通度寺應真殿、

順川一安國寺大雄殿、

東萊一梵魚寺大雄殿、

江華一傳燈寺大雄殿、傳燈寺藥師殿

河東一雙溪寺大雄殿、雙溪寺古佛堂

八相殿、雙溪寺塔殿金堂、

求禮一華嚴寺覺皇殿、華嚴寺大雄

殿

金堤一金山寺彌勒殿、金山寺大寂光殿

大藏



淮陽一長安寺大雄殿

禮泉一龍門寺大雄殿

大印一桐華寺大雄殿 桐華寺金堂菴極

樂殿

安樂一釋王寺大雄殿

寧邊一普賢寺大雄殿 普賢寺萬歲樓

慶州一佛國寺大雄殿 佛國寺極樂殿

陝川一海印寺大寂光殿

報恩一法住寺捌相殿 法住寺大雄殿

(2) 石塔婆

京城一廢日覺寺大理石多層塔

襄陽一洛山寺七重石塔

麗州一神勒寺七重石塔

3. 浮屠

陝川一海印寺弘濟菴松雲墓塔

永禮一華嚴寺碧山菴墓塔

淮陽一長安寺無竟堂靈運塔

報恩一法住寺世尊舍利藏塔

淮陽一金剛山白華菴桐潭墓塔

4. 石碑

開城一演福寺塔重報碑

楊州一太祖建元陵碑

黃州一太宗獻陵碑

京城一太日覺寺碑

慶州一玉山書院李晦齊神道碑

陝川一海印寺弘濟菴松雲大師石藏碑

京城一文廟碑

淮陽一金剛山白華菴西山大師碑

靈巖一道岬寺道詠國師碑

黃州一大清皇帝功德碑



求禮一華嚴寺碧巖禪師碑

五 王陵

威南文川一翼祖の智陵、妃の淑陵

成興一度祖の義陵、妃の純陵、桓祖の定陵

妃の智陵、穆祖の德陵、妃の安陵

太祖以降歷代の王陵は京城を中心として楊州

廣州驪州地方へ営まれた。

六 彫刻

龍岡一新德寺極樂殿銅造觀音坐像

陝川一海印寺法寶殿木造毘盧舍那佛像

海印寺大寂光殿木造毘盧舍那佛像

高敞一機堂寺大雄殿銅造藥師坐像

機堂寺藥師殿石造藥師坐像

兎率菴兎率內院宮銅造坐像

襄陽一洛山寺銅造着彩觀音坐像

羅州一尋香寺木造釋迦坐像

靈巖一道岬寺解脫門文殊普賢像

道岬寺大雄殿三尊佛大光菩薩像

金堤一金山寺彌勒殿彌勒佛像及二雨脇侍

全州一松廣寺大雄殿釋迦藥師彌陀三佛像

河東一雙溪寺大雄殿佛像三軀、雙溪寺大雄

殿菩薩像四軀

報恩一法住寺大雄殿三尊佛

寧邊一普賢寺大雄殿木造菩薩像

扶餘一無量寺極樂殿塑主造彌陀三尊像

七 繪畫

扶餘一無量寺彌勒畫像大幅

晉州一青谷寺釋迦畫像大幅

金泉一雙溪寺盧舍那佛畫像大幅

寧邊一普賢寺大雄殿佛畫



朝鮮總督府博物館、李王家博物館

安堅作の夢遊桃源圖、赤蓮圖、雪天圖

姜希顔作の樓閣圖、渡橋圖、樓閣山水圖

山水圖、寒山拾得圖二幅、雲龍圖

李上佐作の松下步月圖、山水圖、羅漢圖

觀音圖、月光菩薩圖

梁彭孫作の山水圖

不詳作の山水屏風

李最作の唐大圖、花鳥猶狗圖三幅

金提作の夏山暮雨圖

由氏作の白鷺圖、紫鯉圖

中正霖作の翎毛圖

李不害の作夷杖逍遙圖

尹仁傑作の踞松望瀑圖

咸允德作の帷帽騎驢圖

李正根作の関山積雪圖

黃執中作の葡萄圖

李夢胤作の松壇步月圖

李英胤作の翎毛圖八枚、山水圖李兩廷

兩竹圖、墨竹圖三清帖

尹穀立作の山水圖一冊、山水圖

李成吉作の武夷九曲圖二卷

魚夢龍作の梅圖、水中梅圖

鄭弘翼作の葡萄圖

李繼祐作の月夜葡萄圖

尹貞立作の月夜葡萄圖、觀瀑圖

李禎作の山水圖

李澄作の遊艇訪芳圖、金泥雪峯江圖

圖

宋民吉作の青絲山水圖



趙沐作の老樹棲鶴圖、双禽圖四幅

梅圖

許穆作の竹圖

金明國作の人物圖、山水圖の三幅對

達磨圖

韓時覺作の布袋圖

李明郁作の漁樵問答圖

曹世傑作の神仙圖

趙之耘作の梅圖

金埴作の牛圖

尹斗緒作の老僧圖、春風騎馬圖

山水圖

鄭敷作の廬山瀑圖、立雪嚴圖

廬山草堂圖

尹德熙作の山水圖、博龍擒虎圖

二幅對

卞相壁作の雀噪、戲猫圖、雞子圖、

猫圖

趙榮祐作の岵巖上抱琴圖、松下箕踞圖

金斗樸作の田園行獵圖一卷、桃園豪興

圖一卷

沈師正作の雲龍圖、猛虎圖、曉景

山水圖、雪中探梅園、花樹草

虫圖、鴈雉圖、

崔北作の冬夏山水圖二幅對、秋景山水

圖、

李麟祥作の寒林秀石圖

姜世晃作の驢背不見句圖、山水圖、

鄭弘来作の岵巖頭鴈雉圖

金德成作の雷神圖



金厚臣作の秋渚野鴨圖

李寅文作の江山無盡圖、葡萄圖

金得臣作の郭子儀行樂圖、扶醉圖

申潤福作の風俗畫帖

金弘道作の蕭山圖、神仙圖、風俗畫帖

開大圖、翎毛圖

李義養作の山水圖

張漢宗作の魚介圖

申緯作の竹圖

李在寬作の山水人物圖

鄭遂榮作の山水圖

金正喜作の山水圖

趙廷奎作の魚介圖、花鳥圖

金良驥作の仙人吹笙圖、月下吹笙圖

李漢諾作の花外小車圖、秋林讀書圖

許維作の勇鷹溪聲圖

申命衍作の花鳥圖

南啓宇作の秋草群蝶圖、花蝶圖

畫扇圖

平哲作の山寺晚鐘圖、雪景山水圖

紫陽花園

申命作の雪景山水圖、山水圖

劉淑作の花鳥圖、十幅屏風、風俗圖

趙重默作の山水圖

作者不明の南九萬竹像、道廢竹像

林義業竹像、葉時烈竹像

申維清像、婦人竹像、裴龍車

裴龍車作雲娘子市像

工藝品

鐘

大藏



京城一興天寺鐘、普信閣大鐘  
襄陽一洛山寺鐘、閣鐘

陝川一海印寺大寂光殿鐘  
杆城一乾鳳寺鐘、閣鐘

梁山一通度寺鐘

水禮一華嚴寺雲興寺大鐘

平壤一鍾閣鐘

高城一楡岾寺鐘

(ハ) 瓦工

稀に僅は稍觀るべきものがあつたが一般に  
技工が粗漫に流れ遠く麗時のものに  
は及ばなかつた。

(イ) 陶工

陶磁器は高麗時代に於て異常の  
進歩を見たが當代に入つて其形狀に於

ても其手法に於ても一轉化を示すことと  
なつた。大体に於て青瓷、白磁、染朱付  
の三種類に分けることが出来る。

(ニ) 雜工

二層櫛、三層櫛、櫃、婚画、文匣の家  
具には往々唐木又は木理の美しい材を  
用ひ、その縁形を施し、或は扇面に  
文字花鳥を浮彫にあうはせるものや、  
朱漆を塗り華角を張り盛んに鑽  
金の金具を打つて仕衣飾としたもの  
がある。

又筆筒、硯床、杖、刀子鞘等には  
優々巧緻の彫刻をしたものもある。

(ホ) 竹工

竹工は筆筒、矢筒等の小さいものには



浮彫せざる用の家具等には往々薄い  
竹を張り付けて諸種の幾何學的な  
標を巧妙にあうはしたものである。

(イ) 石工

黒色、白色、黄斑の大理石などを  
用いて香爐、石火鉢、石鍋等を作つた  
ものもあるけれども其の藝術品として  
見るべきものは硯に——是には雲龍、  
葡萄、梅竹、蓮華、亀、鶏、魚介  
を浮彫にして頗る興味をそそる様な  
ものがある。

(ロ) 漆工

高麗時代には漆工の技術は意外に  
進歩してゐた。墓中から発見せられ  
たものには往々細麗なる螺鈿金描な

どを施したものである。

然るに此等の遺物は極めて少く爲めに  
其真相を知ることは頗る困難である。

(チ) 華角工

櫛、櫃、手箱、尺、糸巻、刀子の鞘などの  
表面に彩色を以て種々の文様や繪を描  
き其上に牛角を薄く削いだものと貼つて  
裝飾したものゝ華角工と稱する。これ朝  
鮮固有の裝飾法であつて透明な牛角  
を透して下繪の見えるのは一種の優雅  
な精細であらうはしてゐる。

(リ) 染織工

朝鮮人は儀禮用の冠服等特殊の着の  
外は一般に白衣を着るの慣習があるから  
染織術は東耶や内地に比すると割合に



等は相當の進歩を示したの意匠の  
変化に乏しく、徒らに旧態を墨守する  
のみで新手法を示すことは少なかった  
やうである。

#### (四) 演劇

朝鮮の演劇が比較的表現に劣つて居るかうと云つて

演劇として全く價値の無いものであるとは言へない。

たゞのちねんはそれは鬼も毎も長い間に一旦つて朝鮮の人々

を喜ばせ、又樂しませてきたのである。ただ其の在りのた

か如何にも保守的であり、宿命的であつて、積極性を缺

けところに演劇としての不完全さがあつた。云ひ換へれば、

人生に希望を抱かざるほどの熱情もなければ、意欲も

ない。

即ち原始藝術の範疇を出でないかうであつた。畢竟

それは寂しさと弱さとかう来る彼等の持つ宿命的人生

觀に遠因すると見做さねばならぬ。

朝鮮演劇の伸長と阻害した宿命的人生觀は更に一步

進んで来るならばそれは彼等の他律的世界觀に由來する

ものに外ならない。そうして茲で謂ふ他律的とは、朝鮮半

島といふ地理的條件による自律性の缺如を意味する。

考へるとこの半島といふ地理的條件ほど朝鮮の演劇に限

らず歴史と政治と文化と其他すべてのものと著しく個性

づけられたものは他にないであらう。

二

しかし朝鮮の新しい演劇運動は明治四十二年李人植

の丹豊社劇場運動を以て始まり、この時代は歐米の文化

思潮が波打つて来た時代であつて、朝鮮の文學運動が

さうであつたように、演劇運動の流れも歐米的な自然主

義運動の、演劇における現れとして生れて来た。さうして



文學運動がトルストイ・ドストエフスキのやうな北歐的な自然主義的空氣に生き、朝鮮の新劇運動は内地新劇の技術的の移入にその情熱を注いでゐた事實がその最も特徴的なものであるといへる。

三

朝鮮新劇の第二期の運動として展開されたものが土月會運動として大正二年であつた。  
此の運動は、明かに商業主義的既成演劇に對する演劇知識層の反抗として起され、商業主義を排撃し、藝術の純粹性を擁護するといふ意識に遂行されてゐた。  
土月會運動は、かういふ點に於て朝鮮の新劇運動に新しい性格と世界とを持つてゐた。

四

その後に来たものが「劇藝術研究會」の昭和五年の實驗室的新劇運動であつて、これは朝鮮新劇の第三期的な運動

と見做すことが出来る。

この運動は朝鮮的な生活と思考形式とは縁の遠い外來文化と在來文化との無秩序な混淆によつて創りだされた畸形的な文化様相を築き上げたものに外ならない。この事實は總ての場合に於て當山歌の流るるのであつて、新文化の輸入に伴ふ過渡的な一般の傾向である。その中から眞に自國の特質を養成するもの、或はさうする温床もむく、氣力もむく、ただ單に外來化の徒らな侵蝕によつて自己を滅却してしまふのは、その國の性格によつて左右される。

此の時代に於ける朝鮮演劇はかうした觀點からすれば頗る危険な時機に當面してゐたと言はねばならなかつた。  
しかし劇藝術研究會の末期に到つて、はい、めて、朝鮮新劇は創作劇からそのスローガンと共に朝鮮新劇運動の中には創作劇運動の機運が見え、正確な意味での新劇運動はこの時機より始つてゐたと言つてよい。



であらう。

併しなほ我々がここで同然とりたいのはこれではない。日取は其後に来た。新劇運動の退潮と共に起きた革新的な意欲に燃えた演劇運動である。

勿論朝鮮の新文化が主として外来文化の恵みにより多く受けたのであり、文學運動がさうである如く、演劇運動そのものも欧米的な自然主義演劇運動の移植であることは贅言を要しない。この自然主義的なものの思想的根源は現実の暴露、现实生活の否定への追究にあつて、この自然主義的な藝術運動が成長したものは、自由主義的な理念があるのである。

朝鮮の新劇運動は、自然主義より出発して遂に自由主義的リアリズムの混同と一た迷ひの中を、ついに発展し、遂げることなく萎縮してしまつた。このリアリズムは支那事変と契機として、あつちの外来文化の崩壊と共に、其の運命と共に、なげ

はななくなつた。茲に朝鮮新劇の悲劇があり、若岡があつた。この時代に、朝鮮の演劇人は懷疑し、悩み、逡巡して其の行くべき方向を見出すことが出来なかつたのである。新劇が新劇としての高邁な精神を失ひ、戯曲に於ては、戯曲の貧困と、批評精神の喪失が叫ばれ、演劇人は極かに疲弊し、生活的には窮乏の極に達した。朝鮮の新劇がこのような難航をいつけてゐる間に、商業主義演劇は卑俗な演劇世界の中に、演劇本来の格調を埋没させて俗悪な観客との見苦しい野合を繰り返してゐた。ここで朝鮮の演劇運動は全くその方向を失ひ、混沌状態を呈したのであつた。

五

支那事変の勃発と契機に、朝鮮演劇人の間には、この新しい事態に対する目醒めと、反省の機運が顯著になつて来た。既に演劇人の一部には演劇革新の聲が起り、演



劇精神を喪失してゐた新劇運動と孤立状態を露呈してゐた商業演劇の總ての潮流は、この偉大な現實に直面して朝鮮の演劇運動が背負つてゐる、この嚴肅な事實を解決し、新しい局面を開拓してゆかなければならぬとなつた。

昭和十五年末朝鮮演劇協會が創立され、此の協會の結成によつて混沌たる状態にあつた朝鮮の演劇運動は再出発を餘儀なくされたのであつた。

朝鮮演劇協會の結成は朝鮮演劇の自由主義的、個人主義的乃至は藝術至上主義的な演劇運動の訣別と、その國家が總力を舉げて戦ひ抜かねばならぬ戦争完遂への大きな目標に向つて朝鮮演劇の再建運動として起された。

朝鮮演劇協會の結成と前後して、朝鮮には百に近い商業劇團と劇藝術研究會の後身であつた二三の新劇團體があつた。此の百に近い商業劇團は言ふまでもなく、所謂新劇的な方向を辿つてゐた。劇團に於ても、戯曲における

る主眼の貧困化、指導精神の喪失、演出、演技に於ける技術的なマンネリズム等々、全く演劇運動としての存在價値を失つてゐた。

# 六

この怒濤時代にあつて、朝鮮演劇協會は演劇人の皇國臣民としての錬成と創造方法に於ける國民的方法の樹立、農山漁村、産業戦士の健全娛樂、演劇の提供、不健全なる劇團の肅清など大きな理想に向つて挺身した。

朝鮮演劇の統制指揮機關である朝鮮演劇協會はこの成長の異点中にあつて、昭和十七年七月、朝鮮演藝協會の発展的解消によつて、朝鮮に於ける演劇演藝の統一的指導團體としての朝鮮演劇文化協會の誕生をみたのである。朝鮮演劇文化協會の成立によつて、朝鮮の演劇演藝は急激的飛躍を遂げ、戦後演劇としての決戦体制を確立した。

かくの如くして整へ備へられた朝鮮の演劇は過去の演劇道



産に於ける再批判と新しい國民的な演劇の指導理念の確立へ邁進した。

まづ古い朝鮮的な郷土藝術に対する再認識と、旧時代文化遺産である自由主義的、個人主義的な藝術至上主義演劇に対する無慈悲な闘争による訣別を志した。しかし、これは無批判的な棄陽でなく、飽くまでも新しい國民演劇創造へ資すべきものの正當な継承に於てであつた。

直面した偉大な決戦体制は、演劇としてたゞ單なる文化的な温床の中に停ることと許容しなかつた。演劇は既に、戦争完遂へのための演劇挺身隊として文化戦へ参加しなければならぬ事態に立到つたのである。朝鮮に於ける一切の文化殊に演劇はこの現実を注視し、この政治的な轉換に随伴して、此等の使命を先ずする事が本来の使命でもあつた。陸軍特別志願兵制の実施より徴兵制度への発展、そしてまた海軍特別志願兵制度の設定といふ歴史的な事実と

朝鮮の國民演劇運動は、或は、政治よりも先んじて、或いは此等の新しい使命と民衆の中へ浸透させる為に民衆の先頭に立つて雄々しく邁進しなければならなかつた。

朝鮮の演劇人は、これらの事態に即應じて總ての決意と情熱とをこの運動、即ち決戦演劇の確立へ挺身した。昭和十七年七月、朝鮮演劇文化協會結成が現在に到る間の全演劇活動は、總て此の線に沿つて遂行された。

作家も演出家も、演技者も、そうして其他すべての演劇藝術家は、日本が荷なつてゐる所謂理想へ歸一することであつた。

振り返つて見ると、朝鮮の演劇運動は日本の坪内逍遙の文藝協會結成時代と前後して其の運動が起され、朝鮮の文學運動と同様に自然主義運動の真只中で成された。だが朝鮮の文學運動が四十年代、五十代の作家と多く有してゐるのに比べて、演劇運動はほとんど漸進的



とか。それは演劇運動の多難な事と物語つてゐると同時に、綜合藝術としての形成過程の過ぎにも、その要因はある。しかしながら、それによつても、朝鮮の演劇運動が何時までも二十代の演劇青年的運動として其の幼い姿を露呈してゐたのでは、眞に朝鮮演劇百年の大計は成し遂げ得ない。朝鮮の演劇は、崇高な知性的精神と、高尚な教養と、善意によつて新らしい國民的演劇の創造へ邁進しなくてはならぬ。それには先づ一億年俗な演劇の世界を訣別すべきで、朝鮮の新劇人は、商品としての演劇を創造するのではなくて、高い文化としての演劇を創造してゆくところに本世の使命があるのである。高遠な理念によつて貫かれた國民演劇の創造に、全演劇の情熱と誠意を集中させ得る時は、極めて、朝鮮の國民演劇は飛躍的な発展を完成し得るのであると考へる。

この記述に付ては左記著書と参考と一した。

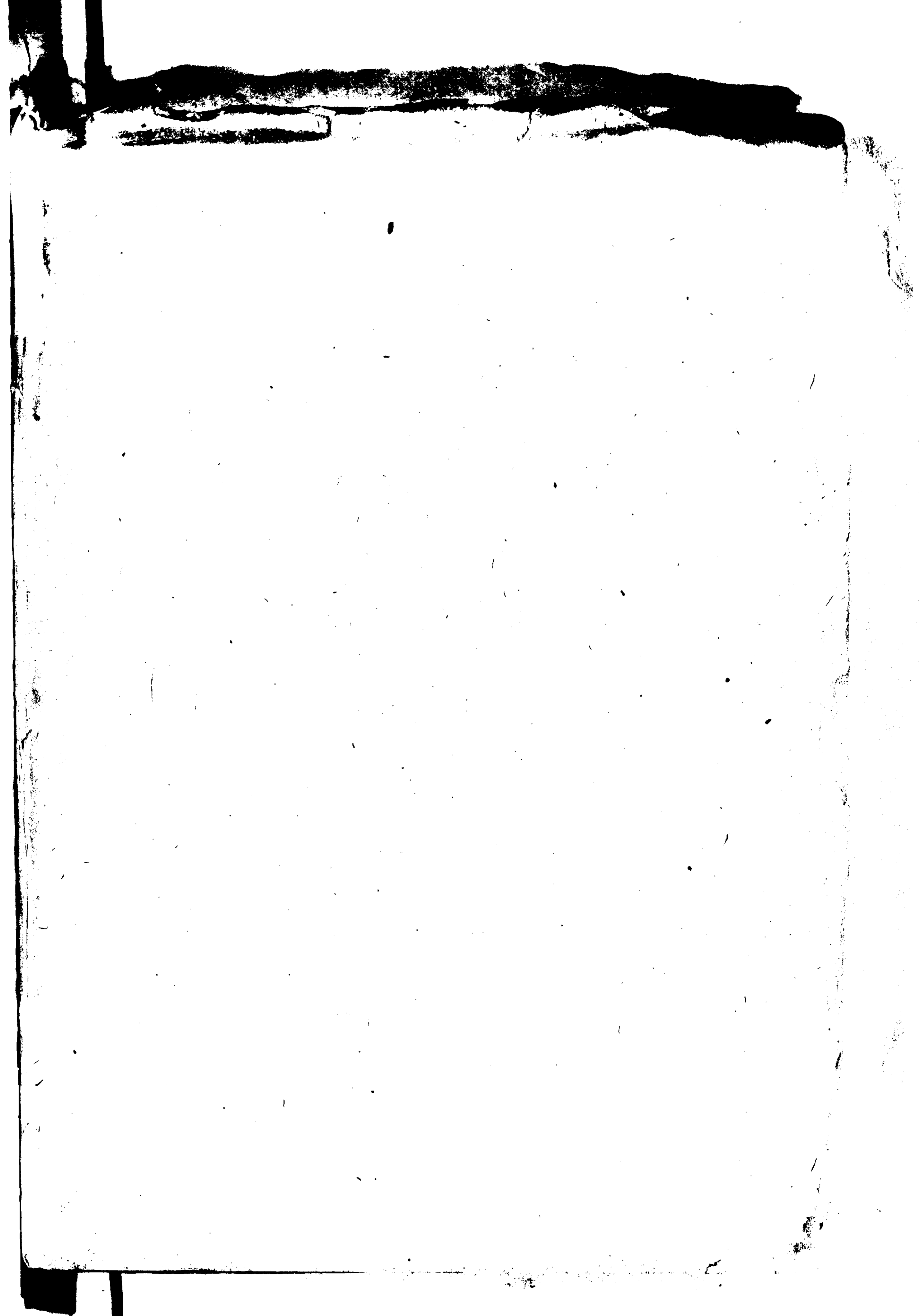
- |                |                   |
|----------------|-------------------|
| 一、高田幸太郎氏著      | 朝鮮の教育             |
| 二、朝鮮總督府著       | 朝鮮の教育要覽           |
| 三、大野謙一氏著       | 朝鮮教育の現状           |
| 四、朝鮮總督府著       | 朝鮮總督府統計年報 明治三十四年版 |
| 五、金            | 朝鮮事情昭和七年版         |
| 六、朝鮮農村社會衛生調査會編 | 朝鮮農村衛生            |
| 七、吉川文太郎氏著      | 朝鮮の宗教             |
| 八、柳宗悦氏著        | 朝鮮とその藝術           |
| 九、印南高一著氏著      | 朝鮮の演劇             |
| 一〇、朝鮮總督府著      | 施政三十年史            |
| 一一、岡野貞良著       | 朝鮮美術史             |
| 一二、吉田英三郎氏著     | 朝鮮書畫家列傳           |
| 一三、浅野利三郎氏著     | 文化の話              |
| 一四、今西龍氏著       | 朝鮮史の要             |



142

[illegible]







日本人の海外活動に関する研究調査(7) 草稿  
朝鮮の産業  
江村保

334.6  
672.21  
737.259

山崎文庫

51



[illegible]



國貿易の衰頹、國民經濟の不振、苛税制  
 度の不満、苛税誅求の弊害、交通運輸の  
 不便等各種の事情によつて、甚だ不振を  
 極めて居たばかりでむく、其の取引の亦  
 法も頗る幼稚なものであつた。即ち併合  
 當時の状況に徴しても京城、平壤、其他  
 重々市街地を除いては、朝鮮人で百貨の  
 取引を行ふのに、常設店舗を設けてする  
 ものは極めて稀であつて、國內商業の大  
 部は、元始的經濟生活で見るとこの

物々交換時代の遺物たる在來の市場で  
 行はれ、日常生活の必需品は勿論、各般  
 の物資は、市場所在地の周圍に、三里  
 至四、五里の狹隘な範圍内に於て、  
 交換賣買せらるゝに止まつて、其の一箇  
 年の貨物集散高も各市場を通じて五千  
 圓内外に過ぎなかつた様である。又市場  
 以外の商業取引も店主、居間、旅館等の  
 如き何れも數百年來の旧慣である幼稚な  
 様式によつて行はれ、店舗の構造、取引



の方法等に文明的新組織を採用したものは極めて少い状態であつた。  
 此に於て朝鮮總督府は併合以來、或は市場に關する制度を確立し、或は市場並に取引所に對する監督を周密にし、或は度量衡制度を整備する等、鮮内商業の改善促進に關して種々施設する所があつた。  
 生産業の勃興、鮮人の知識の進歩、生活程度の向上、及び其の資力の増加等と相俟つて、鮮内の商取引は漸次發達し鮮人

商間 = 於ける常設店舗の設置は次第に増加し、各地方共に貨物の集散が頻繁となつて、取引貨物の種類も多くなり、且大量取引盛に行はれ、見本取引の發達、商業市街地の發展、商取引方法の進歩等其の面目を改めつつあることは明白である。  
 市場の取引高は一年を通じて、農家の經濟状態の良好である秋の收穫後に最も多く、其の渡弊せる春のう夏に掛けては賣買高が極めて多い。明治四十三年以降に於ける累年の市場



賣買高を見るに市場中場屋と設け亦は場  
 屋と設けないけれども區劃した地域毎  
 日又は定期に多數の需要者と供給者が来  
 集して貨物の賣買交換を行ふものが明治  
 四十三年には五千四百四十万二千円であつ  
 たものの、大正七年以後は一億を超過し  
 大正十五年の市場数は公設千二百六十二  
 、私設三十九計千三百一十七、其の取引高  
 は農産物四千八百十八万二千円水産物二千  
 三百七十六万二千円織物二千三百三十七

萬五千円畜類四千三百三十九萬二千円、其  
 他二千七百十二萬四千円合計一億五千六  
 百八十三萬五千円とむる。其の賣買高の  
 最も大なるのは畜類で、農産物第二位を占  
 め水産物、織物等に次ぐ。昭和十四年末  
 では全縣を通じて其數千五百箇所其の取引  
 高は一箇年四億一千四百萬円に達す。  
 此等の市場は大概毎月五、六回定期に開  
 市し市日には附近の住民は勿論遠く八、  
 九里の地から購買客来集する。朝鮮總督



府は大正三年九月市場規則を發布し市場  
組織と監督に關する詳細の規定を設けた  
がこの市場には各主居間監考典當等の取  
引機關がある。

各主

本来の業務は委託を受けて取引を為  
し、又は手形の引受、割引、貸金及  
以貨幣の交換等をして併せて顧客を  
宿泊せしめるものなり其の商行為は  
恰も内地に於ける同屋業に似てゐる

。其の委託販賣とする貨物は穀物、  
牛皮等で、各主は絶へず市場の相場  
を通報し、委託者は概して其の所  
有貨物を各主に送り、指定價格を表  
して販賣を委託し、之と同時に各主  
は委託者に對して預り証書と交付し  
、委託者の指定價格で販賣したとき  
は、所定の口銭其の他諸経費を控除  
して残額を委託者に交付するもので  
ある。



2  
告  
間

た	少	て	用	施	の	勞	に	當	る	者	が	あ	る	・	稍
定	の	出	入	客	主	と	智	し	・	其	の	使	用	人	と
銭	と	得	る	も	の	で	あ	る	・	又	居	間	に	は	一
・	賣	買	の	成	立	し	た	時	・	報	酬	と	し	て	口
と	受	け	て	賣	買	す	る	者	と	探	索	紹	介	し	て
に	店	主	が	店	舗	に	出	入	し	て	・	其	の	依	頼
とし	・	恰	も	内	地	の	仲	立	人	同	様	で	・	常	
を	為	し	一	定	の	口	銭	と	受	け	る	の	と	本	業
賣	買	両	者	の	間	に	介	在	し	・	諸	般	の	周	施

監  
奉

各主と似通つてゐるが、各主は委託	者の為には賣買を紹介すると同時に表	面は自ら取引の當事者となるが居間	は單に賣買を紹介するに止まり取引	に關しては何等関與しない。	監事	地方に依つては其の取扱ふ商品は一	定しないが、市場の米穀取引所は賣	買者自ら之を計らねば必ず監事が	計り、其の手数料として一升に充た
------------------	-------------------	------------------	------------------	---------------	----	------------------	------------------	-----------------	------------------



はい	端敷の米穀を收受する慣習であ
る。	然し市場規則の発布と共に今や
殆んど其の跡を絶たんとしてゐる。	
々	典當
多くは金貸業者の一部が兼業として	
之を営み、純然な農當業は殆んどな	
い。典物は概ね金銀細工、衣冠、家	
具及び什器等で、貸金の割合は陽主	
の信用に依つて違ふが、評價の三割	
から五割を普通とし、期限は一年	

はい	が、普通の典物では三個月を一
期とし、金銀の如き價格の変動の少	
いものには少し長く、細民に融	
通する場合に其の時期を非常に短く	
する。	
然し何れも利息支拂に依つて延期す	
ること及び流質となつた場合は典當	
権者が其の典物を賣却処分し得るこ	
とは内地の質屋業と違はない。	
次に市場中委託を受け競賣の方法に	



依つて水産物、蔬菜、果物、販賣を

行ふものが昭和三年には総取引高千

百三十九萬七千円に達した。

## 二、内地人の商業

併合以前に於ける内地人の商業は概ね京

城、仁川、釜山、馬山、群山、木浦、大

邱、元山、清津、平壤、鎮南浦、新義州

等の内地人集團地を中心として、其の附

近を範圍とするが、併合以来諸般施設の

發達と共に、今や都鄙の別なく到る處に

見られる様になつた。内地人の商業は穀物、

海産物、牛皮等朝鮮物産の輸移出又は各

種雜貨、綿糸布類、肥料、石油、砂糖、

燐寸の移入貿易を主とし、各種商品の卸

賣小賣に従ふ者亦多く、日用雜貨、呉服

、酒、醬油、文房具、菓子、荒物及び青

物類の商品は概ね京城、仁川、釜山等の

卸商から各地の小賣商に流布せられる。

## 三、會社

會社の設立に對しては明治四十四年一月



施行の會社令に依つて許可主義を採用し  
て来たが、朝鮮人經濟力の發展著しく、  
知識の程度一般に向上して會社に果する  
理解亦進歩して、且朝鮮に於ける内地人  
の企業漸次其の發展を見るに至つたので  
、大正九年四月一日該令を廢止した。但  
し保險業、有價証券の賣買若は其の仲立  
業を目的とする會社に限つて、其の事業  
の性質上一般の自由は放任し得ないもの  
で、之が取締に關する特別法令の實施を

見るに至る迄當分従前の會社令を採用し  
た。會社設立の状況は、産業の発達に伴  
ひ大規模の企業漸次増加して、殊に近來  
各種工業を目的とする大會社の設立せら  
れるものが多くなつた。  
朝鮮に本店を有する會社營業種別  
昭和十五年末に農林業一七、商業八七  
五、保險業二、金融業一一、運輸及倉庫  
業二六、工業一一、大鑛業一五、水  
産業五九、電氣業一三、雜業三八、合計三



取引所 正米市場

組	裁	12	依	3	こ	と	と	し	て	有	價	証	著	取	引	所	市
---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---



場は凡て之を取引所と看做し取引所令に  
依らなければ設立は爲し得ないこととな  
つた。併し新令公布の際現に存した株式  
會社仁川米豆取引所及び株式會社京城株  
式現物取引市場は取引所として之の營業  
繼續を爲し且右兩社は合併を爲し得る  
途を用いた。又うして從來穀物現物市場  
で行はれた穀物の延取引は取引所取引に  
吸収させ取引所市場外で行ふことが出来  
なくすると共に市場規則を改正して既存

の京城、群山、木浦、釜山、大邱、鎮南  
浦、新義州、元山及び江景の九現物市場  
に付ては一箇年の猶豫期間を置いて之を  
廢止することとして昭和七年末限り廢  
止し新令実施と同時に群山、木浦、大邱  
、釜山、鎮南浦の五箇所に會員組織米穀  
取引所の設立を許可して、又株式會社仁  
川米豆取引所と株式會社京城株式現物取  
引市場の合併を認可、株式會社朝鮮取引  
所の設立を許可して、從前通仁川に於て



米豆の清算取引を、京城に於ては有價証券の清算及び実物取引を行ふこととなつた。  
右取引所令と同時に米穀の現物を取引する所謂正米市場を統制するため、正米市場規則を制定実施し釜山に釜山穀物商組合の經營する正米市場の設置を許可した。  
然るに米穀に付ては其の爲の狀態の善化に伴つて取引所の取引を容認しないこと

に内外通の方針決定の結果、昭和十四年九月朝鮮米穀市場株式會社令公布せうル同年十一月より実施せうル、米穀に付ては右會社の經營する市場以外に於て之を行ふこととせられた。従前の米穀取引所及び正米市場は自應廢止せうルに至つて、取引所は京城に於て有價証券の清算及び実物取引を行ふ株式會社朝鮮取引所のみに存することとなつた。  
五、商工會議所



商工會議所は多くは存続施行に於て内  
 鮮人各別に之を設立したが、會議所とし  
 て存続の意義を有せしもの少なく、たか  
 つたので大正四年朝鮮商工會議所令を公  
 布施行して之を整理し、一地区一會議所  
 と定め内鮮人協同と商工業の発達を圖ら  
 しむることとした。爾來星霜を閱するこ  
 と十載年同令は其足の発達を遂げ殆んど  
 其の面目を一新し朝鮮の實情に副はざら  
 ぬものがあるのを認めためたので更に昭和五年



之を廢して新たに朝鮮商工會議所令を公布  
 して名称を商工會議所と改め、純然た  
 る商工業者の自治機關として益々其の概  
 能の發揮に資することとした。會議所は  
 京城、仁川、開城、大田、群山、全州、  
 木浦、光州、大邱、釜山、平壤、鎮南浦、  
 新義州、元山、咸興、清津、馬山、海  
 州、咸津、羅津、清州、晋州、會寧、統營、  
 麗水、春川、水原、沙里院、浦項の二  
 十九である。之等商工會議所の綜合機關



たう朝鮮商工会議所がある。  
大、重要物産同業組合  
従来朝鮮に於ても同種の業を営む者相聚  
まつて其の營業上の弊害矯正、共同利益  
の増進を圖る目的を以て申合規約に依つ  
て組合を組織したものであるが、概ね  
社會的団体たるに違ひなく何等成績の  
見るべきものがない、却て舊種の弊害矯  
正の虞があつたので、明治四十四年十一  
月成立の措置として同業組合を設置し、後

員の選任、經費豫算及の定款の変更等主  
要事項に付ては地方官の認可を受けし  
め、夫々必要な指導と監督を加へて来た  
が、法規上の根拠がなく是に組合の基礎  
薄弱なことを免れず、組合業務の遂行上  
の不利不便が少くないばかりでなく、  
官廳の監督が亦充分でない憾があつたか  
ら大正四年七月朝鮮重要物産同業組合令  
を公布し、同年十一月一日から之を施行  
し、一面同業組合を設置し得べき業の種



穀類、米、大豆、家畜、家禽及び其の畜産物、毛皮、毛皮製品、棉花、繭、蚕種、桑苗、果実、織物、紙、醸造品、白茅、木炭、製材、電球、磁器、鉄器、人絹織物、ゴム靴、靴下、燐寸、煉瓦、石油、炭石、石炭の生産製造若くは販賣又は之と密接の關係を有するものに認定した。本令は従つて重要物産同業組合の設置を認可したるものには、前記各業種に亘り多数を算するも昭和十三年朝鮮工業組合令発

布に伴ひ工業界の同業組合に改組せられ、昭和十六年八月末現在に於ける組合は紙物、人蔘、牛乳、螢石、の同業組合、各一養種同業組合四、果物同業組合一二、同縣同業組合一、石炭同業組合一四、同縣同業組合一、合計三十六ある。何れも製品の検査と勵行して品質の整理統一を圖り、或は原料品若くは事業用品の共同購入又は製品の共同販賣を行ひ生産費の軽減、販路の拡張を圖つて或は紛議の調停又は



仲裁判所と為す等の同業組合の目的達成  
に活動した。因に畜産同業組合及び同聯  
合會は農會に統一せられた結果、昭和八  
年三月三十一日限り解散した。  
七、産業組合  
産業組合制度は産業の現状に照し最も緊  
要な施設である。大正十五年一月勅令  
第二號で朝鮮産業組合令を公布して、同  
年四月一日から之を施行した。本令は大  
体其の範を内地の産業組合法に採つたが

信用事業は既に金融組合制度の施行に依  
つて著しい発達を示した。之と重複  
するのを避けて、産業組合は其の業務の  
範圍を販賣、購買及び利用の三種に限定  
して、内地に於けるが様な信用組合制度  
は之を除外した。さうして組合の設立に  
付ては制度創始の際、数よりも先づ優良  
な組合の設立に努め且設立後には於ける之  
が監督と周旋にしてい、将来本制度の堅実  
な発達を期することとした。因に同令に



## 八、工業組合

基いて設立之許可は産業組合の現況は  
昭和十五年三月末で組合数百十七組合員  
が二十二萬一千人、出資金三百二十四萬  
三千円、積立金百三十三萬七千円、備入  
金一千六百九十八萬五千円事業高四千六  
百七十五萬二千円である。

朝鮮の工業は異常の発展を遂げてはるが  
其の大部分は中小工業である。之が振  
興を圖ふことは工業全般の振興上極めて

重要なることである。

然るに其の實情は資力薄弱で、秩序及び  
統制に欠いて其の進歩上或るの不合理が  
存する。この工業組合制度を設け共同施  
教に依り販賣、購買、利用等の経済事業  
を行はせ大企業が有する利便を得させる  
外検査、統制、金融等の施設に依つて業  
界の改善発達を企圖させる必要がある。こ  
れを認め、昭和十三年八月朝鮮工業組合を  
公布し同年九月一日之を施行した。昭和



十七年九月末迄に設立した組合及び聯合  
 會は紡織工業四四一聯合會三、機械器具  
 工業六二八聯合會一、金屬工業二、窯業  
 一三、化學工業二、一聯合會一、製材及  
 ひ木製品工業一、印刷業二、食料品工  
 業二三、其の他の工業一一計一三七であ  
 る。

九、商業組合

商業者は従来自由競争を以て生命とした  
 為に同業者間の協調的精神に至り、從

つて組合組織に依り自治的統制の如きは  
 甚だ不完全だったが事業以来商品の漸減  
 と各種統制の強化に伴ひ中小商工業者は  
 其の活動範圍が縮小せられ深刻な打撃を  
 蒙る様になつて其の社会性及び配給組織  
 上に及ぼす影響大なるに鑑み之が維持育  
 成を圖ると共に物資配給の合理化と物價  
 の調整上商業者組織化の要が緊切なにと  
 正認めて昭和十六年三月十日朝鮮商業組  
 合令を公布して同月十五日之を施行した



昭和十七年九月末迄に設立せられた組合は二一六組合である。

一、商工奨励館

本館は廣く朝鮮の資源及び物産を網羅し、示して朝鮮の産業状況を明にし、其の発達促進を図ると共に一面多額の輸入ある内地及び外國商品の蒐集陳列、商工業に関する圖書其他刊行物の発行、蒐集及び閲覧等の方法に依つて、當業者として

産業の改善、商品の改良及び販路の擴張に資せしむる外、名古屋工業館、仙台市朝鮮館、ハルビン商品陳列館及び朝鮮船舶株式會社所有船の内地、上海、浦塩就航船室の一部に朝鮮物産を陳列し且統計、圖表及び説明等を掲げて一般の觀覽に供し、尚内外の出入が多い朝鮮物産を陳列して産業事情の紹介に努めると共に朝鮮總督府東京事務所の一部に、朝鮮に於ける資源及び産業の状況各種施設並に其



の成績を示すべき出品物と蒐集陳列して  
朝鮮事情の周知徹底と資本及び企業の誘  
致促進に資し、帝都に於て盡く朝鮮物産  
の販賣輸施の衝に當つて、其の興濟の努  
力と商團の擴張に努力した。  
右の外本館に於ては概に應じ各種展覽會  
、品評會及び産業に関する諸集會と准し  
、尚内地又は鮮内各地に開催せらるる各  
種展覽會及び即賣會等への出品輸施、参  
考品の買入及び統計圖表の調製等に應ず

ると共に見本市、展示會又は宣傳會の開  
催に利用せられ、此等催しに對しては常  
に後援助成の勞を執つて遺憾のない様  
期して来たが、本館本来の使命に鑑み、  
特に商品の調査に力と注ぎ、地方物産の  
産額、產地、生産状況、品質、價格、包  
装、意匠、集散及び需給の状況、代用品  
又は競争品との関係、需要地に於ける民  
度及び嗜好、輸送経路、輸送機関、税金  
及び運賃等の生産振構乃至取引組織等を



明	に	す	る	と	共	に	一	面	関	係	官	公	吏	及	の	主	要
は	當	業	者	等	に	就	き	商	品	に	関	す	る	研	究	批	判
を	徹	し	・	商	品	價	値	の	向	上	を	圖	り	・	更	に	進
ん	で	取	引	の	幹	施	を	為	し	て	朝	鮮	物	産	の	販	路
を	圖	り	等	の	活	動	に	努	め	た	。						



日本人の海外活動に関する研究調査(一) 資料集

資料集の固形本

江村保

334.6  
531.8  
737a.60

山にエ

山にエ





國富ト國民所得

第一、富力

大藏省金融部頒布「昭和十五年版朝鮮總督府統計年報」昭和十五年  
及昭和十六年統計、據此種見解、國富、教育、參考資料、等。

1. 物的富力

昭和五年ニ於ケル物的富力ハ百五十七

億四千百十四萬三千四百二十八圓ニシ

テ一人當リ富力七百七十四圓ナリ。

2. 人的富力

昭和五年ニ於ケル人的富力ハ二千二十

五萬六千五百六十三人ナリ。

人的富力統計別紙ノ如シ。

江村保

7P.  
334.6  
331.8  
732.60



第二

國民所得

（本表は金融事項を参考とし昭和五年政府統計局の統計を基に算出）

昭和五年ニ於ケル

國民所得額

八十一億百

八十八萬三千九百一十一人當リノ所得

額五十四萬四千九百一十一

内訳左ノ如シ

1. 地代及ヒ家賃（不動産所得）一、六

、五、一七、一六八、四

2. 債権利子（不動産所得）有價証券所得

七、四、九、五二、八九八、四

3. 個人企業利潤五、二、七七一、四八

四、四

4. 法人所得九、九、九、三、六二九、四

5. 給料給与二、七、五、六八、〇六六、四

6. 業務勞役其他四、五、一、六六、七九、四

目

統計表三枚添付



戶數及人口

年度	總戶數	總人口數	內地戶數	內地人口數	縣戶數	縣人口數	外國戶數	外國人口數
昭和43	3,884,103	13,312,017	10,992	171,548	2,749,916	13,129,780	3,155	12,694
昭和42	3,952,049	13,791,321	18,570	583,104	3,805,184	20,225,971	10,658	42,626
昭和41	4,010,606	14,125,227	14,412	541,284	3,857,169	20,173,204	12,020	50,139
昭和40	4,142,974	14,891,119	144,815	582,428	3,984,772	21,348,344	13,389	58,888
昭和39	4,170,829	14,704,736	152,891	608,989	4,011,899	21,373,572	14,129	65,275
昭和38	4,227,117	14,335,405	158,214	629,512	4,058,847	21,452,855	9,940	43,118
昭和37	4,271,300	14,632,714	158,843	632,320	4,102,101	21,954,616	10,364	49,815
昭和36	4,298,524	14,804,647	161,400	650,104	4,123,666	22,098,916	11,478	52,233
昭和35	4,409,950	15,709,057	165,900	689,770	4,211,617	22,954,143	12,422	64,700
昭和34	4,458,617	16,702,877	171,610	717,011	4,272,239	23,913,062	14,768	72,822
昭和33	4,500,949	17,141,401	176,249	752,823	4,407,242	24,550,008	16,278	80,169

區名	戶數	人口數	內地戶數	內地人口數	縣戶數	縣人口數	外國戶數	外國人口數
京都市	470,957	3,223,086	46,440	206,627	522,077	3,008,494	4,700	8,724
京都市北區	473,032	3,223,083	2,462	9,417	170,444	919,598	117	408
京都市南區	392,247	1,667,840	6,506	28,222	205,578	1,638,582	263	1,030
京都市東區	215,725	1,721,113	8,124	35,362	107,306	1,684,529	285	1,271
京都市西區	127,146	2,017,684	10,944	45,250	516,812	2,771,637	166	1,498
京都市北區	472,614	2,824,742	10,991	45,244	466,546	2,808,922	137	516
京都市南區	464,010	2,470,253	22,949	98,974	440,946	2,379,933	115	441
京都市東區	265,226	1,956,461	8,802	26,109	357,663	1,921,146	271	3801
京都市西區	338,708	1,845,423	1,029	51,263	324,798	1,782,501	1,475	7,119
京都市北區	224,317	1,898,390	8,866	32,252	310,222	1,826,602	6,719	27,426
京都市南區	232,912	1,836,260	5,006	21,101	327,166	1,844,038	540	1,121
京都市東區	256,318	2,054,944	17,499	73,990	237,124	1,972,617	1,695	8,358
京都市西區	221,492	1,231,224	20,098	78,925	211,099	1,140,728	2295	11,681
合計	4,782,869	16,311,401	176,349	752,823	4,606,520	16,558,580	16,278	80,169



昭和十七年度 = 於511内地人、戸数及人口

年度	業種	戸数	總数	男	女	其他	合計	男	女
昭和十七年度	農業	6,102	29,216	6,678	4,419	855	747	6,095	9622
	水産	2,037	9,093	2,543	341	397	234	1,715	3,012
	鹽業	6,854	23,265	7,763	1,095	626	409	4,325	8,917
	工業	33,687	141,061	40,083	3,125	7,602	2,948	27,118	58,384
	商業	28,157	136,801	28,047	14,080	9,205	6,069	27,907	54,493
	交通業	12,132	53,874	15,912	754	3,705	1,111	11,017	21,296
	公務	74,972	297,233	78,715	8,905	12,861	6,285	60,596	129,081
	其他	2,247	32,650	8,122	2351	2,134	1,588	6,146	12,309
	合計	8,171	29,630	12,927	16,703				

昭和十七年度 = 於511朝鮮人、戸数及人口

年度	業種	戸数	總数	男	女	其他	合計	男	女
昭和十七年度	農業	11,096	572,806	108,139	37,082	15,046	14,618	120,655	192,985
	工業	2,016	1,171,094	266,881	54,721	63,512	28,306	292,152	474,540
	商業	214,262	6,729,938	352,195	133,055	98,690	44,103	428,340	692,705
	交通業	2,970,408	17,396,808	4,022,180	3,285,008	221,265	244,138	4,319,426	5,124,811
	公務	92,916	405,083	118,570	50,220	22,031	20,948	124,202	174,112
	其他	18,491	388,610	75,139	9,447	17,877	7,155	85,426	153,904
	合計	193,066	1,007,366	268,291	42,977	40,814	34,910	254,931	408,352
	其他	477,409	2,266,405	532,011	173,583	95,697	42,072	540,299	864,966
	合計	1,85,883	5,22,158	235,215	306,902				



昭和十七年度 = 於此外國人ノ人口

種別	戸数	總数	男	女	其他	合計	男	女
和								
朝鮮	4,320	24,532	2,995	670	1,705	200	2,988	4,962
支那	1	0	2	-	-	-	1	1
南洋	1,140	3,363	2,352	18	45	10	368	584
工業	2,515	14,496	7,020	100	1,232	70	2,266	4,200
商業	4,960	25,895	9,905	606	3,239	235	4,214	9,106
交通	222	8,598	4,095	-	552	0	382	511
公務	410	1,785	917	32	78	21	338	409
其他	2,550	13,198	6,367	274	1,429	106	1,904	3,068
合計	123	200	176	212				



REININ 10 4 24 0

334.6  
337.8  
366.43  
732.61

山文

61

日本、海外、  
海軍の勢力を  
増大せしむる  
こと



二二〇二七 徳山新

物價、勞銀

第一章 朝鮮に於ける物價問題

第一節 序説

朝鮮に於ける物價運動は大体に於て内地に於けるそれと軌を一にする  
殊に自由主義的価格経済の下に在るは内鮮の物價均衡運動は  
極き鋭敏に行はれ内地に於ける物價騰落は直に朝鮮に反映し、  
その足跡は略同一であつた。これは朝鮮経済が價格機構に於けるは  
一單位を形成することなく内地経済の延長として包摂せられてゐる結果  
に外ならない。即ち内鮮は對外的には同一關稅區域であつて關稅の適用  
方法及び關稅率は全く同一であつて幣制も同一である貨幣法は朝鮮に  
施行せられて居る。發券銀行は日本銀行と朝鮮銀行とに別れてゐるが  
朝鮮銀行は永久且自動的に日銀券と等價交換を強制されてゐる。然し  
内鮮間には為替上何等の拘束なく資金の移動は全く自由である。この  
は物價形成の要素に於て内鮮は等しき條件に置かれてゐることを意味

76p  
3346  
337.8  
362.42  
734661







一月	一八三	一八七
二月	一八七	一八八
三月	一九〇	一九一

以上の如く日本経済に密着せられ内地と同一價格機構に置かれ朝鮮の物價も戰時經濟統制の採用に依つてその騰落が内地と異變を見せるに至つた。これは朝鮮は従来から内地と流域を異にこそすれ流通經濟上に於ては内地の延長として發達し殊に價格作用に依つて物資の移動は調整されてゐたのであるが内地に於ける物資の配給統制は價格作用を起越して朝鮮に對する物資供給を統制するに至りその必然として朝鮮は独自の物資需給法則に基つて價格運動を起すに至つたからである。

（の結果として鮮肉の物資需給を内地以上に窮乏ならしめ）  
 尚朝鮮に於ける物價に關し朝鮮の特殊事情として次の事柄は特に注意を要するべき点である。即ち接壤の地たる滿洲の異常なる物價高は他動的に朝鮮物價の内地と乖離を齎したる。滿洲は其の消費經濟に

於て内地依存は朝鮮に比し濃厚な折柄九一八價格統制令後内地輸出調整は強化拡大せられ為に消費財の需給は極く窮乏化し是れが滿洲物價の激騰を促進したことは疑ひない。一帯華帯水の間にある國境地帯の物價がその影響を受ける自然に上昇するとは怪しむに足らず又この國境の物價高が自朝鮮内の他地域にも及ぶことも亦不思議でない。總督府は滿洲物價高の巨浪に對して完全な堤防を構築してゐるが蟻の如き作用は却て防止困難で全般的に朝鮮物價が滿洲物價に引きつられることは水の終きに就くに及し物價高の所に流れろは自然であつてここに朝鮮物價動向の特色性がある。

抑ても支那事變の進展に伴ひ國家購買力が増大が不可避とするならば物價政策も通貨の飛躍的増加と云ふ條件の下に確立されねばならぬ。當局の諸統制方策はこゝの目的に向ふ實施として



未だ朝鮮としても内外地の一元的統制に協力せざるべからざる現実に  
直面して来たことは否か定むるに乏しきあり

概して朝鮮に於て実施せられた物價統制策の推移を觀すれば  
内地と同じく大体に於て次の三階段を経過したことを知り得る

第一期——支那事変勃發直後より昭和十三年十月迄の期間——  
暴利取締令中心時代

第二期——昭和十三年十月より同十四年九月十八日迄の期間——  
物品販賣價格取締規則中心時代

第三期——昭和十四年九月十八日より昭和二十年八月迄——價格  
等統制令中心時代

今その概略を左に述べることにしよう

暴利取締令が發布されたのは支那事変勃發前の昭和十二年  
五月十五日（朝鮮總督府令第六十号）で、海來數回に亘り改正を  
行つたのであるが、その内容は大體に亘り「暴利を得る目的を  
以て物品の買入、賣出を為し、或は為さとした場合又は暴利を得て

物品を販賣し、或は販賣せしめた場合戒告又は所處罰し、物價の  
暴騰を防止せんとする消極的なものである。此の適用を受ける物品  
は当初二十六品目に過ぎず、その後三十二品目に拡張されたが、この法令  
は販賣價格を中心とする暴利販賣行為に対するもので、生産  
又は仕入原價の騰貴に原因する物價の横斷的並に縱斷的昂  
騰を抑制する上に於て不十分である。到底必然的に騰貴する  
物價を抑止するとは困難であつて、謂はば、応急措置に過ぎな  
かつた。この打撃策として生れたのが所謂朝鮮物品販賣價  
格取締規則に依る指定價格及び公定價格制である。

即ち總督府は先づ朝鮮總督府物價委員會規程を制定し  
總督府及び各道に夫の物價委員會を設けて物價に關する重  
要事項を調査審議したが、昭和十二年法律第九十二号新出入品  
等に關する臨時措置に關する件が二條に基いて朝鮮物品販



賣價格取俸規則を發布した。これに依り「朝鮮總督の指定する物品を販賣する者は何等名義を以てするを問はず其の指定の陸朝鮮總督の指定する年月日に於ける販賣價格を越える對價を以て当該物品を販賣することを得ないこと、又朝鮮總督又は道知事か販賣價格を指定したときは其の指定價格を越える對價を以て当該物品を販賣することを得ないこと」になつた。而して朝鮮に於て販賣される物品は内地から移入されるもの大部分を占めてゐる關係上朝鮮内に於ける前述の指定價格の決定條件は内地に於ける公定價格に運賃、利潤その他手数料等の附加が基準となるのであるが公定價格決定の事情を見れば先づ物品名と年月日を指定して所謂針付價格を決定し、然る後公定價格割制に進廢した和歌山と全部を占めてゐる。

然るに歐洲戰亂の拡大長期化は海外物價の昂騰を促し之は又我國物價の騰勢に一段の拍車を加へることとなり従来の方策は低物價政策の萬全を期することが困難となつた。政府は昭和十

四年九月十九日の閣議に於て國家總動員法を發動して九月十八日に於ける價格を越えてこれを引上げることを禁止したが之は一の應急措置であつて越えて十月二十日價格統制令の施行を見従来朝鮮總督又は道知事の指定した販賣價格はこの統制令に依る販賣價格と看做さるることとなつた。

## 第二章 物價の動向

我國に於ける物價の動向を見るに昭和十二年末金輸出の禁止を契機として物價は連年昂騰し昭和十三年七月迄に端を發した。支那事變は南京、漢口陥落を一轉期として拡大長期化し之に伴ひ物價も遂次昂騰の一途を辿つたが朝鮮もこの線外に立つことを得なかつたことは事實を要しないところであらう。

次に朝鮮に於ける物價の動向を京城商工會議所の調査に依り見ることにする。



# 第一號 卸賣物價の動向

支那事變動發前月にある昭和十三年六月を最初の起點とし  
 一年後の同十三年六月を次の起點とし、國家總動員法に發動を見  
 た同十四年九月を次の起點として、朝鮮に於ける物價の動向を  
 考察するものがある

## 第二表 支那卸賣物價指數

年 月	指數	騰 落 率 %
昭和八年中平均	100.00	
同 十一年六月	126.76	八年比
同 十一年下半年	130.23	十一年六月比
同 十一年六月	125.35	同
同 上半年	128.75	同
同 七月	126.35	同
同 八月	126.55	同
同 九月	128.85	同

同 十月	126.65	同	二四、一四
同 十一月	126.99	同	二二、八
同 十二月	126.81	同	二五、八六
同 十三年一月	129.67	同	二四、九七
同 二月	123.88	同	二八、七
同 三月	124.23	同	二八、五四
同 四月	127.00	同	三〇、七一
同 五月	126.42	同	三一、八二
同 六月	122.54	同	三五、〇五
同 七月	123.63	同	三五、九〇
同 八月	129.90	同	四〇、一〇
同 九月	125.31	同	四五、〇四

即ち支那事變動發前月にある昭和十三年六月、事變動前月



にある日十三年六月とを比較するとその騰貴率は二割九分四厘の  
昂騰である。これを同十三年上半期平均と比較すると一割六分四厘  
の昂騰してゐる。十三年六月と十三年<sup>（平均）</sup>平均に於て斯くの如き騰貴  
率に差を生ずるは十三年六月は同年中に於て物價の最も  
昂騰せることが原因となつてゐる。即ち六月三十日物資特に輸入  
物資の消費節約の徹底強化と核心とする。物動計重の發表を  
前後として朝鮮に於ても物資需給不均衡なること、物資の使用  
制限、物價抑制を目前に控へ思惑的人氣浮遊し、実需に先立  
つて思惑買特に綿絲布の買付旺盛となり物價は暴騰した  
然るに十三年下半期に入ると今迄暴騰を表現した物價も反動を  
示し一面又物價抑制策強化、統制商品の拡大に依り下落を示し  
幾分安定状態を示して、十一月迄繼續した。即ち十一月と事変前月  
とを比較すれば二割二分八厘騰貴を示し六月に比すれば下落してゐる  
之を要するに政府の物價政策が幾分功を奏してゐるかの如き觀を呈  
し、物價は年末に入ると従ひて<sup>（定）</sup>安状態を一擲して騰貴に轉じ

十二月は事変前月に比し二割五分八厘の昂騰を示した。とは云へ  
十三年下半期は上半期に比し幾分安定状態を示してゐることは争  
はれない事實である。この事は前述せる如く事変勃發後滿一平  
に當る十三年六月二十三日池田藏高相に依り發表された物動計  
畫による物資配給政策、物價抑制政策により凡この商品が  
自由統制へ轉換したことに基因する。即ち十三年上半期  
迄は戦時統制下にありながら幾分自由性を保持して物資の配給、  
使用消費並に價格の抑制に於て積極的支配をなしてこれに連れ  
て実需より思惑的取引が多く自然物價は上昇傾向を出して  
六月に入ると最高頂に達した。ところが戦局は五月十九日の徐州大  
會戦を経て後西南支方面へ拡大し物資の需給が益々不均衡を  
来し従来實行して来た徹底的統制より戦時經濟を円  
滑に運行し得ないこととなり、遂に直接軍需關係の有事を因り



重要物資に対する統制策として物動計畫の發表を見ること、  
 リ凡この商品に物資方面より配給、消費の制限を受け、物資方面  
 からは基準価格の決定に依り、物價を事変前の物價へ引下ぐんとす  
 政策が採用された。この具體的表として綿製品、石炭を中心とす  
 る公定價格の決定と見、物價は下半期に入り、従ひ下落安定状態  
 を継続したるものあり。

この物價の動向は十四年に入り、従ひ益々騰貴率を引上げ、十四年六月  
 は事変前に比し三割五分の暴騰を示し、事変動後、後滿二十年にして  
 朝鮮に於ける物價は五割五分の騰貴を示現した。斯く現象は端的  
 に云へば、事變の進展は物資の累積的消費を招来した。この勿論、従来  
 統制の最も少かつた穀類を始めとして、食料品の騰貴が指数全般に  
 及ぶ影響を及ぼしてゐることをその主因となすものあり。而してこの  
 騰貴は下半期に入り、従ひ益々騰貴率を継続して九月に入つては  
 遂に事変前に比し四割五分の暴騰を示し、前年同月に比すれば一割  
 六分九重の暴騰あり。

抑も今内地の物價と比較して見れば、次の通りである。

第三表 東京部 重要物價指数表

日銀指数	昭和十三年		騰貴率
	六月	九月	
日銀指数	一三三・六	五九・九	二〇・五%
東洋経済指数	一六六・五	二六・七	二四・一

(註) 日銀指数は昭和八年を一〇〇、東洋経済指数は昭和六年を  
 一〇〇とする。

右に依つて見れば、日銀調査は二割五厘、東洋経済新報社の元  
 々は二割四分一厘の騰貴で、京城の四割五分の暴騰とは比較に及ぶぬ  
 程の増減を示してゐる。

次に類別に依り、物價の動向を見れば、次の通りである。

第四表 京城部 重要物價類別指数表

類別	十一年一月	十一年六月	十一年十月	十一年十二月	十二年一月	十二年六月	十二年十月
----	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------







比し四割五分、十三年五月に比し一割二分昂騰して居る穀類の騰貴率は  
 比し平均増数の騰貴率を大部上廻つてゐる。これは即ち米は米、  
 穀類が穀類、生活に最も不可欠のものであるに拘らず物價統制が穀  
 類に對して最も輕微なることを物語つてゐる。穀價の動向の概要を  
 検討すると米と穀類とはその動きに於て相當な距離のあることを窺  
 見する。

第五表

米及び穀類價格騰落表（△印は落）

品名	十三年五月	十三年六月	十三年七月	十三年八月	十三年九月	十三年十月	十三年十一月	十三年十二月
一等米	八八七	九一七	九四三	二一〇	二二七	二二四	二七〇	
二等米	三、四六	三、六六	三、六一	三、五五	三、五五	三、五五	一七九七	
三等米	一四、一〇	一五、八〇	一四、四〇	一六、二〇	一四、八九	一五、五八	一三、五〇	
一等白米	三〇、三七	三〇、〇〇	三〇、〇〇	三〇、〇〇	三〇、三三	三〇、三三	一六、五五	
二等白米	一	一	一	一	二二、七二	二二、七二	一六、八八	
三等白米	一	一	一	一	二二、七二	二二、七二	一六、八八	
平均	一	一	一	一	二二、七二	二二、七二	一六、八八	
滿洲精米	八五八	八五四	九七七	一四、五四	一六、七一	一六、九二	四六、七七	
一等米	七〇〇	一三、五〇	一三、四一	一四、〇〇	一〇、〇〇	二二、九九	一三、八一	

一等米	二、〇〇	二、三九三	二、四四七	三、七三	五、〇九	五、五九	九、六六
二等米	二、五〇	一、九四二	二、九九	三、八〇	七、六七四	九、五、六六	七、三八〇
三等米	三、〇〇	一、七、〇〇	二、五、〇〇	三、五、〇〇	五、九、〇九	二〇、五八	五、三、七
一等白米	一、五、〇七	三、八四	二〇、四〇	二、八、五〇	八、九、二	一〇、四八	五、九、七〇
二等白米	一	一	一	一	七、三、八六	五、六、三三	四、六、三一
三等白米	一	一	一	一	七、三、八六	五、六、三三	四、六、三一
平均	一	一	一	一	七、三、八六	五、六、三三	四、六、三一

右表の示す如く米類は十三年六月に比し二割一分七厘、十三年六月に  
 比し二割二厘、十三年十二月に比し一割六分八厘騰貴してゐる。穀  
 類指數の騰貴率四割五分には及ばざることを大なるものがある。これを要  
 するに斯くの如き昂騰を示したうは第一は十四年度産米は未曾有  
 の凶作を呈し新時下に於ける米の不足を豫想して米價の昂騰を来  
 したと、第二は米價は他の物價特に穀類に比し割安である現状  
 に鑑み大農筋の失高見越の賣惜強く穀の出廻は減すの一途を辿  
 り米價は十四年より昂騰を示し、特に十四年半頃よりその昂騰



は頭著に表はれた

次に雜穀を見るに十四年九月は十二年六月に比し実に七割三分八厘、  
十五年六月より三割六分三重累騰し十三年十二月に比すれば四割二分  
三重の騰を示し、<sup>米價</sup>米價指數の騰貴率四割五分を遙に凌駕してゐる。  
滿洲精粟は事変勃発と共に産地高を呈し特に北支方面への流出も  
手傳つて暴騰を示觀し大勢は吾糧關係に依り事変前月に比し十  
割と云ふ高位を示してゐる。

何れにしても雜穀は米類に比して二倍及三倍近く暴騰してこれが結  
局全体としての穀類の指數を上げて、<sup>米價</sup>米價指數を上廻りさせたことは多  
得ざるを以て米類にしては雜穀にしては統制の施行なきこと特に雜穀に  
於ては殆んど自由義經濟時代そのまゝの放任政策は益々その價格の  
昂騰を招来した。

### 二 調味料の動向

調味料は次表の如く十四年九月は十二年六月より五割八分九厘、  
十三年六月よりは一割八分四厘、同十一月よりは一割三分を騰貴してゐる。

總著に表はれた  
物價指數の騰貴率を上廻つてゐる

第六表 調味料價格騰貴表

品名	價	格	騰	貴
砂糖	五、四〇	二、四〇	八、二〇	四、九八
白砂糖	三、四〇	二、四〇	一、二〇	二、四二
再製糖	二、六〇	三、三〇	一、三〇	二、四二
醬油	四、六〇	四、九〇	一、八〇	四、〇八
味噌	一、五〇	一、五八	八、六〇	三、八一
醋	二、五〇	四、〇〇	七、四〇	一、七四
茶葉	一、七〇	五、五〇	二、二〇	六、六六
胡椒	一、七〇	五、五〇	二、二〇	六、六六
平均	一、七〇	五、五〇	二、二〇	六、六六

右表に依つて見れば砂糖、醬油、味噌等は事変前に比し一割  
五分乃至八分程度の昂騰を示し再製糖、煎子、蕃椒等は何れも事  
変以来暴騰を示し特に蕃椒の如きは三十一割と云ふ著騰振りを示す。



要するに、北支の輸入品たる關係上輸入杜絶を主因として暴騰した  
 蕃椒を除いて概して穩健な歩調を示してゐる。砂糖は事変前より  
 一般業者の自衛的協調に依り、割合に健全なる動きを示して居り  
 再製塩は事変前には山東塩の輸入減に因り暴騰したが十三年  
 五月以後は漸次順調となり、醬油、味噌は十四年三月二十三日價格の  
 軒高をなして相場は変化を示してゐない。

### 三 飲料の動向

飲料は事変前より二割三分三厘、十三年六月より一割五分九厘、同十二  
 月に比すれば一割一分一厘の暴騰で事変以来比較的穩健な歩調を示して  
 ゐる。

第七表 飲料價格騰落表

品名	十三年六月	十三年七月	十三年八月	十三年九月	十三年十月	十三年十一月	十三年十二月
清酒	五五.〇〇	六二.〇〇	六二.〇〇	六二.〇〇	二〇.〇〇	六四.五〇	六四.五〇
地物 四斗五升	六六.〇〇	六六.〇〇	六六.〇〇	六六.〇〇	三〇.八八	三〇.三八	三〇.三八
地物 一斗	八七.〇〇	八七.〇〇	八七.〇〇	八七.〇〇	四三.四〇	三二.七〇	三二.七〇
地物 五升	八七.〇〇	八七.〇〇	八七.〇〇	八七.〇〇	四三.四〇	三二.七〇	三二.七〇

右に示す如く清酒を始めとして酒類は業者らに於て協定價格を實施  
 して居り、特に麥酒及び清涼飲料は十四年四月、清酒は五月より各  
 道産業部が統制の下で協定價格を實施した為飲料價格は  
 他の凡てのそれより穩健な歩みを示してゐる。

### 四 其の他食料品の動向

其の他の食料品は十三年五月に比し五割九厘、十三年六月より  
 三割七分七厘、同十二月より四割二厘をあげ、低平均指數を何れ  
 も上廻るもの。これは食料品の内前述の穀類、調味料、飲料に



第八表 其の他食料品價格騰落表（△印は漲）

價

五衣料品の動向

第九表 衣料品價格騰落表（印は落）



勝藻亭 (十四年九月改)







天絹人絹は一般に綿製品の消費制限より自然新品等への需要より又公定價格制なく暴騰を示してゐる

### 六 金屬類の動向

金屬類は事変前月に比すれば僅に二割三分三厘の昂騰を示して居り十三年六月よりは逆に三割三分二厘程暴落し同十二月より五厘の微騰を示し兩後取人ど安定状態を示してゐる 即ち事変勃発を初め暴騰して十三年六月には最高頂に達したが後割當制實施と共に業者の協定價格實施に依り下落安定を繼續して價格指數の騰貴率四割五分に及ばざるにと大なるものがある

第十表 金屬類價格騰落表(△印は)

品名	十三年六月	十三年七月	十三年八月	十三年九月	騰貴率(十三年九月比)
五厘鉄	二八六六	二七六六	二四〇〇	二二五五	五・六%
四厘鉄	二〇・一六	二五三三	二二一〇	二一六八	一・九%
二厘鉄	二四・五五	一九七〇	二五八〇	二二四一	二・六%
小浪鉄	九〇	一五〇	一四八	一四四〇	二・五%

其の他	平均	二五元	△三五元	〇・五八
-----	----	-----	------	------

### 七 建築材料の動向

建築材料は事変前月に比し五割三厘、十三年六月より一割四分七厘、同十二月より一割三分五厘の昂騰で尙も物價指數の騰貴率より上廻つてゐる 品目別に見れば左表に示す如く木材は消費の増大、貨車の不月滑等により事変以来非常な暴騰を示したが朝鮮に於ては十四年六月全鮮主要地に至つて木材の公定價格の實施を見ることになった セメントは事変以来二割一分七厘の昂騰を示現してゐるのは重要産業統制法に依り製造業者の販賣價格の協定に依ることが多い 煉瓦は事変以前に比し二割の昂騰あり、兩後差した変化を示してゐない

第十一表 建築材料價格騰落表

品名	十三年六月	十三年七月	十三年八月	十三年九月	騰貴率(十三年九月比)
----	-------	-------	-------	-------	-------------











一階	二階	三階	四階	五階	六階	七階	八階	九階	十階	平均
八二〇	三三〇	二六〇	二二〇	一八〇	一四〇	一〇〇	六〇	二〇	一〇	一〇
八二〇	三三〇	二六〇	二二〇	一八〇	一四〇	一〇〇	六〇	二〇	一〇	一〇
八二〇	三三〇	二六〇	二二〇	一八〇	一四〇	一〇〇	六〇	二〇	一〇	一〇
八二〇	三三〇	二六〇	二二〇	一八〇	一四〇	一〇〇	六〇	二〇	一〇	一〇
八二〇	三三〇	二六〇	二二〇	一八〇	一四〇	一〇〇	六〇	二〇	一〇	一〇
八二〇	三三〇	二六〇	二二〇	一八〇	一四〇	一〇〇	六〇	二〇	一〇	一〇
八二〇	三三〇	二六〇	二二〇	一八〇	一四〇	一〇〇	六〇	二〇	一〇	一〇
八二〇	三三〇	二六〇	二二〇	一八〇	一四〇	一〇〇	六〇	二〇	一〇	一〇
八二〇	三三〇	二六〇	二二〇	一八〇	一四〇	一〇〇	六〇	二〇	一〇	一〇
八二〇	三三〇	二六〇	二二〇	一八〇	一四〇	一〇〇	六〇	二〇	一〇	一〇

右表に示す如く、酒類は事変前月に比すれば実に十一割以上暴騰を示した。十三年十一月までは連日一割四分ほど下落してゐる。その他硫黄、苛性炭酸、硬化染料、ペイント等工業原料は需要の激増に依り、事変前より暴騰したが、十四年に入つてからは幾分安定を示し、洗濯石鹼は事変前に比すると七割八分五厘、十三年五月よりは五割七分二厘、同五月より二割七分五厘と暴騰を示したが、これは原料の即騰に主因を有する。牛乳は事変前より消費制限に依り暴騰を示したが、食料の販賣價格の指定に依り、爾後釘付價格となり、寧ろ若干の下落は業者の協定に依り比較的穩健な歩調を辿つた。此の如きは事変前に比すれば十三割三分の暴騰を示したが、十三年十一月より釘付價格實施の爲変化なく騰すは十三割二分の暴騰を示したが、亦亦十四年一月より公定價格制の爲釘付となり、以て暴騰を示したが、調整規則の規定に依り販賣價格の指定に依り

釘付價格を持續した

以上即賣物價に於ける各類別の動向の概要を述べたが、今総平均指數に對照して各類別の騰貴率を比較して見れば、總平均指數の騰貴率は事変前月に比し四割五分昂騰して居る。各類別に於ては、雜品が七割七分八厘の最高を占め、次に調味料が五割八分九厘、衣料品の五割二分九厘、穀類の五割二分五厘、其の他食料品の五割九厘、建築材料の五割三厘、如何にも総平均指數の騰貴率を上廻り、燃料が三割六分八厘、金屬類、飲料、各二割三分三厘、肥料が二割二分八厘の騰貴が総平均指數のそれを下廻る。

第二款 小賣物價の動向

即賣物價の動向一般商賣界の動向を代表するものとすれば、小賣物價のそれは國民生活の安定如何を代表するものである。これは總平均指數の動向に於ける小賣物價の動向を示せばなる。



リいあり

第十五表 京城山貨物價格指數

年 月	指數	騰落率
昭和八年中央平均	100.0%	%
同 十二年六月	128.5	八年比
同 下半年期	120.3	十二年六月比
同 十三年七月	140.2	同
同 上半年期	134.5	同
同 七月	147.2	同
同 八月	148.7	同
同 九月	151.9	同
同 十月	149.6	同
同 十一月	150.0	同
同 十二月	155.5	同
同 十四年一月	155.8	十二年七月比

同 二月	157.5	同	五三、六
同 三月	157.5	同	五三、二
同 四月	160.6	同	五五、七
同 五月	163.4	同	五七、三
同 六月	171.9	同	五六、八
同 七月	166.0	十二年七月比	一三、五
同 八月	165.2	同	五九、六
同 九月	166.7	十二年九月比	四一、三

即ち支那事變後滿一ヶ年、即ち十二年六月は事變前に比し二割一分八厘の昂騰を示したが、十三年下半年期に入ると毎月騰貴を繰り、十二月は三割一分四厘累騰し、十三年六月に比すれば七分八厘の騰貴を示し、十四年に入ると騰勢止まり、十四年六月は三割六分八厘、前年同月に比すれば一割二分五厘の昂騰である。これを卸賣物價の動向と対照すれば、卸賣物價は事變前より三割五分、十三年六月より



は四分五厘の昂騰を示してゐる。と略同一步調を辿つてゐる。たゞ  
 十三年五月より比較に於て差異を生ずる。は卸賣の方では十三年  
 六月は同年中に於て最高位を占めた關係に依る。而して十四年七  
 上半期を遡つて七月に入つても依然昂騰を継続して七月は三割  
 六分九厘、八月は三割九分六厘、九月は遂に四割一分二厘となふ事  
 変以來の最高位を示し十三年九月に比すれば一割三分の騰貴  
 を示してゐる。

次に内地に於ける小賣物價指數と騰貴率と比較すれば左の通りを  
 あ。

第十六表 東京小賣物價指數表

日銀調査	昭和十三年		昭和十四年	
	六月	九月	騰貴率	
	一七、四%	二二、三%	三五、五%	

(註) 大正三年七月を一〇〇とする

右に示す如く東京は三割五分五厘の昂騰で、東城の四割一分二厘と

は相當な開きがある

今類別に依る小賣物價の動向を示せば左の通りである

第十七表 東京小賣物價類別指數表

類別	十三年六月	十三年七月	十三年十二月	十四年一月	十四年六月	十四年九月
食料品(穀類)	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九
食料品(豆類)	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九
食料品(油類)	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九
食料品(肉類)	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九
食料品(魚類)	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九
食料品(雑類)	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九
飲料品	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九
日用品	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九
建築材料	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九
燃料	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九
雑品	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九
平均	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九	一五、九



第十八表 同騰落率表（△印は落）

類別	十一年六月	十一年七月	十一年八月	十一年九月	十一年十月
食料品第一類	五、九一	一、五五	二、五八	一、六四	三、四四
同 第二類	△五、八七	五、四七	四、三二	五、〇四	五、六〇
同 第三類	一、七九	二、五五	一、五八	一、七二	△五、〇五
同 第四類	五、八五	三、五五	四、三〇	五、五五	五、四八
同 第五類	一、三八	五、五五	一、四〇	〇、三九	四、八六
衣料品及日用品	四、七五	五、九一	七、〇〇	八、九五	七、二四
建築材料	二、八一	三、三五	四、二二	一、四六	四、四七
燃料	五、〇六	五、四九	三、四三	七、四〇	五、四九
雜品	五、三六	四、二四	四、八二	一、三三	四、二七
平均	二、八六	三、六九	三、八七	一、三三	四、二七

一食料品第一類（穀類及穀類）の動向

事変前月に比すれば三割八分一厘（十一年七月より十一年九月）二割五分一厘

の昂騰は総平均指数の騰貴率四割一分二厘に及ぶ。表に示すが如く第一類は十四年に入ると従ひ昂騰率を引上げてゐる。卸賣物の價の昂騰と元の軌を一にしてゐる。品目に依り見れば白米と雜穀との騰貴率の差は歴然として現はれ滿洲精米最も高く七割四分の高率を示し白米一割一分の最下位を示してゐる。

二食料品第二類（蔬菜及果實）の動向

第二類は事変前月より五割、十一年七月より五割六分、同十二月より一割八分六厘の昂騰を示して総平均指数の騰貴率を上廻してゐる。第一類に於ける品目の大部分は季節的影響を受けざるもの多く玉葱が十五割、甘藷の十割が最も甚しい。

三食料品第三類（牛肉及鶏卵）の動向

第三類は事変前月より一割四分九厘昂騰し十一年六月より二分五厘、同十月より六分一厘の下落を示してゐる。品目を見れば鶏卵の六割五分が最高を示し他は比較的穩健な歩調を示してゐる。



これは牛肉、豚肉、鶏卵、牛乳等は事変前より業者の組合に依る協  
定價格を實施した關係に依る

#### 四 食料品や四類（乾物及び罐詰）の動向

事変前月より五割六分二厘、十三年七月よりは三割四分八厘、同十二月  
よりは二割六分二厘の昂騰を何れも總平均指數の騰貴率を遂に上  
廻つてゐる。品目別に依ると塩鮭の七割三分、鯖罐詰の七割一分を初  
めとして全般に多し昂騰を示してゐる。これは内地からの移入不足が主  
特に罐詰類は罐の値上りに因り價格の昂騰に拍車をかけたものがある

#### 五 食料品や五類（調味料及び嗜好品）の動向

事変前月には一割九分三厘、十三年七月よりは四分八厘、十二月よりは  
僅に一分二厘の昂騰を示してゐる。啤酒の五割、蕃椒の四割二分の最  
高を降し、他は概して健全な歩調を示してゐる

#### 六 衣料品及び身廻品の動向

事変前月には七割二分二厘、十三年七月よりは一割九分八厘、十二月

よりは一割四厘の昂騰で總平均指數の騰貴率を遂に凌駕して  
ゐる。品目別に見れば人絹熟素の十七割九分、人絹交織の十三割三  
分、ゴム靴の十五割等昂騰を示し、粗布、細布も七割以上の昂騰を  
示し全般に多し昂騰振が甚しい

#### 七 建築材料の動向

事変前月には五割四分四厘、十三年七月よりは一割四分二厘の  
昂騰、同十二月よりは九厘の下落を示してゐる。これは板材を始めとして鉄  
五穀板等の定價格の決定したものである

#### 八 燃料の動向

事変前月より三割五分四厘、十三年七月よりは僅に七厘の騰貴で  
同十二月以降は変りなく推移してゐる

#### 九 雜品の動向

事変前月より四割六分二厘、十三年七月より九分七厘、同十二月より  
は五分八厘の昂騰を示し、燐寸、十割、酒の七割一分が最高で



あり

今類別に依る騰貴順に述べれば衣料品の七割二分五厘を最高とし、食料品が五割の五割五分二厘、同類の五割、雑品が四割五分二厘、建築材料の四割一分四厘で総平均増数九騰貴率と凌駕し食料品が二割の三割八分一厘、燃料の三割五分四厘、食料品が五割の二割九分三厘、同類の三割四分九厘の何れも平均増数七下廻りである次に品目別に率を以て昇騰順に記述すれば左の通りである

第十九表 消費物価騰貴率品目別表（十三年六月、十四年九月

比較）

一五割以上のもの	人絹熟素、人絹支織、公靴、玉葱
一十割以上のもの	甘藷、燐寸
一七割以上のもの	満洲猪果、塩鮭、鯖罐詰、粗布三八、同鶏籠、タオル、麻布、靴下、足袋、酒精
一五割以上のもの	押麦、大豆、澱粉、鰹鮓、豆腐、馬鈴薯、薯蓣

乾明太魚、出昆布、汽酒、布、園綿、綿縫糸、杉松板材、亜鉛板、薪、本炭、洗濯石鹼、バケツ

一四割以上のもの 澤庵、蕃椒、洗濯曹達、硫化染料、廢土紙

一三割以上のもの 小豆、小麦粉、胡麻油、サイガラ、鉄釘、石炭、珪礫鉄器、陶磁器茶碗、同サリ

一二割以上のもの 白胡麻、林檎、再製塩、煎子、清酒、サ

ビ、煉炭

一割以上のもの 白米、牛肉、牛乳、煉乳、砂糖、麥酒、食パン、洋

傘、オンド油紙

五分以上のもの 醬油、焼酎、板硝子

五分未満のもの 豚肉、椎茸、味噌、茶

次に京城商工経済會の調査に係る昭和二十年六月三十日現在に於ける京城消費物価を左に掲げます

第二十表 京城消費物價表（昭和二十年六月三十日現在）















卸賣は十四年九月現在に於て一八五・三、小賣は一五二・七（何れも昭和八年基準）にして事変前にはし前者は四三・四、後者は四一・三と騰貴して何れも卸賣が小賣を上廻つてゐる。

之に於て内地に於ける動向を見れば東京卸賣物價指數（日銀調昭和八年一・一〇）は九月現在に於て一五九・九と事変前（昭和八年一・一〇）の日銀調大正三年七月一・一〇）のそれは二三・三と騰貴率一五・五を示して事変前より小賣が卸賣を上廻り朝鮮とは逆の現象を示して居る。

かう現象は何に原因するかと云ふに朝鮮に於ける公定價格の決定はその大部分が所謂最高價格制即ち小賣最高價格より決定し生産價格より卸賣價格の決定を見たものは幾種類に過らず結局小賣價格は針付狀態となり卸賣價格は斯の如き制限が少く為るの騰勢は小賣の騰勢を凌駕して小賣の動向が卸賣の動向を左右するところ原則を否定して却て卸賣が小賣を

左右する逆現象を示してゐる。これは勿論本文即事変を契機とする統制経済時代に於ける物資の不足に因る卸賣業者の販賣上に於ける小賣業者への優位に基因するところ一因をなしてゐる。又一面に於ける物資價格指數は主に府縣公設市場に於ける小賣相場を主材料とするものであるが、公設市場内に於ける物價は府の監督指導下にあり關係から自然に公設市場以外の小賣價格より低廉なる傾向にあることも一因をなしてゐる。

二内地に於ける物價との開きの甚大なること  
前述せられた朝鮮に於ては卸賣は事変前に比し四割五分、小賣は四割一分二厘の昂騰を示してゐるが内地に於ては卸賣二割五分、小賣三割五分五厘の昂騰で何れも内地を凌駕してゐる。朝鮮に於ける主要物品は殆んど内地からの移入に俟つことは贅言を要せざるところであるが、事変を契機とする物品の移入の割当又は制限に依る鮮内は移入の物資の不足は内地よりも甚しく、又一方滿洲國內に於ける物價



高と相場として同地方へ流出益々多しニハ結局朝鮮の物價を  
由因つて小なりも甚しく上位に置く一因となしてある

三 事業下に於ける物價は平常時に於ける物價騰貴の原因たる需  
給關係に左右され、傾向の濃厚である。假令供給の需要を起  
過する場合があるも下落をせず、保合の上昇を示現するものあり  
いとは要するに供給増大の場合も物資不足を見越しての賣場、  
買場乃至購買旺盛を極めた結果である

四 相場場の激甚が物價高に拍車をかけること

前述の卸小賣の價格は謂はば表面に表れた「表相場」であ  
つて裏面には所謂「裏相場」乃至「闇相場」の潜行してゐることは  
あふまでもないところを、事業勃発を初め鉄鋼を中心として行はれ  
事業の進展するに伴ひ織物、綿布、細布、穀穀、セメント、  
燈油、揮発油等、松葉、に違ない有様であつた

殊に太平洋戦争勃発以来朝鮮に対する各種重要物資の

生産負荷は益々切實の度とかけ、其の生産力は各種重要物資に  
計劃期的飛躍を示してある反面物價は漸騰を續け増税、賃銀  
及び運搬費の昂騰並に改革に基因する米穀穀、重要鑛産物  
重要軍需資材の値上げ、補助金の増額等物價の騰貴に拍車  
をかけるものたるに従つて終戦前最近に於ける朝鮮の物價水準  
が内地に比し高率なる原因として更に次の諸点を指摘し得る  
一 鑛物、増産、重要工場場の設置等の影響を受け通貨  
膨脹率が特に高率なること

二 鉱産物、農産物、林産物等の重要物資の責任生産制の採  
用並に従来内地に依存した生活必需品の鮮内自給対策樹  
立に依り其等物資の生産費の昂騰に依り相當の物價の高を  
招来しやうたこと

三 勞務賃、諸運賃の急激な騰貴が諸物價に悪影響を  
与へたこと



昭和十九年春以来実施した日滿関税障壁の撤廃は  
滿洲に於ける物價高値の影響を一層深刻に受けしに至つた  
こと

## 第二章 朝鮮に於ける勞銀

### 第一節 序説

(其の勞働力は)

由來朝鮮は通利勞力豊富と云はれ第一次歐洲大戰以来内地勞  
働力の補充地として当初は土工勞働者として供給せられたが其の後  
鑛山工としても使用せられるに至つた 然るに滿洲事變以後勞働  
力の豊富なるに着眼し現地企業如旺盛を極め内地に對する勞働  
力の供給地としても企業條件に有利なる點に於て重視され内地工業  
の誘致原因となつた 殊に戰時体制下勞働力不足の観点に立つと  
さ豊富なる朝鮮の勞働力は常に朝鮮に於ける工業發展の促進  
原因としてのみならず内地に於ける勞力不足に對する補充地として再  
評價せざるを得なかつた

昭和十七年末に於ける朝鮮の人口は産業別人口を併合當時  
明治四十七年と同等と見れば次の通りである



第三十表 朝鮮の職業別人口構成(単位千人)以下切捨

職業	昭和十七年	昭和十七年人口構成割合	昭和十七年人口	昭和十七年人口構成割合
農業	九	三三・五	一〇・六	三三・五
水産業	九	三三・五	一〇・六	三三・五
鑛業	二・三	五・五	一・八	五・五
工業	一四・一	一・七	一・七	五・五
商業	一・六	一・七	一・七	五・五
交通業	五・三	五・八	一・五	五・五
公務員	二・九	一・〇	一・〇	五・五
其の他の職業者	三・二	一・三	一・三	五・五
無職	二・九	五・四	一・五	五・五
計	七五・二	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

第三十一表 第三十表中朝鮮人の職業別人口構成(単位千人)以下切捨

(註) 朝鮮總督府統計年報に依る

二、比較増減率の欄左書は増減割合を示す

第三十二表 第三十表中朝鮮人の職業別人口構成割合

職業	昭和十七年	昭和十七年人口構成割合	昭和十七年人口	昭和十七年人口構成割合
農業	一・四	一・九	一・四	一・九
水産業	一・五	一・九	一・四	一・九
鑛業	二・五	六・六	三・〇	六・六
工業	一・三	八・五	七・〇	八・五
商業	一・四	三・九	三・一	三・九
交通業	一・五	八・八	七・〇	八・八
公務員	一・六	一・〇	一・〇	一・〇
其の他の職業者	一・七	一・〇	一・〇	一・〇
無職	一・八	一・〇	一・〇	一・〇
計	一・九	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇



前二表に依つて明かしく朝鮮人の人は昭和十七年末に於て  
二千五百五十二萬餘人を算し昭和十七年末より二千六百十八萬餘人止  
此れは實數に於て主として南朝鮮人の割合は小割四分九厘、南朝鮮人の割合  
中増加を示して居る。二水半朝鮮人の職業別に見れば昭和十七年  
末に於て農業一千七百三十九萬六千人、水産業五十萬五千人、  
鑛業五十三萬七千人、工業一百十七萬一千人、商業一百七十四萬九  
千人、交通業三十四萬八千人、公務及び自由業一百萬七千人、其の他  
の有業者二百二十六萬七千人、無職及び職業を申告せざる者五十四  
萬二千人となつて居る。

二水半職業別人は朝鮮に於ける經濟狀態の變遷に伴ひ移  
動し來つたことは否かを問はないと云ふであつて今これを昭和十七年末  
のそれと比較すれば農業に於ては七十九萬人割合に於て四分七厘、  
水産業に於ては十八萬七千人、五割八分八厘、工業に於ては一百五萬  
人、十五割九分五厘、商業及び交通業に於ては五十七萬三千人、

三割七分五厘、公務及び自由業に於ては三十二萬三千人、四割七分三厘、  
其の他の有業者に於ては七十四萬八千人、四割九分二厘、無職及び職  
業を申告せざる者に於て十七萬二千人、四割六分四厘を夫々増加し  
た点も工業の急進な發達が窺はれる。

二水半の結果から見れば多數業者を包含せるは勿論天然產業  
たる農業、牧畜、林業、水産方面にある業其のものの發達と云ふ  
点から考へれば工業、水産業、公務及び自由業、商業及び交通  
業の方面に著しい進展の跡を示してゐる。

次に職業別人の構成狀態を見れば昭和十七年末の實績は  
農業が七割八分一厘を占めて絶對的優勢を示してゐるが昭和十  
七年末に比すれば八分四厘の減少を示し二水に次いゝ商業の他の  
有業者の八分八厘、商業及び交通業の八分二厘、工業の  
六分六厘、公務及び自由業の三分九厘、無職の二分一厘、水産  
業の一分九厘となり工業に於ては昭和十七年末に比し三分



二重の著増を示してゐる。

## 第二章 終戦前最盛に於ける朝鮮の

### 労働事情及び賃銀

朝鮮は従来労働資源に恵まれ殊に朝鮮農村が所謂  
勞力餘剩地であつたことは多きを要せざることをあきらかに  
事変後特に太平洋戦争勃発以來朝鮮内に於ける軍需  
生産擴充等の諸産業が急激に興り朝鮮自体としての勞  
務の需要は著しい増加を見たに加へ昭和十四年から始まつた  
内地、樺太、南洋群島等に対する朝鮮人労働者の数は  
昭和十九年末までに六十五万軍需要員としての送出数は  
八万八千に達した。これ等の軍需要員以外の労働者は工銀業、  
土木建築業、工場方面に就労し其の内地、石炭山加最も多く累  
計に於て全供出数の五割を占め土木建築業之に亞ぎ二割一分、  
金屬山九分、工場等、他に二割を占めたが斯の如き労働者の

集團的送出は鮮内労働事情を漸次窮乏ならしめるに至  
つた。

斯の情勢に鑑み朝鮮總督府は現貨空用の実施、労働の官  
幹旋、勤勞報國隊の強化、学徒動員の實施、一定年齢層の一般  
空用等の諸対策を講じ重要物資の急速増産に努めたが一方  
賃銀の漸騰に備へ昭和十八年八月國家總動員法に基き昭和十  
四年八月賃金統制令を、又同年九月賃銀臨時措置令を實  
施し並に労働賃銀の昂騰を抑制し之を適正化する為昭和十  
六年七月以降賃金統制令を改正し專ら全鮮的に最低賃  
銀、最高初給賃銀及び最高賃銀を公定實施すると共にこの  
公定賃銀の適用なき面に対しては賃金臨時措置令に依り統  
制を加へた。併し尚わらば日僑労働者の賃銀は叙上の最高賃  
金の公定のみを以てしは其の昂騰を抑制し難いことを鮮内  
主要都市は労働奉公會を統成せしめ食糧及び作業用















刺	表裏師	桶工	車製造職	染物職	洋服裁縫	靴職
指數	實數	指數	實數	指數	實數	指數
一〇〇	〇・九〇	一〇〇	〇・七五	一〇〇	〇・七五	〇・七五
九〇	一〇・五	一五〇	〇・八七	八二	一〇・二	〇・九
二〇五	一	三五六	一九八	二〇四	二六二	一八二
一	一四九	三六	一五五	一七三	一四〇	一九六
一八一	一七八	三〇	一七〇	一八八	一四三	二二四
一九〇	一八六	三八	一七五	二二一	一五六	二五二
二〇六	六〇七	九〇	一八五	二二六	二七四	二八八
二二一	二四三	一〇七	一九四	二二七	二七九	二九五
二五七	二七〇	一六六	二〇二	二四〇	二八〇	二九二
二九〇	六九九	二七三	二〇八	二七五	三〇一	三〇九
三一二	三・一七	三六三	二六八	二八〇	三〇九	三二五
三二四	三・七	四〇〇	二七五	二九八	三二六	三三六
	四〇一	四四〇	二八三	三〇八	三三七	三四五
	四九五	四八〇	二八五	三二〇	三六〇	三五五
	五〇〇	五二〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	五二〇	五四〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	五四〇	五六〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	五六〇	五八〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	五八〇	六〇〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	六〇〇	六二〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	六二〇	六四〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	六四〇	六六〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	六六〇	六八〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	六八〇	七〇〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	七〇〇	七二〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	七二〇	七四〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	七四〇	七六〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	七六〇	七八〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	七八〇	八〇〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	八〇〇	八二〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	八二〇	八四〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	八四〇	八六〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	八六〇	八八〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	八八〇	九〇〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	九〇〇	九二〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	九二〇	九四〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	九四〇	九六〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	九六〇	九八〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五
	九八〇	一〇〇〇	二八五	三三〇	三七〇	三六五

[illegible]



[illegible]

係るの松師醬油製造職、下男、下女は賄付月給其の他は日給さす  
 在表に依つて見れば明治四十三年に於ける朝鮮人労働者の賃  
 銀には相当大なる開きあり、朝鮮人労働者の賃銀は内地人の

[illegible]



その大體五割乃至七割にしかあつたものが大正五年頃から  
殊に朝鮮人労働者賃銀の昂騰顯著にしてこの傾向は  
近年内地労働者賃銀の騰貴と凌駕して昭和十八年には  
兩者の隔きは大方五割せられ朝鮮人賃銀は内地人賃銀の  
五割乃至八割と昂騰を示し且兩者賃銀の接近した業種と  
多く見る様になつた 此は経済界の混成に伴ひ労働  
需要の激増に依り外朝鮮人労働者の素賃の向上による  
能率も増進し事実上も見逃し得ない一因である  
昭和十七年及び十八年に於ける朝鮮

### 第三章 朝鮮人労働者の特徴

朝鮮人労働者の特征は従来の因習上責任觀念薄く怠惰  
性強く移動性高きこと等を指摘されてゐるが事實能率に於ては  
可成りの懸隔が現はれてゐる 其の一例として朝鮮に於ける在籍  
坑夫一人ありの採炭量は昭和十七年間に於ける年平均一〇一吨、

同十八年間に於ける年平均九五吨、同十九年上半期実績から  
推算した年平均一〇四吨に對し内地に於ける<sup>採炭</sup>人より出炭を  
昭和十九年一月の二ヶ月分に於て見ると一三四吨に之を二ヶ月に換  
算すれば一六八吨にあり朝鮮に於ける採炭量は漸く内  
地とそれの三分の二程なほしか過さないことが挙げられる 尤もこれ  
は内地の<sup>採炭</sup>採炭合理化が事十分でないことも其の一因と考へられ  
るが労働者の能率の高低が大きく反影してゐるものと見られ  
能率賃銀をわすれな現狀に於てはゆゑしも朝鮮人使用が  
内地人使用に比し有利になつたと謂はれる所以である  
併し裏より体力の優劣があるに於ては朝鮮人労働者は優位  
にあるから教育の普及技術の習得等藉するに時を以てすれば  
此を將來に於て一般労働者にもより習能、技術を要する作業  
に於ても亦内地人労働者<sup>と</sup>と以角し得るものと信ぜられる。







日本人の海外活動に関する研究調査(7) 草稿  
朝鮮の通貨

昭和22年10月25日

334.6  
337  
7312.62

文庫

62



通貨

第一章

保合前に於ける貨幣制度

第一節 貨幣整理前の状態

旧韓國に於ける古來一定の貨幣制度なく明治二十七年大院君の幣制改革に至るまで數百年來専ら常平通寶(葉錢)のみを使用して來た其の間常平通寶は各官衙に於て鑄造した結果漸く一を缺き且貨幣の形式單純で地金の貴重多し爲る品價次第に低下し賸造亦續出し明治十七年頃には其の種類二千乃至四千と稱せられ良貨惡貨雜然として流通し往年第一銀行の調査した種類わけは一千八百に上つたといはれる 此の結果以外取引は極度の不安に陥り外國便臣は專ら幣制の改革を建言するに至つたを遂に明治二十七年八月日本政府の指導の下に新式貨幣の發行章程を發布して古來本位貨のあつた韓國に於て初めて銀貨、銅貨、白銅貨、赤銅貨、黃銅貨の五種に令れ五兩銀貨を以て本位貨と定めたるが此の改革は従うに當る

62p

表3/お

334.6

337

13.62

三、一〇、二五

徳山軒



み大で成績ニ共に伴ひず本位債たる五兩銀貨の如きは当初僅に一萬五千  
九百二十餘兩を發行したに過ぎず鑄造利益の多い白銅貨のみを鑄  
した為本位債及び古來の銅貨は影を没し悪貨のみ残留し貿易上に於  
ては新式貨幣發行章程に於て派用を認められた日本銀の独占的使用  
を見又同時に日本補助貨も多少流入し日本貨幣を基礎とした第一銀行  
手形と相俟つて開港場に於ける幣制の不備を補つた

明治三十年露人アレキセーフの韓國顧問となり韓國政府は其の獻策  
に基つて同三十四年金貨本位制を採用し貨幣條例を發布し其の僅少な銀  
貨及び白銅貨を發行したに止まりアレキセーフの退任と共に本位債其の他を發  
行を見ずに終つた 二の三次幣制改正による日本銀の通用は禁止せられ  
たが新貨幣が鑄造せられなかつたのでその數は依然として開港場に  
於ける通用を許した その後日本に於ける幣制改正以來次第に日銀の數を  
減じ第一銀行券が亦に代つて發行額を増加した  
在り外直債としては支那貨幣が亦から流入し曾つてその通用を禁止せられ

(折上り國定規格B5(八三×二五七))

たが尚舊銀に流入したものであり又鴨綠江沿邊地方には支那の銀貨の流  
通も多く露國貨幣も元山以北に於て流布通用し墨西哥銀も亦豆満江  
沿邊に於て多少通用した

### 第二節 貨幣整理

明治三十七年十月日清債田種太郎氏の韓國財政顧問に就任するや  
幣制整理の急務を認め大要左の貨幣制度整理方針を定めた

- 一、本位貨幣制度を確立して價格の標準を定める
  - 二、白銅貨を廢止してこれに代はるべき補助貨を發行する
  - 三、銅貨は流通多きに過ぎるからこれを引上げ適當の分量に收縮した上準  
補助貨として流通せしめる
- 又整理の方法及び順序を左の如く定めた

#### 整理方法

- 一、貨幣の本位は通商及び交通上密接な關係ある日本と同一ならしめる
- 二、日本は韓國に於ける貨幣制に最も重大な利害關係を有するから



日本政府は日本政府の保証を以て貨幣整理に關する資金を借入れたる  
従つた方法を採用する

一 韓國貨幣の基礎及び發行貨幣を全然日本と同様にする

二 韓國貨幣と同一の日本貨幣の流通を認める

三 本位貨幣並に兌換券は日本の本位貨幣並に兌換券若しくは日本兌換券を  
準備とした日本政府の監督及び保証に係る銀行券とする

四 補助貨幣は總べて韓國政府に於て發行する

### 整理順序

一 明治三十四年二月制定の貨幣條例の實施を宣言する

二 日本貨幣の流通を認め政府の收支に使用する

三 貨幣條例中の補助貨幣の様式を決定してこれを公布する

四 旧白銅貨の通用期間と定め交換及び引取を行ふ

五 青銅及び黄銅は短期間限る流通制限額を定める

同時に先づ従来白銅貨を濫鑄して市中制紊の淵藪であつた典國局の閉

(折上り國定規格B5二公二五七種)

鎖を断行し貨幣整理に伴ふ新貨幣の鑄造は専ら日本政府の造幣局に  
委属し極力急進して改正實施に支障なきを期し明治三十八年會々整理に  
着手した

又國庫金の取扱に關しては株式会社第一銀行と契約を結び中央金融機關の  
任にあつたものを發行に係る銀行券を公私一切の取引に使用せしめることを認め一面  
本位貨幣に代るべき兌換の效力を有せしめ貨幣整理に關しては同行との間に貨幣  
整理に關する契約及び整理資金借入契約を結び同行から整理資金三百  
万円を借入れた上更にこれを同行に交付して整理事務を委属することとした

### 第三節 旧貨幣の回收と整理

旧貨幣中白銅貨は元々弊害最も多く急速にこれを回収しなければ整理の  
實を挙げ得ないを國庫收帳によつて回收する外京城、平壤、仁川、群山、鎮  
南浦に交換所を特設して明治三十八年七月以来交換を開始し明治四十年に  
はその大部分を回收した

次で明治四十一年一月份支部令を以て同年十月末日を限り旧白銅貨の流通を



禁止し期限後六ヶ月間を限つて特に公用に使用する旨を公布し金庫の外各農工銀行、地方金融組合をして買収を行はしめ又地方商人をして交換組合を組織せしめこれに手数料を給してその集収を面せしめる等極力迅速に回収することとした併し其の期限満了後に於て尚市場に残存したものが尠くなかつたので明治四十一年五月更に公納期限を同年十二月末日に延期して漸くその回収を終了するを得た 交換開始以来の回収総額は九百六十萬八千六百三十六円に達した

葉鉄はその弊害白銅貨の如く甚大なる且地方民に愛憎せられたり明治三十八年七月國庫收納によつて回収することとしその公定價格を時價に銀一箇を二重五五と定めたがその後銅價昂騰して國外に流出するもの多かり明治四十一年六月公定價格を二重に改めた 引換開始後の回収額は三百二十萬八千九百五十八円に上つた

旧銀貨及び旧銅貨も亦明治三十八年一月勅令を以て旧銀貨二元を新貨一円の割合で回収することとしたが旧銀貨は元來鑄造額が少く白銅貨の如く

(折上り國定規格B5二公一五種)

駆逐せられたる残存したもの尠く銅貨も亦鑄造額が少く且銅價騰貴の爲に銀貨に換へられたもの多く明治四十一年五月末に於ける東京市中央区の回収額は旧銀貨四十萬七千二百八十二円餘に達せなかつた

#### 第四節 新貨の鑄造及び銀行券の發行

明治三十八年十月 國貨幣條例を改正し改定日本貨幣と同様に金貨を二十圓、十圓五圓、銀貨を半圓、二錢、十錢、白銅貨を五錢、青銅貨を一錢、半錢の九種に令し金貨を本位貨とし他を補助貨として中央局の廢止と共にその鑄造を大阪造幣局に依頼したが其の後銀銅市價の騰貴に伴ひ明治四十年八月品位量目を上昇せしめ従来の銀銅貨を漸次回収して大阪造幣局に於て改鑄し明治四十三年五月末までの新鑄造額は九百四十七萬五千七百円に達し其の内改鑄額は六十九萬三千八百円に及んだ

然るに大阪尚新貨の價値を解せずその授受を歓迎せず市場に於ける流通は甚だ少かつたので政府は各農工銀行及金融組合に新貨の無利息貸付を行ひ明治四十一年一月度支那大臣は更に各地方金融組合に旧貨交換基







## 第二章 併合後に於ける通貨機構の整備進展

### 第一節 朝鮮通貨の収斂

併合以来朝鮮の貨幣は漸次日本貨幣に統一する方針を採り、旧韓国貨幣の整理回収に努めた結果大正六年末には通貨流通見込高六千九百六十三萬圓中葉錢以外の旧韓国貨幣の流通額は二百五十萬圓に過ぎない有様となつた。大正七年四月一日日本貨幣法を朝鮮に施行すると同時に旧韓国貨幣は大正九年十二月末日限り通用を禁じ、再後五年間は政府に於て通貨を以て引換へることをし、大正十四年十二月末日限り其の引換を停止したが尚葉錢に限る。当分従前通り通用せしめることとした。

終戦前に於ける朝鮮の通貨は朝鮮銀行券、内地各種補助貨幣、の外日本銀行券も内地の旅客券による支拂に使用せられてゐた。この頃日本銀行券の鮮内流通額は不明であつた。昭和十九年中内地行旅券等について朝鮮銀行から拂出した日銀券と預金等を通



いて朝鮮銀行の寫りに還流して来た日銀券との差引は約四千萬四  
 千八百八十九圓であるがその外に還流して来たものとして併せて日銀  
 券の鮮内流通額は大概を左に示す程大きい金額とは考へようない  
 補助貨幣中の鮮貨通であるが其の鮮内流通額は判然とし  
 ない日本銀行の朝鮮廻送高から内地への還送高を差引いた金  
 額を以て一應鮮内流通推定額とすれば昭和二十年一月には三千  
 二百萬圓、同十九年十二月には三千百萬圓となり、これ亦左程大くない  
 金額ではない

斯く觀じれば昭和十九年中の最高發行額三十一億三千六百萬  
 円、年中平均發行額十九億三千百万円を算した鮮銀券が、鮮内  
 に於ける主たる流通通貨であることは明かである。尤も鮮銀券  
 は關東州に於ても法貨として通用し關東州内鮮銀支店から發行されて  
 おたが昭和十九年に於ける鮮銀券の鮮内發行超過額十三億六千万  
 万円に對し關東州の發行超過額は三億一千六百万円であるから鮮銀券

の大部分は鮮内に於て流通したと云つても差支ない併し如何う鮮内に於て發行された鮮銀券が關東州に於ても流通するものと出来たし關東州に於て發行された鮮銀券が鮮内に於て流通するともあつたから正確に云ふと發行額のうちからは鮮内流通額は判然とし無い（第二表を照）其の上滿洲國に於ては鮮銀券昭和十二年以來其の發行を停止せられたが流通は禁止されてゐなかつたから恰も日銀券が鮮内で流通したと同様滿洲國に於て流通する鮮銀券も考慮に入れた必要があるが極く大雑把に云つて發行額の大部分が鮮内に於て流通したと見て誤りないと云へよう

鮮銀券の發行高の係合以來の推移を見るとき左の通りである

第三表 朝鮮銀行券年末並11月末發行高(單位千円)

年未發行高		月未發行高	
明治元年	三、六	明治二年	四、一
明治三年	五、二	明治四年	五、三
明治五年	六、四	明治六年	七、五
明治七年	八、六	明治八年	九、七
明治九年	一〇、八	明治十年	一〇、九
明治十一年	一一、一〇	明治十二年	一二、一二
明治十三年	一三、一三	明治十四年	一四、一四
明治十五年	一五、一五	明治十六年	一六、一六
明治十七年	一七、一七	明治十八年	一八、一八
明治十九年	一九、一九	明治二十年	二〇、二〇
明治二十一年	二一、二一	明治二十二年	二二、二二
明治二十三年	二三、二三	明治二十四年	二四、二四
明治二十五年	二五、二五	明治二十六年	二六、二六
明治二十七年	二七、二七	明治二十八年	二八、二八
明治二十九年	二九、二九	明治三十年	三〇、三〇
明治三十一年	三一、三一	明治三十二年	三二、三二
明治三十三年	三三、三三	明治三十四年	三四、三四
明治三十五年	三五、三五	明治三十六年	三六、三六
明治三十七年	三七、三七	明治三十八年	三八、三八
明治三十九年	三九、三九	明治四十年	四〇、四〇
明治四十一年	四一、四一	明治四十二年	四二、四二
明治四十三年	四三、四三	明治四十四年	四四、四四
明治四十五年	四五、四五	明治四十六年	四六、四六
明治四十七年	四七、四七	明治四十八年	四八、四八
明治四十九年	四九、四九	明治五十年	五〇、五〇
明治五十一年	五一、五一	明治五十二年	五二、五二
明治五十三年	五三、五三	明治五十四年	五四、五四
明治五十五年	五五、五五	明治五十六年	五六、五六
明治五十七年	五七、五七	明治五十八年	五八、五八
明治五十九年	五九、五九	明治六十年	六〇、六〇
明治六十一年	六一、六一	明治六十二年	六二、六二
明治六十三年	六三、六三	明治六十四年	六四、六四
明治六十五年	六五、六五	明治六十六年	六六、六六
明治六十七年	六七、六七	明治六十八年	六八、六八
明治六十九年	六九、六九	明治七十年	七〇、七〇
明治七十一年	七一、七一	明治七十二年	七二、七二
明治七十三年	七三、七三	明治七十四年	七四、七四
明治七十五年	七五、七五	明治七十六年	七六、七六
明治七十七年	七七、七七	明治七十八年	七八、七八
明治七十九年	七九、七九	明治八十年	八〇、八〇
明治八十一年	八一、八一	明治八十二年	八二、八二
明治八十三年	八三、八三	明治八十四年	八四、八四
明治八十五年	八五、八五	明治八十六年	八六、八六
明治八十七年	八七、八七	明治八十八年	八八、八八
明治八十九年	八九、八九	明治九十年	九〇、九〇
明治九十一年	九一、九一	明治九十二年	九二、九二
明治九十三年	九三、九三	明治九十四年	九四、九四
明治九十五年	九五、九五	明治九十六年	九六、九六
明治九十七年	九七、九七	明治九十八年	九八、九八
明治九十九年	九九、九九	明治一百年	一〇〇、一〇〇











## 第二節 朝鮮銀行券の發行制度

朝鮮銀行券の發行制度は日本銀行券と同じく昭和十六年  
手紙所謂屈伸制度限度を採用し其の保証準備發行限  
度は明治四十三年迄二千萬圓、同四十四年以降三千圓に擴張せら  
れたが大正六年十二月に朝鮮銀行券は関東州及び南滿洲鐵道附  
屬地に於ける無制限通用とも認められ同時に同地域に於て  
橫濱正金銀行の發行してゐた金票(四五三八三四圓)の引繼  
を受けると及び大正七年三月朝鮮銀行法を改正して其の保証  
準備發行限度を五千萬圓に擴張した  
併しその朝鮮經濟界の急速な進展を著し資金の  
需要は益々旺盛となつた為昭和

然るに滿洲國獨立後國幣價值安定並に幣制統一方針  
樹立せられ我國の金を贊助することゝあつたから朝鮮銀行は  
三國策を俾し滿洲中央銀行と協定を結ぶ該協定に基き昭



昭和十年十月二十三日以降漸次満洲國に於ける朝鮮銀券の發行を減少  
したる満洲興業銀行の創立を機とし昭和十一年末関東州以外の朝鮮  
銀在満営業所を同行に譲渡した結果ここに全く満洲國に於ける  
朝鮮銀券の發行は廢止せられ更に昭和十二年十一月一日満洲國に於け  
る治外法權の撤廢及び滿鉄附屬地行政權の移譲に伴ひ滿鉄附  
屬地内に於ける朝鮮銀券の強制通用も停止せられるに至つた  
併しちがひ一方朝鮮經濟界は急速な進展を遂げ資金の需  
要は益々旺盛となつた爲め昭和十二年九月一日更に保証準備發行限  
度を一億圓に擴張し又支那事變の進展に従ひ一般經濟取引の急  
激な膨脹により昭和十四年五月一日これを二億六千万圓に擴張した  
然るにその後朝鮮經濟の發展著しく通貨の所要量も短期間  
に急激な變化を示しこれに應じて發行限度額も隨時頻繁に變  
更するの必要を生ずることば敘上兩度に基く保証限度の擴張に對し  
ても明かであつてこの制度を以てし置ては今後の事態に於て臨機應  
變

弾力性ある措置を採り得ない憾みがあつたから昭和十五年三月法  
律第十五號を以て臨時に朝鮮銀行券の正貨準備發行と保証  
準備發行との区分を停止し全額保証發行に改めし其の發行限  
度は大藏大臣が定めることとなつた 而して其の限額は昭和十六年  
四月一日大藏省告示第九九号を以て六億三千万圓と決定せられ次で  
昭和十七年四月一日七億五千万圓に改められたが尚一時的に發行増  
加を必要とする臨時緊急の場合の事態に處する爲め従来より制  
限外發行制度は其のまま存置せられることになつた



次に朝鮮銀行券の日本銀行券と異なる点を挙ぐると先づ朝鮮銀行券はその発行準備として発行銀行券と同額の金貨、地金銀、日銀券、日銀に對する預け金、國債証券、その他確實なる証券又は商業手形を保有しなければならぬが三、發行準備の中に日銀券及び日銀に對する預け金がかへられてゐることは日銀券の發行準備と異なる第一である。朝鮮銀行は日銀券と同じく金貨及び金兌換の義務は免れられてゐる。朝鮮銀行券に對して日銀券は支拂の義務は依然として存在してゐる。又内地に於ては朝鮮銀行は通用力を有し

### 大日本帝國政府

あつから、内地から内地に送金せられる場合には、送金ルートが郵便局、或他の銀行であつても結局は内地に於て朝鮮銀行が日銀券を拂出さねばならぬから、朝鮮銀行は朝鮮銀行券の發行に應じて常に或る程度の内地日資金を日銀券又は日銀への預け金等の形に於て準備しなければならぬ。

第二の相違点は、大藏大臣の定めた發行制限額を超えて限外發行をなす場合、日銀は制限外發行税の規定はないが、朝鮮銀行はそれがあることである。これは制限外發行は多ければ多い程、發行銀行に利益を齎すものである。日銀は政府以来特殊法人となつて出資証券に對する一定の配当以上の利益金は全部政府に納付するが、朝鮮銀行は株式会社であるからである。

第三の相違点は、兩者とも最高發行額制限制度が行はれてゐるにも拘らず、朝鮮銀行に對しては昭和十五年法律第十五号（朝鮮銀行法及台灣銀行法、臨時特例ノ件）第三條第二項に於て

大藏大臣は必要と認めるときは、朝鮮銀行及台灣銀行に對し前項ノ規定ニ依り保有する金貨、地金銀、~~日銀券~~銀行券及日本銀行券に對する当座預け金ノ



總額ノ銀行券發行高ニ對シテ割合ニ関シ必要ナル命令ヲ為スことヲ得  
ト規定されてゐることである。この規定により、現在朝鮮銀行は鮮銀券の發行  
額に對シその三分の一は金貨、地金銀、日銀券及び日銀に對する當座預金を  
保有しなければならぬことになつてゐる。即ちこの規定によつて鮮銀は日銀券或は  
日銀に對する當座預金某の形に於ける内地通貨金の或る程度の手持たなくては最  
高發行制限額が如何に大きからうとも無暗に鮮銀券を増發することは出来な  
い。又例へば内地から朝鮮への投資や旺盛で内地資金が大量に朝鮮に送金され  
いふやうな場合にはその送金も鮮銀に於ては鮮銀券の増發といふ形で現はれるが鮮  
銀にとつてはそれだけの内地通貨金の重さだけがある譯であるから限外發行をして  
も別に危険な發行とは云へない。斯く考へれば鮮銀に於ては最高發行制限額が日銀券の重さだけであ  
るが内地通貨金の重さで例へば鮮銀に於ては最高發行制限額が日銀券の重さだけであ  
るが内地通貨金の重さで例へば鮮銀に於ては最高發行制限額が日銀券の重さだけであ  
以上の外日銀券と異する性格はその財政との關係に於てこれを見ることが出来る  
日本銀行は公債を引受けることによつて國の財政資金を送出するが朝鮮銀行は  
總督府特別会計の公債を所謂生息公債であるが公債はあく且内地に於て起債  
され、實價上朝鮮財政の爲に直接に資金を送出すことがない。従つて財政



の膨張を要する。朝鮮銀行の膨張は、主として内地からの國庫券の發行と現貨の  
中央銀行の通貨政策の重要手段たる公開市場操作、就中、手持公債の賣  
操作は日銀の盤に行ふところである。朝鮮銀行としては寧ろ市中銀行と同様  
日銀券を公債を買ふる公債消化に協力する立場にある。従つて日  
銀に於ける保有公債額の増加は公債消化の不振、通貨膨張を示すものであ  
り、朝鮮銀行の公債保有増加は公債消化の跡を示すものであつて、朝鮮銀行の膨張を  
反映するものではない。

朝鮮銀行の膨張について附言するべきことはその價值が日銀券と全く等しいこと  
である。この点からいへば、朝鮮銀行の膨張は内地の資金の不足を平當なくして、朝鮮銀行  
を潤はせることは出来なかつた。然しこれを取つたからいへば、日銀券の發行に對し  
朝鮮銀行は城壁の内側に向つて為替相場を立つことになつた。或は内地の通貨を飽  
くして維持せんとすれば、朝鮮銀行は破産せざるを得ないであらう。

(折上り國定規格B5(二六×三二七)紙)

第三章

朝鮮

に於ける通貨膨張の進展の経緯

その特徴と主要な政策

前掲第三表に見る如く、朝鮮銀行の發行高は支那事変以來朝鮮  
經濟力の飛躍的伸展に伴ひ年々著しく増大の一途を辿り、太平洋  
戦争を契機として更に一段の増勢を示し、昭和二十年六月末現在に於  
ては實に四十三億三千七百九十七万円(前年同期比二十五億二千五百七  
万円増)に達し、同行創業以來の最高記録を示すに至つた。これを支  
那事変勃發直前たる昭和十二年六月末の發行高一億五千四百十  
六万円に對比すれば、四十一億八千六百五十九万円の増加であるが、更に太平  
洋戦争勃發の直前たる昭和十六年十一月末の發行高六億一千五百二十  
四万円に比較すれば、三十七億二千二百七十三万円を増加し、この増勢は昭和十  
九年に於て特に著しく、昭和十九年一月以降同二十年六月に至る各月末の  
發行状況を夫々前年同期に比較すれば、次の通りである。

發行高

対前年比較増

同上割合



昭和十九年一月末	一、四七六、九二八	六、九、八七七	七〇、三%
同 二月末	一、五二五、一六四	六、六、四四四	七七、八
同 三月末	一、五七三、三八四	七、三、四三三	八七、五
同 四月初	一、六二四、三三八	七、五、六八八	九四、四
同 五月初	一、六七四、八二〇	八、五、二一〇	九九、九
同 六月初	一、八一七、三〇一	九、五、四七九	一〇〇、一
同 七月初	一、九一三、九四八	一〇、三、七九二	一一四、五
同 八月初	二、〇六二、〇三四	一一、三、五三五	一二〇、八
同 九月初	二、二五六、〇五八	一二、六、一〇三	一二六、五
同 十月初	二、四四五、九七〇	一三、六、九〇九	一三五、六
同 十一月初	二、六九〇、八四九	一四、五、四三七	一四七、六
同 十二月初	三、一三六、〇九二	一六、六、三二六	一一三、八
昭和二十年一月末	三、二四五、五五八	一七、八、六三〇	一一九、七
同 二月初	三、四四五、三六八	一八、八、二〇四	一二三、六



同	三月末	三五七四四一八	二〇〇二、〇三四	一三七、三
同	四月末	三、七九八、九四五	二、一七四、七二七	一三三、八
同	五月末	四、〇四九、八三四	二、三七五、〇一四	一四一、八
同	六月末	四、三三七、九七五	二、五二〇、七二四	一三八、七

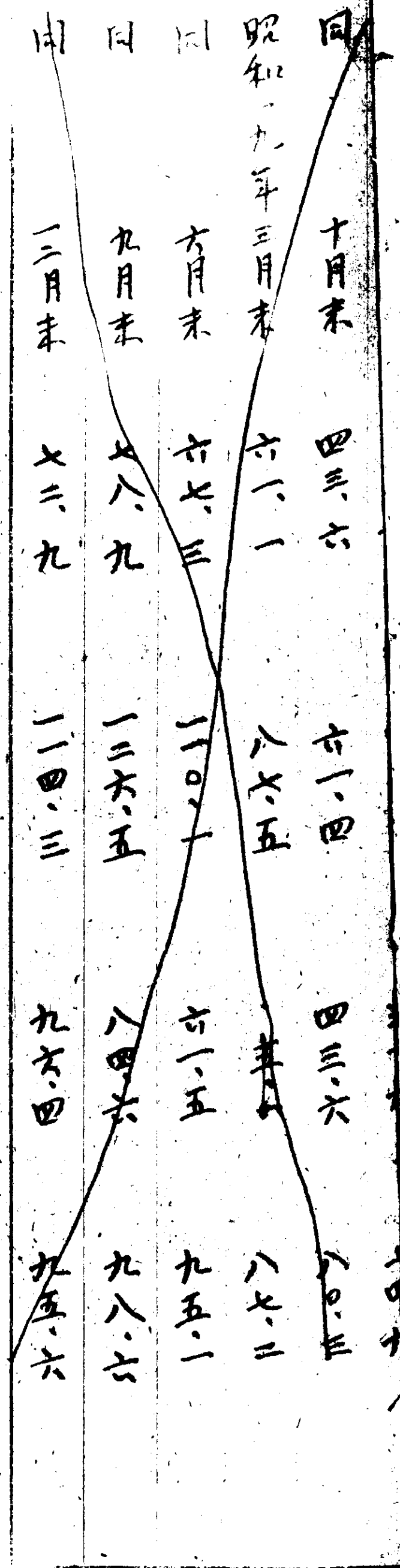
今永と日銀券、台銀券、滿洲中銀券等他の内系銀行券に比較すれば、その対前年膨脹率は左の通り、是れ他を凌駕し、昭和十九年三月末

昭和十九年三月末と比べて、  
 第一、内系銀行券対前年膨脹率表

昭和十九年	日銀券	台銀券	滿洲中銀券	其他銀行券	合計
一 月	九七、一七	四五、〇	七〇、〇	四一九	四八、〇
二 月	一〇、一八〇	五五	一五二五	七八	四二八
三 月	一〇、九九二	六一	一五七二	八八	四五七
四 月	一一、四八八	六四	一六二四	九二	四七七
五 月	一一、六五五	六七	一六七五	一〇〇	四八八
六 月	一二、五三三	六七	一六八七	一一〇	五二〇
七 月	一二、六五八	七三	一九一四	一二五	五四五
八 月	一三、一八三	七六	二〇六二	一二一	五六九
九 月	一三、七二七	七九	二二五六	一二七	六〇八
一〇 月	一四、四三九	七九	二四四六	一二六	六六〇
一 月	一五、二五七	八〇	二六九一	一二八	六九六
二 月	一七、七四六	七三	三一三六	一二四	六九六

(進期) 昭和十九年三月末





(折上り國定規格B5-1公×2575)

従来鮮銀券の発行高は一月以降漸次收縮して六月又は七月に於て年中の最高値となり農産物の出廻りと共に八月以降増勢に轉じ十二月に至り年中の最高を出現するを例としたが昭和九年に於ける季節変動は全く其の影を潜め逐月膨脹の一途を辿つた

一方鮮の現金通貨の流通状態を見るに左表の如き趨勢を辿りこれを内地のそれに比較するも異常の膨脹振りを示してゐる

第七表 対鮮手形交換高の推移 (單位千円)

年次	対日		対米	
	交換高	指数	交換高	指数
昭和一大年中	五、一八四・七四	一〇〇・%	四、八五九・九	一〇〇・%
同 一七年中	六、五三三・四八五	一二五	四、六六九・二	一一六
同 一八年中	七、七六六・七四〇	一四九	五、八三八・九三〇	一三〇
同 一九年中	九、五〇八・八八三	一八三	六、三三〇・九四五	一四五

(註) 朝鮮銀行の通貨は、右の如き通貨膨脹を反映して物價は急騰し京城卸賣物價



指数は左の通り昭和十一年六月末に比して同十九年末には二・二七倍の増進を著しぬ地の一・八五倍を上廻つてゐる。

第八表 物價指数の朝鮮比較

	京城	東京
昭和十一年六月	一〇〇%	一〇〇%
同 一六年末	一六四	一三五
同 一七年末	一七三	一五〇
同 一八年末	一九三	一六四
同 一九年末	二一七	一八五
(註) 朝鮮銀行資料による		

而もこれは公定價格を基準とする東京經濟懇談會朝鮮委員會の調査によれば昭和十九年六月末に於ては鮮内閣物價は公定價格の平均大倍に上つてゐる。加ふるに物々交換、闇取引の盛行、生産の減退等を考慮すれば朝鮮のインフレーションは終戦前に於て悪性化の懸念

が著しく濃厚であつたと見なければならぬ。

#### 第四章 通貨膨脹の原因

朝鮮に於ける通貨膨脹の原因は概括的には左の諸点を挙げることに出来る。

一 朝鮮に於ける豊富なる地下資源、電力等の開發を始めとして各種重要産業の開發が愈々激進を極めこれに伴ひ設備資金の需要が増加した点。

二 此等事業金の標業開始に伴ひ運轉資金の使用が増加した点。

三 近來各種商取引の現金取引化の傾向愈々濃厚となるに伴ひ物價、労働銀が漸騰した点。

四 輸送難に伴ひ資金回轉率が鈍化した点。

五 統制經濟の進展に伴ひ糧穀其の他の統制物資の買上資金が一瞬に多額放出せられた点。

六 生活必需品の買入手難等に伴ひ手持現金が増加した点。



七、北支及び滿洲より送金等に伴ひ内地インフレーションの緩和が  
鮮内に波及した事

八、政府振布資金の増大した事

就中

一、近來一般農民は農産物の價格引上、奨励金、報奨金交付等  
により現金の入手増加した外穀類の供出制度は收穫物の殆んど  
全部を短期間に換金する事となつた事

二、重要産業方面の拡大増産に伴ひ人的供出増強の結果一部  
家族の離農就労増加し従つて従来に増して現金を入手するに至  
つた事

三、自由労働者殊に日韓人夫等の需要は人手不足の折柄最近  
頗る増加し従つて此等の雇傭労働者は相當昂騰した事

等の事情により従来殆んど所持金のなかつた下層階層の所持  
金増加が特に顕著であつた事も此の階層者は概ね又首で

金融機關の利用に疎く又奥地民衆は地理的關係等を金融機關  
の利用が出来ないものもあり、これに加へ前記の通り諸物資賣買の  
現金取引は必然的に配給品並に日用品物資の購入にあつた爲  
常に現金所持を餘儀なくせし従つて發行された鮮銀券は回収に  
至らず流通市場に滞溜し勢ひ發行増強を誘致した事  
一面滿洲から南下する旅客交換用として朝鮮銀行から滿洲  
中央銀行に補給したもの或は鮮内に流入した滿洲國幣の交換  
用として使用したものの等國幣交換關係による増強も亦看過し  
得ない一要因がある 昭和十九年一月から同年十月迄の十ヶ月間  
に鮮内に於て交換せられた滿洲國幣は九千八百八十八萬円に達  
し滿洲中央銀行に旅客交換用として補給した鮮銀券は一億三  
千三百四十萬円の多數により兩者合計二億二千五百二十八萬円に  
前年同期の一億三千九百五萬円に比し実に九千六百二十三萬円の増加  
を示した



	鮮内交換高	滿洲中央銀行 兌換高	合計
昭和十五年	四〇、三八六 <small>十兩</small>	三三、七一七 <small>十兩</small>	七三、一〇三 <small>十兩</small>
同 十六年	三四、八三六	三四、五一〇	六九、三四六
同 十七年	四二、二四〇	七五、三六六	一一八、五〇六
同 十八年	六六、六六五	一二四、九〇〇	一九一、五六五
同 十九年	九一、八八〇	一三三、四五〇	二二五、二八〇

二、主要貿易国は旅行者の現金所持額の増加及び陸境国境  
 地帯に於ける在満居住者の鮮内消費増等正常なもの外  
 彼我物價差に基いた対満密輸出物資の代金と推定せられる  
 差額もあり、いれどもこの現象は滿洲に於ける高物價の趨勢に伴ひ  
 益々増大するは当然であるに、鮮内物資の不当流出、通貨膨脹の一因  
 となし、鮮銀券の増発とも誘致するものと、なり、通貨政策乃至物價政  
 策上の責任を許さざる問題である為、國幣の流入流通阻止の為  
 種々行政上の措置を講じたが、遂に昭和十九年七月外國為替管理

理法施行規則を改正し

- 一、旅行者による國幣携帶輸入額を最高二百圓とし
  - 二、其の取得處令を原則として禁止
- した外兩替機關に於ける交換限額を極力圧縮して其の流入流通  
 を抑制し、に努めた



次に朝鮮銀券膨脹の原因を昭和十九年上期（自四月至九月）に於ける朝鮮銀行のバランスシート面から考察して見やう

昭和十九年上期期中に於ける朝鮮銀券発行回収高は

朝鮮 発行 五四八 〇〇〇圓

関東州 〃 一四四 〇〇〇圓

滿洲、内地、支那 回収 八 〇〇〇圓

差引発行超過高 六四八 〇〇〇圓

（一）あつて朝鮮に於ける発行超過が全体の八十分（約四八倍）を占めてゐる。この朝鮮

の発行超過の原因を同行預金貸出の計数に就いて見れば

（一）昭和十九年三月末預金貸出高 五〇七 〇〇〇圓

同 九月末 四六二 〇〇〇圓

差引発行高 四五 〇〇〇圓

（二）昭和十九年三月末貸出残高 八四九 〇〇〇圓

同 九月末 七五七 〇〇〇圓



差引回収高

八四

（朝鮮分を除いた内）

とあり差引三千九百万円の回収超過を示し更に同様に於ける金銭の計数に於いて見れば預金増五億五千万円貸出増億二千二百万円差引五億二千八百万円の回収超過となり結局預金貸出が銀券増の主因でないことを明示してゐる

次に同期中に於ける朝鮮銀行内外各店の本支店間為替受拂高と見れば左表の通りである

地域別	受入高（仕向）	排出高（被仕向）	差引受拂（△印高）
対内地	一〇九九	一七二二	△六二三
対関東州	六六	二四	四二
対北支	一六	六六	△五〇
対中支	二	一五	△一三
計	一一八三	二八一七	△六三四

即ち朝鮮各店の鮮外への受取超過額（鮮外排出超過額）は六

（折上り國定規格B5（三三×五七））

億三千四百万円に上るがこれから前記預金貸出による資金回収高三千九百万円を差引した五億九千五百万円が鮮内資金支拂超過額となりこれは大体同期中の鮮銀券發行超過額に一致する  
これによつて鮮銀券増の原因は主として為替面にあることを知り得るであらう 次に地域的に見ればその支拂超過（被仕向）は対内地等係に甚くも大部分を占めこれが鮮外からの受取超過の最大原因を占めてゐる

朝鮮銀行内外本支店対内地為替受拂表

（昭和十九年上期中）  
単位百万円

為替種別	受入高（仕向）	排出高（被仕向）	差引受拂（△印高）
普通送金	六九三	六二八	六五
國庫送金	三〇八	五三一	△二二三
取立為替	一二	七四	△六二
他為替	六七	四七二	△四〇五



其の他

計

一九	七	一二
一、九九九	一、七一二	一、六二三

右の普通送金は受拂金額は多額に上るが受拂は略々相殺せられて  
有り通貨膨張の大きな原因となつてゐない 仕向普通送金は殖  
産銀行、金融組合聯合会、商業銀行の國債買入代金、其の他  
の地有債証券投資一億四千百万円、<sup>銀行の</sup>輸入手形代金の決済一億二千白  
万円を大口とし、被仕向普通送金の半額は鮮内事業会社の日本  
の地資金の取寄せ二億五百万円である、この内地からの事業資金取  
寄せは朝鮮全体で昭和十七年一億二千四百百万円、昭和十八年一  
億五百万円の巨額に上るが実体面に於ても略々内地からの物資移入  
によつて裏付けられて居りこれを以て朝鮮インフレーションの主因と考へるこ  
は出来ぬ

朝鮮銀券増発の要因としては他店為替戻四億五百万円、國庫送  
金二億二千三百万円の拂出超過が決定的である 他店為替戻日

(折上り國定規格B5(二×五)様)

滿洲國幣交換に基く滿洲中央銀行の鮮銀東京支店への拂込額  
一億三千百万円(鮮銀の滿洲國幣交換高五千四百百万円並に中銀への  
交換資金神給高七千七百万円)及び滿洲興業銀行からの被仕向  
送金の資金として鮮銀東京支店を通じて受入れられたものが  
大部分を占めてゐる 従つてこれは純然たる内地からの送金と見えて  
ゐるが實價的には滿洲からの送金である 朝鮮銀券増発の  
最大要因となした滿洲國幣交換(昭和十九年全体では二億六千  
八百万円に達する)並に滿洲からの送金は滿洲國幣と鮮銀券との  
価値の差を利用する実質貿易代金並に獨り國幣の代り  
華北、華中の縣銀券、儲備券等大陸内系通貨の前途に不  
安を感じた逃避資金が滿洲國を仲介として鮮内に流入したことを  
意味する 換言すれば鮮銀券増発の最大の要因は大陸イン  
フレーションの影響者であつたと断じ得るであらう  
その増発の要因は軍事費を中核とする國庫送金にある 昭和



十八年度軍事費は總額三億六千七百九十九萬圓に於ける前年々年の計は三億八千九百九十九萬圓に於けるに  
國庫送金としては朝鮮事業公債法に基く公債金收入がある  
この公債金收入は前年々年の計は三億六千九百九十九萬圓に於けるに  
昭和十九年より、躍進債五千萬圓と成つてゐる

朝鮮事業公債法に基く公債金收入表 (單位千圓)

年度	公債金收入	年度	公債金收入
昭和十一年	二、〇一、一一一	日一八年	三、七九、一五五
同 十二年	五、〇〇、〇三三	日一九年	六、二五、三四八
同 十三年	八、五三、一一九		
同 十四年	一、三四、〇一七		
同 十五年	一、五八、八八六		
同 十六年	一、四九、一〇九		
同 十七年	一、四四、〇五五		

(折上り國定規格B5二二×三三)

以上によつて朝鮮の戰時インフレーションの原因は其の凡そはなほに  
しても主な原因は大陸インフレーション並に内地インフレーションの影響であ  
る事が明かになつたであらう  
之を要するに内地及び滿洲、華北等より巨額の資金流入が自動的に  
朝鮮銀券の増発を齎し他方資金の吸収がこれに伴はず、これがイン  
フレーションを進展せしめたるのである

第五章 インフレーション対策と其の業績

インフレーションの昂進に對應して朝鮮に於ける貯蓄獎勵は内地  
と同様昭和十三年以來これを拡充強化して來たが官民一致の協力に  
より第十三表に示す通り累年目標額を遙かに突破する好成績  
を収めた

貯蓄増進の方策に就ては貯蓄組合の整備、國債債券の隣保  
消化等大體内地に於けるものと大同小異であるが今預貯金、國債



債券等に付其の業績を挙げては次の通りである

第十四表

各種預金累年比較

(単位千円)

年次別	銀行預金	金庫預金	信託預金	郵便貯金	貯蓄預金	小口貯蓄	合計
明治四三年	1,000	100	100	100	100	100	1,500
大正六年	1,200	120	120	120	120	120	1,800
同 一三年	1,500	150	150	150	150	150	2,250
昭和六年	1,800	180	180	180	180	180	2,700
同 一三年	2,000	200	200	200	200	200	3,000
同 一四年	2,200	220	220	220	220	220	3,300
同 一五年	2,500	250	250	250	250	250	3,750
同 一六年	2,800	280	280	280	280	280	4,200
同 一七年	3,000	300	300	300	300	300	4,500
同 一八年	3,200	320	320	320	320	320	4,800
同 一九年	3,500	350	350	350	350	350	5,250

第十五表

銀行所有國債高累年比較

(単位千円)

年次別	所有高	指数
明治四三年	100	100
大正六年	100	100
同 一三年	100	100
昭和六年	100	100
同 一二年	100	100
同 一四年	100	100
同 一五年	100	100
同 一六年	100	100
同 一七年	100	100
同 一八年	100	100
同 一九年	100	100

(註) 銀行所有國債高累年比較 (単位千円)



第廿表

金融機關以外，國債、債券消化狀況

(單位于內)

年度別	國債	貯蓄債券	報國債券	特別報國債券	合計
昭和二年春	郵 八五。				八五。
同 一三年春	郵 五八六八 地 一八五。	六八八 一八五。			六五五六 一八五。
同 一四年春	郵 二四二五 地 二四三。	二四二五 二四三。			一八八四 二四三。
同 一五年春	郵 二一八八 地 四七。	二二五六 六三四七 四七。	三六八三 六六八六 三三。		一六八二六 六〇五五 五、三五四
同 一六年春	郵 一五、六五五 地 二二五	五、五四一 三八五。	五、二〇九 三三。九 一四三	二二四 三八五五	二二、六二一 一、〇一四 二四六五
同 一七年春	郵 五、四〇二 地 一七三九	六、九〇三 八二〇。	七、七六一 五、二〇〇 六四九	一〇〇。 三六。	五三、一六六 一、〇一〇 三、七九
同 一八年春	郵 四、八六六 地 五五五	一、三九〇 一四〇九七 二、八八七	五、五五九 五、三八〇 九一一	四五〇。	六三、三一四 二、三九七 四、三六一

計

[illegible]

右の三表によつて明かなく金融機關に於ける各種預金は昭和十九年  
 其員末現在 昭和十九年三月三十一日現在 萬八千兩となりこれを同十三年の一億  
 八千四百九十七万五千圓に比すれば實に 昭和十九年三月三十一日現在 著増を示  
 し明治四十三年末の五水の 昭和十九年三月三十一日現在 倍限に達してゐる

又國債の銀行保有額は昭和十九年九月末現在で五十一億五千四百九十八万一千円に達し同十三年に比し五十一億一千一百万円の増加を大正六年に比し実に五百七十六億強の増を示してゐる。尤もこの増は保有額の區半以上は朝鮮銀行の保有する國債が大部分を占めてゐる。同行所有の國債の約八割位のもうは北支那銀預金見合の國債で



あるからその分だけ内預金を資源とするものではないがこれを  
控除して考へる必要があらう

次に金融機関以外に國債、債券の消化状況は昭和十二年が  
以降同十九年九月末迄に國債一億五千二百餘万円、貯蓄債券  
八千餘万円、國債債券四千四百餘万円、特別報國債券一千二百  
餘万円計二億八千九百餘万円に達し、何れも貯蓄債券上豫期  
以上の成果を収めた

尚貯蓄増強上朝鮮として前述の特殊事情に鑑み種々の施  
策を創案實施したが其の主な事項を挙げれば左の通りである  
一農林水産物共販代金の天引貯蓄

人によつて割と点める農民が貯蓄に協力するに否かは貯蓄増成  
上影響するところ甚大であるが農林水産物共販代金に對して  
相当高率の天引貯蓄を實施して極めて良好な成績を挙げた  
二買物遊興貯蓄

消費部面を補促して一定限内の買物及び遊興をする者に対し  
貯蓄の貯蓄を添加する方策を採り良好な成績を挙げた

### 三 割増金附定期預金

内地に先鞭をつけ昭和十八年から百円を一口として一年据置の定期  
預金等に対し一等百円以下の割増金をつける制を創設し  
豫期以上の好成績を収めた

### 四 愛國債券の発行

自由労働者等比較的金融機関に親しまつた階層の激増  
せる収入を吸収する方策として割増金が著しく多額あり而も  
當分の利便の極めて高い富義類似の小割債券を朝鮮殖産銀  
行に發行せしめて大なる成績を収めた△





↑成績を収めた

以上の外特に新興所得階級たる労働者の貯蓄増強の爲工場、事業場又は鉱山に於ける労働者を以て組織する職域貯蓄組合の強化拡充及び一般に貯蓄の機会を多からしめる目的を以て預金事務の普及を取極め金融政策の簡易店舗を増設した等種々の対策を講じた

もとより、<sup>朝鮮に於ける</sup>貯蓄目標額を達成するの決定自体に就ては若干問題ありこれを日本全体の目標額に比すれば僅に五％に過ぎずあつたとは古へ所地と異なる国別な貯蓄基盤のトに於てよく與へられた貯蓄目標を突破し得たと云ふことは朝鮮をインフレーションの慘害から救済しようとする官民の異なりが原因であるといふべきであらう、更に御智存は昭和十九年十二月官民の権威者を組織して経済安定対策委員会を設置してインフレーション克服の爲の綜合施策を決定し直ちにこれを実行に移せんとしたのが終戦を迎へて結果を見るに至らなかつた



(折上り國定銀格B575X250)

第二表

朝鮮銀行券地域別流通見込高

(単位千円)

年次	總發行高	鮮南流通見込高	其の他地域流通見込高
大正五年末	四六、六二七	四三、九二七	二、七〇〇
昭和元年末	一三六、三六〇	一〇一、二七八	三五、〇八二
昭和元年末	一一〇、九三六	六六、三八七	三四、五四九
昭和二年末	一〇〇、九〇九	六八、六六六	二二、二四三
昭和三年末	二一〇、六五四	九〇、二五七	一三〇、三九七
昭和四年末	二七九、五〇一	一六〇、一八二	一一九、三一九
昭和五年末	三二一、九七七	二二二、八八〇	一〇九、〇九七
昭和六年末	四四三、九八七	三七四、二五四	六九、七七五
昭和七年末	五八〇、五三三	四八六、一四六	九四、三八七
昭和八年末	七四一、六〇七	六二二、〇六九	一二〇、五三八
昭和九年末	九〇八、六四六	七七一、四一三	一三七、二三三
昭和十年末	一四六六、七七六	一二六一、六四五	二〇五、一三一







第一表		鮮办陸海軍經費調 (單位千円)	
官廳名		自昭和十八年四月一日 至昭和十九年三月三十一日	自昭和十九年四月一日 至昭和十九年九月三十一日
朝鮮軍經理部	168.797	189.584	
京城師團經理部	18.146	17.820	
平壤師團經理部 朝鮮中五三〇部隊經理部 (羅南師團)	8.905	11.301	
	16.529	9.653	
仁川陸軍造兵廠	81.189	90.240	
平壤陸軍兵器補給廠	4.806	2.685	
平壤陸軍航空廠	4.864	2.851	
釜山要塞司令部	2.044	1.502	
羅津要塞司令部	957	506	
羅津陸軍飛行學校 太田山陸軍飛行學校 太田山陸軍飛行學校	481	473	
太田山陸軍飛行學校	761	246	
陸軍燃料本部京城給所	0	4	



鎮海海軍施設部	436	496	
鎮海防備隊	779	383	
鎮海海軍航空隊	481	356	
第四海軍航空廠(鎮海)	552	815	
第五海軍燃料廠(平壤)	6,841	4,047	
鎮海海軍經理部	50,355	51,152	
海軍武官府	0	4,373	
元山海軍航空隊	291	551	
合 計	367,214	389,038	

(註) 朝鮮銀行 國庫 課 調 に 係 る

(折上り 國定規格 85×115 厘米)

(以下 記号 適用 圖 5 等)

第四表

朝鮮事業公債法に基く公債金收入表 (單位千円)

年 度	公債金收入
昭和一一年度	26,121
" 一二年度	51,003
" 一三年度	86,319
" 一四年度	134,017
" 一五年度	156,886
" 一六年度	149,109
" 一七年度	166,673
" 一八年度	164,055
" 一九年度	366,546
" 一九年度	379,195
" 一九年度	588,344
" 一九年度	625,348

(註) 昭和十一年度 在任 決算 十一年度 決算 は 豫 算  
朝鮮總督府資料による決算額を示す



3/48

第三表  
第一表

貯蓄奨励実績額  
(財務局管理課調)  
(単位 千円)

年次	目標額	実績額	対目標割合
昭和十三年度	200.000	269.979	135%
十四年度	300.000	390.021	130
十五年度	500.000	576.329	115
十六年度	600.000	754.854	125
十七年度	900.000	995.175	110
十八年度	1,200.000	1,524.119 (前年度現在)	127
十九年度	1,500.000 (前年度現在)	526.775	35.1

(註) 昭和十九年度の実績は第一四半期末現在(自四月至六月)に於けるもので

その達成歩合は總目標額十八億内中私人の株式社債に對する取

實見込額三億円を除き各道に割当てた十五億円(目標額中括弧書)

に計するものである



第一二表

昭和三十三年度 十四年度 十五年度 十六年度 十七年度 十八年度 十九年度	貯蓄 実績 内 年比較 (貯蓄調査部 単位百万円 全国に對する 朝鮮の比率 %)			所載 実情と其の殆ど状況
	日本全体	朝鮮	朝鮮の比率 %	
昭和三十三年度	7,333	271	3.64	
十四年度	10,202	390	4.20	
十五年度	12,817	576	4.46	
十六年度	16,020	754	4.71	
十七年度	23,457 (目標)	995 (目標)	4.25	
十八年度	27,000 (目標)	1,200 (目標)	4.45	
十九年度	36,000 (目標)	1,800 (目標)	5.00	

(折上り國定規格B5六×三三耗)



昭和22年10月28日

日本人の海外活動に関する研究(?)  
朝鮮の貿易

4078	334.6
63	678.2
	732.6?



貿易

第一章 倭合前に於ける朝鮮貿易の概観

明治九年二月日本と韓國との間に締結された江華条約は鎖國李朝の戸開放の先端となり、爾來米（同十五年）、英独（同十六年）、伊露（同十七年）、佛（同十九年）、澳（同二十五年）、白（同三十四年）の諸國は相踵て韓國と通商條約を締結し、清國亦明治十五年通商規則を約定するに至つた。

斯くて韓國は沿岸の諸港並に諸要處を左の通り開放し、茲に朝鮮近代の貿易の發足を見るに至つた。今明治九年の開

開港市場	開放年月	開港市場	開放年月
釜山	明治九年十月	元山	同十三年四月
仁川	同十六年一月	楊花津	同十六年八月
京城	同十六年	慶興	同二十一年
鎮南浦	同三十年十月	木浦	同三十年十月

三、一〇、三八

陸

38p  
共44枚

334.6  
678.2  
7372.63



平壤 同三十一年八月  
馬山 同三十二年五月  
龍岩浦 同三十九年八月  
新義州 同四十三年八月  
今明治九年の開港に始まる近代貿易の路を敷き見ると次の通りである。

第一表 自明治十年七月一日至同四十三年貿易の推移（単位千両）

年次	輸入額	輸出額	入超額
自明治十年七月一日至同十五年六月三十日	四、六〇三	五、一〇五	(十) 五〇二
明治十九年	二、五三六	五、六六六	一、九六九
同二十年	二、八三五	八、二四	二、〇一一
同二十一年	三、〇七六	八、九七	二、一七九
同二十二年	三、四〇九	一、二六五	二、一四四
同二十三年	四、七五三	三、五七六	一、一七七

(折上り國定規格紙二公二毫紙)

年次	輸入額	輸出額	入超額
同二十四年	五、二八五	三、三九五	一、八九〇
同二十五年	四、六二二	二、四六八	二、一五四
同二十六年	三、九九五	一、七二三	二、一八二
同二十七年	五、九二三	二、四〇三	三、五二〇
同二十八年	八、三三九	二、七三三	五、六〇六
同二十九年	六、六六九	四、八六六	一、八〇二
同三十年	一〇、一七九	九、〇八五	一、〇九三
同三十一年	二、一九二	五、八一三	六、一〇八
同三十二年	一〇、二七九	五、〇四九	五、二二九
同三十三年	二、〇六九	九、五六八	一、五〇〇
同三十四年	一四、七七七	八、五四二	六、二三四
同三十五年	一三、六九二	八、四六八	五、二二四
同三十六年	一八、四一〇	九、六六九	八、七四一
同三十七年	二七、四〇二	七、五三〇	一九、八七一



同	三八年	三二、九七一	七、九一六	二五、〇五五
同	三九年	三〇、三〇四	八、九〇二	二一、四〇二
同	四〇年	四一、六一一	一六、九八三	二四、六二七
同	四一年	四一、〇三五	一四、一一三	二六、九一二
同	四二年	三六、五四八	一六、二四八	二〇、三九九
同	四三年	三九、七八二	一九、九一三	一九、八六八

右の表に基き、輸出の物的構成を説明すれば輸入品の大率は綿織物を首めとする機械生産の被服材料で綿製品の輸入総額に対する割合は全期間を通じて三割台乃至八割台を堅持してゐる。尤の絶対額に於ては増加の一途を辿り明治二十二年には百万方十万円、同三十年には五百万円、同四十年には一千二百万円の飛躍振りをあつた。

翻て輸出貿易に就て見るに、基礎不振の一語を以て評し盡くされる手工業しかもたなかつた朝鮮としては農産物がその大部分を占めたことは當然と方はねはならない。

第二表 輸出額に於ける農産物の地位 (単位千円) (折上り國定規格B5(二〇×五))

年次	輸出総額	農産物輸出額	農産物輸出額の割合
明治二十年	一、六九八	一、五〇二	〇、八八
同 二七年	二、三一一	二、二一九	〇、九一
同 二八年	二、四八一	二、三二五	〇、九三
同 二九年	四、七三八	四、五三二	〇、九五
同 三〇年	八、九七三	八、七一二	〇、九七
同 三一年	五、七〇九	五、四三八	〇、九五
同 三二年	四、九七七	四、五〇八	〇、九〇
同 三三年	九、四三九	八、六九六	〇、九二
同 三四年	八、四六一	七、六八七	〇、九〇
同 三五年	八、三二七	七、八四八	〇、九四

斯く農産物輸出額は輸出総額の九割以上を占めるのであるがそれは米(輸出総額の二割乃至四割以上)及び大豆(輸出総額の二割乃至四割以上)の外麦類、人蔘、棉、生牛、牛乳等であつた。而して金銀を別とすれば此の外は



僅か鉄鉱物、皮革、肥料等、を輸出し、總輸出品目をなしてゐた

## 第二章 併合後に於ける朝鮮貿易の進展

### 第一節 朝鮮貿易の躍進

朝鮮の貿易は併合の行はれた明治四十三年には總額五千九百万円に過ぎなかつたが併合以来産業、金融、交通等經濟機構の整備發達に伴ひ漸次その面目を一新し殊に歐洲戰亂勃發後その好影響を受けし内地、滿洲、支那等に於ける物資の需要旺盛となつたのみならず、これが爲製造工業勃興の機運を促進しその結果輸移出に於て農産品、水産品、鉱産品の増進は勿論工業品を加へるに至つた。輸移入に於ては併合以来富力の増進、民衆の向上に伴ひ各種生産品の需要漸増し又一面内地資本の流入に甚く事業界の進展により各種企業材料及び原料物資の輸移入に長足の進歩を見るに至つた。

併合當時即ち明治四十三年の貿易額は輸出額一千九百万円、輸入額三千九百万円、計五千九百万円であつた。これに比し第一次世界戰争の勃發した大正三年には輸移出三千五百万円、輸移入六千三百万円、計九千八百万円に



達し引續き一般經濟界空前の膨脹にあり大正八年には一躍輸移出入二億二千百万円、輸移入二億八千三百万円計五億五百万円となり、係合當時の貿易額に比し八倍半の躍進を示した。然るに大正九年には戦後不景氣の襲来により前年に比し輸移入とも不振となつたがその後財界の恐慌、大正十二年の大震災、昭和三年の金融恐慌等度ほどの不祥事に遭遇して幸い朝鮮の産業は極めて順調に推移し又一面は大正九年の關稅改正に伴ひ滿洲及び内地間輸出入貨物の一部朝鮮に於て通關手續をやすくなり又同十三年移入税の大部分撤廃等の好影響を受け大正十年以来逐年増進の一途を辿り昭和元年には既に輸移出三億六千二百万円、輸移入三億七千二百万円計七億三千五百万円の膨脹を示し更に昭和三年には輸移出入總額七億七千九百万円を算し明治四十三年に比し十三倍強、戦時好景氣時代たる大正八年に比し一倍半の増進を示した。併し昭和四年年末の内外事情の悪化と物價の崩落は翌四年以降、貿易に反影し漸次不振に傾き同五年に至り遂に輸移出入總額五億三千二百万円に

(折上り國定規格B5二二×五七種)

轉落し八年前の大正十三年に比肩するに至つた。然るに昭和七年来対外的には田爲替の低落と滿洲國の出現とにより、対内的には農山漁村の振興及び穀價の上昇による購買力が増進、各種事業の勃興と労働需要の増加等産業經濟の各部門に亘り何れも好調を示した結果増加趨勢を盛りに返し昭和十三年には貿易額十九億三千五百万円に達し更に昭和十四年には支那事變の進展及び第二次歐洲戦争の勃發により生産力の拡充乃至は各種資源の開發増産に拍車をかけ貿易額は輸移出十億六百万円、輸移入十三億八千八百万円計二十三億九千五百万円と云ふ朝鮮貿易史上空前の記録を示しこれを昭和三年の盛況に比較すれば實に總額に於て十五億一千五百万円の激増を呈し明治四十三年に比すれば輸移出に於て五十一倍強、輸移入に於て三十五倍強合計に於て四十倍強の増加となり同一期間内に於ける内地の貿易額の約七倍、台湾の貿易額の約九倍の各増加に比しその顕著な飛躍振りに驚かざるを得ない。尤もこの三十年間に物價は約三倍に騰貴して居り又内地の滿支その他の方面に輸出される中継



貿易が満洲事変以来特に著しく輸出貿易の約半を占めてゐた点を考慮に入れざるは右の数字は若干割引して見なければならぬ。

更に昭和十六年には二十四億九千二百百万の巨額により朝鮮貿易史上最高の記録を樹立した。昭和十七年に入り漸く衰退の傾向を現し前年に比し五千六百万の約二分を減少した。昭和十八年も依然衰退の傾向を辿り上年度の貿易額二十一億三千百万円と前年同期に比すれば一千二百百万の割合にして約六割の減少を示した。

次に左の如き朝鮮に於ける経済的發展段階の区劃に従ひ朝鮮貿易の發展の段階を概観しやう。

- 第一期 併合より大正九年の恐慌まで
- 第二期 大正九年より昭和六年の満洲事変まで
- 第三期 昭和六年より同十二年の支那事変勃発まで
- 第四期 昭和十二年より太平洋戦争まで

## 第二節 第一期（併合より大正八年まで）

この期間には田園税据置期間であつて不利な関税の下に貿易が行はれたが大正三年七月に勃発した第一次世界戦争が列強の対外貿易が停止され朝鮮の市場が田園税制度の為に外国商品に依つて浸蝕されることから免れることが出来た反面内地との貿易関係は移出入税の障壁が存置されたに拘らず殆んど独占的地位を占め朝鮮経済実態の強化と充実に見ることが出来た。

（註）日本政府は併合と同時に従来韓国との間に條約を有し又は韓国に於て最惠國待遇を受くべきこととなつてゐた、独逸、亞米利加合衆國、澳地利、洪牙利、白耳義、清國、丁株、佛蘭西、英吉利、伊太利及び露西亜の各政府に對して日韓併合の成立せることを通告し同時に併合による韓国と列強との條約は当然無効に歸し朝鮮に在留する外國人は従来享有した領事裁判権を喪失して帝國法権の下に立つべきであるが、關税に關しては尚後十年間は旧來のものを振置くべきことを宣言した。



表によつて明かな如く、係合より大正五年頃までは輸移出入總額に於て年々二〇%の外  
 宛の順當な増加率を示して居たが、その後に至る俄然急劇に轉じ、年々六〇%乃至  
 七〇%の増加率を示し、歐洲大戰終熄直後の大正八年の貿易額は遂に五億  
 五千萬圓を示して係合當時の八倍半に達した。



第三表

自併合至大正八年貿易の推移（單位千円）

年次	輸出		輸入		出入合計		指数	入超
	輸出	移入	輸入	移出	合計	合計		
明治四三年	四、五五五	一五、三七九	一、九、九一四	一四、四三三	三、九七三	五、九六七	一〇〇	一、九八六九
同 四四年	五、五二六	一三、三四一	一八、八五七	二〇、〇二九	三、四〇八	七、九四四	一三二	五、五二三〇
大正元年	五、六二七	一五、三六九	二〇、九八六	二六、三三九	五、七二五	八、一〇一	一四八	四、六二九
同 二年	五、九三三	二五、三四四	三二、二五六	三六、六一八	七、六〇三	一〇、三三三	一七三	四、四八二

（對三〇×二二四并定國の十折）

並にニを對内地、對外國別に見ると併合より大正八年までの輸出入總額四億四千四百萬圓に對して對内地移出入額は十二億三千二百萬圓即ち三倍に近々圧倒的

日本政府

地位を占めて居り總貿易額に對して輸出入額二割五分弱、移出入額七割四分強といふ比率となつて居る。併し乍ら併合前から朝鮮貿易の特長を考へて居た入超額が多いことは併合後に於ても毫も改めらるゝに至らず殊にこの期の如きは萬年入超國と稱されて居た内地で（戦争異常氣に患ふれ大正四年から七年に至る四年間に無慮十四億圓の出超を示して高氣軒昂たるものがあるに拘らず貿易差金として未だ見えぬものを有たなかつた朝鮮は幸運なる内地の例によることの出来なかつた。併しこの入超は主として各種建設資材其の他金属材料等朝鮮の産業開發の資源たるべき貨物の入増によつてゐたが故にやむを得ず悲觀するものではなかつた。



第三節 第二期（大正九年より昭和六年まで）

この期は第一次歐洲大戰後の恐慌より滿洲事變の勃發に至る十二年間に該當するものであるが一言にしてこれを蔽へば歐洲大戰による大破壊の創痍期とも云ふべき世界的經濟苦難の長い期間であつた

大正九年三月十五日ニューヨーク市場の株式暴落を發端とする戦後の反動

↑恐怖は本邦財界の全面に及んだが次で大正十二年の関東大震災の突如に

↑財界は極めて難局に立つた ところが禍因となる昭和三年四月には震災

↑手形差後遺置問題を導因として遂に金融恐慌を勃發せしめ支那に於ける

日貨排斥運動の熾烈化と相俟ち外國貿易の不振を齎した 昭和五年には

↑金解禁が断行されたが外に世界的不況の深化あり各國の関税は頻々として引

上げられ銀塊相場は暴落は對支貿易の沈衰となり内には緊縮政策の徹底

化によつて財界は極度に萎縮した 然るに昭和六年に至り情勢は一変した歐洲にある

は英國は九月金本位制を停止し東亞にあるは滿洲事變が勃發し次で我國の金銀

輸出を再禁止とみ波瀾多き本期は終末する反面新なる充足期に立つに至つた



この期間に於ける朝鮮経済の推移は大体内地の経済情勢に順應し一般に不況  
 下に終始せざるを得なかつたが、大正九年三月には會社令の徹底があり八月  
 には旧関税振置期間が満了して関税法、関税定率法等が朝鮮に施行  
 せられ経済制度が一新したことは特記すべきである。朝鮮産米増殖計画  
 の進行は朝鮮を帝國の穀倉に位置付けると共にこの米穀農業の成熟  
 は近代産業に好望性を附與し工業化の基盤を形成したのである。この期の  
 朝鮮経済現實の動向は米穀経済を基軸とした関係上農産物の移出、  
 工業製品の移入といふ貿易形成を模範しかつた関係の下に内地経済とが緊密  
 化を現したことがある。然るにこの期の末期に勃発した滿洲事変は斯くの如き  
 貿易形成を基盤とする朝鮮経済をして対外貿易に騷足を伸ばさしめ  
 る契機となり自らそに朝鮮経済の性格の変化と與へる一轉機をなしたとい  
 える。

日本 政府

第四表 自大正九年至昭和五年貿易の推移（単位千円）

年次	輸 出			輸 入			出入合計	合計指数 (昭和五年=100)	合計指数 (大正九年=100)
	新 出	移 出	計 出	新 入	移 入	計 入			
大正九年	三、七三九	一、九三八	一、九三八	一、六二五	一、四二二	二、四九三	四、四八二	七四八	五二・二七
同 一〇年	三、八八五	一、九七三	三、八八五	一、五八九	一、五八四	三、三三二	四、五〇六	七五八	一〇一・〇四
同 一一年	三、四九〇	一、九七五	三、四九〇	一、五七九	一、四二七	三、〇〇六	四、七一一	七九〇	一〇四・〇四
同 一二年	三、四〇五	二、四六二	三、四〇五	一、八三八	一、五七二	三、四五〇	五、三三三	八八四	一〇四・二五
同 一三年	三、三九七	三、〇六六	三、三九七	一、七七六	二、一八七	三、九六三	六、三八三	一、〇七〇	一〇九・四六

(出所) 關税統計 (二〇二五号)



二、期間に於ける朝鮮經濟の推移は大体内地の經濟情勢に順應し一般に不況  
 ↑程に終始せざるを得なかつたが大正九年三月には會社令の徹底があり八月  
 ↑には旧國稅振置期間が満了して關稅法、國稅定率法等が朝鮮に施行  
 ↑せられ經濟制度が一新したことは特記すべきである 朝鮮產米増進計畫

同 一四年	二四、五四二	五七、二八九	五八、六五一	一〇五、三八八	二三四、六五四	三四〇、〇一二	六八、六四三	一、二四二	△ 一、七一九
同 一五年	二四、七九	五五、八、六七	五七、九、五五	一二三、九五四	三四八、二五六	三七六、一七〇	七三、五一二五	一、二三一	五七、二、七〇
同 一六年	二八、一五四	五五、七、九一	五五、八、九五五	一一三、九四三	二六九、四七四	三八三、四一七	七四二、三四二	一、二四四	三八五、四一七
同 一七年	三二、一四九	五五、八、八九	五五、九、七八	一一八、一五一	二九五、八四〇	四一三、九九一	七五九、九六九	一、三〇七	四一三、九九一
同 一八年	三五、七七五	五〇、九、八九一	三四五、九五四	一〇七、七七八	三二五、三三六	四二三、〇九四	七六八、七五八	一、三八八	四二三、〇九四
同 一十九年	二五、八五四	二四、六、九五	二六六、五四七	八八、八五五	三七八、一九四	三七七、〇四九	七三三、五九七	一、九六一	一〇〇、五〇五
同 二十年	一六、七七二	二四、九、〇五七	二七六、七九九	五二、七九九	二一七、七七〇	三七〇、四六六	五三三、二七五	八、九二	八、九二
同 二十一年	五九、五九七	五五、二、九九	五五、二、四九九	一一八、四七三	五六九、六五五	五八八、五九七	七四〇、八二〇	一	一、八一三、九七七
以上十二年 間累計計									

右表によつて見るに大正九年の輸移出入總額は財界恐慌の爲前年の五億五百万円に比  
 ↑ 一刻方の減縮を示したか其の後は漸次増綱を辿り昭和三年には七億七千万円、好  
 ↑ 記録を作つた。然るに昭和四年以降は緊縮政策の影響を受け、貿易額も  
 ↑ 漸減に轉じ本期の末年たる昭和五年には遂に五億円台を示現するに至つた。  
 ↑ 入超額もこの期に入つて著しく減少し大正十三十四の兩年は珍らしくも出超を示す  
 ↑ 等貿易改善の跡顯著なるものありつたが昭和元年より貿易は再び逆調



↑に轉じて行つた  
次に對内地、對外國貿易に就て見るに、従来對内地貿易は入超と常態としてゐたが、前期末の大正七年以來出超に轉じ、今朝期に入つてから昭和四、五の兩年を除いては年々出超であつた。これは朝鮮に於ける農業再建が一段と進み、鮮米の對地供給が旺盛となつた一面、環境の悪化に禍せられ、近代産業の建設が緩慢なることによつたものと見られる。  
然るに對外國貿易は依然として入超の姿を改めず、寧ろ次第に入超増大の傾向を認められ、これは朝鮮米の對地供給の増大に反比例してその代用食糧として滿洲米等の輸入が促進されたためである。斯くして本期十二年間の輸出は入超十四億七千七百九十九萬、移出入総額五十九億三千四百九十九萬、合計七十四億八百九十九萬、移出入は輸出の約四倍、總貿易額に對する比重は輸出は移出入の割増、移出入は割増とあり、對内地貿易の地位は前期に比し一段の昂揚を示した。  
(三) 第三期(昭和七年至昭和十一年貿易の推移)(單位千圓)  
昭和七年十月の金輸出再禁止を轉機として、従来對外國貿易は為替安に重いて

(折上り國定價格 一〇二・二五%)

第四節 第三期(昭和七年至昭和十一年貿易の推移)

昭和六年十月の金輸出再禁止を轉機として、我が對外國貿易は為替安に重いて、俄然旺盛となり、一方輸出の輕工業の勃興を促し、その上滿洲事變の爲に必需的となつた軍需品工業、殊に重工業の生産力拡充がこれに拍車をかけた。爲世界の對不況の真只中に在る我國の産業の隆昌、輸出貿易の旺盛時代を現出し、

朝鮮に於けるこの期に入つて漸く農業本位の田穀から脱して、鉱工業の自貢まじり進出を見るに至り、従来の如き、内地に對する原料並に食糧の供給地、内地製品の出賣市場たる經濟地位を漸次上揚した。

第五表 自昭和七年至昭和十一年貿易の推移(單位千圓)

年次	輸出		輸入		出入合計		入超
	額	移入	額	移入	額	移入	
昭和七年	25,209	28,640	31,550	25,650	33,350	25,210	10,940
同八年	25,773	35,850	25,878	33,877	40,125	27,183	35,557
同九年	25,675	40,695	26,537	43,963	49,149	26,449	53,782
同十年	24,902	45,693	25,076	55,881	55,945	26,019	10,826
同十一年	25,215	58,047	25,351	67,918	67,247	25,550	15,910



即ち右表によると貿易の不振は前期末の昭和六年を以て底を衝き本期に入つて俄然立直り、転じ年次累進して昭和十年には遂に十億円を突破するに至つた。輸移出は今期の五年間に約九〇%の輸入は一五%の右増加を示し総額に於て一〇%増即ち約二倍の増進を示した。その反面に於て入超も巨額により昭和十年には一億八百萬圓、同十一年には一億七千万圓の入超を見せたが、これは鉱工業の躍進に伴ひ機械類、原料材料並に経済界の好調に伴ふ一般購買力の増進に基因するものゝあつた。次にこれを対外國貿易、対内地貿易別に見ると五年間の累計は輸出入七億四千九百万圓、移出入四千三億五千四百四十七万一千圓にして、移出入は輸出入の七倍強を示し第一期の三億九千二萬圓の約四倍に上つた。これに對内地貿易の占むる地位は一段と昂揚された。而して總貿易額に對する、對外國、對内地の比重は輸出入一四%移出八七%となり、前期並に前期に比し對内地貿易の比重一段と加重された。反面對外國貿易の比重は大いに減殺された。

併し乍らこのことは朝鮮の對外國貿易が次第にその重要性を失ひつゝあるものと早

(折上り國定規格品(公×二倍率))

合算してはならない。即ち係合以來に於ける輸移出、輸移入の各比重を取つて見ると左表の如くである。

第六表 輸移出及び輸移入の比重

(イ) 輸移出		(ロ) 輸移入	
輸出	合計	移入	合計
自明治四三年至大正八年	一六、二%	自明治四三年至大正八年	三三、八%
自大正九年至昭和六年	八、三%	自大正九年至昭和六年	三〇、五%
自昭和七年至同十一年	二二、二%	自昭和七年至同十一年	一五、七%
自昭和十二年至同十四年	二二、四%	自昭和十二年至同十四年	一六、三%
合計	一〇〇、〇	合計	一〇〇、〇

即ち輸移入に於ては對内地移入が期毎に比重の増大を示し輸入の比重は次第細りを



↑此の様に於て輸出移出に於ては第一期に於て一六二%を占めて居た輸出が第二期には八三%に半減して對外貿易の比重の顯著な低下を物語つてゐるが第三期に入つて輸出の比重は一躍二三%に増大を示した。而してその内容が新興工業の所産であることを見事に於て朝鮮は最早内地に從属した單なる原料供給地ではなくその餘力を以て海外の市場に進出する高度の經濟的段階に到達せることを知る事が出来るのである。

(昭和十二年四月二十日)

第五節 第四期（昭和十二年より終戦まで）

昭和十二年七月の支那事變の勃発を轉機として我國の貿易政策は平時の常統制方策を止揚して急轉直下戰時体制に移行した。結戦當初に於ける輸入抑制、輸出振興の目標は輸出抑制、輸入促進といふ新目標に轉じ更に我國の所謂第三國貿易は佛印、泰を除くの外は殆んど全面的に梗塞し日滿支を中核とする東亞共榮圈の自給自足の交易を確立するの餘儀なきに至つた。如上の情勢に對處する為昭和十三年五月には國家總動員法に基く貿易統制令が發布せられ我國の貿易は強度的に國家管理に移行して行つたのである。要するに莫大なる軍需品の輸入、之を賄ふ輸出の増進、日滿支共同經濟圈の強化等によつて貿易は振古未曾有の膨張を示し外地を含む日本全土の貿易額は昭和十四年に於て輸出三十九億円、輸入三十一億円合計七十億円の巨額に上つた。殊に朝鮮は日滿支共同經濟圈の中核に位する地の利と前期以來開港を急がれた鉄工工業の殷盛に惠まれてその貿易額も異常な増進

↑長と示すに支つた  
↑朝鮮貿易は昭和十四年には引續き  
↑東亞共榮圈は昭和十四年には引續き  
↑輸出貿易は昭和十四年には引續き  
↑輸入貿易は昭和十四年には引續き  
↑貿易額は昭和十四年に於て輸出三十九億円、輸入三十一億円合計七十億円の巨額に上つた。殊に朝鮮は日滿支共同經濟圈の中核に位する地の利と前期以來開港を急がれた鉄工工業の殷盛に惠まれてその貿易額も異常な増進







同 一三年 一三九、三五  
 同 一四年 一六三、三九

即ち昭和十四年は六三、二九%の騰貴であるから貿易の数量的考察をする。  
 ↑ 場合には元々よつて修正を施す必要があるから、修正を施しても昭和十四年  
 ↑ の輸出は戦前に比し二倍以上の増加がある。  
 次に貿易の増大に伴つて入超額も従つて増加し昭和十四年には三億八千万円の  
 ↑ 巨額に上つてゐる。此の入超は内地の消費貿易は日本国産品の消費であるから、朝鮮の

而してこの期間中の貿易総額につきこれを対内地、対外國別に見るときは対  
 内地貿易が最も朝鮮貿易の總額の八十五%内外を占めるに對し對外國貿易  
 易は僅に十五%前後を占めるに過ぎない。昭和十八年に入つては對外國貿易  
 易の比重稍増大し、<sup>約三十三%</sup>を占めたに及し對内地貿易は<sup>約六十七%</sup>に低下し  
 近年にない不況を示した。

第八表 対内地對外國貿易の推移 (單位千円)

年次	貿易易額	比率	貿易易額	比率	貿易易額	比率
昭和七年	六三、七〇九	一〇〇	九〇、八九五	一四	五四〇、八二四	八六
同 一二年	一五四九、九五	一〇〇	二四一、二三六	一六	一三〇七、八五八	八四
同 一三年	一九三五、五三四	一〇〇	三〇三、六四九	一六	一六三三、八八四	八四
同 一四年	二、三九五、三四二	一〇〇	四二八、九四二	一八	一、九六六、二九九	八二
同 一五年	二、四八四、一七七	一〇〇	四〇七、〇三七	一六	二、〇七七、一三九	八四
同 一六年	二、四九二、六三六	一〇〇	三四二、八〇九	一四	二、一四九、八三五	八六
同 一七年	二、四五五、八七六	一〇〇	三〇八、八四三	一二	二、一三七、〇三三	八八



一八八	六〇、七、四、七、九	一〇〇	四〇、六、七、三、三	二〇	一六、六、四、七、四、六	八〇
小計	六〇、七、四、七、九	一〇〇	四〇、六、七、三、三	二〇	一六、六、四、七、四、六	八〇
大計	六〇、七、四、七、九	一〇〇	四〇、六、七、三、三	二〇	一六、六、四、七、四、六	八〇
前年	六〇、七、四、七、九	一〇〇	四〇、六、七、三、三	二〇	一六、六、四、七、四、六	八〇
九期	六〇、七、四、七、九	一〇〇	四〇、六、七、三、三	二〇	一六、六、四、七、四、六	八〇
（註）	大陸轉嫁貨物を除く昭和十八年自十一月至十一月					

朝鮮輸入總貿易額（單位千円）

昭和十八年	前年同期	増減	同上歩合
（自月至十月）			
輸出	六四、二、〇、三	八六、六、五、四	二、三、九、五
輸入	一、二、三、七、〇、九	一、三、七、八、八、八	一、四、六、三、九
計	一、八、七、三、九、二	二、二、四、三、九、三	一、一、七、〇、八、一

即ち昭和十二年より同十四年に至る三年間に於ける貿易總額につきこれを内地、計外國別に見ると移出人累計四十九億六千万円、輸出入累計九億七千四百万円、計内地貿易は計外國貿易の約五倍強を示し總貿易額に對する計外國計の比重は輸出入一六％、移出八四％となつて計外國貿易の比重は輸出増を支柱として向上に轉じた。

（折上り國定規格B5 12×25 厘米）

併しなから円域に對する輸出の増加は當時に於ける我國の貿易國策たる外貨獲得に役立たぬのみか却て物價の騰貴を促し第三國向輸出力を減退せしめ國內の需給を逼迫せしめるものがあるとの見地から可成り消極的方針を取り漸次その方針を強化して行つた。昭和十五年以來降は著しくその伸力を殺がれることゝなつた。

次に計内地貿易は支那事変以來殊に顯著な發展を辿り昭和十七年の移出入額は移出七億五千二百万円、移入十三億七千四百万円合計二十一億二千六百万円にして事変前の昭和十一年を基準としてその増加率を見ると移出に於て四五％、移入に於て一二％、合計八二％の急増がある。かゝる増加に對しては一般物價指數によつて（朝鮮銀行調査による京城卸賣物價指數を見ても）昭和十七年末の一九一〇七に對して昭和十七年末には二〇一、六三となつてゐる）修正をかける必要があるが移入の激増は數量的にも爭はれぬ事實であつてこれは朝鮮と單なる中継として滿支に輸出されるものか一應朝鮮の移入額に計上されることにも因るが朝鮮自体の經濟的發展の爲に各種の建設資材並に原



日本政 府  
料、機械類及び生活品等、の輸入が依然として増加して、あることに甚くも、ある

(折上り國定規格B5(二〇二五種))

### 第三章 朝鮮貿易の構成とその変化

#### 第一節 商品部類別貿易

併合より昭和四、五年頃迄の約二十年間は農業本位の経済時代、それ以後は農工促進の経済時代と云ふことと出来るが左の表は斯る経済発展過程を如実に示すものである

第七表 朝鮮に於ける各種生産産額 (単位千円)

農産物	林産物	水産物	工業物	鑛産物	總計
明治四四年 三三〇、三三〇	一〇、七九五	六、四一七	四三、五三八	六、一八五	四〇九、二九四
大正一〇年 九七五、三八	五、九九五	七、一五九	二〇、五五五	一五、五三七	一、三〇、四八四
昭和五年 七、四三、三七	五、三六〇	八、二八二	二八、九六三	二四、五五四	一、七六、〇八六
昭和一二年 一、五四、一三六	一、三八、七一〇	一、七、九五三	九、五九、三八	一〇、四二九	二、九五、七五六
昭和一四年 一、六四、四四一	一、九二、六〇〇	三、五七、〇〇〇	一、四九、八二七	三、四〇、〇〇〇	三、九二、〇〇〇
昭和一六年 二、三四、〇三二	三、四四、二五六	三、五七、八五三	一、七三、二二五	三、四〇、〇〇〇	五、一〇、四八八
昭和一七年 一、八九、四四九	三、八九、九四五	三、五七、五	一、八六、九二二	三、七〇、〇〇〇	五、八八、五九三
昭和一八年 三、五五、五八	四、六二、二八〇	三、四八、六六六	二、〇五、〇〇〇	四、三〇、〇〇〇	五、五五、六六六

同上割合

農産物	林産物	水産物
明治四四年 八一	五	二
大正一〇年 七四	四	六
昭和五年 六三	五	七
昭和一二年 五二	五	六
昭和一四年 四二	五	八
昭和一六年 四六	六	七
昭和一七年 三九	八	七
昭和一八年 四〇	八	六

(折上り國定規格B5(二〇二五種))



料、機械類及び生活品等、移入が依然として増加して、あることに甚くもつた  
ある

(折上り國定規格B5(2×25)紙)

### 第三章 朝鮮貿易の構成とその変化

#### 第一節 商品部類別貿易

併合より昭和四五年頃迄の約二十年間は農業本位の経済時代、それ以後は農工併進の経済時代と云ふことと出来ず右の表は斯る経済発展過程を如実に示すものである

第1表 朝鮮に於ける各種生産額(単位千円)

	明治四四年	大正一〇年	昭和五年	昭和二年	昭和四年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
農産物	三三〇、三三〇	九七、一三八	七四、三三七	一五四、三三六	一六四、四〇二	二三四、〇三四	一八九、四四九	三三、五五八
林産物	一〇、七九五	五、九九五	五、三六〇	一三八、七〇	一九六、〇〇〇	三四四、二五六	三八九、九四五	四六、二三八
水産物	九四、一七	七、一五九	八、八八二	一、七、九五三	三、五七、〇〇〇	三五七、八五三	三、五七、〇〇〇	三、四八、六六六
工業物	四三、五三八	二〇、五五五	二八、九六三	九、九、三三八	一、四九、八、二七七	一、七、二、二、三、二、三	一、八、九、九、九、二	二、〇、五、〇〇〇
鑛産物	六、一八五	一、五五七	二、四、五、四	一、〇、四、二九	三、四、〇〇〇	三、四、〇〇〇	三、七、〇〇〇	四、三、〇〇〇
總計	四九、九、九四	一、五、二、四〇	一、七、六、〇、六	二、九、七、七、七、七	五、九、九、〇、七、七	五、一、四、六、四、八	四、八、五、九、三	五、五、二、六、一、四
同上割合								
農産物	明治四四年	大正一〇年	昭和五年	昭和二年	昭和四年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
林産物	八・一	七・四	六・三	五・二	四・二	四・六	三・九	四・〇
水産物	五	四	五	五	五	六	八	八

(折上り國定規格B5(2×25)紙)



工業物	農産物	總計
一	二	一〇〇
五	一	一〇〇
四	二	一〇〇
三	四	一〇〇
八	九	一〇〇
三	七	一〇〇
八	八	一〇〇
三	八	一〇〇

右表によつて見ると農産物の優位性はその価格に於ても割合に於ても絶対的であるが、價額の累進的なるに比しその全生産額に對して占める割合は漸次低下して居り、始政当時全生産額の八一%を占めてゐたものが昭和十四年には四%に低下した。之に反し工業額は價額の増進と共にその割合も次第に上昇し始政当時僅に全生産額の二%と出でなかつたものが昭和十四年には三八%を占め農産物の四%と比べるに足つた。

これは貿易面でも投影し農業經濟時代にはその貿易の内容も食糧並に原料品を輸出出して工業製品や建設資材を輸入し工業時代に入るとその産出に係る工業製品を輸出出して原料品を輸入した。即ち左表の通りである。



貿易表 商品部類別貿易額の推移 (単位千円)

原料品	原料用製品	食料粗製品	食料精製品	全製品	雑品	再輸出品
明治四三年 三八八	一一〇	一三、二五九	二四	六五九	一八五九	二二三
大正八年 二九、四〇	二〇、〇四三	一五〇、五三二	四、二一一	二〇、〇三二	一四、九六九	一、五〇二
昭和四年 四〇、四五四	五〇、〇一七	一九四、五九三	一、二一五四	二二、五五五	二二、〇〇五	二、九一八
昭和八年 五一、八〇二	五〇、三二六	二〇〇、五四七	一、二六五三	三二、一三三	二〇、三九二	七九八
昭和十三年 一〇一、〇六三	一四四、八二一	二八八、五九	二〇、二八三	九六、六八	二八、三三三	五、七〇一
昭和十四年 一七五、七九七	二四九、五二一	二六三、〇七四	三七、八七六	二二、六七一	五〇、五〇九	三、三三九

日本政府

合計	(二) 輸移入	原料品	原料用製品	食料粗製品	食料精製品	全製品	雑品	再輸入品	合計
明治四三年 一九、九〇九	明治四三年 四、一六二	四、〇五四	一、三三六	四、四三七	二、四〇〇	三、三五八	四二	三九、七八九	明治四三年 三、九七九
大正八年 三三、九三九	大正八年 五七、四七三	二二、五五四	二二、三五三	一七、六三三	一四六、九三	三四、九三六	二八	二八、三、七〇	大正八年 三、九三九
昭和四年 五四、五五五	昭和四年 五五、一〇五	五二、二八七	五七、三二四	三一、八〇二	二、八、六九九	一七、八〇九	一、一六五	四、三、〇九	昭和四年 五四、五五五
昭和八年 三六、八、六三	昭和八年 四三、六四四	五四、七九	五四、二四九	三五、九一六	二、四、五三三	一八、八七〇	二、三四九	四、四、一八〇	昭和八年 三六、八、六三
昭和十三年 六八、五五五	昭和十三年 一四三、二四九	一三、一五〇	六三、一九八	四四、三八九	四、四、四四六	三〇、八八九	四、三三五	八、三、五五	昭和十三年 六八、五五五
昭和十四年 一〇、六、七八七	昭和十四年 一七、八、七三〇	五、四、〇八	二七、五五七	五五、六六〇	七、七、〇〇〇	五七、九七三	四、五三四	一、三、八、四四	昭和十四年 一〇、六、七八七

同上割合

(一) 輸移出

明治四三年 大正八年 昭和四年 昭和八年 昭和十三年 昭和十四年

(折上り國定規格B5(一六×二五)紙)



原料品	原料用製品	食料粗製品	食料精製品	全製品	雜品	再輸出品	合計	(二) 輸入
明治四三年	一〇四	一〇二	三三	一一				
大正八年	一三二	八五	八二	六二				
昭和四年	一五二	一三〇	一三五	七三				
昭和八年	一〇七	一三五	六二	六四				
昭和二年	一五五	一四一	八三	五一				
昭和四年	一三七	一三八	八四	四六				



全製品	五五五	五二六	四九三	五五五	五二六	五五五
雜品	八五	一二三	四二	四六	三五	四一
再輸入品	一	一	〇・三	〇・五	〇・四	〇・三
合計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

備考 本表に於て各部類に属する主要品目を示す

原料品 木材、石炭、綿棉、原油、礦油、礦物（磁砂、黒鉛）  
 原料用製品 生糸、金属類（鉄板等）、硬化油、漁油、コークス  
 食料粗製品 米、水産物、葉煙草、雜穀  
 食料精製品 罐詰、瓶詰、食料品、寒天、味噌、醬油、酒類、穀粉、澱粉  
 全製品 機械類、布帛及布帛製品、金属製品、車輛、船舶  
 次に類別の輸移出入關係を見る

(1) 原料品及原料用製品（單位千円）

年次	輸移出	輸移入	出超（入）
明治四三年	三、九三八	八、二二六	△四、三三八

（折上り國定規格B5（二公×二毫））

大正八年	四六、八三	五、〇二七	△二、九四四
昭和四年	九〇、四五	一〇六、三三三	△五、九四一
同 八年	一〇三、二一八	九八、三六三	三、七五五
同 一二年	一四五、八八四	二六四、五九九	△二七、五五
同 一四年	四三、三三八	三七三、七三八	五二、五八〇

(2) 食料粗製品及同精製品（單位千円）

年次	輸移出	輸移入	出超
明治四三年	一三、三三三	五、七六三	七、四七〇
大正八年	一五四、六三三	四〇、九八六	一一三、六四七
昭和四年	二〇六、七四七	八九、〇二六	一一七、七二一
同 八年	二二、一八〇	六〇、一五五	一三三、〇二五
同 一二年	五八、九四二	一二、五八四	二九、三五五
同 一四年	三〇、九四〇	一八、三二七	一二、七二三

(3) 全製品（單位千円）



年次	輸出	輸入
明治四三年	六五九	二二、四〇〇
大正八年	二〇二二	一四六、九三三
昭和四年	三三、五三五	二〇八、六九九
同 八年	三六、一五三	二二四、五三三
同 一二年	九六、七七八	三二四、四四六
同 一四年	三六、六七一	三七〇、〇九〇

次に輸移出入貿易品中重要商品について見れば次表の如くである

第土表 朝鮮の主要輸移出入商品（単位千円）

（）自明治四三年至昭和十四年分

一、輸移出

品名	明治四三年	大正四年	大正九年	大正十四年	昭和五年	昭和十年	昭和十四年
玄米	三、五〇〇	一三、五三五	四〇、二四七	一〇〇、七六三	五八、三三八	一三五、一一二	六〇、三三九
精米	二、一一〇	九、〇七七	三三、五五七	六〇、二七八	四六、二二二	一〇五、四五二	二〇、一六五
大豆	五、二二七	五、二〇〇	一七、二九三	四二、五五二	一七、五四四	一七、五七一	二一、一〇三
鮮魚	一、七三三	一、八六六	七、〇九一	六、八八八	五、八〇六	六、一四四	一三、四八六
乾魚	八三	五九五	五、一七七	五、〇三二	四、四九四	四、九〇一	八、八〇三
鹹魚	六〇			一九四八	九、六	一、三五二	六、六八五
乾苔				二、六五七	一、九九六	二、一九七	九、五九五
砂糖				四、五〇三	四、七五八	三、一四六	二、八四六
林檎			三、五		七、五七	二、四六五	八、七三五



[illegible]

鐵	金	セメント	石炭	黒鉛	綿織物	柞蚕生絲	生絲	繭	繰綿	人蔘	魚油	牛皮	葉煙草
三三九	五二七	一	五二二	二二四	一	一	一	一	二二四	一七八	一	一〇四	一
五〇一	九三九	一	六二九	二〇二	一	七	一	七二四	一三五七	一三五二	一	五五八	二七
三四七七	一六六六	一	一三〇	三〇六	一	三七	一	二四一六	六〇〇二	一四一三	一	五二七〇	一六八四
九二八	一四〇一	一	二一三一	七〇九	一三五五	一八五七一	八六八〇	九八九〇	二一五八七	一九八三	一	三、四二一	一
一四七四	一四七三	一	二五三七	一〇二一	二六四六	七〇六七	一六八五四	二一六六	七五四六	三、四五五	一	一六二三	一三三五
一、二五一	六、四八一	一	六、七五七	二、三四六	四七七八	五、七二四	一四一八九	一、一八三	一三、四四五	一、七七七	一	一八二五	五七三
五、〇三四	六、六八一	一	一四、五三八	五、八五六	一六、五七九	一	二四一八一	一	二、八七三	一、七六五	一	九一七	一



針類	鐵及銅	陶磁器	セメント	石炭	紙類	肌衣	絹織物	毛織物	支那麻布	綿織物	柞蚕生糸	綿織物	綿絲及打綿
一三七	九八五	三三八	三八一	七九四		五七五	一〇八五	四二五		九三〇		二二二〇	三六七
五五五	一四二〇	三三七		一七六二		五七五	九七三	五五五	一一五五	二一八八		二四四	五五五
八三八	四四八五	〇	五五五	七〇一六		一六六八	九〇六	一六六六		三〇六七		二二〇一	一六六八
五八四		二二五〇	一四八五	七五七八		三二九	八〇三八	四八五四	四七八七	一六八七		八四八五	三八五五
一五五六	一六一四四	二二五五	二六九五	一〇三四七	六九二八	四〇三二	一五五七七	五五五	四一六九	三三二四七	六四〇三	五三三七	五五〇三
五三三一	四三三八	五二八一	四九一六	一四九四	一三三三五	二二四九	一〇〇三二	一〇五八三	一五一〇	五五三八	六五五三	九九一五	一六八二四
一〇二五		一三三九	五八二六	四〇一八	二二一九五	二二三四〇	四四一九三	二二五二六		一〇一四三		三〇五	

大豆	小麦粉	砂糖	清酒	麥酒	鹽	葉煙草	原油及重油	揮發油	燈油	輕油	機油	煤油	安全燭寸
一	三三二	八二一	七五五	二八七	一五六								五九九
一	六八三	一五四〇	八三〇	四二七	五五二								三三〇
一	二六三二	四三六七	一六二四	一六三三	一六五五								五五九
一〇一六	六六五五	五八七〇	一三三一	一七七二	二五八七	二九六六		一七〇七					一六五三
一八二二	五八七八	七三三七	一三三〇	六三三七	一三二四五	二三四五	一四七三	三三九	二七九一	一四四三	一九三二	一三五六	一三六九
二六〇	一〇九五二	七五八一	一六五六	八五七	二六八一	六二四七	五〇六三	九八〇四	六〇七八	二一六五	三九四一	三四二五	一四三三
二二五五	六九〇三	一三〇八	五四九		二九八								一

(折上り國定規格B5二公×二五七)



自動車及同部品	自轉車及同部品	機械類	木材	生防護	肥料	其他諸品	輸移入合計
1	53	1	1055	7	901	3354	3354
1	235	1	1456	1	2180	4155	4155
1411	7天	1	3308	1	433	1705天	1705天
505	2499	1	808	1	523	2405天	2405天
4905	205	1707天	5704	1541	1894	3566毛	3566毛
?	6704	55602	13868	5533	26162	43447	43447
	8205	25131	40968	1701	3648	12990	12990

右表に就て見ると輸移出に於て王座を占めるものは米である。米に次ぐは肥料、鉄生糸、大豆、銅、鮮魚、綿織物、魚油、牛、綿棉、石炭、木材、乾海苔、林檎、乾魚、黒鉛、金銀、洋紙等が主なるものとなつて居る。原始産業たる農林水産業の所産が多い。油、生糸、綿織物、鉄、銅、セメント、洋紙、肥料等は昭和に入つてからの工業の発達によつて始めて輸移出品となつたものを農林時代から農工係進時代への轉移を認めるところが出来る。黒鉛、石炭、金銀、鉄銀等の鉱産物は昔から朝鮮の特産品ではあつたが近年になつて

(折上り國定價格55(100×25%)

その輸移出高を著増したことは滿洲最近に於ける「銀業朝鮮」の頁々を抽出してゐると言ふよりあらう。

次に輸移入の側について見ると大体に於て鉄及銅が首位を占め綿織物、機械類、粟、肥料、小麦粉、綿綿及打綿、紙類、木材、肌衣、毛織物、絹織物等が次に次ぐものである。殊に工業用品の種類と金額の増は著しいものがある。粟は移出米の身代品として大正十二、三年頃から輸入額が急激に増加したもので曾ては輸入の王座を占めてゐたものもある。最近に於ける輸移出品統計中に占める地位は餘程低下を來してゐる。尚朝鮮は内地封鎖、支貿易の中継地として利用されること多く従つてその輸移出品中にはこれ等の中継貨物が多く含まれてゐる。昭和十四年の貿易統計によると輸出総額二億六千九百九十二万円の内、鮮産品一億三千四百二十万五千円(四九%)、内地産品一億三千二百五十六万四千円(四九%)、外國産品三百三十三万九千円(一%)の割合となつて居る。其の朝鮮産品は漸く輸出総額の半を占むに至つてゐる。

産地別累年輸出額(單位千円、%)

昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	昭和十五年
-------	-------	-------	-------	-------



鮮産品	五三、四八三	五二、五	四〇、九六五	五〇、四	五七、〇八四	五九、五	一〇、〇四三	六〇、五	一五、四三三	四九、七
内地品	三六、六八五	四三、七	五三、三四五	四八、八	四〇、五二二	五五、六	五、八八	三八、三	一五、三六六	四九、一
外國品	一七、三五三	二七	二〇、五五	二七	五七、一	五〇	一四	三三、九	一、三	
合計	六四、九〇五	一〇〇、〇	七五、五五	一〇〇、〇	一三三、〇九七	一〇九、〇	一六、九六六	一〇九、〇	三三、九六三	一〇〇、〇

(四) 昭和十六年及び十七年分

品名	昭和十七年	昭和十六年	増減(%)
牛	一七、一三七	一一、二二五	五九、一四
米	二五、五三三	一七、九八七	四一、六四九
大豆	九、七一五	一一、五八五	一八、七二
穀物澱粉	二、〇〇五	五、一八一	二、一七八
水産物	九七、〇七五	七九、三七八	一七、六九五
林檎	二、九五九	一五、五〇	一、一三一
魚介罐詰	九、九	一六、二〇	七二

(折上り國定規格B5二公二毫耗)

麵類	一八、六三	五、八〇八	一、九四五
煙草	九、八二六	五、九九八	三、八二八
魚油	二、四六四	六、五五〇	四、〇八六
礦油	四、一四九	五、〇二七	八七八
硬化油	八、四	一、四三三	一、〇六二
脂肪酸	六、五五	三、五二四	二、八五九
石鹼	四、二六三	一四、一六四	九、九〇一
人蔘	二、〇一七	三、三六九	一、三五三
カイロイト	二、七九五	五、三三一	二、五三六
煤炭	一一、二四五	六、三〇一	三、九四四
綵綿	一、五〇八	一、二九二	一、七八四
生糸	四、四二一	三、〇六五	二、五八四
柞蚕纖維	五、七	二、八三五	二、七七八
麻	一、五、二五七	一、〇、一三一	三、一二六



其他銀	六、〇〇八	九、一〇〇	△	五、〇九二
金、滿(計)	一五、一六六	一五六、三三〇	△	五、一五五
銀	八三、一七五	七八、八八八		五、三五七
金、銀、銅、粗銀	五、一七八	廿二、〇二一	△	一〇、八三三
其他金屬	一七、八一四	一五、四九一		二、三二五
鐵道、客車及貨車	三四四	一五、四二四	△	一五、〇八〇
機械類	一〇、九九八	一〇、三九二		六〇六
木材	一、二一三	二、四四五	△	六、二三〇
藥	五、一七二	一、九三三		三、三四〇
海藻	三六五	一、九五五		一、七四二
魚粉	八六〇八	一八、一六九	△	九、五六一
肥料(新)	二五、八一九	五七、八五七	△	五三、〇三八
魚粕	二、七七六	七、五八五	△	四、八〇七
硫安	一、六〇四三	一四、八六三	△	三、八二〇

鐵 物	綿織物	絹織物	人絹織物	其他織物	禮 袴	パ ル 7°	紙 類	黒 鉛	石 炭	礫 物	鋁 (計)	鉄 鋁	重石鋁
五三、六七一 五、六九五 九、五〇〇 十、八、九、五	一、四、九、四二 中、九、四、十 九、三、〇、〇 小、八、二、十、十	一、三、九 六、五、五	一、九、二、一 五、六、八、七、五 四、五、七、四 十、五、六、〇、七、七	八、四、四、二 六、三、九、六、八	六、四、六、七 二、一、三、六、三	一、六、四、四、八 一、九、二、五、六	一、六、四、四、八 一、九、二、五、六	一、六、四、四、八 一、九、二、五、六	一、六、四、四、八 一、九、二、五、六	一、六、四、四、八 一、九、二、五、六	一、六、四、四、八 一、九、二、五、六	一、六、四、四、八 一、九、二、五、六	一、六、四、四、八 一、九、二、五、六
二、〇、六、七 五、六、〇、七	八、四、一、三	八、二、九、五	一、七、五、四	八、六、七、五 七、五、四、〇	七、六、九、六	六、三、六、九 二、五、九、四、二	一、九、一、五、一	三、六、一、六、九	一、七、五、八、〇	一、二、六、八、九	一、二、六、八、九	一、二、六、八、九	一、二、六、八、九
一、六、〇、四	五、六、九、五	六、五、三、九	一、〇、〇、七	一、六、五、五	二、九、六、六	七、四、六	九、八	四、五、七、九 五、七、〇、五	二、七、〇、三	九、九、三、五	三、五、六、二	三、五、六、二	三、五、六、二



二輪移入

品名	昭和十七年	昭和十八年	増減(△)
米	三、七二七	六、四三三	△ 二、七〇六
其、他、米	八、二七五	八、一七八	△ 九五
小包郵便	二六、七三四	二四、七三〇	△ 二、〇〇四
其、他、諸品	一、六九、二三八	一、四六、七〇九	△ 二二、五二〇
輸移出入計	九四、七三二	九六、三六六	△ 一、六三四
大豆	一、三六九	二、二九四	△ 九二五
粟	二、〇一九	一、九四五二	△ 八四五五
黍	八五九	四、九六八	△ 四、一〇九
大麦及裸麥	一、一四	一、一四	△ 〇
小麦	一、三六九	二、二九四	△ 九二五
大豆	一、三六九	二、二九四	△ 九二五
小麦粉	七、一七八	八、〇七四	△ 八九六

(折上り國定規格B5(二×三毫耗))

澱粉	一、六三一	二、三七一	△ 七五〇
砂糖	一、〇八〇	八、八一五	△ 一、三六五
菓子	七三一	三、一四二	△ 二、四一一
清酒	八七〇	一、〇五一	△ 一八一
生乾菜	九七五	一、〇四五七	△ 六八七
生果	一、三八二	一、六七五五	△ 三、九四一
鮮乾鹽魚	六、六九八	一、〇五五二	△ 三、八五五
塩	六、六九五	六、七八〇	△ 九一五
砒油(計)	一、三、〇六一	二、一、五五五	△ 八、五〇四
原油及重油	八、四三五	一、四、六四八	△ 六、二一五
揮發油	二、四六	九四一	△ 六九五
燈油	一、三四四	三、三九六	△ 一、〇五二
輕油	一、六七	四、八八	△ 三三二
機械油	二、八六九	三、〇九二	△ 二二三



石炭	紙類	服衣	和洋服	麻袋	スフ織物	人造絹織物 (金文織物)	絹織物	毛織物	麻織物	綿織物	織物(計)	絲綢	絲綢
七四、八四九	二四、三三二	四八、〇七〇	二七、五〇〇	二八、一五	二一、〇三	五五、〇四五	一六、四四五	二四、一〇〇	一六、五八〇	四、三九九	二六、五八〇	一六	一六
六三、〇〇二	二九、〇〇一	三一、五七四	二八、四三三	四八、八八八	四、五五七	七〇、三三七	九八、二二一	一七、七四九	五、二五一	一三、四六四	二〇、八六九	九、五九四	九、五九四
	△		△	△	△	△				△	△	△	△
一一、八四七	四、七九	一六、六九六	九三三	二〇、七三	二、四六四	一五、三三二	六五、二四二	六、三五二	一、三三九	八、一六五	五、六九七	六、三九〇	九、五七八

(折上り國定規格B5二公×二五七)

日本  
政府  
府

肥料	木材	機械類	自動車及 同部品	鉄道車輛 及同部品	絶縁電線	銅	鉄	鋁	針類	陶磁器	セメント	コーラス
一〇、六八八	三八、五六一	一五、五九六	三、六六七	一五、五九六	五、九七〇	一八、五九	六五、五二七	二〇、一二二	六、〇九〇	一七、六七三	三、一九	七、七二七
一七、一三五	四〇、六八〇	一五、八九三	四、一二三	二〇、二五八	九、三六三	五、八三八	八九、八五四	二五、六〇九	九、四五四	一九、一五五	五、一九一	七、九三六
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
六、五五七	二、二二九	一、三八六	四、四六	四、七一二	五、三九三	四、〇〇九	二六、五五七	五、四八七	二、三六〇	一、四六五	二、八七二	二、一九



日本郵政省  
統計局

小包郵便物	二四、二九一	二四、〇二二	二六九
其、他、諸品	五五、四一六	五五、九八四	一、〇三三
輸移入計	一四九、一五四	一五九、三三八	一、二八八

この期に於ても輸移出の主要なるものは米で昭和十七年に於ては輸移出総額の二割二分を占め依然として輸移出の大宗である。これに鉄骨、他の地下資源類、水産物、織物類、肥料、牛、麻等が重なる。輸移入に於ては依然として布帛類が首位を占め、就中絹織物の入荷特に旺盛である。これに並ぐものとして機械類、石炭、鉄、木材等がある。

(明治三十八年四月一日現在)

## 第二章 地域別貿易

朝鮮貿易に於ける対内地関係は併合前後を通じて絶対的優位を占めてゐる。朝鮮貿易に於ける対内地及び対外國の比重を見れば次の如くである。

表一 對内地及び對外國貿易の比重 (單位%)

	明治三十八年	明治四十四年	大正四年	大正九年	大正十四年	昭和五年
移出	七三	六八	七五	七一	八一	八一
輸入	二七	三二	二五	二九	一八	一八
計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

即ち朝鮮貿易の七〇%以上は対内地移出入貿易を占められて居り、対外國貿易は三〇%と起えることは極めて稀で昭和九年の如きは僅に廿二%に過ぎない。

### 第一款 對内地貿易

併合前に於ける朝鮮の貿易統計に於て對日本貿易額の判明してゐるは明治三十四年以後である。即ち同年の対日貿易額は輸出七百四十六万餘円、輸入九百一十一万餘円、合計一千六百五十七万餘円、總貿易額二千三百三十二万四千七百一十一



小包郵便物	二四、二九一	二四、〇二二	二六、九
其、他、雜品	五七、四一六	五五、九三八	六、三三三
輸移入計	一四九、一五四	一五二、三三八	△、二八、一八四

この期に於ても輸移出の主なものは米で昭和十七年に於て輸移出総額の二割五分を占め依然として輸移出の大宗である。これに鉄、其、他、の地下資源類、水産物、織物類、肥料、牛、麻等が重なる。輸移入に於ては依然として布帛類が首位を占め就中絹織物の入荷特に旺成である。これに並ぐものとして機械類、石炭、鉄、木材等がある。

(折上り國定規格B5(三三三三三三))

(折上り國定規格B5(三三三三三三))

## 第二節 地域別貿易

朝鮮貿易に於ける対内地關係は併合前後を通じて絶対的優位を占めてゐる。朝鮮貿易に於ける対内地及び対外國の比重を見れば次の如くである。

第表 對内地及び對外國貿易の比重 (單位%)

	明治三十八年	明治四三年	大正四年	大正九年	大正十四年	昭和五年	昭和十年	昭和十四年	昭和十八年
移出	七三	六八	七五	七一	八一	八一	八二	八一	八一
輸入	二七	三二	二五	二九	一八	一八	一八	一八	一八
計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

即ち朝鮮貿易の七〇%以上は対内地移出入貿易を占められて居る。対外國貿易は三〇%を超えは極めて稀で昭和九年の如きは僅に廿二%に過ぎない。

### 第一款 對内地貿易

併合前に於ける朝鮮の貿易統計に於て對日本貿易額の判明してゐるは明治三十四年以後である。即ち同年の対日貿易額は輸出七百四十六万餘円、輸入九百一十一万餘円、合計一千六百五十七万餘円、總貿易額二千三百三十二万四千七百一



包郵便物	二四、三九一	三、〇三二	三、六九
其、他、諸品	五七、四一六	五五、九八四	六、〇三三
輸移入計	一四九、一五四	一五二、五三八	三、八八四

この期に於ても輸移出の主なものは米で昭和十七年に於て輸移出総額の二割五分を占め依然として輸移入の大宗である。これに鉄、其の他、地下資源類、水産物、肥料、麻、牛、皮革等が重なる。

輸移入に於ては依然として布帛類が首位を占め、就中、絹織物の入荷特に旺である。これに並ぶものとして機械類、石炭、鉄、木材等がある。

(折上り國定規格B5(二〇×五))

## 第二節 地域別貿易

貿易に於ける対内地関係は併合前後を通じて絶対的優位を占めてゐるが貿易に於ける対内地及び対外國の比重を見れば次の如くである。

表 對内地及び對外國貿易の比重 (單位%)

	明治三十八年	明治四三年	大正四年	大正九年	大正十四年	昭和五年	昭和十年	昭和十四年	昭和二十年	昭和二十八年	昭和二十九年
輸出	七三	六八	七五	七一	八二	八二	八六	八二	八八	八八	八一
輸入	二七	三二	二五	二九	一八	一八	一四	一八	一二	一二	一九
計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

即ち朝鮮貿易の七〇%以上は対内地移出入貿易を占められて居る。對外國貿易は之を越えることは極めて稀で昭和七年の如きは僅に二二%に過ぎない。

### 第一款 對内地貿易

併合前に於ける朝鮮の貿易統計に於て對日本貿易額の判明してゐるは明治二十年以後である。即ち同年の対日貿易額は輸出七百四十七万餘円、輸入九千餘円、合計一千六百五十七万餘円。總貿易額二千三百三十二万円の二



わ包郵更向  
朝鮮貿易の過半を占めてゐた  
併合後に於ける關係は左表の如

第廿表

朝鮮内地貿易の推移（單位千圓）

[illegible]

即ち保合の行はれた明治四十三年の対内地貿易額は移出千五百三十七万圓、移入二千五百三十四万餘圓合計四千七百一十二万餘圓の僅少なものであつたが三十五年後の昭和十四年のそれは移出七億三千六百八十八万餘圓、移入十二億二千九百四十一万餘圓合計十九億六千六百二十九万餘圓といふ巨額に上りその間實に四十八倍の著増を示し

更ん十七年には移出入格差三億四千九百萬圓を呈した。然るにその後移入は減少し移出は増加し、その結果として移入は移出に及ばず、二十二年は移出の減少を示し、二十三年は移出の増加を示した。

第二款 對外國貿易

朝鮮の貿易は対内地移出入によつて殆んど独占せられ対外國貿易としては従来移出米の補充食糧として滿洲粟米等が少量に輸入される外は見ざるべきものなく朝鮮貿易の總額から見た外國貿易の比重は三割以下と不實弱なものであつた併し乍ら絶対額は保合以来相當顯著な發展を遂げてゐる即ち保合當時の輸出入總額は千八百九十六萬鎊而已であつたが昭和十四年には四億二千八百九十四萬鎊と實に二十三倍に近しい増進を示してゐる即ち左表の通りである

對外國貿易の推移（單位千円）







白耳義	獨逸	佛蘭西	英吉利	歐羅巴洲	其 他 諸 國	泰 國	比 律 賓 諸 島	露 領 五 細 王	佛 領 印 度 支 那	蘭 領 印 度	英 領 海 峽 植 民 地	英 領 印 度	香 港
1	2	1	5	5	1	1	1	15	1	1	1	1	0
1	1	1	2	8	1	1	1	26	1	1	1	1	9
1	5	1	2	5	1	8	1	25	8	6	7	0	3
1	2	1	1	3	1	1	6	18	35	8	19	0	1
1	2	1	2	9	1	9	3	27	52	7	17	4	5
1	1	5	19	33	2	11	28	58	29	20	23	34	9
3	33	1	17	79	89	33	73	1	36	64	12	47	1
	25		17	53	16	19	27		56	59	36	30	5
	65			68	55	18	14		46	84	16	15	3
	85			85	66				69	50			1
					66		78		98	58	42		3







英領海峽殖民地	三〇	五	二七五	二	四七九	一七二四	一三四四
蘭領印度	一九五	二二三	一八八	四五三	四八四八	三三二	三三九五
佛領印度支那	一	四二	一六	五七	二八二八	六〇	九〇九
露領亞細亞	九	一〇七	四〇三	九二一	一〇〇四	五三八	二
比律賓諸島	九	一〇	六九	一	三〇	二三八	三〇三三
泰國	一	三二	一四四	八九	九五四	四	一
其他諸國	一	一	一	一	一	一七	一五〇八
歐羅巴洲	六〇九	四七五二	五三三五	五七五八	四九七三	四〇九七	六五七七
英吉利	六二六	四三九	四九三二	五一四二	二四六一	三三九	七八〇
佛蘭西	九六	六九	六七	一三五	九〇	二八一	一〇
德國	四八八	一八一	一七四	四二七	一七〇	三三六	三九三九
自耳義	三〇	六二	六	一七	三	四	九四
伊太利	五	一〇	二六	一	四一	三一	一七一
瑞西	三八	八	五五	一三	六三五	六九	一四

(折上り國定規格B5(二公×二毫紙))

奧地利	一四	五	二〇	二	六	一	一五七
和蘭	一五	二	一	二	二	五	一
瑞典	一	二	二四	二	二四	方	一〇四二
諾威	一	一	二	一	一	一	五〇
露西亞	五	四	一七	二	一	一	五〇
西班牙	一	四	一	一	一	一	二五三
土耳其	四〇	一〇	一三	九	二	一	一七〇
其他諸國	二	一	一	三	二	二	六七
亞米利加洲	三三三	三三三	九二九八	九四五九	八七四七	八三七二	三三九九
北美合衆國	三二四	三三三	一九三三八	九三九九	八六四三	七五四七	二二五三
加拿大	八	三二	六〇	二五三	八二	四七二	三三九
其他諸國	一	一	一	一	一	一	一
其他諸洲	二	九七	三七一	二	三四三	二六二〇	四七五二
澳大利利	八	五三	三四三	五	二六	一五五一	一六六八



布	埃	其、他、諸國	合
哇	及		計
一	三	一	一四四二〇
一	五	四〇	（註）昭和十九年、計數は大體統計、新區發賣を控除したもののを第1
一五	四	九	對滿洲、支、貿易
一	一	五	
一	一	十八	
		一、二七九	九四、三七七
		三、〇八四	一五七、五五三
			二、〇六五
			五八、五五三
			二、六四八
			三、〇八四

朝鮮は地理的並に政治的関係から古くから支那との間に貿易が行はれたが併合後は次第に不振に陥つた。併し第一次歐洲大戰後に於ける日本の食糧内題に關聯して朝鮮米の内地移出が旺盛となりその補充として滿洲粟の輸入が激増し又滿洲に於ける大豆工業の發達と石炭開採の進捗によつて大豆粕、石炭等の輸入が激増し對滿貿易の發展を見るに至つた。

第十表 對滿洲支貿易の推移（單位千円△印入起）

同	四年	輸出	輸入	出入超過	輸出	輸入	出入超過	輸出	輸入	出入超過
		一八九一	一八一三	△ 九三八	一六五五	六二二	一〇六三	中東本	四〇・七	△ 三五七
		三二〇八	△ 一二七	一四九一	三九	一二二二	本二七	△ 五三三	△ 二四一八	

(折上り國定規格B5 一八×二五耗)

[illegible]



[illegible]

(註) 振込の数字は大陸郵船運賃物を控除したものを示す

(折上)國定規格B5 二八×二五耗)

右表によつて見ると満洲との貿易關係は地理的關係と人文的結合とに基き、日清戦争以後は遂に東洋の中心地となり、昭和元年頃には輸出総額九千万円を越え、收買にあらたな後、世界の不安、銀價の著しい変動に依り、張軍閥と南方政府との合流成るに及んで、その排日態度は著しく悪化し、遂に彼我の貿易は衰退の一途を辿り、鴨綠、豆満の両江を隔て、突然敵國と対峙するに至り、觀を呈した。然るに昭和六年九月に於ける滿洲事変に依りて滿洲國の独立となり、滿洲が新しい独自の政治的經濟的局面を展開するに及んで、鮮滿貿易にも好轉を與へ、昭和七年以降は俄然好勢に轉じ、昭和十一年には輸入總額一億円を遙かに突破し、同十四年には三億円に達人とする盛況を呈するに至つて、對滿洲貿易は朝鮮の對外貿易額の七〇%を占むに至つた。殊に滿洲との貿易關係は曾ては入超を常態としてゐたが、滿洲建國後は鮮産品の猛進出によつて、却て出超を常態とするに至り、従来日滿の關係は朝鮮を差し、播いて大連經由の内地取引に重きを置いてゐたが、時局の進展に伴つて、鮮滿の貿易は關係は愈々緊密なる傾向を加へ、名実共に鮮滿一軌の境地に到達するに至つた。

付、東州との貿易は単に大連を中継とする。付滿支との貿易を意味するものゝ転換







金	陶磁器	セメント	石灰	黒鉛	洋紙	バル	人造絹織物 (支織、絹織)	綿織物	生糸	緑綿	人毛	グリセリン	脂肪酸
大、四八二	五九八	五七九七	六、四六〇	六、〇六八	五、二八四	七、四六	一	一、一八七	一、一八九	三、四七一	五九	六、一六七	五、九八九
大、四八二	五九八	五〇〇	一、四二八	五、五五五	五、六八八	八、九四二	七、七	九、七五〇	九、四一八	二、八七一	五九	五、一五五	四、五〇
一	〇	〇	〇	一六	一八九	一	五五	五五二	一	〇	〇	一	一
一	五	三、五	九	五	三六	〇	六、七五	一	一	一	一	一	四
一	二、五	九、四一	五、五七	一五	二四〇	五	一、〇五五	二、九八〇	一	四	〇	一	一
一	一〇〇五	四、〇六	五七〇	五五	五五七	一	九、五三二	四二	一五	〇	五	一	五、五七
一	一九	〇	二四	九五	五二	一	一	〇	一	一	一、〇五	一	一
一	六六	一八〇	〇	七七	四三	一	一四二	二五	一	一	一、五五〇	一	六
一	四二	〇	一	五	九	一	一	一	一	一	二	一	一
一	五、六	一	一	二九	一	一	一	一、四〇二	一	一	九七	一	一

其他豆類	一二八	一八六	。	。	九	二一	一	一	。
穀粉及澱粉類	二三四五	三四九六	五	五	八八	一六〇七	七	一	。
鮮魚介	五〇二	八五三	四九	二六	九四	四四九	二	。	。
乾魚	四四五	四四七	九九	一九八	六五	一六四四	四五	二五	下四
鹹魚	七二	一八二	五五	二二五	五八	四六五	六	一四	。
乾海苔	六一二	九二四	五〇	八六	四三	九四	五	六九	。
砂糖	。	七八	五〇	。	二八四	二〇五四	三四	六	。
林檎	一六三	四五二	八五	。	六二	二五三	一四五	八九	五
魚介罐頭	一五七	一〇二六	一五	五五	七	一六九二	一九	六九	五
牛皮	一五九七	九一六	。	。	二五	一	。	六九	。
棉實油	一五七	六〇四	。	。	。	。	。	。	。
魚油	五〇四	一三二八五	六三	。	。	七	。	。	。
礦油	二四九	一〇五四五	三	一五〇	四九	一五九	。	。	。
硬化油	三二六	五八八	。	六五	三	二七〇	。	。	。

日本正統

(折上り、國定規格B5二八×二五七耗)







日本政

[illegible]

(折上り國定規格R5 一公×二五耗)

紙類	二八九	二五・九	〇	〇	〇	〇	六	二	四三	一
石炭	八〇七	三八四三	一	四	五八八	五七三	五	五元	〇	八五
コークス	一〇二八	八二九〇	五	四	一三	五	九	四三	一	一
精研石	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
マシント	四九六	五八六	一	一	一	一	一	一	一	一
陶磁器	五三八	二一六五	〇	二	二	二	〇	〇	〇	六
釘類	五二六	一〇二九	〇	〇	〇	〇	一	〇	一	一
絶縁電線	二九二	八九五	一	一	一	一	一	一	一	一
鉄道車輛	二七六	一八五五	一	五	〇	六	一	一	一	一
自動車	六二四	八二五	〇	一	〇	〇	一	一	一	一
自轉車	一五八	一五八	〇	九	一	二	〇	一	一	一
機械類	二二八	一五八	八	九	〇	〇	一	一	一	一
木材	一五八	一五八	〇	〇	〇	〇	一	一	一	一
生護膜	五四三	五五	一	一	一	一	一	一	一	一
肥料	一五二	一五二	一	一	一	一	一	一	一	一



其 他	諸 島	支 那	日 本	其 他	諸 島	支 那	日 本
計	五五八八五	一五九四七	四九三三	計	五五八八五	一五九四七	四九三三

右の表によつて朝鮮の主要貿易品が内地並に協同支其の他の諸國との間に如何なる位置を以て占めてゐるを見ることが出来る。即ちこの表を一瞥して明かきには内地貿易の圧倒的なることと外國貿易の協同支の数字が稍々賑つてゐるわけを其の他の諸國との貿易の如くにも貧弱なることがあつた。

第四節 港別貿易

併合後に於ける鮮南各港の貿易状況は次の如くである。

第十八表 各港別輸移出入貿易額（単位千円）

港名	明治四十四年	大正四年	大正九年	大正十四年	昭和五年	昭和十年	昭和十四年
釜山	一五八八六	五三、三五四	一五九、五五九	三三、六六一	一、九、六九七	五五、五五五	七五、五五九
蔚山	三、三九六	九、五八八	二五、〇四八	五、〇八〇	三九、四八八	八、七、五五二	五、四、四八八
京城	六、五三八	一三、四八五	五、五五七	二、〇、二八〇	五、六、五五〇	五、〇、〇七二	三、五、五五〇
仁川	一六、七三二	二、九、九五四	七五、八三三	一五、〇、〇三一	二二、三、九八八	二、〇、四、〇二二	五、五、五五五

（折上り國定規格B5（三三三三三））

才 浦	三、三九八	四、五五六	一、六四六	五、五、五五二	九、三、三三二	四、五、五五〇	四、八、八〇一
大 邱	一	二、〇四二	一、五、五五九	五、五、五五八	六、九、五五五	四、六、五五〇	一、五、〇、四六
馬 山	一	一	一	一	一	一	一、七、七一九
新 義 州	一、八八九	一	一	五、一、五五九	七、二、一五五	一、五、五五五	一、五、五五五
龍 岩 浦	一	一	一	二、八、〇〇〇	四、五、五五五	七、七、一五五	五、五、五五五
多 獅 島	一	一	一	一	一	一	一、六、八
鎮 南 浦	四、五五六	七、五五三	四、二、四二一	五、五、五五五	六、〇、〇一一	一、五、〇、〇九七	二、二、八、五五
平 壤	二、五九一	二、九、七五四	一、三、九、七五四	一、四、九、七五四	一、七、五、五五五	一、九、九、七五四	二、八、一、五五〇
羅 津	一	一	一	一	一	一	一、五、五五五
元 山	五、五三三	六、五、五五七	一、五、〇、四二二	五、五、五五九	五、五、五五五	五、五、五五五	六、八、六、五五
咸 興	一	一	一	一	一	一	一、〇、六、五五五
清 津	九、七	一、〇、七	四、五、五五三	五、五、五三一	五、八、五五五	二、八、八、五五	一、〇、六、五五五
雄 基	六、五八	六、五、五五七	八、九、四四四	七、五、五五五	一、八、五、五五五	五、〇、四、四四	一、五、七、八〇八
南 陽	一	一	一	四、五、五五九	四、五、五五七	六、六、五五五	三、八、五五五







右表によつて見た朝鮮の貿易港として新嘉坡位を占めるものは釜山であつて朝鮮の貿易港の三〇％以外は釜山の占めるところであつた釜山に重く主なる貿易港としては仁川、鎮南浦、平城、群山、新義州、本浦、元山等を挙げると新嘉坡、その他の諸港の貿易港は極めて僅少であつたのである。

各港內地及對外國貿易比較（單位千兩）

仁川	京城	群山	釜山	本浦	馬山
輸出 輸入	輸出 輸入	輸出 輸入	輸出 輸入	輸出 輸入	輸出 輸入
三、六五〇 二、六七一	三、九六七 五、五七二	一、七〇三 一、六五五	六、三一九 八、六六六	八、八〇九 一、四一七	一、一〇一 一、一〇一
大正四年	大正四年	大正四年	大正四年	大正四年	大正四年
二、〇八一 九、八八五	一、〇四九 一、九六九	九、五三三 五、四一九	五、八七三 五、五三一	四、五九六 五、二六六	四、七五五 五、二六六
大正五年	大正五年	大正五年	大正五年	大正五年	大正五年
五、九六〇 六、六五五	一、四一五 一、四一五	二、四一五 八、八八五	二、五四四 一、四一四	一、五九二 五、五八八	六、六五五 六、六五五
大正六年	大正六年	大正六年	大正六年	大正六年	大正六年
一、九六九 二、〇二四	六、四六六 四、一七九	五、四三三 二、五八八	三、九八八 七、九八五	三、一七八 一、六九三	四、四四四 四、四四四
大正七年	大正七年	大正七年	大正七年	大正七年	大正七年
九、九六五 一、九六五	一、四四二 四、一七九	五、五八八 二、九一四	八、五五五 一、八八八	五、五五五 一、八八八	五、五五五 一、八八八
大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年
一、八八八 二、〇二四	五、五八八 五、〇一〇	八、五八八 一、五八八	三、二八二 一、五八八	一、二二五 一、二二五	一、二二五 一、二二五
大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年
五、〇一〇 九、五八八	九、五八八 二、七二五	五、八八八 四、〇八一	五、八八八 四、〇八一	五、八八八 四、〇八一	五、八八八 四、〇八一
大正十年	大正十年	大正十年	大正十年	大正十年	大正十年
五、〇一〇 九、五八八	九、五八八 二、七二五	五、八八八 四、〇八一	五、八八八 四、〇八一	五、八八八 四、〇八一	五、八八八 四、〇八一

(折上り國定規格B5一公×二五耗)

[illegible]



右表によつて明かであるに朝鮮の港は対内地依存性の濃厚なものと、対外國貿易的色彩の濃厚なもの、その中間を行くもの、三つの色に分けられることと出来る。朝鮮並に南鮮に位する鎮南浦、仁川、群山、木浦、釜山、京城、平壤、大邱並に北鮮の咸興等の諸港はその貿易額の10%以上加付の貿易額あり中にはその率が五

羅津	元山	咸興	清津	雄基	南陽	上峰	會寧	其他	合計
移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出
11	40.2 55.8	22.7 78.5	33.4 66.6	11	11	11	11	48.0 55.0	55.0 55.0
11	55.0 40.2	78.5 22.7	66.6 33.4	11	11	11	11	55.0 48.0	55.0 55.0
11	60.4 39.6	39.6 60.4	84.4 15.6	11	11	11	11	39.6 60.4	55.0 55.0
11	71.1 28.9	28.9 71.1	90.2 9.8	39.6 60.4	11	11	11	28.9 71.1	55.0 55.0
11	55.0 40.2	78.5 22.7	66.6 33.4	11	11	11	11	40.2 55.0	55.0 55.0
11	71.1 28.9	28.9 71.1	90.2 9.8	39.6 60.4	11	11	11	28.9 71.1	55.0 55.0
11	55.0 40.2	78.5 22.7	66.6 33.4	11	11	11	11	40.2 55.0	55.0 55.0
11	71.1 28.9	28.9 71.1	90.2 9.8	39.6 60.4	11	11	11	28.9 71.1	55.0 55.0
11	55.0 40.2	78.5 22.7	66.6 33.4	11	11	11	11	40.2 55.0	55.0 55.0
11	71.1 28.9	28.9 71.1	90.2 9.8	39.6 60.4	11	11	11	28.9 71.1	55.0 55.0

平壤	鎮南浦	多爾島	龍岩浦	新義州	馬山	大邱	木浦	釜山	群山	京城	仁川	合計
移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出	移入 移出
51.9	48.1	11	11	40.0	11	11	11	54.4	45.6	55.0	45.0	30.1
48.1	51.9	11	11	60.0	11	11	11	45.6	54.4	45.0	55.0	69.9
61.7	38.3	11	11	11	11	11	11	38.3	61.7	45.0	55.0	114.3
38.3	61.7	11	11	11	11	11	11	61.7	38.3	45.0	55.0	185.7
28.8	71.2	11	11	11	11	11	11	71.2	28.8	45.0	55.0	214.8
71.2	28.8	11	11	11	11	11	11	28.8	71.2	45.0	55.0	285.2
61.7	38.3	11	11	11	11	11	11	38.3	61.7	45.0	55.0	214.8
38.3	61.7	11	11	11	11	11	11	61.7	38.3	45.0	55.0	285.2
51.9	48.1	11	11	40.0	11	11	11	54.4	45.6	55.0	45.0	30.1
48.1	51.9	11	11	60.0	11	11	11	45.6	54.4	45.0	55.0	69.9
61.7	38.3	11	11	11	11	11	11	38.3	61.7	45.0	55.0	114.3
38.3	61.7	11	11	11	11	11	11	61.7	38.3	45.0	55.0	185.7
28.8	71.2	11	11	11	11	11	11	71.2	28.8	45.0	55.0	214.8
71.2	28.8	11	11	11	11	11	11	28.8	71.2	45.0	55.0	285.2
61.7	38.3	11	11	11	11	11	11	38.3	61.7	45.0	55.0	214.8
38.3	61.7	11	11	11	11	11	11	61.7	38.3	45.0	55.0	285.2
51.9	48.1	11	11	40.0	11	11	11	54.4	45.6	55.0	45.0	30.1
48.1	51.9	11	11	60.0	11	11	11	45.6	54.4	45.0	55.0	69.9
61.7	38.3	11	11	11	11	11	11	38.3	61.7	45.0	55.0	114.3
38.3	61.7	11	11	11	11	11	11	61.7	38.3	45.0	55.0	185.7
28.8	71.2	11	11	11	11	11	11	71.2	28.8	45.0	55.0	214.8
71.2	28.8	11	11	11	11	11	11	28.8	71.2	45.0	55.0	285.2
61.7	38.3	11	11	11	11	11	11	38.3	61.7	45.0	55.0	214.8
38.3	61.7	11	11	11	11	11	11	61.7	38.3	45.0	55.0	285.2

(折上り國定規格B5二公二五七粒)



%を起えるものがある。これに有し新義州、南陽、上三峰の如き、鮮満國境の諸港  
 は既に外國貿易の壓制的優位を占めてゐる。然るに龍岩、羅津、元山、清  
 津、雄基の如きは還半、内地貿易のあり、而して50%乃至40%の外國貿易  
 を有して居る。前二者は極端に内地貿易に比すれば中性的である。

#### 第四章 朝鮮の金銀貿易

朝鮮に於ける金銀貿易は保合以来、計數の判明する昭和十一年までの間に  
 於て左表の如く、輸出入額一億三千三百八十四万五千円、移出入額七億  
 四千三百五十三万二千円、總額に於て七億七千七百三十七万七千円に達し、對外國  
 貿易に於ては一億二千八百八十四万五千円の入超、對内地貿易に於ては五億  
 六千七百六十一万二千円の出超を示してゐる。

附表

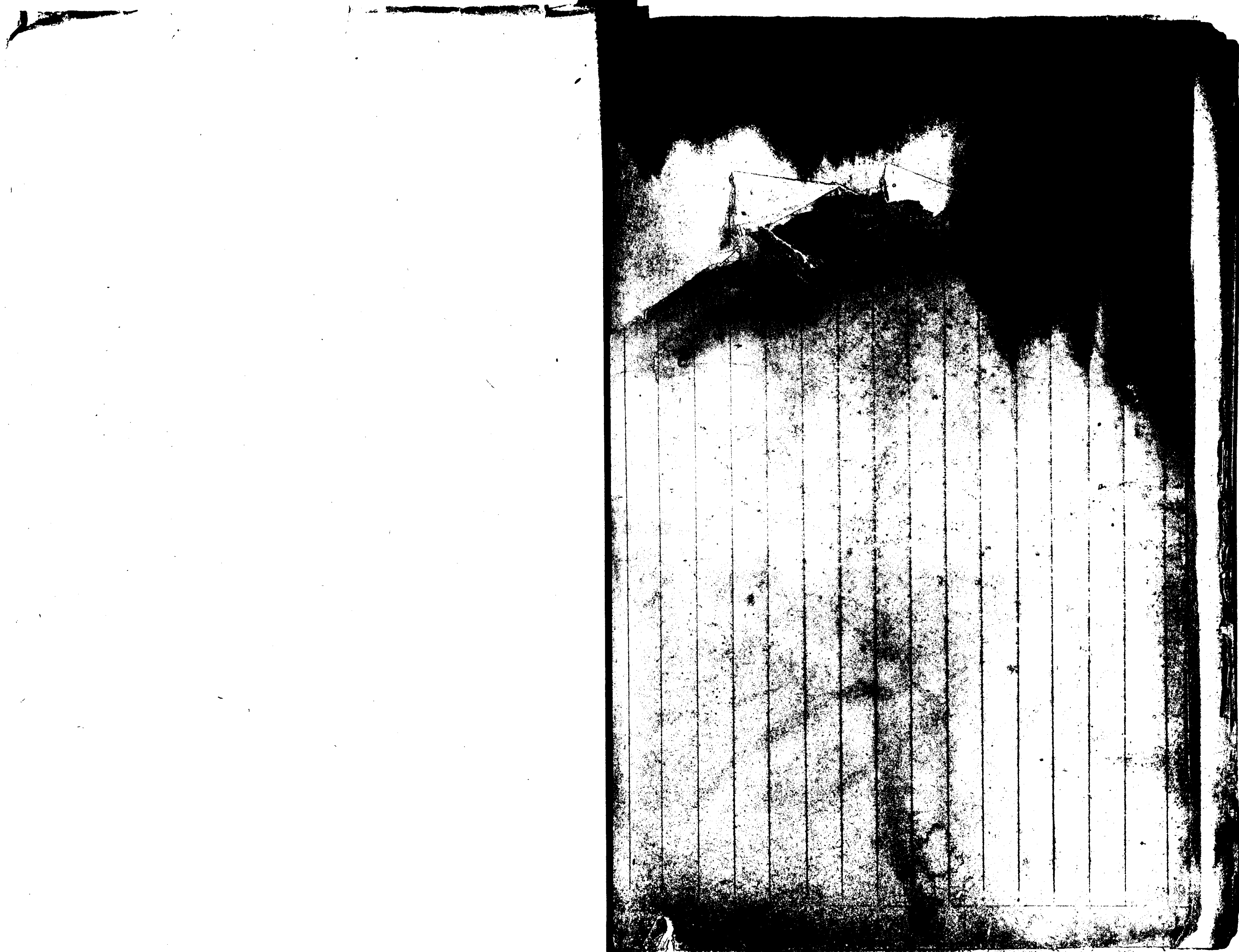
表 金銀貿易の推移 (單位千円)

年次	輸出	輸入	合計	出入超過 (△印入超)	移出	移入	合計	出入超過 (△印入超)
明治四三年	一五九	九	一六八	一五〇	九、四〇	一八、六六	一〇、九〇六	七、一七四
同 四四年	三三	三五	六八	二	一三、八五五	四七、〇四	一七、五二七	八、二九
大正元年	三八	一三六	一六四	一〇、八	一〇、〇九六	一三、三六	一、四三二	八、七六〇
同 二年	一一	七九	九〇	六八	一〇、九三二	一、三三	二、〇五四	一〇、八一〇
同 三年	一〇	一八四	一九四	一七四	一〇、八五	一、二〇	一〇、九三三	一〇、六九三
同 四年	三	二八一	二八四	二七八	一〇、八五	一、二〇	一〇、九三三	一〇、六九三
同 五年	一六	一五三	一六九	一五三	一〇、八五	一、二〇	一〇、九三三	一〇、六九三
同 六年	二九	九六	一二五	六七	九、六五五	三、三九	九、九九四	九、二七六
同 七年	〇	四六	四六	四六	六、〇三三	三、二二	六、三五五	五、七〇一
同 八年	〇	二〇	二〇	二〇	四、四一八	一、六六	六、〇三四	二、八〇二

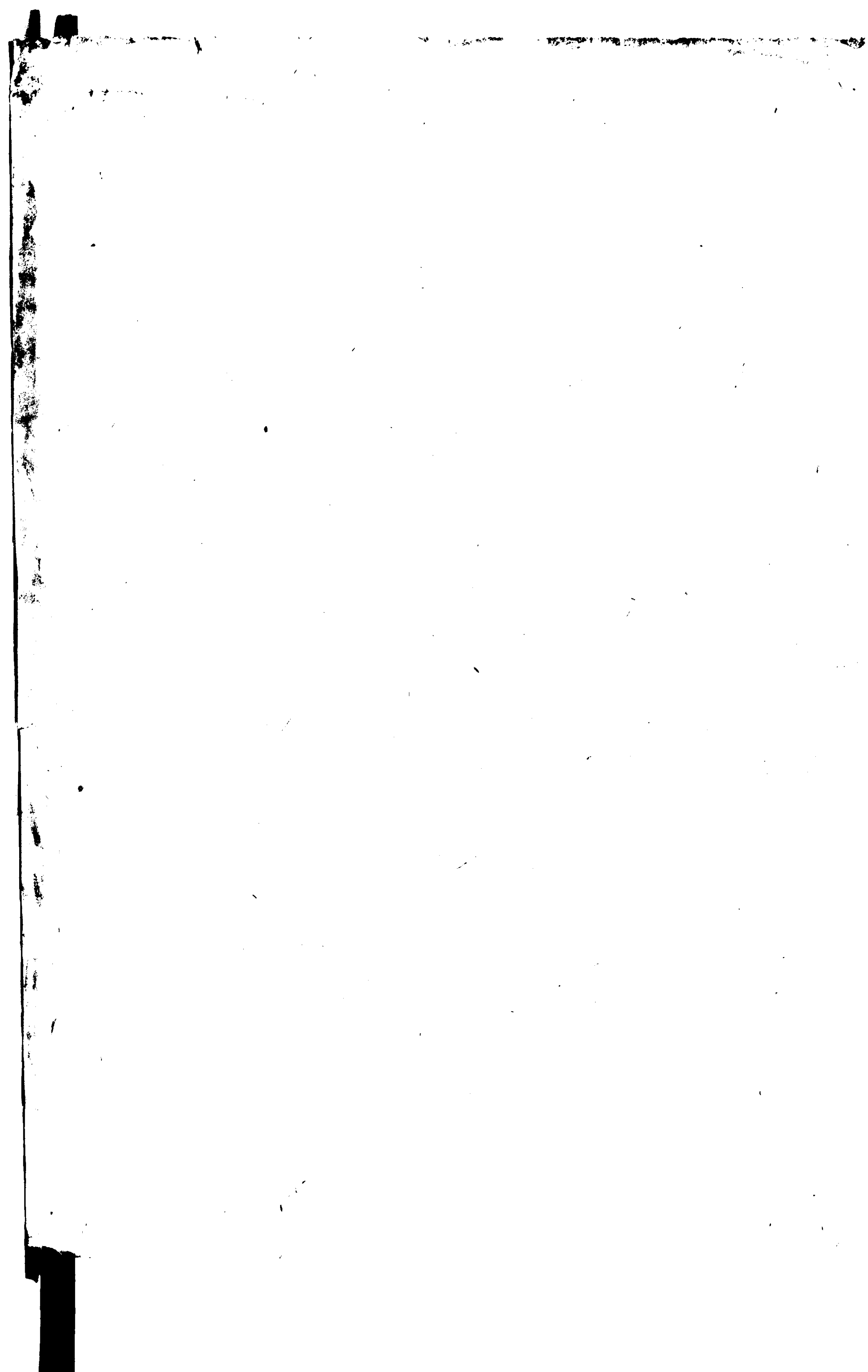














日本人の海外活動に関する研究調査(2) 資料  
朝鮮の国産収支

昭和22年11月29日

334.6  
33893  
7312.64

山文書

64



# 朝鮮の國際收支

## 目次

### 第一章

#### 序説

### 第二章

#### 貿易上の國際收支

#### 第一節

朝鮮に於ける貨物貿易

#### 第一款

対内地貿易

#### 第二款

対外國貿易

### 第三章

#### 第一節

朝鮮に於ける金銀貿易

#### 第一款

貿易上の國際收支

#### 第二款

受取勘定

#### 第三款

國庫資金の流入額

#### 第四款

大蔵省預金部資金の流入額

#### 第五款

會社資本による投資額

#### 第六款

鮮内は本邦を有する會社による投資額

#### 第七款

鮮内支店を有する會社の投資額

#### 第八款

昭和十七年以前以降に於ける外債資本の流入額

#### 第九款

常務基金

三三・二・二九

共59枚

334.6  
338.93  
73264

## 國際收支

### 第一章 序説

朝鮮の國際收支の對象として過去に於ける日本内地と朝鮮との經濟關係を取りとめることは國際收支の概念からすれば異例に屬するが、朝鮮の經濟的緊密度の關係から見て内地との經濟關係を除外することは事實上朝鮮の對外經濟關係の主要部分を欠くこととなり、又甘南將來日本と朝鮮との間に設定せらるべき國際經濟から考へ本稿では主として兩者の經濟關係を記述することとした。これは經濟關係の密度、資料入手等、の關係からして現在としては已むを得ないところである。

併しなお日鮮間の收支と云ふことは實際の調査に當るは仲々困難な問題である。これは第一に朝鮮經濟に於ける内地延長主義の成功、經濟文化一般に於ける日鮮一体化の進展によつて朝鮮經濟を内地と切離して別個に計算するに困難なること、第二に據るべき調



第二節 支拂勘定

- 第一款 朝鮮總督府特別会計より内地特別会計へ繰入額
- 第二款 有価証券の購入による流出資金
- 第三款 大蔵省預金部資金源としての流出資金
- 第四款 保険料支払による流出資金
- 第五款 生命保険
- 第六款 火災保険

第四章 結 語

別 項 (予行下書?)

- 第二章 貿易上の収支
- 第一章 明治初年以前の朝鮮地物貿易
- 序 説
- 第三章 貿易外の収支
- 第一章 内地資金流入の概況
- 第二章 支 払 勘 定

二二、二、二九

共 59 枚

334.6  
338.93  
732.64

國際收支

第一章 序 説

朝鮮の國際收支の對象として過去に於ける日本内地と朝鮮との經濟關係を取りとめることは國際收支の概念からすれば異例に屬するが、朝鮮の經濟的緊密度の關係から見て内地との經濟關係を除外することは事實上朝鮮の對外經濟關係の主要部分を欠くこととなり、又甘南將來日本と朝鮮との間に設定せらるべき國際經濟から考へ本稿では主として兩者の經濟關係を記述するにとつた。これは經濟關係の密度、資料入手等の關係からして現在としては已むを得ないところである。

併しなお、日鮮間の收支と云ふことすら實際の調査に當るは仲々困難な問題である。よは、第二章に朝鮮經濟に於ける内地延長主義の成功、經濟文化一般に於ける日鮮一体化の進展によつて朝鮮經濟を内地と切離して別個に計算するに若干困難なること、第二章に據るべき調



國際收支

第一章 序説

三三・二・二九

共59頁

334.6  
338.93  
732.64

朝鮮の國際收支の對象として過去に於ける日本内地と朝鮮との經濟關係を取りとらふことは國際收支の概念からすれば異例に屬するが、内鮮間の經濟的緊密度の關係から見て内地と經濟關係を除外することは事實上朝鮮の對外經濟關係の主要部分を欠くこととなり、又甘南將末日本と朝鮮との間に設定せらるべき國際經濟から考へ本稿では主として西者の經濟關係を記述するにとつた。これは經濟關係の密度、資料入手等の關係ありして現在としては已むを得ないところである。

併し知らむ朝鮮間の收支と云ふことすら實際の調査に當るは仲々困難な問題である。よは第7に朝鮮經濟に於ける内地延長主義の成功、經濟文化一般に於ける内鮮一体化の進展によつて朝鮮經濟を内地と切離して別個に計算するに困難なること、第二に據るべき調



査資料の缺如と云ふことは甚大なる。其の爲勢ひ記述にも推定による部分が多いが、然らずに國際收支を構成する大部分の項目に付ては全然資料なきを以て、缺如と云ふことは甚大なる遺憾とするところである。従つて本稿は朝鮮の國際收支といふもの、寧ろ其の一部の資料を提供し、たゞ其の概略の結果となつた。

尙國際收支を一年の年を限つて國際間の經濟關係に基く、受拂ひの收支を計量するの普通例もあるが、本稿では條約以來計數の判明する最近の間の期間に於て、出入の年別と、記述するに努めたが、而も資料なきを以て、つゞける年別によらず一括して記述するにとした。

## 第二章 貿易上の國際收支

### 第一節 朝鮮に於ける貨物貿易

明治四十三年から昭和十九年までの朝鮮の輸出入貿易は左表の通り、輸出入總額三百十五億六千三百十八万二千円とあり、同期間中に於ける輸入超過十億三千二百四万一千円、移入超過二十九億八千二百十八万一千円、總額四十億一千四百二十二万二千円の輸移入超過を示してゐる。

第一表 朝鮮貿易の推移 (単位千円)

年次	輸 出	輸 入	出入超過	移 出	移 入	出入超過
明治四十三年	四、五三五	一、四四三	九、九〇〇	一、五三七	二、五三四	九、九六九
同 四十四年	五、五一六	二、〇〇二	一、四五一	一、三三四	三、三〇五	一九、七七八
大正元年	五、六一七	二、六三三	二、〇七四	一、五三六	四、〇七五	二五、三八七
同 二年	五、九二一	三、六一八	二、五五九	二、五三三	四、〇四二	一五、二一六



同三年	六、四四八	二四、六四七	一八、一九九	二八、五八七	三九、〇四六	一〇、四五九
同四年	九、三一九	一八、一五九	八、八四〇	四〇、九〇〇	四一、五三五	大五五
同五年	一四、八五四	二二、六七四	七、八二〇	四二、九六四	五二、四五九	九、四九五
同六年	二〇、二三三	三一、三九六	二、一六三	六四、七二五	七二、六九六	七、九七一
同七年	一八、六九八	四三、一五一	二四、四五三	一三七、二〇四	一七、二七三	△一九、九三一
同八年	二二、〇九八	九八、一五九	七六、〇六一	一九九、八四八	一八四、九一七	△一四、九三一
同九年	二七、六三九	一〇六、一七四	七八、五三五	一八九、三八〇	一四三、一一一	△二六、二六九
同十一年	二〇、八八四	七五、八九九	五五、〇一五	一九七、三九二	一五六、四八二	△四〇、九一〇
同十二年	一七、四八九	九五、七九七	七八、三〇八	一九七、九一四	一六〇、二四七	△三七、六六七
同十三年	二〇、四〇五	九八、三三八	七七、九三五	二四一、二六二	一六七、四五二	△七三、八一〇
同十四年	二二、三七九	九七、七七六	七五、三九七	三〇六、六六〇	二二一、八一七	△九四、八四三
同十五年	二四、三四一	一〇五、三八八	八〇、〇四七	三一七、二八八	二三四、六二三	△八二、六六五
同十六年	二四、七七九	一二五、九三三	九九、一五四	三三八、一七五	二四八、二五五	△八九、九四〇
同十七年	二八、一三四	一二三、九四三	八五、八〇九	三三〇、七九一	二六九、七四四	△六一、三一七

同三年	三三、一四九	二八、一五一	八六、〇〇二	三三三、八二九	二九五、八三九	△三七、九九〇
同四年	三五、七七三	一〇七、七六七	七、九九四	三〇九、八九一	三一五、三二五	五、四五四
同五年	二五、八五二	八八、八五四	六三、〇〇二	二四〇、六九四	二七八、一九四	三七、五〇〇
同六年	一六、七七七	五二、六九六	三九、九二四	二四九、〇二七	二一七、七七〇	△三一、二五七
同七年	二九、二〇九	六、六八五	三三、四七六	二八二、一四四	二五八、六七〇	△二二、四七四
同八年	五二、七七三	六四、三六八	一一、五九五	三一五、八五四	三三九、八一七	△二二、九六三
同九年	五七、六七三	七九、五三七	二一、八五四	四〇七、六九三	四三九、六三二	三一、九三九
同十一年	六四、九〇二	一〇〇、五八九	三五、六八七	四八五、八九三	五五八、八一三	七二、九二〇
同十二年	七五、二六五	一二四、四九九	三九、二三四	五八八、〇四七	六四七、九一八	一一九、八七一
同十三年	二二、〇九七	一三八、一三八	一五、〇四一	五七二、四四五	七三五、四一三	一六二、九六八
同十四年	一六九、〇六七	一三四、五八三	△三四、四八四	七一〇、五四〇	九二一、三四六	二一〇、八〇六
同十五年	二六九、九二一	一五九、〇三一	△二〇、八八〇	七三六、八八三	一三二九、四一七	四九二、五三四
同十六年	二〇六、三八四	二〇、六五二	△五、七五二	七四一、四二四	一三三五、七一五	五九四、九九一







同 一 大 年	一八四、四六四	一五八、三四四	△二六、一二〇	七八八、八三二	一五六、九九五	五七二、一六一
同 一 二 年	一九二、四三五	二六、四〇八	△七六、〇二七	七五二、二八六	一三七、四七六	六三二、四六〇
同 一 八 年	一九一、三九八	二五、三三五	△五九、九三七	五二九、〇四七	一三三、六九九	六〇、六六五二
同 一 九 年	一九〇、七六六	一八六、七六六	△四、五〇	八二四、二三三	七六九、一七九	△四、五〇五四
計	二、三三、一七七	三、三三、二八八	一〇、三三、〇四一	二、四七、二五三	一四、四五、三四五	二九八、二一八

(註) 朝鮮統計年報、朝鮮總督府資料による

右の表に依つて明かしく對外國貿易については併合以來昭和十四年までは、連年輸入超過を續け輸出超過の年は僅かに昭和十五、十六、十七及び十九年、二十年に過ぎず又對内地貿易については併合以來大正六年までは輸入超過を續けたが昭和七年からは中間の昭和四、五年、二十年を除き輸出超過となつた。これは主として米の移出の旺盛であつたことに基因する。昭和八年より同十八年までは再び移入超過の狀態に復歸した。これと輸移入貿易總額について見れば併合以來昭和十九年に至る朝鮮貿易は連年輸移入超過を續け輸移出超過の年は僅かに昭和

十三、十四年の兩年に過ぎず輸移入超過は朝鮮貿易の特色となしてゐる。併しそれらの入超過は主として各種建設資材其の他原材料等朝鮮の産業開發の資源たるべき貨物の入増に因つてゐた為でゆゑしも悲觀すべきものはなかつた。而してこの貿易上の不均衡は一般會計からの補充金、朝鮮事業公債、内地民間の投資等に産金の移出等貿易外の收支によつて補はれてゐた。次に貿易品中重要な商品について見れば次表の通りである。

第二表 朝鮮の主要輸移出入商品 (単位千円)

品名	明治四五年	大正四年	大正九年	大正十四年	昭和五年	昭和十年	昭和十四年	昭和十九年	昭和二十年
品名	明治四五年	大正四年	大正九年	大正十四年	昭和五年	昭和十年	昭和十四年	昭和十九年	昭和二十年
米	五、六二〇	三、六二二	七、四八一	三、〇五一	一、七五五九	二、四〇、五五五	二、四〇、五五五	一、七五五九	二、三、五五三
大豆	五、二二五	五、三〇〇	一、七五五九	二、五五五	一、七五五九	一、七五五九	二、三、五五三	一、七五五九	二、三、五五三
穀類	三、一六	七、七九	一、二六八	一、八八八	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇
水産物	三、一六	七、七九	一、二六八	一、八八八	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇
林産物	三、一六	七、七九	一、二六八	一、八八八	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇
畜産物	三、一六	七、七九	一、二六八	一、八八八	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇
雑類	三、一六	七、七九	一、二六八	一、八八八	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇



煙草	魚油	礮油	硬化油	脂肪酸	石鹼	人蔘	カーバイト	爆発薬	綿綿	生糸	炸薬纖維	麻
・	・				十本	一八八			三三	・	・	
毛	・				十本	二二五			二二五	・	七	
一六八	・				十本	一四一			六〇二	六四六	五七	
・	・				十本	一八八			二二五	八六八	一八三	
一二五	六七〇				十本	三三三			七五五	一六八	七〇六	
三七五	五五九				十本	一八七			一三四	一四一	五七四	
・	一三三				十本	四七三			二二八	三〇一	・	
五九九	六五五	五〇七	二四三	三五三	一四一	三三六	五三三	七三〇	一二二	三〇六	一〇一	一〇一
九八二	二四四	四一四	八〇四	六六五	四二六	二〇一	二七五	二二二	一五〇	四四三	五七	一三二







品名	明治四年	大正四年	大正九年	大正十四年	昭和五年	昭和十年	昭和十四年	昭和二十年	昭和二十七年
米	二二	三二六	二一六	二四、四七六	一〇、一二〇	七、〇三四	一五、四九五	六、五九九	三、三三五
小麦									
大豆									
小麥粉	三五	六八五	二、五五二	六、八八八	一〇、九三二	一、四九二	八、〇七四	二、一七八	一、〇八〇
砂糖	八六一	一、五四〇	四、五七五	五、八七〇	七、五七五	七、五八一	一、〇八四	八、八八五	一、〇八〇
其他									
計	一五、二一八	四、四四六	一、三六二八	三、三四六五	二、六三三七	五、三四四五	八、四〇八四	九、三三六六	九、四四七二
其他	一、六五三	一、五四三	二、一六五	五、〇四八	十、〇六九	一、三、二五八	四、三九九九	一、四六、七〇九	一、六九、二二八
計	一、六五三	一、五四三	二、一六五	五、〇四八	十、〇六九	一、三、二五八	四、三九九九	一、四六、七〇九	一、六九、二二八
其他									
計	一、六五三	一、五四三	二、一六五	五、〇四八	十、〇六九	一、三、二五八	四、三九九九	一、四六、七〇九	一、六九、二二八

品名	明治四年	大正四年	大正九年	大正十四年	昭和五年	昭和十年	昭和十四年	昭和二十年	昭和二十七年
米	二二	三二六	二一六	二四、四七六	一〇、一二〇	七、〇三四	一五、四九五	六、五九九	三、三三五
小麦									
大豆									
小麥粉	三五	六八五	二、五五二	六、八八八	一〇、九三二	一、四九二	八、〇七四	二、一七八	一、〇八〇
砂糖	八六一	一、五四〇	四、五七五	五、八七〇	七、五七五	七、五八一	一、〇八四	八、八八五	一、〇八〇
其他									
計	一五、二一八	四、四四六	一、三六二八	三、三四六五	二、六三三七	五、三四四五	八、四〇八四	九、三三六六	九、四四七二
其他	一、六五三	一、五四三	二、一六五	五、〇四八	十、〇六九	一、三、二五八	四、三九九九	一、四六、七〇九	一、六九、二二八
計	一、六五三	一、五四三	二、一六五	五、〇四八	十、〇六九	一、三、二五八	四、三九九九	一、四六、七〇九	一、六九、二二八
其他									
計	一、六五三	一、五四三	二、一六五	五、〇四八	十、〇六九	一、三、二五八	四、三九九九	一、四六、七〇九	一、六九、二二八







如右の通りあり。米に重きは金屬、水産物、鉱物、織物、(石炭、肥料)、牛、硫  
 物、林産物、機械類、煙草、大豆、魚粉、紙類、黒鉄等が主なるものなり。  
 原産産業たる農林水産物の生産が多いが年々進んで従ひ農林時代から  
 農工併進時代への轉移を認めざるを得ない。

次に転移入の側に就て見ると織物、機械類、石炭、鉄、肌衣、木材、和洋服、  
 紙類、陶磁器、鉄道車輛及び同部分品、自動車及び同部分品、石油、生果、大  
 豆、葉、肥料、砂糖等が主なるものとなり居り、大体に於て建設並に工業用  
 資材と生活用製品に二大別するものがある。葉は移出米の身代品として大正  
 十三年頃より輸入額が多額に増加したものである。

### 第三節 相手國別に見た朝鮮の貿易

對内地貿易は併合前後を通じて絶對的優位を占めてゐる。朝鮮貿易に  
 於ける内地及び外國の比重を見れば次の如くである。

第三表 對内地及び外國貿易の比重(單位%)

	明治元年	明治四十年	大正四年	大正九年	大正十四年	昭和五年	昭和十年	昭和十五年	昭和二十年
移出入	七三	六八	七五	七二	八二	八三	八六	八二	八八
輸出入	二七	三二	二五	二九	一九	一八	一四	一八	一〇
計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

即ち朝鮮貿易の七〇%以上は對内地移出貿易を占められて居り、對外國  
 貿易は三〇%に起るに過ぎない。極く稀に昭和十七年より少しは僅かに一二%に過さ  
 ない。

### 第一款 對内地貿易

對内地貿易の趨勢は左の通りである。

第四表 朝鮮對内地貿易の推移(單位千円)

	輸出	同指数	移入	同指数	合計	同指数	移出入超過 (△印入超過)
明治四十年	一五、三七八	一〇〇	二五、三三八	一〇〇	四〇、七二六	一〇〇	△九、九四九
大正四年	四〇、九〇〇	二六六	四一、五三五	一六四	八二、四三五	二〇二	△六、三四四
同 九年	一六、九三八	一一一	四三、一一一	一六五	三二、四九二	七六七	△六、三六九
同 十四年	三二、二八八	二〇六	五五、四六三	九二六	五五、一九二	一三五五	△三、六六五
昭和五年	二四、〇九四	一五五	二七、六九四	一〇九七	五八、八八九	一、二七四	△三七、四九九
同 一〇年	四八、八九三	三、一五九	五八、八一三	二、二〇五	一〇四、七〇七	二、五五五	△七、三九九



同	一四年	七三六、八八二	四、七九一	一三九、四七	四、八五〇	一、九六六、二九六	四、八二八	▲四九六、五三四
同	一五年	七四一、四二四	四、八二一	一三三、五七五	五、二七〇	二、〇七二、一三九	五、一〇〇	▲五九四、九一
同	一六年	七八八、八三二	五、一五〇	一三六、九三三	五、三六九	二、一四九、八五五	五、二七九	▲五九六、一六一
同	一七年	七五二、二八六	四、八九二	一三三、四四六	五、四二二	二、一三七、〇三二	五、二二三	▲六三二、四六〇
同	一八年	五三九、四四七	三、四〇二	一三三、五九九	四、四八〇	一、六六四、四六六	四、九八七	▲六、〇六五、三三
同	一九年	八四二、三三三	五、二九四	一七六、九七九	五、〇三四	一、五八三、四三二	一、五八八七	四、五、〇五四

即ち、佛金の行はれた明治四十三年の対内地貿易額が移出一千五百三十七万餘円、移入二千五百三十四万餘円合計四千七十七万餘円、僅少ながらもあつたが昭和十六年からは移出七億八千八百八十三万餘円、移入十三億六千九十九万餘円合計二十一億四千九百八十二万餘円といふ巨額となり、其の間差は五、二倍の著増を示した

第二款 對外國貿易

朝鮮の貿易は内地移出入によつて輸入と輸出とを對外國貿易とし、従来、移出米の補充食糧として滿洲粟米等が少量に輸入される外は、輸入も亦なく朝鮮貿易の總額から見れば外國貿易の比重は三割以下といふ貧弱なものであつた。併し、たゞう總計額を割合以來、相當の改善が發展と進歩を示した。即ち、昭和十六年の輸入は

十八億九千万餘円であつた。昭和十四年には四億二千八百九十四万餘円と實に二十三倍に近しい増進を示してゐる。

第五表 對外國貿易の推移 (単位千円)

年	輸 出	同指數	輸 入	同指數	合 計	同指數	總出入總額 (輸出超過)
明治四三年	四、五三五	一〇〇	一四、四三四	一〇〇	一八、九六九	一〇〇	九、八九九
大正四年	九、三一五	二九九	一八、一五九	一三五	二七、四七九	一四四	八、八三九
同 九年	五、六三九	六〇九	一〇六、一七四	七三五	一一三、八一四	七〇五	八、五五五
同 一四年	四、三四一	五五九	一五五、三八八	七三〇	一五九、七三九	八八三	八、〇四六
昭和五年	五、八五二	五七〇	八八、八六四	六二五	二四、七二六	六〇四	六、三〇二
同 一〇年	四、九〇二	一四三三	一〇〇、五八九	六九六	一六五、四九一	八七二	五、六八七
同 一四年	二、六九、九二一	五、九五二	一五九、〇五一	一、〇一一	四、二八、九四三	二、二六一	▲一、〇八九
同 一五年	二、〇六、三三四	四、五五一	一〇〇、六五二	一、三九〇	四、〇七、〇三七	二、一四六	▲五、七五五
同 一六年	一、四、四六四	四、〇六八	一五八、三四四	一、〇九七	五、四六、八〇九	一、八〇七	▲三六、二九







[illegible][illegible]







萬壽一五七五  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

朝鮮に於ける  
金銀貿易

金貨、金地金及銀貨、銀地金の輸出入の状況は左の通りである。

年次	輸出	輸入	合計	移出	移入	合計
明治四三年	一五九	九	一六八	一五〇	一八六六	一〇、九〇六
同 四四年	五三	五五	一〇八	一三八三	四七〇四	六、五五七
同 五五年	二八	一三六	一六四	一〇、〇九六	一五五六	二、四五二
同 六六年	一一	九	九〇	一〇、九三二	一三二	一、〇五四
同 七七年	一〇	一八四	一九四	一〇、八一五	一三〇	一〇、九四五
同 八八年	五	二八一	二八四	二、七六〇	五五一	一、五九一
同 九九年	一六	一、三二三	一、三三九	一六、一〇四	五二二	一六、四二六
同 一〇〇年	二九	九六	一二五	九、六五五	五五九	九、九四〇
同 一〇一年	〇	四六	四六	六、〇五五	五三二	六、四四五
同 一〇二年	〇	五〇	五〇	四、一八	一、六一六	六、〇〇四
同 一〇三年	一、五五二七	一四、五二七	一六、〇七九	二五、八四二	一、四六六	二五、三〇八
同 一〇四年	六、二九七	六、二九七	一、二九七	六、二九七	六、二九七	一、二九七

同 一〇年	同 九年	同 八年	同 七年	同 六年	同 五年	同 四年	同 三年	同 二年	同 元年	同 四年	同 三年	同 二年	同 元年
一一	一八	二〇	五〇	二二	二	一	一	一	一	一	一	一	一
六九、五七〇	五五	四一	七五五	二一、九〇五	二、五九四	二四六	一一〇	一九二	二三〇	二六〇	一八	一三四	二二五
六九、三八一	五五	六一	七八三	二一、九二五	二、五九六	二四六	一一〇	一九二	二三〇	二六〇	一八	一三四	二二五
六九、五七〇	五五	六一	七八三	二一、九二五	二、五九六	二四六	一一〇	一九二	二三〇	二六〇	一八	一三四	二二五
二一〇、五八一	五五、三五五	二四、三七五	二八、三八四	五九、五五五	二六、八〇一	六〇、九六	三、六六九	五、二六二	七、四五一	四、三五八	五、七五六	六、五九五	四、一八九
三、八四七	五五五	三、八〇七	九、八五〇	五五	一五七	六五九	四三七	五、二六二	四六九	八〇九	一五七三	九三三	九二四
二四、四三八	五五、六六六	二八、一八二	五八、一三四	五九、五七八	二六、九三八	六、七三五	四〇、九六	五、五九〇	七、九二〇	五、一六七	七、五〇九	七、五二六	五、二一三
二〇六、七三四	五五、九九六	二〇、五八八	一八、四三四	五九、四七二	二六、六六四	五、四五八	四〇、九六	四九、三三四	六、九八二	三、五四九	四、一六三	五、六六〇	五、六六五



大藏省

貿易は大凡そ十二億五千百万円の出超を示すものと推定せられる。

昭和十二年の貿易金量は  
 計 二五、〇〇〇、一三、三四五、一五、八四五、二〇八、八四五、五七二、五九六、〇、六四、五五五、五七、六二二、  
 (注) 朝鮮金貨の流通は、朝鮮に於ける金銀貿易の輸出入に依る。一億三千三百八十四万五千円、  
 右表に見る如く、朝鮮に於ける金銀貿易の輸出入は、一億三千三百八十四万五千円、  
 移出入額が億四千三百五十五万二千円、總額に於て七億七千七百三十七万七千円に達  
 し、対外貿易に於ては一億二千八百八十四万五千円入超、対内地貿易に於ては  
 五億六千七百六十一万二千円の出超を示して居る。  
 昭和十二年以降の金銀貿易の発表せられておられる朝鮮内は於て製鍊金  
 した朝鮮の産金量は

昭和十一年	二二、八四八	同 一六年	二五、五八四
同 一二年	二七、七三七	同 一七年	二五、七五五
同 一三年	二九、一九九	同 一八年	一六、六四二
同 一四年	二五、二八八	同 一九年	七、七六九

であるが、これに其の年の金銀買入價格を乗ずれば、約六億八千四百円と  
 なり、これが内地に移出されたと見れば、併合以来昭和十九年までの対内地金銀



第一節 受取勘定

内地資本の鮮肉流入額の内國庫資金、大藏省預金、郵資金、公社資本、については京城商工經濟會が昭和十七年末現在に於て調査した結果あるのみ、これに一部資本補正を加へると共に新報昭和十七年以降の流入額を推定し加算した。（「朝鮮に於ける内地資本の概況」）

第一款 國庫資金の流入額

併合前後以來昭和十九年に至る間に於ける國庫資金の流入額は左表の通りあり

一、**朝鮮事業公債發行額**

第八表 朝鮮經宮費并國債調(單位千円)

年 度	軍事費	行政費	計
明治四三年迄	一〇、一九三	六八八、〇〇〇	一三〇、七八
曰 四四年迄	九、六五二	一三、三五〇、〇〇〇	二六、〇〇二
			一〇、〇〇〇

特別金庫  
朝鮮奉天  
重公債



同	二	年	度	八、二、三、三	一、〇、〇、〇、〇、〇	一、八、二、三、三	一、一、一、〇、五	一、四、九、〇、〇
同	三	年	度	六、〇、六、九	九、〇、〇、〇、〇	一、六、〇、六、九	七、六、四、〇	
同	四	年	度	六、九、七、一	八、〇、〇、〇、〇	一、四、九、七、一	八、九、四、五	
同	五	年	度	八、七、三、七	七、〇、〇、〇、〇	一、五、七、三、七	一、〇、五、八、五	
同	六	年	度	一、〇、五、三、六	五、〇、〇、〇、〇	一、五、五、三、六	一、三、八、五、〇	
同	七	年	度	一、一、一、八、九	三、〇、〇、〇、〇	一、四、一、八、九	一、五、〇、九、八	
同	八	年	度	一、五、八、三、八	一	一、五、八、三、八	一、四、四、五、五	
同	九	年	度	一、七、八、五、七	一、〇、〇、〇、〇	二、七、八、五、七	二、七、五、五、五	
同	十	年	度	二、四、五、八、七	一、五、四、二、五	四、〇、〇、一、二	五、七、二、一、九	

同	一	一	年	度	一、九、五、五、一	一、六、八、二、五	三、六、三、七、六	三、一、一、二、五	
同	一	二	年	度	一、七、三、六、九	一、六、八、二、五	三、五、六、一、一	二、六、五、九、五	
同	一	三	年	度	一、五、三、三、八	一、六、八、二、五	三、四、九、六、三	一、〇、八、七、五	
同	一	四	年	度	一、五、七、六、九	一、六、八、二、五	三、五、四、一、七	一、〇、八、七、五	
同	一	五	年	度	一、五、七、一、六	一、六、八、二、五	三、六、五、五、七	一、三、三、八、五	
同	一	六	年	度	一、五、四、四、一	一、六、八、二、五	三、一、九、四、六	一、八、三、七、二	
同	一	七	年	度	一、五、八、七、三	一、六、八、二、五	三、二、四、一、一	一、七、八、一、九	
同	一	八	年	度	一、八、五、五、九	一、六、八、二、五	三、五、三、四、二	一、七、八、一、九	
同	一	九	年	度	一、八、六、四、八	一、六、八、二、五	三、五、四、八、一	一、七、八、一、九	
同	二	〇	年	度	一、五、〇、七、〇	一、六、八、二、五	三、一、六、八、一	一、三、二、一、四	
同	二	一	年	度	一、四、一、八、九	一、六、八、二、五	二、七、六、六、二	二、五、〇、五、五	
同	二	二	年	度	一、六、五、九、七	一、六、八、二、五	三、〇、〇、一、〇	三、三、六、四、八	
同	二	三	年	度	一、八、〇、七、七	一、六、八、二、五	三、一、四、六、二	二、七、九、二、六	



同	一〇年	二、六五五	一、三三八五	三、五〇三六	二〇、九三二
同	一一年	二、五九五一	一、三四七九	三、九四二九	二六、一三一
同	一二年	六〇、四二一	一、三四七三	七三、八九四	五、一〇〇三
同	一三年	不詳	一、三四六九	一、三四六九	八、三三九
同	一四年	同	一、六四三八	一、六四三八	一、五四〇一七
同	一五年	同	五、五六九	三、五六九	一、五六、八八六
同	一六年	同	五、八七〇	五、八七〇	一、四九、一〇八
同	一七年	同	二、三九六一	二、三九六一	一、六六、五七五
同	一八年	同	二、五〇六八	二、五〇六八	三、六六、五四六
同	一九年	同	四、五五五三	四、五五五三	五、八八、三四四
計		四、六三、九六五	五、三八、〇九六	一、〇〇、二〇五	四、六三、九六五

右表の如き軍事費は昭和十三年度以降不明であるが、極めて大難担な方法として同年度以降の分を推定として昭和十三年度に於ける一般會計費負担軍事關係經費六、四二、千円、同年度朝鮮總督府特別會計歳出總額に於ける割合一四、〇と以て爾後各年度に於ける一般會計負担朝鮮

担は推定よりあるが、兎に角支那事変下の昭和十三年以後毎年四、〇の固定率を推定するとは、改訂の推定であることに間違ひはあらず、二の十三億円を右表の数字に加へると、軍事費は十六億五千三百九十九萬七千円と成る、行費と含めた合計額は二十二億二千六百六十九萬三千円と成る

第九表 統監府時代に於ける日本對韓政府支出の朝鮮經營費(單位千円)

軍事費	四六、二二三
行政其他諸費	四三、二二八
計	八九、四四一

第十表 統監府時代に於ける日本對韓政府の對韓國政府貸付(單位千円)

金融資金債	一五、〇〇〇
日本對韓貸付金	一四、二八三、三
計	一五、七八三

前掲諸表に見る如く、國庫資金の流入額は一般會計負担の朝鮮經營費











本店會社に於ける内地人株主の總拂込資本額となるものがある。この資本の  
混合を調へるに當つて資料となつてゐる。日本銀行調査部は昭和九年  
五月に刊行した「朝鮮に於ける工業會社の資本構成調査」によれば、  
昭和八年一月一日現在に於ける内地人株主の資本五萬圓以上、朝鮮に本店を有  
する工業會社として、(株)資本金合計一七、二四二千圓に就き調査  
した結果は次の如くである。

内地人社長とする會社の拂込資本金中

九六、二〇

内地人株主の拂込金割合

朝鮮人と社長とする會社の拂込資本金中

一一、四〇

内地人株主の拂込金割合  
なり比率を昭和十一年末現在に適用して、鮮内本店會社に於ける内地人  
株主の拂込額を算出すれば次の如くなる。

鮮内は本店を有する會社の拂込資本金中

内地人による拂込金額 (單位千圓)

内地人社長とする會社

一六、七八

(一六、九一、七三三、九六九、七〇)

朝鮮人と社長とする會社

二六、二九九

(二六、五九、二四九、二四〇)

左によつて鮮内は本店を有する會社の拂込資本金中内地人の拂込額を  
昭和十一年末現在に於て十七億四百萬圓と推定する。

(四) 積立金に於ける内地人株主の割合

朝鮮に本店を有する會社に於て積立金の幾何に達してゐるかは、金銀資料  
からいへば、これを推定する資料として、(株)朝鮮銀行調査課発行「朝鮮  
事業成績 (昭和十一年版)」及び(株)朝鮮銀行調査課発行「朝鮮に於け  
る内地資本の流出入に就て」の二つを取らるゝことにする。

隨銀の「朝鮮事業成績」は、産業會社八十九社に就き、昭和十一年下期決算  
に基いて調査したものを、(株)の拂込資本金總額七〇、五四千圓、積立金  
九、九四六千圓とある。従つて積立金の對拂込資本金は二八、五〇とある  
之に對して、鮮銀の調査に於れば、昭和十一年末現在に鮮内の大中會社(社数不  
明)の積立金總額二二、五九千圓、拂込資本金總額三一〇、六二九千圓となつて居り  
従つて積立金の對拂込資本金は二一、〇〇とある。之によつて見ると、右兩調  
査に於ける積立金の對拂込資本金は、餘りにも隔りが大きい。察するに



二、差異は次の如き事情から生じたものとあらう。第一に、延銀の調査は調査対象をいふ社しあも一流の産業会社だけに限定した為、積立金率が一  
 般の調査よりも著しく高くあるものとあらう。第二に、延銀調査の昭和六  
 年は不及の自費中で一般に事業会社の業績率より積立金率も昭和六年  
 に比し金も低率にあられた頃であつた。第三に、延銀調査の昭和十三年は事  
 業会社の成績最好調期であつた為、積立率も昭和六年に比し著しく向上した  
 であらう。二つの事情から見て、差異が生じたものと見られる。

第三に、昭和十三年下期に於ける朝鮮本底会社一般の積立金の内題であるが、  
 二つの事情を勘案して之を繰上資本金の四〇%と推定する。之は延銀  
 調査数字の使、延銀調査数字の半分にあらうとあるが、昭和十三年下期に  
 於ける總会社の積立率としては略實際的なものとあらう。

かくて、積立率を繰上資本金の四〇%とする。昭和十三年末に於ける積立金総  
 額は二億七千九百萬圓とあるが、これは総株主に帰属するものもあるが、  
 この内から内地人株主に帰属するものを算定しなければならぬ。積立金の

分割は株主の繰上資本額に準ねべきものとあらう。繰上金額中内地人株主  
 の繰上額を占める割合を以て算出すれば次の通りである。

昭和十三年末に於ける繰上金額	一、九二二、四二四
繰上金額の内内地人株主に帰属するもの	二、九一、一三九 (繰上金額の二四%)
内地人を代表者とする会社の繰上金	二、三六、八四二 (二、九一、一三九の八二%)
(一) 朝鮮人を代表者とする会社の繰上金	三、二、二九七
(二) 内地人株主に帰属するもの繰上金	二、三六、八四二 (二、九一、一三九の八二%)
(三) 内地人株主に帰属するもの繰上金	二、三六、八四二 (二、九一、一三九の八二%)
(四) 内地人株主に帰属するもの繰上金	二、三六、八四二 (二、九一、一三九の八二%)

以上より、株主資本たる繰上資本金及び積立金の推定は得られた。

本決算より、昭和十三年末、朝鮮内に本店を有する会社の株主資本の内  
 内地人株主に帰属する金額は二億四千三百萬圓とある。

(四) 社外負債に於ける内地資本額



朝鮮内に本店を有する會社を銀行と云ふ以外の會社とは区分して先づ銀行から見ると昭和十六年末に於ける朝鮮内銀行借入金に次の如くある

朝鮮銀 九〇、〇一三、〇〇〇

殖銀 八六、〇一〇、〇〇〇

普通銀行 五、七、六、〇〇〇

計 一八一、七八九、〇〇〇

右の如き普通銀行の借入金に朝鮮銀、殖銀兩銀行よりのものであるが内地からの借入は大体朝鮮銀、殖銀兩銀行の合計額一七六、〇二三、千円と見てよい

次に銀行以外の一般會社に就ては其の借入金が幾何に達するかは全然不明である 一經に朝鮮會社の借入は朝鮮内金融機關から行してあるのをあつて内地の金融機關其の他事業會社から借入をしてあるのは例外的である かつ例外的會社は大体に於て内地に同一資本系統の姉妹會社又は親會社を持つてゐる會社である 前掲朝鮮銀の内地資金流出入に就てしに於ては昭和十六年末に於ける二種の借入金と七千三百萬円と見積るゝのである

昭和十六年末現在に於ては恐らく大約三億圓に達するものと見られる 其の理由は昭和十六年末以降同十六年末に至る十箇年間は内地の大産業會社が陸續として朝鮮に進出したが内地産業會社が傍系直系會社が著しく増加した時期であり又昭和十六年末に於ける朝鮮内に本店を有する會社であつて内地資本系會社の株式資本金額が昭和十六年末のそれと比して五倍以上に達する程事業活動が盛んになつてゐるからである 従つて二つの會社の内地の同資本系統會社に對する借入額も亦それだけ増加したものと考へらるゝのである

(2) 社債

在朝會社で社債を發行してゐるのは少數の一流大會社に限られてゐるが元來社債の相対額は朝鮮内で消滅した直接内地金融市場に割られる額は發行額の一部に止まる 而して朝鮮内ではその社債の受取機關となつてゐるものは主として殖産銀行であり殖産銀行はまた自己の殖産債券の發行



以上二の社債引受資金の獲得を爲つてある。従つて社債を通じて  
 内地資本の流入する金は、延慶債券を通じての場合と直接引受による場  
 合との二通りあるわけである。そして二の二通りの場合を通じて内地資本の  
 導入されてゐる現状を思ふと、思ふが如くに朝鮮金融債券を通じて導  
 入された内地資本額をも併せて述べることとする。

(a) 延慶債券

昭和十七年までに於ける延慶債券発行現在高は次の通りである

延慶債券発行現在高

七〇二、一一五、千円

内 大蔵省預金部引受額

九六、七八五

證券會社其の他金融機關引受額 六〇五、三三〇

右の如く延慶債券は七億二百万円の巨額に達するが、この殆んど全部  
 は内地金融機關の引受と爲つてゐる。朝鮮内金融機關の引受分は取  
 り扱ふべき金額である。

(b) 一般会社債

昭和十七年までに於ける朝鮮内一般会社債の発行現在高は次の通りである

社債発行會社

昭和十七年までに於ける

引受額

延慶銀行

一〇、〇〇〇、千円

延慶銀行

朝鮮南鉄道株式會社  
 朝鮮鐵道株式會社  
 京城電氣株式會社  
 西鮮合同電氣株式會社  
 南鮮合同電氣株式會社  
 朝鮮電力株式會社  
 朝鮮鴨綠江水電株式會社

一三、〇〇〇  
 一七、五〇〇  
 一六、九〇〇  
 六、三〇〇  
 二、六〇〇  
 五、〇〇〇  
 一〇、〇〇〇

同  
 内地証券會社其の他  
 延慶銀行  
 延慶銀行  
 延慶銀行  
 延慶銀行  
 延慶銀行  
 延慶銀行

延慶銀行  
 延慶銀行  
 延慶銀行  
 延慶銀行  
 延慶銀行  
 延慶銀行  
 延慶銀行

(c) 朝鮮金融債券

昭和十七年までに於ける朝鮮金融債券発行現在高は次の通りである  
 発行現在高

延慶銀行引受高

一、二〇〇、千円

大蔵省預金部引受高

二四、五九七



右の通り社債関係は延慶債券七億二千萬円、一般社債八千一百万円、金融債券三千七百万円計八億三千九百万円に達するが延慶債券発行高中、預金部費の受分、一般社債中延慶銀行の受分、並に延慶銀行が預金部引受の金融債券は第二款掲出の預金部資金の朝鮮流入額に重畳徴収するから、この分を控除した残額即ち延慶債券中内地金融機関の受分六億五百万円と一般社債中内地金融機関の受分四千八百百万円計六億五千四百百万円を社債関係に於て朝鮮に流入した額と推定する

二 朝鮮内支店を通じての會社資本の投資額

昭和七年滿洲事変を轉期として朝鮮に於ては従前の農本主義的政策の時代から農工併進主義の政策に移行したから、結果従来主として農林業又は商業金融業等の部門に限られてゐた内地會社の朝鮮内支店設置は、支店設置も凡ゆる産業部門に至るに至り、全面的な支店設置を伴ひ、更に五月日、従つて朝鮮内に於ける支店會社の數的増大はそのより内地會社資本の大量的進出を示す一指標がある、更に又、この支店設置に伴はる内地會社資本の朝鮮進出を見逃してはならぬ

朝鮮に支店を有する内地會社の公定資本金 (昭和七年末現在) 単位千円

業種別	會社數	公定資本金	増上資本金
金融業	一一	四五、七三五	三一、五四五
商業	九五	六八、〇三六	五七、八八七
工業	五四	一〇、三七、八八〇	八九、六二一
農林業	一九	四三、一一一	三七、三二一
水産業	五	一二、四六〇	八〇、九四六
鉱業	一一	一四、五四五	一七、三七〇
運輸業	九	一四、二五〇	一八、四〇三
保険業	三四	一、二七、三五〇	五八、〇一三
其他	二〇	五二、四八〇	五九、三七九
計	二四八	二八二、〇七七	二二九、三八五

右の通り昭和七年末に於て朝鮮内に支店を有する内地會社數は二四八社



その拂込資本金額は二十二億一千九百萬円に達する。併しそれより示るの  
會社の鮮内支店事業に於ける資本と扱ひてゐるものに就ては金額を  
據るべき資料がない。示るの會社中には(一)朝鮮支店事業がその會社  
事業の全部で内地本社に於て事務の所をなすもの(二)鮮内支店事業がその會社  
事業が會社全事業中たる比重を占めるもの(三)鮮内支店事業が會社全事  
業中の一小部分に過ぎないもの三種がある。(一)の會社は大体二十四社、その拂込  
資本金額十億円は七千六百四十萬円で、それらの會社の實際の投資額は不明  
であるが、その拂込資本を主として扱ひてゐる。

(二)の會社類に屬する代表的例として東洋拓殖株式會社に就て見ると  
同社は昭和十六年までに於て合計資本金一億円、拂込資本金七千五百  
五十萬円に達し、拂込資本金の十億の債権を發行し、持つ會社がある。  
其の事業地域は朝鮮、滿洲、支那、南洋の各地に及び、十六年までに  
代表資本金は六億五千五百萬円(その拂込資本金を除く)に上つてゐるが、その  
うち鮮事業に於ける部分は四億四千五百萬円と見積らる。

鮮内貸付残高及び土地山林勘定 二四六萬円

譲渡土地建物、貸付營業具、農産物、建物、機械、營業費等

假拂金の勘定合計(總額)七億七千九百萬円

所有有價証券(鮮内事業會社株と保有總株金額の七割として) 一五七

計 四四五

鮮内支店會社の大部分は(三)の部類に屬するが、この種の會社については其の鮮  
内投資が幾何に上るかは全然不明である。前掲の鮮銀資料「内地資金  
の流出入に就て」によれば、昭和十六年末の支店會社九十七社(各業種會社合  
計)の鮮内投資額を固定投資九千五百萬円、本店に對する支店の流動  
借越残高(運轉資金及び商品勘定の借越残高を意味する)を一五、六五一  
千円と推定してゐる。今仮りにこの推定を基準として、昭和十六年末の支店會  
社投資額を更に推定してみよう。次の様な結果となる。

鮮内支店事業に對する固定投資 三〇五、二〇〇千円

本店に對する鮮内支店の流動借越残高 五〇、〇八三

計 三五五、二八三

右の数字は、昭和十六年末の前記九十七社の支店會社拂込資本總額(七、一三  
七、三〇千円)に對する昭和十六年末支店會社二百四十八社の拂込資本總額



(三二九、三八五、千円)の倍率(三、二倍)と昭和七年末の前記数字に乘じて得たものがある。支店事業への投資額と本店資本金の増減率と斯様に算出するは決して正確な方法ではなから、但に推定の方法が如何なるかを同様の方法を試みたものがある。

### 三 昭和十七年度以降に於ける内地資本の流入額

以上昭和十七年末現在に於ける会社資本による對鮮投資額について述べたが次に昭和十七年度以降に於ける内地資本の流入額と朝鮮総督府財務局の資料に基いて推定して見よう。

第十二表 鮮内産業資本調達額(単位千円)

	生産力振元 産業資金	軍需 資金	非計 画資金	計	同上中内地 の流入資金
昭和十七年度	六、八五八	四、五七八	三、三六八	一、五、九〇四	五、五四九
同十八年度	一、〇四、四二九	三、三八八	四、九六五	一、五、六、七六八	八、〇五、五八二
同十九年度	一、五、六、九四三	七、六三三八	七、四九、一〇三	二、九、四、三八四	一、五、五、二四四
計	三、二、五、九〇〇	一、五、〇、八〇四	一、五、二、五七八	四、八、一、八八二	二、六、九、七四七

即ち昭和十七年度以降同十九年度までの鮮内産業資金は四十八億一千八百万円に達し、其のうち内地から流入した資金額は二十六億九千二百万円に及ぶものである。

以上述べ来つたところによつて会社資本による對鮮投資額を纏めると次の如くなる。

第十三表 会社資本による對鮮投資額(単位千円)

一 昭和十六年末迄の投資額 三、九五〇、一六〇

(一) 鮮内本店会社による投資額 三、〇七三、二七七

(1) 鮮内本店会社に於ける内地人株主の拂込資本金 一、七〇四、四九六

(2) 鮮内本店会社に於ける内地人株主に帰属する剰余金 二、三八六、二一八

(3) 鮮内本店銀行の内地支店の借入金 一、七六〇、二二三

(4) 鮮内本店会社(銀行を除く)の内地支店の借入金 三、〇〇、〇〇〇

(5) 殖産債券発行現在高中国内地金融機關の受分

(但し預金却り受分は示を除く) 六、〇五、三三〇



(6) 鮮内本店会社の会社債現在高中国地金種積金の引受分四八八〇〇

(二) 鮮内支店会社による投資

(1) 鮮内支店事業本部その全事業たる内地本店会社より拂込資本金五八八〇〇

(2) 東洋拓殖株式会社より在鮮事業投資分 四四五〇〇〇

(3) 鮮内支店事業本部を従とする内地本店会社より鮮内投資分三五五、二八三

昭和十七年度より昭和十九年までの投資額

二六九、七四七

合計 六、六四九、九〇七

第四款 労務資金

昭和十四年以降内地の労務資金が幾何の額に達するものは全然不明であるが、昭和十四年以降の分には日本国民動員計画に基き、朝鮮から内地、樺太、南洋群島等に送出した労務者の員数にから或る程度を推定し得らる。

第四表 内地向労務者送出数

	石炭山	金属鉱山	土産場	工その他	合計
昭和十四年度	四、四六九人	五、七八八人	一、三三七人	一	五三、一二〇人
同 一五年度	五、八一七人	九、四二六	九、二四九	二、一〇八	五八、五八〇人
同 一六年度	五、九八九	九、四二六	一〇、九六五	五、一七	六一、五八〇人
同 一七年度	七、八〇八	七、六三二	一八、九二九	一五、一三四	六九、四八八
同 一八年度	六、八三〇	一三、七六三	三、六一一	一三、三三三	七〇、九七
同 一九年	五、七二五	一五、九二〇	五、六五〇	八九、二〇〇	七五、三二〇
計	三三、〇六五	六、一六〇	一五、五〇八	一三、三八七	五八、〇二八



(註) 主場其の他の欄左書は南澤郡島に封する送金命令にして外書とする。

第五表 軍要員送金数

	内地	鮮内	満洲	支那	南方	計
昭和十四年	1人	1人	145人	1人	1人	148人
同十五年	大五	1	大五	二五	1	七四六
同十六年	五、五九六	一〇、八五	二八四	一三	九、二四九	一六、〇二七
同十七年	四、一七一	一、八一三	二九三	五〇	一六、一五九	三三、四八六
同十八年	四、六九一	一、九七六	三九〇	一六	五、二四二	一二、三三五
同十九年	一八、八二〇	一〇、〇六〇	一、六一七	二六〇	五、七六五	三六、五三三
計	三三、一四三	一四、九三四	三、三八五	三六四	三六、四一五	八八、三四一

（註） 朝鮮籍者が出稼地から朝鮮に送金した金額は不明であるが左の推定によつて大体實際に近い数字が得られると考へられる。

一、一人一月の送金額を四十円と推算する

二、送金の期間をば送金の最終を昭和十九年三月末迄と推算する

これより七月を陸隔した期間と推算する

三、内地以外の地域からの送金については一、二によつて計算した金額の二分の一相当額をその送金額とする

斯くして鮮内向送金額を推定すれば左の如き結果となる

一、内地からの送金額 六八六、二四八、五五〇円

二、内地以外の地域からの送金額 二五、八七三、〇八〇円

計 七一二、一三一、六四〇円



第二節 支拂勘定

第一款 朝鮮總督府特別會計より内地特別會計への繰入額

第十六表 臨時軍事費特別會計繰入額 (單位千円)

昭和二年年度	一、九〇〇	同 一六年度	九四、五八八		
同 一三年度	二、〇三四	同 一七年度	一六三、二二四		
同 一四年度	二、六七八	同 一八年度	二〇三、〇五八		
同 一五年度	四、二九一	同 一九年度	四一四、〇七五		
同 一六年度	五、〇四八	計	一、〇〇六、六〇〇		
明治四三年度	九五七	同 二一年度	二、七〇一	同 九年度	二五、〇二二
同 四四年度	一、三四八	同 二二年度	一、六六三	同 一〇年度	二七、〇一五
大正元年度	一、九九九	同 二三年度	一、三二八	同 一一年度	三、〇一一
同 二年度	五、五〇	同 二四年度	一、四九九	同 一二年度	二九、六七〇

(註)朝鮮總督府會計事務 第十七表・國債整理基金特別會計繰入額(單位千円)	
同 一五年度	五〇、四八二
同 一六年度	一〇〇、六、六〇〇

(註) 朝鮮總督府特別會計より内地特別會計への繰入額  
第十七表 國債整理基金特別會計繰入額 (單位千円)



同 三年度	四七五二	昭和元年度	一五、一二一	同 一三年度	二九、七五五
同 四年度	六、二四二	同 二年度	一六、六九一	同 一四年度	三三、一九八
同 五年度	四、七五九	同 三年度	一七、五五四	同 一五年度	三七、〇八七
同 六年度	四、七一〇	同 四年度	一八、五八五	同 一六年度	四三、四一一
同 七年度	七、七五五	同 五年度	二二、三四九	同 一七年度	五〇、三一二
同 八年度	六、〇三三	同 六年度	二四、五一七	同 一八年度	六三、二三八
同 九年度	七、二〇二	同 七年度	二六、六五八	同 一九年度	八二、一七八
同 一〇年度	九、二一七	同 八年度	二四、三六四	計	七三五、八九五
(昭和元年度) 昭和元年度 一五、一二一 (昭和二年) 昭和二年 一六、六九一 (昭和三年) 昭和三年 一七、五五四 (昭和四年) 昭和四年 一八、五八五 (昭和五年) 昭和五年 二二、三四九 (昭和六年) 昭和六年 二四、五一七 (昭和七年) 昭和七年 二六、六五八 (昭和八年) 昭和八年 二四、三六四 (昭和九年) 昭和九年 二六、六五八 (昭和一〇年) 昭和一〇年 二四、三六四 (昭和一一) 昭和一一 二六、六五八 (昭和一二) 昭和一二 二四、三六四 (昭和一三) 昭和一三 二六、六五八 (昭和一四) 昭和一四 二四、三六四 (昭和一五) 昭和一五 二六、六五八 (昭和一六) 昭和一六 二四、三六四 (昭和一七) 昭和一七 二六、六五八 (昭和一八) 昭和一八 二四、三六四 (昭和一九) 昭和一九 二六、六五八 (昭和二〇) 昭和二〇 二四、三六四 (昭和二一) 昭和二一 二六、六五八 (昭和二二) 昭和二二 二四、三六四 (昭和二三) 昭和二三 二六、六五八 (昭和二四) 昭和二四 二四、三六四 (昭和二五) 昭和二五 二六、六五八 (昭和二六) 昭和二六 二四、三六四 (昭和二七) 昭和二七 二六、六五八 (昭和二八) 昭和二八 二四、三六四 (昭和二九) 昭和二九 二六、六五八 (昭和三〇) 昭和三〇 二四、三六四 (昭和三一) 昭和三一 二六、六五八 (昭和三二) 昭和三二 二四、三六四 (昭和三三) 昭和三三 二六、六五八 (昭和三四) 昭和三四 二四、三六四 (昭和三五) 昭和三五 二六、六五八 (昭和三六) 昭和三六 二四、三六四 (昭和三七) 昭和三七 二六、六五八 (昭和三八) 昭和三八 二四、三六四 (昭和三九) 昭和三九 二六、六五八 (昭和四〇) 昭和四〇 二四、三六四 (昭和四一) 昭和四一 二六、六五八 (昭和四二) 昭和四二 二四、三六四 (昭和四三) 昭和四三 二六、六五八 (昭和四四) 昭和四四 二四、三六四 (昭和四五) 昭和四五 二六、六五八 (昭和四六) 昭和四六 二四、三六四 (昭和四七) 昭和四七 二六、六五八 (昭和四八) 昭和四八 二四、三六四 (昭和四九) 昭和四九 二六、六五八 (昭和五〇) 昭和五〇 二四、三六四 (昭和五一) 昭和五一 二六、六五八 (昭和五二) 昭和五二 二四、三六四 (昭和五三) 昭和五三 二六、六五八 (昭和五四) 昭和五四 二四、三六四 (昭和五五) 昭和五五 二六、六五八 (昭和五六) 昭和五六 二四、三六四 (昭和五七) 昭和五七 二六、六五八 (昭和五八) 昭和五八 二四、三六四 (昭和五九) 昭和五九 二六、六五八 (昭和六〇) 昭和六〇 二四、三六四 (昭和六一) 昭和六一 二六、六五八 (昭和六二) 昭和六二 二四、三六四 (昭和六三) 昭和六三 二六、六五八 (昭和六四) 昭和六四 二四、三六四 (昭和六五) 昭和六五 二六、六五八 (昭和六六) 昭和六六 二四、三六四 (昭和六七) 昭和六七 二六、六五八 (昭和六八) 昭和六八 二四、三六四 (昭和六九) 昭和六九 二六、六五八 (昭和七〇) 昭和七〇 二四、三六四 (昭和七一) 昭和七一 二六、六五八 (昭和七二) 昭和七二 二四、三六四 (昭和七三) 昭和七三 二六、六五八 (昭和七四) 昭和七四 二四、三六四 (昭和七五) 昭和七五 二六、六五八 (昭和七六) 昭和七六 二四、三六四 (昭和七七) 昭和七七 二六、六五八 (昭和七八) 昭和七八 二四、三六四 (昭和七九) 昭和七九 二六、六五八 (昭和八〇) 昭和八〇 二四、三六四 (昭和八一) 昭和八一 二六、六五八 (昭和八二) 昭和八二 二四、三六四 (昭和八三) 昭和八三 二六、六五八 (昭和八四) 昭和八四 二四、三六四 (昭和八五) 昭和八五 二六、六五八 (昭和八六) 昭和八六 二四、三六四 (昭和八七) 昭和八七 二六、六五八 (昭和八八) 昭和八八 二四、三六四 (昭和八九) 昭和八九 二六、六五八 (昭和九〇) 昭和九〇 二四、三六四 (昭和九一) 昭和九一 二六、六五八 (昭和九二) 昭和九二 二四、三六四 (昭和九三) 昭和九三 二六、六五八 (昭和九四) 昭和九四 二四、三六四 (昭和九五) 昭和九五 二六、六五八 (昭和九六) 昭和九六 二四、三六四 (昭和九七) 昭和九七 二六、六五八 (昭和九八) 昭和九八 二四、三六四 (昭和九九) 昭和九九 二六、六五八 (昭和一〇〇) 昭和一〇〇 二四、三六四					

同	一〇年度	九三一七	同	八年度	二四三六四
(自)	朝事比常省	給計多額	補給	給省有材料	比常省
第十八表	恩給員担金繰入額	(單位千円)			

[illegible]

(註)朝鮮總督府統計年報、朝鮮海防費資料、第2卷、右表に示すや、臨時軍事費特別会計への繰入額、十億六百万円、国債

整理基金特別會計へ、繰入額は七億二千五百万円、思給員相金繰入額は廿一億円に達する。何れも相當の金額に達するが、二水等月寄託金一丁は、鮮外流

此はほく一方に於て二水に見合ふ寶金が内側から鮮内に流入してゐる

即ち臨時軍事費の十億餘円を前記の一般会計負担に属する軍事費

及び行政費の二十三億圓餘圓に對比するときは朝鮮とて逆に受取勘定となす

收買合計負担の朝鮮國保軍事費と比較しても尚相當額の受取超過と見てゐる

3

朝鮮國の國債は大藏省に於て他の公債と共に募集せられ市場に放  
出せられ元利償還も大藏省で日本銀行と連絡して一切を處理し朝鮮として採







第二十一表

昭和十七年未現在に於ける金融機関の保有国債（単位千円）

	有價証券	同上中に含まれる 国債
朝鮮銀行	一五七、二八五	一三、七、九八七（八七）
殖産銀行	二六〇、九六六	二、三、六四二（九〇）
普通銀行	一四九、二八九	六九、四四五（四七）
貯蓄銀行	一三八、三八四	五、五、二七九（四〇）
信託会社	四三、二八九	七、五、三六（一八）
金融組合聯合会	五、五、六、八八 七、七、一、一八八	一、一、五、五八（五〇） 一、一、五、五八（五〇）
計	五、四、一、一五五	一、一、五、五八（五〇）

（註）金融組合聯合会については昭和十九年三月末現在の計数に依る。

右の表に表はれた国債の保有比率等によつて昭和二十年六月末現在の保有国債を推定すれば第二十二表に示す如く、總額四十九億一千五百百万円中に達する。此の中、朝鮮銀行保有国債三十七億五千百万円中には、朝鮮内資金によるもの、北支那銀預金と見合とする国債を食むから、此の分を控除し、考へなければならぬ。

（一）昭和十八年六月末に於ける朝鮮銀行保有国債は、一五七、二九二千万円中、朝鮮銀預金見合の国債は、一、二五、三、二二千万円を總額の七九％を占めてゐる。今、此の割合を以て昭和二十年七月末に於ける朝鮮銀行の資金による分を推定すれば、一億八千万円となり、結局、昭和二十年七月末に於ける、金融機関の国債保有高は十九億四千七百八十七万三千円と推定する。次に国債以外の有價証券については、先づ昭和十九年三月末現在に於ける、殖産銀行、金融組合聯合会保有有價証券の各構成比によつて、昭和二十年七月末現在に於ける有價証券の構成割合を推定すれば、第二十二表の通りである。

	地方債	社債	株式	国債	合計
殖産銀行		四五八、三（二）	二八、七、九（八）	三、五、四、三（九）	三、五、九、〇（二〇）
金融組合聯合会	二、四、〇、六（四）	三、九、二、五（七）	三、九、三、四（六）	二、三、五、八（二）	五、六、八、八（二〇）



第二十二表 延銀金購保有有價証券(國債を除く) (昭和二十年六月末現在)

	地方債	社債	株式	計
殖産銀行	一〇、四四五	四、七八三	五、二二八	
金融組合聯合會	五、六八五	九、九八九	八、五〇二	二、五三、七〇二

延銀保有の社債、株式は大部分鮮内にも一割程度を内地にも見て大抵をわたり、金購の保有する地方債はこれ又鮮内にもあるが社債、株式は元々大部分が内地をも其の比率を社債は九割、株式は八割五分が内地をもと考へてゐる。また推定より昭和二十年六月末現在に於て延銀は内地の社債、株式を五、二二二千円、金購は内地の社債八、九二七、九〇千円、同株式七、二七、四〇千円を夫々保有してゐたと推定される。

さて延銀、金購以外の金融機関の保有する國債以外の有價証券は如何と云ふに大部分は鮮内のもので内地も少しはあつたが不足を考へられる。たゞ僅かに朝鮮銀行が保有する外國証券五千四百八十三万円にあつた通りである。以上によつて有價証券を購入することによつて内地に流出した資金を推定する。

と左の通りである

金融機関以外の特種保有高	三〇、二四九、四〇千円
金融機関の保有高	三、二二〇、六五三、千円
計	三三、四七〇、〇五三、千円

第五款 大蔵省預金部資金源としての流出資金

前述の通り大蔵省預金部資金は毎年相当多額に内地から朝鮮に流入して居る昭和二十年十一月八日現在に於ては残高が億八千四百十五万六千円に達するがその資金源として鮮内に蓄積せられた郵便貯金、簡易生命保険、郵便年金等が預金部資金として集中せられてゐる。其の積立額は左の通りである。

第二十三表 朝鮮国内の郵便貯金、簡易生命保険、郵便年金の



預金部預金額

昭和十一年七月三十日現在  
八單位千円

單位千円

即便財金

七二五。六九

簡易生命保險及  
郵便年金

二九四三四六

計

一九四一

即其億一千九百萬円が預金部預金として内地に流出した資金である

第四款 保險料支拂に依り流出資金

一、生命保險

朝鮮に於ける生命保險は明治三十四年帝國生命保險株式会社が  
山に代理店を設置したるを以て嚆矢とし商業主として内地会社による經營也  
少くとも明治四十三年末に於ては内地会社の朝鮮に於て事業を經營するもの  
十社を算へた 其の後内地会社の朝鮮に進出するもの逐年増大し昭和  
四年には其の數四十五社に及ぶなりが会社の合併等により漸減の傾向を爲す

として此等内地会社の手に收められ、收能したるは即ち大正十年十月  
 朝鮮に本社を有する朝鮮生命保険株式会社が設立せられ、其の  
 業績は相方の進展を示したる昭和十七年三月末に於ける業績を  
 朝鮮生命保険協会の調査による見れば、保険契約高は内地  
 某株式会社（二十社）十一億七千万五千八百九十九円、朝鮮商多  
 生命保険五億九千三百四万二千円、朝鮮生命保険株式会社二千  
 五十三万八千円計十七億八千三千七万円で、内地某会社との総契約高  
 に對する割合は、七五・五％を占むに對し、朝鮮生命のそれは僅に  
 一・二％に過ぎず、尙ほ收能したるにあり。

今大正二年<sup>以降</sup>昭和十年までの内地会社による事業発展を示す。左表の通りである。

第二十四卷

内閣に奉復せ有るに生命保険会社の業績（単位）

十四



大  
 亦  
 入



同十四年	百四九八三	四〇二〇	二〇九	一二〇	六六九一		
昭和元年	一二七七一	五一六一	一三八三	一四一	三七五七		
二年	一四二五五二	五七五四	一六一〇	三二六	三八一八		
三年	一五五七六八	六四七四	一七八五	二四五	四四四四		
四年	一七六四三四	五四六六	二四一八	三二六	二七五五		
五年	二〇八九九	八一四六	二三一四	八一二	五〇二〇		
六年	二五六二四一	七九七七	二五八七	九五四	四四三六		
七年	二五七七八	八八二〇	二七二八	八六七	五二二五		
八年	二九三九四	一〇六九二	三〇〇二	八六〇	六八三〇		
九年	三五〇五九四	一三三四五	三四九一	七四六	八二〇六		
十年	四五六五三一	一五四三三	四三〇一	一一四二	九九九〇		
十一年	一五六六四九	一七二二七	四九八四	一〇〇五	一一二三八		
十二年	五九一五三〇	一九八九六	五七五九	一〇八七	一五〇五〇		

同十三年	七二五〇五九	二四七二九	七二二九九	一〇九八	一六三九二
同十四年	九一〇三四五	五五九五四	一一〇二七	九一二	二六〇一一
同十五年	一一一八六一	四〇一三三	一〇〇八九	一四五二	二八五九二
同十六年	一二七三三五	四一三三	九九〇一	二四七〇	二八七四二
同十七年	一六三六五五	五五八八三	一三八六六	三一一一	三八七〇六
自同十八年四月 至同十九年三月	六三五四八三	九二四七四	一八九一九	二	七三五五五
計		四三五一〇三	二四八七五	一八二八一	三〇一、九四七

(註) 朝鮮總督府統計年報及び朝鮮總督府資料に基きて推定した

又、年表現在契約高は、大正十年より統計年報所掲の数字に、同十一年以降は内地会社及び朝鮮生糸保險株式會社(大正十年十月創立)の年表契約高を基として、これに朝鮮生糸保險協會の調査に係る昭和十一年迄の兩者の契約高中内地会社の







同 十三年	同 十二年	同 十一年	同 十年	同 九年	同 八年	同 七年	同 六年	同 五年	同 四年	同 三年	同 二年	同 元年
三六〇四	二五三〇	二一六〇	一四九一	一〇一六	一〇四一	六五九	一〇八三	六七六	十三一 七二	一 七	七	三四九
五五	三五	二八	二三	七	八	七	一一	八	七 七三	一 七	一	一〇
三一	二一	一六	一〇	一	二	三	三	二	十 七	七	一	一
一	一	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇	七 七	一	一	一
二三	一四	一二	一三	六	六	四	七	六	二	一	一	一〇

同	五年	四、四三九	三四八	七八五	〇	(一)四三七	
同	六年	五五、一四四	四二七	三五一	〇	七六	
同	七年	六九、七〇八	五九五	四一六	一	一七八	
同	八年	一三一、一三一	一〇二一	一五七	九	八四五	
同	九年	一四三、八四一	一一九四	二九一	二三	八八〇	
同	十年	一七九、一五一	一一九八	一一五四	一五	二九	
同	十一年	二〇九、〇一〇	九、一三六	九九〇	三四	八、一一二	
同	十二年	一九五、九六八	一九八一	八三八	八	六、一三五	
同	十三年	十九、一八八	二、二〇二	五、四七四	二四	三、二九六	
計	朝鮮統計年報	一八、九六九	一〇、八六二	一一四	七、九九三		
大正十四年	二七九	二	一	一	一		



同	十四年	四九四三	六八	一九	一	四八
同	十五年	五九、二四三	七六	一九	一	五四
同	十六年	一一、三〇四	一〇〇	三三	一	六六
同	十七年	一三、七九九	二四〇	四〇	二	二〇〇
計	十八年	六八三	二〇四	六	六	四七三
総計	十九年	一九、六五二	一一、〇六六	一二〇	八、四六六	

(註) 1. 朝鮮總督府統計年報による  
2. 大正十三年以前は、火災、海陸運送、傷害、  
同十四年以降は傷害に

(大正十四年以降)、信用(昭和四年以降)、自動車、盗難(昭和五年以降)、硝子、森林(昭和六年以降)、航空(昭和十四年以降)の各合計を掲記した

第二十六表 内地に本店を有する災害保険会社と朝鮮火災

海陸保険会社の業績(単位千円)



(昭和十八年)より支出事業費の同年収入保険料に計す、割合一五%を以て計算した)を控除すれば約七千四百万円となる

同	十二年	四九七、四一五	三八九四	一、〇〇七	五〇四	二、三八三
同	十三年	一、〇一四、六〇四	四、七〇八	六四四九	五七一	二、六八八
同	十四年	八五七、七五九	六、四〇八	一、七六四	七七二	三、八七二
同	十五年	一、五七〇、四三〇	八、六七六	三、一七八	一、〇四三	四、四五五
同	十六年	二、四三二、七二二	一六、八五五	六、一九三	八、〇五六	二、六〇六
同	十七年	三、三二〇、八五五	二二、二七二	八、五九八	？	一、三八七
同	十八年四月	三、一八九、八九一	二二、七九七	五、五九九	？	一、八二八
同	十九年五月	三、一八九、八九一	二二、七九七	五、五九九	？	一、八二八
計		三、一八九、八九一	二二、七九七	五、五九九	？	一、八二八

(註) 朝鮮總督府統計年報及び朝鮮總督府資料に基き、各地を掲載  
 朝鮮地方自治会に保険料を徴収するに基き、各地を掲載  
 地方自治会に保険料を徴収するに基き、各地を掲載

在り二つの款あり、内地会社の収入に係り保険料、由大傳八千二百万円とす

推定せらるるが、これに昭和十九年分の保険料を昭和十八年分と同額と仮定す

は、総額に於て約一億円とあり、二小から毎年支出した事業費二千六百万円



第四章

結語

以上各章に亘る述べたとを纏めて左に掲出す。

第二十七表 收支總括表

	受取勘定	支拂勘定
一、貿易上の収支		
(一) 貨物貿易		對内地 二九八三、八一 對外國 一、〇三六、四一
(二) 金銀貿易	對内地 一、二五一、〇〇	對外國 一、二八、八四五
二、貿易上の収支		
(一) 國庫資金		
(二) 朝鮮至費	對内地 二、二〇二、六三	
(三) 國債	二、一六〇、八五一	
(四) 日韓合併時代に於ける 對内地資金の相解	八九、四四一	



大藏省

(四) 有價証券購入

(4) 通商手帳に於ける 支那政府の対韓 国債証券	"	一五、七八二
計	"	四、四七八、一三六
(1) 陸軍購入		對内地 一、〇〇六、六〇〇
(2) 國債管理基金 購入		" 七二五、八九五
(3) 恩給負担金		" 一〇〇、四四五
計		一、八三二、九四〇
(二) 預金部資金		
(1) 預金部貯蓄	對内地	六八四、一五六
(2) 預金部預金		
(三) 會社資本	對内地	六、六四六、九〇七
(四) 勞務基金	對内地	六八六、二四八
	對外國	二五、八七三
	對内地	三、二二〇、六五三

(五) 保険料

(1) 生命保険料		對内地 二八六、〇〇〇
(2) 災害保険料		" 七四、〇〇〇
計		三六〇、〇〇〇
總計	對内地 一、三七六、四四六 對外地 二五、八七三	對内地 九、四一五、一八九 對外地 一、一六〇、八八六

如上の如く朝鮮の對内地収支は併合當時から昭和十九年乃至同二十  
年までで大凡そ四十億二千五百萬円の受取超過になる。この額は  
決して精確な算定に依るものではなく大まかな推定に過ぎず而  
も多くの重要な事項の記述を省略したがこれは調査事項の性質  
上及び資料の制約せられてある關係上已むを得ないところであつた



即此中書

南登縣統果客公貨物

十三年六月未

整好者

大分

一二一〇.三〇

4日

運送

三七九.五七七

海上

九一二九

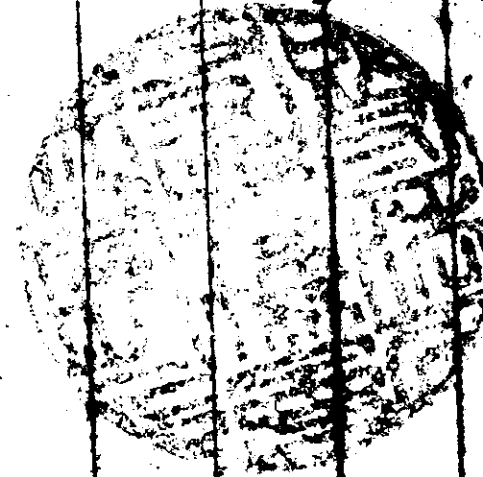
十七年六月未

一六五三.五四〇

4日

四三六.五七〇

一一一.三六〇





作雅志

明治四十三年から昭和十九年までの朝鮮の輸出入貿易の趨勢を見た

左表の通り輸出入額五十四億三千八百三十九万五千円、移出額二百五十四億二千四百七十八万七千円、移入期間中の總額三百十三億六千三百十八万二千円となり、同期間内に於ける輸入超過十億五千二百四万一千円、移入超過二十九億八千二百十八万一千円、合計四十億一千四百三十二万二千円の輸移入超過を示してある。

第一表 朝鮮貿易の趨勢 (單位千円、  
印は出超)

明治四十三年	輸出	輸入	出入超過	移出	移入	出入超過
同 四十四年	五、五一六	二〇、〇二九	一四、五一三	一三、三四〇	三三、〇五八	一九、七一八
明治四十三年	四、五五五	一四、四三五	九、九〇〇	一五、三七九	二五、三四八	九、九六九
同 四十四年	五、五一六	二〇、〇二九	一四、五一三	一三、三四〇	三三、〇五八	一九、七一八

[illegible]



[illegible]



[illegible]

國際收支

第一章

朝鮮の國際收支を論ずるに當り、朝鮮と諸外國間の輸出入の貿易及び貿易外收支は勿論であるが、日本とも問題の對面として取扱ふことは所謂國際收支の概なる如く、（前記の如く）如何かと認むべきであらう。然し、（前記の如く）朝鮮との間に設定せらるる國際經濟關係の程度、資料入手の關係等からして、（前記の如く）朝鮮の經濟關係の程度、資料入手の關係等からして、併し知らぬ日鮮間の收支といふ問題、（前記の如く）實際の調査に當るは仲々精確を期し難い困難な課題である。尤も、（前記の如く）理由より第一に朝鮮經濟に於ける内地延長主義の成功、經濟文化一般に於ける、（前記の如く）朝鮮一體化の進展による朝鮮經濟を内地と切離して別個に計算するなどの困難なることより、第二に據えき、調査資料の缺乏といふことを以て、（前記の如く）推定する。







はれてゐた  
 本支店の中 重要事項を記した見本帳の通りである  
 第二部 商部別に見た朝鮮の貿易

貿易の中 重要事項を記した見本帳の通りである

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	
100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200

25

所有有價證券(鮮内事業会社株を保有総株金額の)と割として  
 94割ととも  
 一五七

計

四四五

鮮内支店会社の大部分は(四)の部類に属するが、この種の会社に就てはその  
 鮮内投資が幾何に上るかは全然不明である。前掲の鮮銀資料「内地  
 資金の流出入に就て」に據れば昭和六年末の支店会社九七社(各業種  
 會社会計)の鮮内投資額を国定投資九五、三七五千万、本店に對す  
 る支店の流動借越残高を一五、五五千万と推定してある。今仮りにこの推定  
 を基準として昭和十一年末の支店会社投資額を更に推定してみよう  
 次の様な結果となる

鮮内支店事業に對する国定投資	三〇五、二〇〇、〇〇円
本店に對する鮮内支店の流動借越残高	五〇、〇八三
計	三五五、二八三



(註) 支店の本店に對する流動借越残高とは運轉資金及び商品勘定の借越残高を意味する。

右の数字は昭和七年末の前記九十七社の支店会社拂込資本總額(七一五、七五〇千円)に對する昭和七年末支店会社二種四十八社の拂込資本總額(二、二九、三八五千円)の倍率(三、二倍)を昭和七年末の前記数字に乘じて得たものである。支店事業への投資額を本店資本金に増加率を斯様に算出するのは決して正確な方法ではないが他に推定の方法はないから、同様の方法を試みたものがある。以上述べて来たところによつて、本店資本による對鮮投資額を纏めて次の如くなる。

第廿二表 本店資本による對鮮投資額 (單位千円)

一、 鮮内本店会社による投資額	三〇七、三二七
(1) 鮮内本店会社に於ける内地人株主の拂込資本金	一七〇、四四六
(2) 鮮内本店会社に於ける内地人株主に帰属すべき積立金	二三、八六八
(3) 鮮内本店銀行の内地支店の借入金	一七、九二五
(4) 鮮内本店会社(銀行を除く)の内地支店の借入金	三〇、〇〇〇

(5) 証券債券発行現在高中内地金融機關の受分

(但し、積立金及び受分は第二表に於てあるものと重複する) 六〇五、三三〇

(6) 鮮内本店会社の会社債現高中内地金融機關の受分 四八、八〇〇

二、 鮮内支店会社による投資 八七六、八八五

(1) 鮮内支店事業からその全事業たる内地本店会社の拂込資本金 七六、六〇〇

(2) 東洋拓殖株式会社の支店事業投資分 四四、五〇〇

(3) 鮮内支店事業と從する内地本店会社の鮮内投資分 三五五、〇〇〇

合計 三九五、一六〇

事業中報

以上昭和十六年事業現在に於ける本店資本による對鮮投資額を事業概況調査報告書の調査に係る朝鮮に於ける内地資本の投資現況(昭和十六年)調査報告書(調査資料第九輯)に據り推定したものとある。昭和十七年以降の内地資本の流入は推定して見やう。







1. 日本が海外に投資した金額は、昭和十九年三月三十一日現在、約一億七千万円に達した。  
 2. 日本が海外に投資した金額は、昭和十九年三月三十一日現在、約一億七千万円に達した。  
 3. 日本が海外に投資した金額は、昭和十九年三月三十一日現在、約一億七千万円に達した。  
 4. 日本が海外に投資した金額は、昭和十九年三月三十一日現在、約一億七千万円に達した。  
 5. 日本が海外に投資した金額は、昭和十九年三月三十一日現在、約一億七千万円に達した。  
 6. 日本が海外に投資した金額は、昭和十九年三月三十一日現在、約一億七千万円に達した。  
 7. 日本が海外に投資した金額は、昭和十九年三月三十一日現在、約一億七千万円に達した。  
 8. 日本が海外に投資した金額は、昭和十九年三月三十一日現在、約一億七千万円に達した。  
 9. 日本が海外に投資した金額は、昭和十九年三月三十一日現在、約一億七千万円に達した。  
 10. 日本が海外に投資した金額は、昭和十九年三月三十一日現在、約一億七千万円に達した。

第三章 貿易外の収支

本章は貿易外の収支の関係を調査するを目的とするが、資料の乏しき故に毎年の収支の事情を述べることが不可能であり、最近の年次及び収支の結果の概略に止つた。其の甚だ遺憾である。又本章は貿易外の国際収支を構成する諸項目に就ても資料の乏しき故に、その概略に止つた。其の甚だ遺憾である。推定を要した次第である。

第一節 内地資本の移入

日本が海外に投資した金額は、昭和十九年三月三十一日現在、約一億七千万円に達した。唯一の資料である。其の甚だ遺憾である。推定を要した。

第一款 国庫資金による投資

日韓合併以降昭和十九年 に至る間、其の係合以前、時期に於ける国庫資金



全流入は表よりある。

第 表 一般會計支出朝鮮經營費並に朝鮮總督府

年 次

十般會計

(單位千円)

昭和十四年度 朝鮮經營費並に朝鮮總督府  
 一、朝鮮總督府の経費  
 二、朝鮮總督府の経費  
 三、朝鮮總督府の経費  
 四、朝鮮總督府の経費  
 五、朝鮮總督府の経費  
 六、朝鮮總督府の経費  
 七、朝鮮總督府の経費  
 八、朝鮮總督府の経費  
 九、朝鮮總督府の経費  
 十、朝鮮總督府の経費

26 昭和十四年度 朝鮮經營費並に朝鮮總督府  
 一、朝鮮總督府の経費  
 二、朝鮮總督府の経費  
 三、朝鮮總督府の経費  
 四、朝鮮總督府の経費  
 五、朝鮮總督府の経費  
 六、朝鮮總督府の経費  
 七、朝鮮總督府の経費  
 八、朝鮮總督府の経費  
 九、朝鮮總督府の経費  
 十、朝鮮總督府の経費

第四款 勞務基金

昭和十四年度 勞務基金  
 一、朝鮮總督府の経費  
 二、朝鮮總督府の経費  
 三、朝鮮總督府の経費  
 四、朝鮮總督府の経費  
 五、朝鮮總督府の経費  
 六、朝鮮總督府の経費  
 七、朝鮮總督府の経費  
 八、朝鮮總督府の経費  
 九、朝鮮總督府の経費  
 十、朝鮮總督府の経費

第 表 内地向勞務者送出額

昭和十四年度	石炭山	金屬鉱山	土建場	其他	合計
同 一五年度	三、四、六五九	五、七、八七	一、二、六七四	二、〇、七八	五、三、一二〇
同 一六年度	三、八、八一九	九、四、一六	一、〇、九六五	二、〇、七八	五、九、三九〇
同 一七年度	七、八、〇八三	七、六、三二	一、八、九二九	二、〇、七八	二、九、八五一
同 一八年度	六、八、三七〇	一、三、七六三	三、一、六一一	二、〇、七八	二、八、三五〇
同 一九年度	七、一、五五〇	一、五、九二〇	五、一、六五〇	二、〇、七八	二、二、八三三
計	三、〇、六五七	六、一、六〇一	一、三、五〇七	一、八、八〇三	六、五、六、一三九

(註) 左書は南洋即島に對する送出金額にして内書とする。

第 表 軍要員送出額數



昭和十四年	大五	一〇八五	二八四	一三	九二四九	一六〇二七
同十五年	大五	一〇八五	二八四	一三	九二四九	一六〇二七
同十六年	五三九六	一〇八五	二九三	五〇	一六二五九	二六四八六
同十七年	四一七一	一〇八一三	二九〇	一六	五二四二	一三三三五
同十八年	四六九一	一九七六	三九〇	一六	五七六五	三六五三
同十九年	一八八二〇	一〇〇六〇	一六二七	二六〇	五七六五	三六五三
計	三三、一四三	一四、九三四	六、三八五	三六四	三六、四一五	八八、二四一

(註) 昭和十九年は九月末日現在  
 其の連生人員を基本として、それ等の労務者が、鮮肉に送金した金額を推定するに内地から、<sup>（この数、労務者から）</sup>六億六千三百萬十三萬九千円、其の他の軍要員として考へるの労働者から、七千三百八十五萬一千円、合計七億三千六百九十九萬円が送金せられたことにある  
 昭和十九年四月十日の報告に、本年四月十日と決定する、  
 昭和十九年四月十日の報告に、本年四月十日と決定する、

第二節 實業界之支那勸業

第一款 臨時軍事費特別會計繰入額

朝鮮總督府特別会計から臨時軍事費特別会計に繰入れられた朝鮮戦費負担額は左の表より相当の巨額に達してゐる。

朝鮮總督府特別會計より臨時軍事費特別會計

昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和
一五年度	一四年度	一三年度	一二年度	一一年度	一〇年度
五〇、四八二	四一、二九一	二六、九七八	一一、〇五四	一、九〇〇	一、九〇〇
計	同	同	同	同	同
一〇〇、六、六〇〇	四一、四、九七五	二〇、三、〇五八	一六、三、二二四	九、四、五八八	九、四、五八八

昭和十九年をまゝに於て。繰入額は十億六百萬円に達する。これを  
前述の一般会計負担に属する軍事費及び行政費の合計額二十二億円



録に於ては、朝鮮として尚受取超過となり、内地会計負担の朝鮮  
 関係軍事費と比較してみても、尚相当額の受取超過となり、と疑ない  
 と云ふのである。

第二款 其の他内地会計繰入額

一 國債整理基金特別會計繰入額（単位千円）

明治四三年度	由 七、七〇一	同 九年度	二五、〇二二
同 四四年度	由 一、三六三	同 一〇年度	二六、〇一五
大正元年度	由 一、二八二	同 一十年度	二六、〇一五
同 二年度	由 一、四九九	同 一十一年度	二六、〇一五
同 三年度	由 一、五一一	同 一十二年度	二九、六七〇
同 四年度	由 一、六九一	同 一十三年度	二九、七五五
同 五年度	由 一、七五四	同 一十四年度	三二、一九八
同 六年度	由 一、八五八	同 一十五年度	三六、〇八七
同 七年度	由 二、三三九	同 一十六年度	四三、四一一
同 八年度	由 二、四五一	同 一十七年度	五〇、三一二
同 九年度	由 二、四五一	同 一十八年度	六三、三三八
同 一〇年度	由 二、四五一	同 一十九年度	八二、一七八
計	二四、三六四	計	七二、八八八

二 恩給負担金繰入（単位千円）

昭和六年度	二、七三九	同 一四年度	六、〇四六
同 七年度	三、三五五	同 一五年度	八、三七二
同 八年度	三、三七四	同 一六年度	八、九二四
同 九年度	五、七三九	同 一七年度	九、三七〇
同 一〇年度	六、九三八	同 一八年度	一〇、一三〇
同 一一年度	七、二八六	同 一九年度	一〇、六三七
同 一二年度	七、六〇〇	計	一〇〇、四四五
同 一三年度	七、九五五		

右表の如く國債整理基金特別會計繰入額は累計七億二千五百萬  
 円に達するが朝鮮関係の國債は大蔵省に於て他の公債と共に募集せ  
 られ市場に放たれ利拂ひ等も大蔵省で日本銀行と賄合して一切を  
 處理し朝鮮としては單に其の負担に属する額を國債整理基金に



繰入れて来たものがある。又思惟員現金繰入額の累計は一億餘円に達するが退職官吏に対する恩給の支拂は朝鮮人との関係又その関係は内務省と内務省の地方一般会計より徴収となるものも。

第三款 朝鮮より對日放資

朝鮮より對日放資としては朝鮮在留人が内地の國債募集に應じ、みはこれを購入し其の外に内地の地方債、社債或は株式等を購入したるに、あつたもの即ち有價証券の購入にあつたものと其の外に日本に於て事業を計畫しそれに投資したものとは分れるが後者は就中日本とす程度のものはありと考へうるが、前者に就て述べることとする。

十國債の買入

(1) 國債法人以外の國有價証券買入 (昭和十七年九月末)

國債	一五、四九四	(昭和十七年九月末)
貯蓄債券	八〇、三八〇	(自昭和十三年至昭和十九年九月末)
報國債券	四四、三一四	(自昭和十五年至昭和十九年九月末)
特別報國債券	一六、二七九	(自昭和十五年至昭和十九年九月末)
國債貯金	一三、〇二七	(自昭和十九年九月末)
計	三〇、二四九	

(4) 金融機關保有有價証券 (單位千円)

	昭和十七年末	昭和二十年九月末
朝鮮銀行	一五、七二八	一七、
延慶銀行	二六、〇九六	五三、三三八
普通銀行	一四、九二九	五五、九四二
野村銀行	一五、八二四	五八、三三三
信託会社	四、二八九	一〇、七五三
金融組合聯合會	二、八一〇	六、八四四
計	七、一五五	二〇、

(註) 昭和二十年九月末現在に於ける國債保有高は昭和十七年末現在に於ける國債保有割合による推定した但し金融組合聯合會の國債保有高は左の通り昭和十九年三月末現在に於ける割合による。



金融組合聯合會  
於是有價證券保有高調  
(昭和十九年三月末)  
單位千円

昭和十九年三月末  
單位千円

10

[illegible]

*(continued)*

右表  
 右表に於て、昭和二十年七月末現在に於ける金貨・紙幣の保有有價証券は七十二億三千三百萬円、其の内國債は四十九億二千五百萬円を占め、鮮銀保有國債三十七億五千六百萬円中には鮮銀資金により、北支那銀預金を見合とする國債を含むものゝ割合は二割強と多し、これらより、昭和十八年七月末に於ける鮮銀の保有有價証券は五十六億二千四百中、鮮銀券見合の國債は一億五千二百四十万円の割合は九・〇を占めて居る。今此の割合を以て昭和二十年七月末に於ける鮮銀保有の國債の中、鮮銀資金による分は七八八、八六二千万円とあり、結局昭和二十年七月末の國債保有高は總計一、九四七、七三千万円となる。次に國債以外の有價証券は地方債、社債、株式等に分類せられ、右

昭和十九年三月末現在に於ける 郵政銀<sup>及金</sup>融組合聯合會保有有價証券  
表に就て見ると左の通りである

地方債	社債	株式	國債	合計
二四・六(四%)	四五八五(二%)	二八七九(八%)	三二七・四三七(六%)	三五〇・七九〇(一〇%)
三八九・二五(七%)	二九・三九四(六%)	二五・五八(三%)	五五六・一八(一〇%)	

（表） 匯豐銀行に就ては昭和十七年  
在表に示す如く金融組合聯合會各有價證券の構成は此によつて前掲  
條に見え、如く金融組合聯合會各有價證券の構成は此によつて前掲  
（表） 匯豐銀行に就ては昭和十七年

昭和二十年六月末現在の所有証券（目録）

昭和二十年六月末現在の有価証券(自作)	地方債	社債	株式	中計債
五、六八五	一、四四四	一、四四四	五、〇二八	五、二二八
中計、六八五	一、三三三	一、三三三	四、七八三	五、二二八
	九、九一九	九、九一九	八五、〇二八	五、二二八
	五、六八五	五、六八五	二、五三七〇二	五、二二八
金融組合聯合會				

金融組合聯合會  
即ち施銀に於ては國債以外の有價証券として社債一千四十萬五千円、株式四千一百七十八萬三千円を又金融組合聯合會に於ては地方債五千六百六十八萬五千円、社債九億九千一百九十八萬九千円、株式八千五百二萬



八千円を大々保有する事になり、延銀保有の社債、株式は数人による  
 全部が鮮肉ものである。金融組合聯合會の保有する地方債はこれ  
 又鮮肉のものであるが社債、株式はその大部分が内地のものである。比率を  
 社債は九割が内地もの、株式は入割五分が内地ものと推定すれば、金融組合  
 昭和二十年六月末現在に於て内地の社債を八億九千二百七十九萬円、株式  
 を七千二百三十七萬四千円を所有してゐたと推定せられる。

(合計九億六千五百六十四千円)

さて延銀、金融以外の金融機関の保有する國債以外の有價証券の  
 内鮮別は如何と云ふに、大部分は鮮肉ものに限られ内地ものはいふに足らない  
 ものと考へられる。たゞ僅に朝鮮銀行が保有する外國証券五千四百十三萬円、  
 以上によつて金融機関が有價証券を保有することによつて内地に流出し  
 た資金金は左の通りと推定せられる。

流出

金融機関以外のものの保有高 三〇、二四九四  
 金融機関の保有高 五、八八〇、五五九

第四款 大蔵省預金部資金金源としての資金

前述の通り預金部資金金は毎年相当多額に内地から朝鮮に流入して居  
 り昭和二十年六月末現在には残高六億八千四百十五萬六千円に達す  
 る。その資金源として朝鮮内に蓄積せられた郵便貯金、簡易生命保険、  
 郵便年金等が預金部資金として集中せられてゐる。その資金源は左の  
 通りである。

郵便貯金 七、二五〇、六九

簡易生命保険金

郵便年金等 二、九四、三四六

計 一〇、一九、四一五

即ち十一億一千九百萬円が預金部資金として朝鮮より流出した金額に











支拂

二

口債買入 (金種換入を  
除く) 計 〇

(昭三三) 九月末  
一五、四九四、四〇〇

野呂債買入 (三十一日  
迄) 計 〇

八〇、三八〇、四〇〇

口債買入 (三十一日  
迄) 計 〇

四四、三二四、四〇〇

三

口債買入 (三十一日  
迄) 計 〇

一三、二九四、四〇〇

口債買入 (三十一日  
迄) 計 〇

一三、二九四、四〇〇

口債買入 (三十一日  
迄) 計 〇

一三、二九四、四〇〇

受取

大債買入 (金種換入を  
除く) 計 〇

延慶債買入 (昭三三)  
一〇、二七、一五、四〇〇

金種債買入 (昭三三)  
三、五九、二、四〇〇

振込債買入 (昭三三)  
六、五〇、二、四〇〇

金種債買入 (昭三三)  
六、五〇、二、四〇〇

計 〇

八、紋通有時代に於ける  
帝國政府の支拂の額

至昭三三

(昭三三) 四月末迄の  
明細三、八三、九、四〇〇

昭三三四月末迄の  
明細三、八三、九、四〇〇

昭三三四月末迄の  
明細三、八三、九、四〇〇

昭三三四月末迄の  
明細三、八三、九、四〇〇

受取

九、信託有時代に於ける  
借入金 (昭三三) 計 〇

借入金 (昭三三) 計 〇

借入金 (昭三三) 計 〇

借入金 (昭三三) 計 〇

借入金 (昭三三) 計 〇

借入金 (昭三三) 計 〇

借入金 (昭三三) 計 〇

借入金 (昭三三) 計 〇

借入金 (昭三三) 計 〇

借入金 (昭三三) 計 〇

借入金 (昭三三) 計 〇

借入金 (昭三三) 計 〇

受取

(一) 昭三三四月末迄の  
収地六、六三、二、五九、四〇〇

昭三三四月末迄の  
収地六、六三、二、五九、四〇〇

昭三三四月末迄の  
収地六、六三、二、五九、四〇〇

昭三三四月末迄の  
収地六、六三、二、五九、四〇〇

昭三三四月末迄の  
収地六、六三、二、五九、四〇〇

昭三三四月末迄の  
収地六、六三、二、五九、四〇〇

昭三三四月末迄の  
収地六、六三、二、五九、四〇〇

昭三三四月末迄の  
収地六、六三、二、五九、四〇〇

昭三三四月末迄の  
収地六、六三、二、五九、四〇〇

昭三三四月末迄の  
収地六、六三、二、五九、四〇〇

昭三三四月末迄の  
収地六、六三、二、五九、四〇〇

昭三三四月末迄の  
収地六、六三、二、五九、四〇〇



